

# 林地区遺跡群

水源地域整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第1集

第2分冊

上原I遺跡II

上原IV遺跡IV

林中原I遺跡XI

林中原II遺跡X

2015

群馬県吾妻郡長野原町教育委員会



## 第2分冊 目 次

### 第4編 上原I遺跡II

第1章 現往の調査	3
第2章 調査の経過	3
第3章 基本層序	3
第4章 検出された遺構と遺物	
第1節 遺跡の概要	7
第2節 繩文時代の遺構と遺物	
(1) 穴住居跡	15
(2) 土坑	72
(3) ピット	79
第3節 弥生時代の遺構と遺物	
(1) 土坑	81
第4節 古墳時代の遺構と遺物	
(1) 穴住居跡	83
(2) 土坑	83
第5節 平安時代の遺構と遺物	
(1) 穴住居跡	88
(2) 隠し穴	130
(3) 土坑	172
(4) 焼土遺構	174
第6節 中世以降の遺構と遺物	
(1) 土坑	179
(2) 焼土遺構	181
第7節 その他の遺構と遺物	
(1) 穴住居跡	183
(2) 土坑	185
(3) 焼土遺構	197
(4) 旧河道	197
(5) ピット	200
第8節 遺構外出土遺物	200
第5章 まとめ	215
遺物観察表	

### 第5編 上原IV遺跡IV

第1章 現往の調査	245
第2章 調査の経過	245
第3章 基本層序	245
第4章 検出された遺構と遺物	
第1節 遺跡の概要	249
第2節 繩文時代の遺構と遺物	
(1) 穴住居跡	253
(2) 土坑	254
(3) 遺物包含層	261
第3節 古墳時代の遺構と遺物	
(1) 穴住居跡	270
第4節 平安時代の遺構と遺物	
(1) 穴住居跡	275
第5節 その他の遺構と遺物	
(1) 焼土遺構	285
(2) 土坑	286
(3) ピット	291
(4) 旧河道	292
(5) 自然流路	293
第6節 遺構外出土遺物	303
第5章 まとめ	305
遺物観察表	

<b>第6編 林中原I遺跡XI</b>	
第1章 既往の調査	321
第2章 調査の経過	321
第3章 基本層序	323
第4章 検出された遺構と遺物	
第1節 遺跡の概要	334
第2節 繩文時代の遺構と遺物	
(1) 積穴住居跡	334
(2) 土坑	335
(3) ピット	355
第3節 平安時代の遺構と遺物	
(1) 階し穴	356
第4節 中世～近世の遺構と遺物	
(1) 挖立柱建物跡	361
(2) 柱列	372
(3) 土坑	373
(4) 土壙墓	401
(5) 溝跡	401
(6) ピット	416
(7) 水場遺構	422
(8) 平坦面(郭)	425
第5節 その他の遺構と遺物	
(1) 焼土遺構	425
(2) 土坑	426
(3) 谷地形	428
第6節 遺構外出土遺物	430
第5章 まとめ	430
遺物観察表	
<b>第7編 林中原II遺跡X</b>	
第1章 既往の調査	445
第2章 調査の経過	445
第3章 基本層序	447
第4章 検出された遺構と遺物	
第1節 遺跡の概要	451
第2節 繩文時代の遺構と遺物	
(1) 積穴住居跡	453
(2) 土坑	456
第3節 近世の遺構と遺物	
(1) 挖立柱建物跡	456
(2) ヤックラ	463
(3) 土坑	463
第4節 その他の遺構と遺物	
(1) 柱列	474
(2) 溝跡	474
(3) 埋没谷	476
(4) ピット	478
第5節 遺構外出土遺物	478
第5章 まとめ	483
遺物観察表	

## 挿 図 目 次

上原 I 遺跡 II	
第 1 図 調査区位置図 (1/2,500) .....	4
第 2 図 基本土層柱状図 (1/20) .....	5
第 3 図 調査区 1 面目全体図 (1/1,000) .....	6
第 4 図 調査区 2 面目全体図 (1/1,000) .....	6
第 5 図 2・3 区調査区 1 面目全体図 (1/600) .....	8
第 6 図 2・3 区調査区 2 面目全体図 (1/600) .....	9
第 7 図 2・3 区調査区 1 面目分割図① (1/300) .....	10
第 8 図 2・3 区調査区 1 面目分割図② (1/300) .....	11
第 9 図 2・3 区調査区 2 面目分割図① (1/300) .....	12
第 10 図 2・3 区調査区 2 面目分割図② (1/300) .....	13
第 11 図 1 区調査区分割図 (1/300) .....	14
第 12 図 縄文時代遺構配置図 (1/800) .....	15
第 13 図 SI02 実測図 (1/60) .....	16
第 14 図 SI02 掘り方実測図 (1/60) .....	17
第 15 図 SI02 炉・炉掘り方実測図 (1/30) .....	18
第 16 図 SI02 遺物出土状況図 (1/30・1/60) .....	19
第 17 図 SI02 出土遺物実測図① (1/3・1/4) .....	20
第 18 図 SI02 出土遺物実測図② (1/1・1/3) .....	21
第 19 図 SI06 実測図① (1/20・1/60) .....	22
第 20 図 SI06 実測図② (1/60) .....	23
第 21 図 SI06 掘り方実測図 (1/60) .....	24
第 22 図 SI06 炉・炉掘り方実測図 (1/30) · 遺物出土状況図 (1/60) .....	25
第 23 図 SI06 出土遺物実測図 (1/3・1/4) .....	26
第 24 図 SI12 実測図① (1/60) .....	28
第 25 図 SI12 実測図② (1/60) .....	29
第 26 図 SI12 掘り方実測図 (1/30) · 炉実測図 (1/60) .....	30
第 27 図 SI12 出土遺物実測図 (1/3) .....	31
第 28 図 SI18 実測図① (1/60) .....	32
第 29 図 SI18 実測図②・掘り方実測図 (1/60) .....	33
第 30 図 SI18 炉・炉掘り方実測図 (1/30) .....	34
第 31 図 SI18 出土遺物実測図① (1/3・1/4) .....	35
第 32 図 SI18 出土遺物実測図② (1/3) .....	36
第 33 図 SI19 実測図 (1/60) .....	37
第 34 図 SI19 炉実測図 (1/20・1/30) .....	38
第 35 図 SI19 遺物出土状況図 (1/60) .....	39
第 36 図 SI19 出土遺物実測図① (1/3・1/4) .....	39
第 37 図 SI19 出土遺物実測図② (1/1・1/3) .....	40
第 38 図 SI20 実測図 (1/60) .....	41
第 39 図 SI20 炉実測図 (1/30) .....	42
第 40 図 SI20 遺物出土状況図 (1/60) .....	42
第 41 図 SI20 出土遺物実測図 (1/1・1/3・1/4) .....	43
第 42 図 SI21 実測図 (1/60) .....	44
第 43 図 SI21 炉実測図 (1/30) · 遺物出土状況図 (1/60) .....	45
第 44 図 SI21 出土遺物実測図 (1/1・1/3) .....	46
第 45 図 SI22 実測図 (1/60) .....	47
第 46 図 SI22 炉・炉掘り方実測図 (1/30) .....	48
第 47 図 SI22 遺物出土状況図 (1/60) .....	49
第 48 図 SI22 出土遺物実測図① (1/3・1/4) .....	50
第 49 図 SI22 出土遺物実測図② (1/1・1/2・1/3) .....	51
第 50 国 SI22 出土遺物実測図③ (1/3) .....	52
第 51 国 SI23 実測図 (1/60) .....	53
第 52 国 SI23 炉・炉掘り方実測図 (1/30) · 遺物出土状況図 (1/60) .....	54
第 53 国 SI23 出土遺物実測図 (1/4) .....	55
第 54 国 SI24 実測図 (1/60) .....	56
第 55 国 SI24 炉実測図 (1/30) .....	57
第 56 国 SI24 出土遺物実測図 (1/3・1/4) .....	57
第 57 国 SI25 実測図① (1/60) .....	58
第 58 国 SI25 実測図② (1/60) .....	59
第 59 国 SI25 炉実測図 (1/30) .....	60
第 60 国 SI25 遺物出土状況図 (1/60) .....	61
第 61 国 SI25 出土遺物実測図① (1/4) .....	62
第 62 国 SI25 出土遺物実測図② (1/3・1/4) .....	63
第 63 国 SI25 出土遺物実測図③ (1/1・1/3) .....	64
第 64 国 SI26 実測図 (1/60) .....	66
第 65 国 SI26 炉実測図 (1/30) .....	67
第 66 国 SI26 出土遺物実測図 (1/3) .....	67
第 67 国 SI27 実測図 (1/60) .....	68
第 68 国 SI27 炉・炉掘り方実測図 (1/30) .....	69
第 69 国 SI27 遺物出土状況図 (1/60) .....	70
第 70 国 SI27 出土遺物実測図① (1/3・1/4) .....	70
第 71 国 SI27 出土遺物実測図② (1/1・1/3) .....	71
第 72 国 SK43 実測図 (1/30) .....	73
第 73 国 SK45 実測図 (1/30) .....	74
第 74 国 SK108・109 実測図 (1/30) .....	75
第 75 国 SK112～115 実測図 (1/30) .....	76
第 76 国 SK117・120 実測図 (1/30) .....	77
第 77 国 縄文時代土坑出土遺物実測図 (1/1・1/3・1/4) .....	78
第 78 国 21 号ピット実測図 (1/30) .....	79

第 79 図	绳文時代ビット出土遺物実測図（1/3）	80
第 80 図	弥生・古墳時代遺構配置図（1/800）	81
第 81 図	SK61 実測図（1/30）	82
第 82 図	弥生時代土坑出土遺物実測図（1/3）	82
第 83 図	SI10・掘り方実測図（1/60）	84
第 84 図	SI10 遺物出土状況図（1/60）	85
第 85 図	SI10 出土遺物実測図（1/3・1/4）	85
第 86 図	SK02・3 実測図①（1/30）	86
第 87 図	SK02・3 実測図②（1/30）	87
第 88 図	古墳時代土坑出土遺物実測図（1/3・1/4）	87
第 89 図	平安時代遺構配置図（1/800）	88
第 90 図	SI04 実測図（1/60）	89
第 91 図	SI04 カマド・カマド掘り方実測図 （1/30）	90
第 92 図	SI04 掘り方実測図・遺物出土状況図 （1/60）	91
第 93 図	SI04 出土遺物実測図（1/4）	92
第 94 図	SI05・掘り方実測図（1/60）	93
第 95 図	SI05 カマド実測図（1/30）	94
第 96 図	SI05 カマド掘り方実測図（1/30）	95
第 97 図	SI05 遺物出土状況図（1/60）	96
第 98 図	SI05 出土遺物実測図（1/4）	96
第 99 図	SI08・掘り方実測図（1/60）	98
第 100 図	SI08 カマド・カマド掘り方実測図 （1/30）	99
第 101 図	SI08 遺物出土状況図（1/60）	100
第 102 図	SI08 出土遺物実測図（1/2・1/3・1/4）	100
第 103 図	SI09 A 実測図（1/60）	101
第 104 図	SI09 A カマド・カマド掘り方実測図 （1/30）	102
第 105 図	SI09 A 掘り方実測図（1/60）	103
第 106 図	SI09 A 遺物出土状況図（1/60）	103
第 107 図	SI09 A 出土遺物実測図（1/3・1/4）	103
第 108 図	SI09 B・掘り方実測図（1/60）	104
第 109 図	SI09 B カマド・カマド掘り方実測図 （1/30）	104
第 110 図	SI09 B 貯蔵穴遺物出土状況図（1/60）	105
第 111 図	SI09 B 出土遺物実測図（1/4）	105
第 112 図	SI11 実測図（1/60）	106
第 113 図	SI11 カマド検出状況図・カマド・ カマド掘り方実測図（1/30）	107
第 114 図	SI11 遺物出土状況図（1/60）	108
第 115 図	SI11 出土遺物実測図（1/3・1/4）	108
第 116 図	SI13・14・SK73As-Kk 検出状況図 （1/60）	110
第 117 図	SI13 実測図（1/60）	110
第 118 図	SI13 掘り方実測図（1/60）	111
第 119 図	SI13 遺物出土状況図（1/60）	111
第 120 図	SI13 カマド・カマド掘り方実測図 （1/30）	112
第 121 図	SI13 出土遺物実測図（1/3）	112
第 122 図	SI14 実測図（1/60）	113
第 123 図	SI14 カマド・カマド掘り方実測図 （1/30）	114
第 124 図	SI14 掘り方実測図（1/60）	115
第 125 図	SI14 遺物出土状況図（1/60）	115
第 126 図	SI14 出土遺物実測図（1/3・1/4）	116
第 127 図	SI15・掘り方実測図（1/60）	117
第 128 図	SI15 カマド・カマド掘り方実測図 （1/30）	118
第 129 図	SI15 遺物出土状況図（1/60）	119
第 130 図	SI15 出土遺物実測図（1/3・1/4）	119
第 131 図	SI16 実測図（1/60）	121
第 132 図	SI16 カマドA 実測図（1/30）	122
第 133 図	SI16・カマドA 掘り方実測図（1/30）	123
第 134 図	SI16 カマドB・カマドB 掘り方実測図 （1/30）	124
第 135 図	SI16 掘り方実測図（1/60）	125
第 136 図	SI16 遺物出土状況図（1/60）	125
第 137 図	SI16 出土遺物実測図（1/3・1/4）	126
第 138 図	SI17 実測図（1/60）	127
第 139 図	SI17 カマド・カマド掘り方実測図 （1/30）	128
第 140 図	SI17 掘り方実測図（1/60）	129
第 141 図	SI17 カマド 遺物出土状況図（1/30）	129
第 142 図	SI17 出土遺物実測図（1/3）	130
第 143 図	SK01 実測図（1/40）	131
第 144 図	SK06 実測図（1/40）	132
第 145 図	SK07 実測図（1/40）	133
第 146 図	SK08 実測図（1/40）	134
第 147 図	SK11 実測図（1/40）	135
第 148 図	SK14 実測図（1/40）	136
第 149 図	SK15 実測図（1/40）	137
第 150 図	SK16・19 実測図（1/40）	138
第 151 図	SK21 実測図（1/40）	139
第 152 図	SK23 実測図（1/40）	140

第 153 図 SK24・25 実測図 (1/40).....	141
第 154 図 SK29・36 実測図 (1/40).....	142
第 155 図 SK39・40 実測図 (1/40).....	143
第 156 図 SK41・42 実測図 (1/40).....	144
第 157 図 SK44・46 実測図 (1/40).....	145
第 158 図 SK47・50 実測図 (1/40).....	147
第 159 図 SK52・53 実測図 (1/40).....	148
第 160 図 SK63・64 実測図 (1/40).....	150
第 161 図 SK66・68 実測図 (1/40).....	151
第 162 図 SK69～71 実測図 (1/40).....	152
第 163 図 SK74 実測図 (1/40).....	153
第 164 図 SK75 実測図 (1/40).....	154
第 165 図 SK76 実測図 (1/40).....	155
第 166 図 SK77 実測図 (1/40).....	156
第 167 図 SK78・79 実測図 (1/40).....	157
第 168 図 SK80・81 実測図 (1/40).....	158
第 169 図 SK82 実測図 (1/40).....	159
第 170 図 SK83 実測図 (1/40).....	160
第 171 図 SK86・87 実測図 (1/40).....	162
第 172 図 SK88～90 実測図 (1/40).....	163
第 173 図 SK94・95 実測図 (1/40).....	164
第 174 図 SK96・97 実測図 (1/40).....	166
第 175 図 SK98・99 実測図 (1/40).....	167
第 176 図 SK102・103 実測図 (1/40).....	169
第 177 図 SK104・105 実測図 (1/40).....	170
第 178 図 SK106・107 実測図 (1/40).....	171
第 179 図 SK59 実測図 (1/30).....	172
第 180 図 平安時代土坑出土遺物実測図 (1/3).....	172
第 181 図 SK72 実測図 (1/30).....	173
第 182 図 SK73 実測図 (1/30).....	174
第 183 図 2・8・9号焼土遺構実測図 (1/30).....	175
第 184 図 8・9号焼土遺構周辺出土遺物実測図 (1/3).....	176
第 185 図 SK59、8・9号焼土遺構周辺出土鍛冶関連 遺物構成図.....	176
第 186 図 10号焼土遺構実測図 (1/30).....	177
第 187 図 10号焼土遺構出土遺物実測図 (1/3・1/4).....	178
第 188 図 中世以降・時期不明の遺構配置図 (1/800).....	179
第 189 図 SK48・54 実測図 (1/30).....	180
第 190 図 中世以降の土坑出土遺物実測図 (1/3).....	180
第 191 図 SK55 実測図 (1/30).....	181
第 192 図 3～7・11号焼土遺構実測図 (1/30).....	182
第 193 図 SI03・掘り方実測図 (1/60).....	184
第 194 図 SK09・10・13 実測図 (1/30).....	186
第 195 図 SK17・28・31 実測図 (1/30).....	187
第 196 図 SK33・34 実測図 (1/30).....	189
第 197 図 SK35・38・51・56 実測図 (1/30).....	190
第 198 図 SK57・58 実測図 (1/30).....	192
第 199 図 SK60・62・65 実測図 (1/30).....	193
第 200 図 SK84 実測図 (1/30).....	195
第 201 図 その他の時代土坑出土遺物実測図 (1/3・1/4).....	195
第 202 図 SK85・100・101 実測図 (1/30).....	196
第 203 図 1号焼土遺構実測図 (1/30).....	197
第 204 図 旧河道実測図① (1/100・1/600).....	198
第 205 図 旧河道実測図② (1/200).....	199
第 206 図 遺構外出土遺物実測図① (1/4).....	201
第 207 図 遺構外出土遺物実測図② (1/3・1/4).....	202
第 208 図 遺構外出土遺物実測図③ (1/3).....	203
第 209 図 遺構外出土遺物実測図④ (1/3).....	204
第 210 国 遺構外出土遺物実測図⑤ (1/3).....	205
第 211 国 遺構外出土遺物実測図⑥ (1/3).....	206
第 212 国 遺構外出土遺物実測図⑦ (1/3・1/4).....	207
第 213 国 遺構外出土遺物実測図⑧ (1/3).....	208
第 214 国 遺構外出土遺物実測図⑨ (1/1・1/3).....	209
第 215 国 遺構外出土遺物実測図⑩ (1/1).....	210
第 216 国 遺構外出土遺物実測図⑪ (1/1・1/3).....	211
第 217 国 遺構外出土遺物実測図⑫ (1/1・1/3).....	212
第 218 国 遺構外出土遺物実測図⑬ (1/1・1/3).....	213
第 219 国 遺構外出土遺物実測図⑭ (1/3・1/4).....	214
第 220 国 遺構外出土遺物実測図⑮ (1/1).....	215
上原IV遺跡IV	
第 221 国 調査区位置図 (1/2,500).....	246
第 222 国 基本土解柱状図 (1/20).....	247
第 223 国 調査区全体図 (1/600).....	248
第 224 国 1区調査区分割図 (1/300).....	250
第 225 国 2区調査区分割図 (1/300).....	250
第 226 国 3・4区調査区分割図① (1/300).....	251
第 227 国 3・4区調査区分割図② (1/300).....	252
第 228 国 SI05 実測図 (1/60).....	253
第 229 国 SI05 遺物出土状況 (1/60).....	254
第 230 国 SI05 出土遺物実測図 (1/3).....	254
第 231 国 SK04 実測図 (1/30).....	255
第 232 国 SK05・06 実測図 (1/30).....	256

第 233 図 SK07 実測図 (1/30) .....	257
第 234 図 SK12 実測図 (1/30) .....	258
第 235 図 龍文時代土坑出土遺物実測図① (1/3・1/4) .....	259
第 236 図 龍文時代土坑出土遺物実測図② (1/3・1/4) .....	260
第 237 図 1号遺物包含層実測図 (1/100・1/200) .....	261
第 238 図 1号遺物包含層確認面遺物出土状況図 (1/100) .....	262
第 239 図 1号遺物包含層覆土遺物出土状況図 (1/100) .....	263
第 240 図 1号遺物包含層出土遺物実測図① (1/4) .....	264
第 241 図 1号遺物包含層出土遺物実測図② (1/3・1/4) .....	265
第 242 図 1号遺物包含層出土遺物実測図③ (1/3) .....	266
第 243 図 1号遺物包含層出土遺物実測図④ (1/3・1/4) .....	267
第 244 図 1号遺物包含層出土遺物実測図⑤ (1/1・1/3) .....	268
第 245 図 1号遺物包含層出土遺物実測図⑥ (1/1・1/3) .....	269
第 246 図 SI01 実測図 (1/60) .....	270
第 247 図 SI01 遺物出土状況図 (1/60) .....	271
第 248 図 SI01 出土遺物実測図 (1/3・1/4) .....	271
第 249 図 SI07 実測図 (1/60) .....	272
第 250 図 SI07 カマド・カマド掘り方実測図 (1/30) .....	273
第 251 図 SI07 出土遺物実測図 (1/3・1/4) .....	274
第 252 図 SI07 遺物出土状況図 (1/60) .....	275
第 253 図 SI02 実測図 (1/60) .....	276
第 254 図 SI02 カマド実測図 (1/30) .....	277
第 255 図 SI02 遺物出土状況図 (1/60) .....	277
第 256 図 SI02 出土遺物実測図 (1/3・1/4) .....	278
第 257 図 SI03 掘り方実測図 (1/60) .....	279
第 258 図 SI03 出土遺物実測図 (1/3・1/4) .....	280
第 259 図 SI04 実測図 (1/60) .....	281
第 260 図 SI04 掘り方実測図 (1/60) .....	281
第 261 図 SI04 カマド実測図 (1/30) .....	282
第 262 図 SI04 遺物出土状況図 (1/60) .....	282
第 263 図 SI04 出土遺物実測図 (1/2・1/3・1/4) .....	283
第 264 図 SI06 実測図 (1/60) .....	284
第 265 図 SI06 カマド実測図 (1/30) .....	285
第 266 図 SI06 出土遺物実測図 (1/3) .....	285
第 267 図 1号焼土遺構実測図 (1/30) .....	286
第 268 図 2～4号焼土遺構位置図 (1/60)・ 実測図 (1/30) .....	287
第 269 図 SK01・02 実測図 (1/30) .....	288
第 270 図 SK03・08 実測図 (1/30) .....	289
第 271 図 SK09～11 実測図 (1/30) .....	290
第 272 図 旧河道実測図 (1/100・1/200) .....	292
第 273 図 SD01 実測図 (1/80・1/200) .....	293
第 274 図 SD02 実測図 (1/80・1/200) .....	294
第 275 図 自然流路出土遺物実測図① (1/1・1/3・1/4) .....	295
第 276 図 自然流路出土遺物実測図② (1/1・1/3) .....	296
第 277 図 SD03 実測図 (1/80・1/200) .....	298
第 278 図 SD04 実測図 (1/80) .....	299
第 279 図 自然流路出土遺物実測図③ (1/3・1/4) .....	300
第 280 図 SD05～07 実測図 (1/80・1/200) .....	301
第 281 図 SD08 実測図 (1/80) .....	302
第 282 国 遺構外出土遺物実測図① (1/3・1/4) .....	303
第 283 国 遺構外出土遺物実測図② (1/1・1/3・1/4) .....	304
第 284 国 遺構外出土遺物実測図③ (1/1・1/3・1/4) .....	305
<b>林中原Ⅰ道路 XI</b>	
第 285 国 調査区位置図 (1/2,500) .....	322
第 286 国 基本土堀柱図 (1/20) .....	323
第 287 国 調査区全体図 (1/1,000) .....	325
第 288 国 1・2区調査区全体図 (1/600) .....	326
第 289 国 3区調査区全体図 (1/600) .....	327
第 290 国 4区調査区全体図 (1/600) .....	328
第 291 国 1・2区調査区分割図① (1/300) .....	329
第 292 国 1・2区調査区分割図② (1/300) .....	330
第 293 国 1・2区調査区分割図③ (1/300) .....	331
第 294 国 3区調査区分割図 (1/300) .....	332
第 295 国 4区調査区分割図 (1/300) .....	333
第 296 国 1・2区 SI01 実測図 (1/60) .....	335
第 297 国 1・2区 SK30・37・38 実測図 (1/30) .....	337
第 298 国 1・2区 SK39・45・48 実測図 (1/30) .....	338
第 299 国 1・2区 SK51、3区 SK26・28・30 実測図 (1/30) .....	340
第 300 国 3区 SK31・32・34・35 実測図 (1/30) .....	342

第301図	3区SK36・39～42実測図(1/30).....	344
第302図	3区SK43～47実測図(1/30).....	346
第303図	3区SK50～53・56実測図(1/30).....	348
第304図	3区SK57～60・62・83実測図 (1/30).....	350
第305図	3区SK63・65・66・69実測図(1/30).....	352
第306図	3区SK70・72・76・78・86実測図 (1/30).....	353
第307図	3区SK79実測図(1/30).....	354
第308図	輪文時代土坑出土遺物実測図(1/4).....	354
第309図	1・2区SK10・18・29実測図(1/40).....	357
第310図	1・2区SK44・46実測図(1/40).....	358
第311図	1・2区SK47、4区SK03実測図 (1/40).....	359
第312図	4区SK09実測図(1/40).....	360
第313図	1・2区SB01実測図①(1/60).....	362
第314図	1・2区SB01実測図②(1/60).....	363
第315図	1・2区SB02実測図(1/60).....	364
第316図	1・2区SB03実測図(1/60).....	365
第317図	1・2区SB04実測図①(1/60).....	366
第318図	1・2区SB04実測図②(1/60).....	367
第319図	1・2区SB05実測図(1/60).....	368
第320図	1・2区SB06実測図(1/60).....	370
第321図	1・2区SB07実測図(1/60).....	371
第322図	中世～近世掘立柱建物跡出土遺物 実測図(1/3).....	372
第323図	1・2区SA01実測図(1/60).....	373
第324図	1・2区SK01・02・04実測図(1/30).....	374
第325図	1・2区SK07～09実測図(1/30).....	375
第326図	1・2区SK11～14実測図(1/30).....	377
第327図	1・2区SK15～17実測図(1/30).....	379
第328図	1・2区SK19・20実測図(1/30).....	380
第329図	1・2区SK21・22実測図(1/30).....	382
第330図	1・2区SK23・25・27・28 実測図(1/30).....	383
第331図	1・2区SK31～34実測図(1/30).....	385
第332図	1・2区SK40～43実測図(1/30).....	387
第333図	1・2区SK49実測図(1/60).....	388
第334図	1・2区SK49遺物出土状況図(1/60).....	390
第335図	1・2区SK50実測図(1/60).....	391
第336図	3区SK02・03・05・06・08・09 実測図(1/30).....	393
第337図	3区SK10～13・15・18 実測図(1/30).....	395
第338図	3区SK19～22・24実測図(1/30).....	397
第339図	4区SK01・02・04・05実測図(1/30).....	398
第340図	中世～近世土坑出土遺物実測図① (1/2・1/3).....	399
第341図	中世～近世土坑出土遺物実測図② (1/2・1/3).....	400
第342図	1・2区SK24《土壤墓》実測図(1/30).....	402
第343図	中世～近世土壤墓出土遺物実測図(1/1).....	402
第344図	1・2区SD01実測図(1/80).....	403
第345図	1・2区SD02実測図(1/80).....	404
第346図	1・2区SD03実測図(1/80).....	405
第347図	1・2区SD04実測図(1/80).....	406
第348図	1・2区SD05実測図(1/80).....	407
第349図	3区SD01～03実測図①(1/80).....	408
第350図	3区SD01～03実測図②(1/80).....	409
第351図	3区SD04実測図①(1/80).....	410
第352図	3区SD04実測図②(1/80).....	411
第353図	3区SD05実測図(1/80).....	412
第354図	4区SD01・02実測図(1/80).....	414
第355図	中世～近世溝路出土遺物実測図 (1/2・1/3・1/4).....	415
第356図	中世～近世ピット出土遺物実測図① (1/2・1/3).....	421
第357図	中世～近世ピット出土遺物実測図② (1/1・1/3).....	422
第358図	1・2区1号水場遺構実測図(1/100).....	423
第359図	1・2区1号平坦面(郭)実測図 (1/50・1/100).....	424
第360図	4区1号焼土遺構実測図(1/30).....	425
第361図	3区SK01、4区SK06実測図(1/30).....	427
第362図	4区SK07・08実測図(1/30).....	428
第363図	1・2区谷地形実測図(1/200).....	429
第364図	1・2区谷地形出土遺物実測図 (1/3・1/4).....	430
第365図	遺構外出土遺物実測図①(1/3・1/4).....	431
第366図	遺構外出土遺物実測図②(1/3).....	432
第367図	遺構外出土遺物実測図③(1/1・1/3).....	433
第368図	遺構外出土遺物実測図④ (1/1・1/2・1/3・1/4).....	434
第369図	遺構外出土遺物実測図⑤ (1/1・1/2・1/3・1/4).....	435

林中原II遺跡X	
第370図 調査区位置図 (1/2,500) .....	446
第371図 基本土柱状図 (1/20) .....	447
第372図 調査区全体図 (1/1,000) .....	448
第373図 3~5区調査区全体図 (1/600) .....	449
第374図 1・2区調査区分割図 (1/600) .....	449
第375図 1・2区調査区分割図 (1/200) .....	450
第376図 SI01実測図① (1/60) .....	452
第377図 SI01実測図② (1/60) .....	453
第378図 SI01炉 <sup>1</sup> ・掘り方実測図 (1/30) .....	454
第379図 SI01掘り方実測図 (1/60) .....	455
第380図 SI01出土遺物実測図 (1/3) .....	455
第381図 SK41実測図 (1/30)・縄文時代土坑 出土遺物実測図 (1/3) .....	456
第382図 SB01実測図① (1/60) .....	457
第383図 SB01実測図② (1/60) .....	458
第384図 SB02実測図① (1/60) .....	459
第385図 SB02実測図② (1/60) .....	460
第386図 SB02実測図③ (1/60) .....	461
第387図 SB02出土遺物実測図 (1/1・1/3・1/4) .....	462
第388図 1号ヤックラ実測図 (1/40) .....	463
第389図 2号ヤックラ実測図 (1/40) .....	464
第390図 1・2号ヤックラ出土遺物実測図 (1/3・1/4) .....	465
第391図 SK01~04実測図 (1/30) .....	467
第392図 SK05・07実測図・縦検出状況図 (1/30) .....	468
第393図 SK08~10実測図・SK08縦検出状況図 (1/30) .....	469
第394図 SK11・16実測図・SK16縦検出状況図 (1/30) .....	471
第395図 SK18~20・25実測図・SK25縦検出状況図 (1/30) .....	472
第396図 SK26実測図 (1/30) .....	473
第397図 近世土坑出土遺物実測図 (1/1・1/2・1/3・1/4) .....	473
第398図 近世ビット出土遺物実測図 (1/3・1/4) .....	473
第399図 SA01実測図 (1/60)・出土遺物実測図 (1/2) .....	475
第400図 SD01実測図 (1/80) .....	476
第401図 SD02実測図 (1/80) .....	477
第402図 溝跡出土遺物実測図 (1/3) .....	478
第403図 埋没谷実測図① (1/100・1/800) .....	479
第404図 埋没谷実測図② (1/100) .....	480
第405図 埋没谷出土遺物実測図① (1/3) .....	480
第406図 埋没谷出土遺物実測図② (1/1・1/3・1/4) .....	481
第407図 道構外出土遺物実測図 (1/2・1/3・1/4) .....	482
第408図 林中原II遺跡と東原I・II・III遺跡 位置図及び中世~近世建物検出位置 概略図 (1/2,500) .....	483

### 挿 表 目 次

上原I遺跡II	
第1表 上原I遺跡調査一覧 .....	5
第2表 SI02ビット計測表 .....	19
第3表 SI06ビット計測表 .....	21
第4表 SI12ビット計測表 .....	27
第5表 SI18ビット計測表 .....	31
第6表 SI19ビット計測表 .....	35
第7表 SI20ビット計測表 .....	40
第8表 SI21ビット計測表 .....	43
第9表 SI22ビット計測表 .....	49
第10表 SI23ビット計測表 .....	52
第11表 SI24ビット計測表 .....	57
第12表 SI25ビット計測表 .....	60
第13表 SI26ビット計測表 .....	65
第14表 SI27ビット計測表 .....	65
第15表 上原I遺跡II 2面目ビット観察表 .....	79
第16表 SI10ビット計測表 .....	83
第17表 SI04ビット計測表 .....	88
第18表 SI09Aビット計測表 .....	97
第19表 SI13ビット計測表 .....	109
第20表 SI14ビット計測表 .....	109
第21表 SI15ビット計測表 .....	116
第22表 SI16ビット計測表 .....	120
第23表 SI17ビット計測表 .....	120
第24表 SI03ビット計測表 .....	185
第25表 上原I遺跡II 1面目ビット観察表 .....	200
第26表 上原I遺跡II縄文住居跡諸属性一覧 .....	216
第27表 上原I遺跡II古代住居跡諸属性一覧 .....	216
第28表 上原I遺跡II遺物観察表 .....	217

上原IV遺跡IV	
第 29 表 上原IV遺跡調査一覧	247
第 30 表 SI05 ピット計測表	254
第 31 表 SI07 ピット計測表	273
第 32 表 SI02 ピット計測表	278
第 33 表 SI03 ピット計測表	280
第 34 表 上原IV遺跡IVピット觀察表	291
第 35 表 上原IV遺跡IV縄文住居跡諸属性一覧表	306
第 36 表 上原IV遺跡IV古代住居跡諸属性一覧表	306
第 37 表 上原IV遺跡IV出土遺物觀察表	307
林中原I遺跡 XI	
第 38 表 林中原I遺跡調査一覧	324
第 39 表 林中原I遺跡 XI 3区調査区2面目ピット 観察表	355
第 40 表 I・2区SB01 ピット計測表	361
第 41 表 I・2区SB02 ピット計測表	361
第 42 表 I・2区SB03 ピット計測表	369
第 43 表 I・2区SB04 ピット計測表	369
第 44 表 I・2区SB05 ピット計測表	369
第 45 表 I・2区SB06 ピット計測表	372
第 46 表 I・2区SB07 ピット計測表	372
第 47 表 I・2区SA01 ピット計測表	372
第 48 表 林中原I遺跡 XI I・2区調査区 ピット觀察表	416
第 49 表 林中原I遺跡 XI 3区調査区1面目 ピット觀察表	419
第 50 表 林中原I遺跡 XI 4区調査区ピット觀察表	420
第 51 表 林中原I遺跡 XI 縄文住居跡諸属性一覧表	436
第 52 表 林中原I遺跡 XI 出土遺物觀察表	437
林中原II遺跡 X	
第 53 表 林中原II遺跡調査一覧	445
第 54 表 SI01 ピット計測表	455
第 55 表 SB01 ピット計測表	456
第 56 表 SB02 ピット計測表	462
第 57 表 SB02 磁石計測表	462
第 58 表 林中原II遺跡X近世ピット觀察表	474
第 59 表 SA01 ピット計測表	474
第 60 表 林中原II遺跡X近現代ピット觀察表	478
第 61 表 林中原II遺跡X縄文住居跡諸属性一覧	483
第 62 表 林中原II遺跡X出土遺物觀察表	484



# 第4編 上原I 遺跡II



# 第1章 既往の調査

これまで上原I遺跡では、町教委によって平成18年度から3回の発掘調査が実施されている(第1図1～3、第1表)。今回の発掘調査は、第2次調査の林地区土地改良事業に伴い実施した試掘調査を受けての本調査である。

第1・3次調査は園芸施設建設・携帯電話基地局建設に伴い実施された試掘調査である。今回の調査区の南東隅部に隣接しているが、遺構・遺物は確認されていない。

既往の調査ではないが、今回の発掘調査終了後の平成24年11月から12月まで、調査区北東隅部の北側と東側に事業団が発掘調査を行なっており、今回確認された縄文時代前期・平安時代の集落跡の続きが確認されている。

# 第2章 調査の経過

上原I遺跡IIの発掘調査は、平成24年5月22日から開始し、同年10月5日に終了した。

5月22日、拔根作業開始。5月24日、1区下段のトレンチ調査を開始する。2・3区の表土(耕作土とそれ以下の土)の掘削を開始する。5月25日、1区下段のトレンチ調査終了。5月29日、2区1面目の確認面までの掘り下げを開始する。

6月1日、遺構確認作業を開始する。6月7日、遺構確認面までの掘り下げ終了。6月8日、2区1面目の遺構精査を開始する。

7月6日、2区1面目の空中写真撮影を実施。7月9日、豎穴住居跡の掘り方調査を開始する。7月13日、2区2面目の表土掘削を開始する。7月17日、2区1面目の発掘調査終了。2区2面目の遺構精査を開始する。7月20日、2区2面目の表土の掘り下げ終了。排土の反転を開始する。7月25日、3区1面目の遺構確認面までの掘り下げを開始する。7月30日、3区1面の遺構確認面までの掘り下げが終了。遺構精査を開始する。

8月9日、2区2面目の発掘調査終了。8月23日、3区1面目の空中写真撮影を実施。8月29日、3区2面目の遺構確認面までの掘り下げを開始する。8月30日、3区1面目の発掘調査終了。3区2面目の遺構精査を開始する。8月31日、3区2面目の遺構確認面までの掘り下げ終了。

9月上旬・中旬は3区2面目の遺構精査を実施する。9月20日、3区2面目の空中写真撮影(高所作業車)を実施する。9月21日、調査区北東部北壁・東壁際の一部埋戻し作業を開始する。9月24日、調査区北東部北壁・東壁際の埋戻し終了。

10月5日、1区上段のトレンチ調査を行ない終了する。これにより、上原I遺跡IIの発掘調査は終了となった。

# 第3章 基本層序

今回の発掘調査の基本層序は、第3～10図のA地点、B地点の2か所で確認した。A地点は2・3区調査区西部北壁の土層である。B地点は2・3区調査区東部北側東壁の土層である。調査区の西側と東側で堆積状況が異なっている。全部で九層あり、細分される層もある。

第I層 黒褐色土

表土である。粘性はなく、しまりは弱い。礫( $\phi 1\text{ cm}$ )を微量含む。試掘調査33～37トレンチの1層に相当する(長野原町教育委員会2008、以下同じ)。

第II層 黒褐色土

粘性は弱く、しまりはややある。焼土・礫( $\phi 1\text{ cm}$ )を微量含む。試掘調査33～36トレンチの2層を細



分したものである。

#### 第II<sub>a</sub>層 黒色土

粘性・しまりともにややある。炭化物を微量含み、ロームブロック・YPkあり。試掘調査33～36トレンチの2層を細分したものである。

#### 第II<sub>a'</sub>層 黒褐色土

粘性はややあり、しまりはある。焼土粒少量、礫(φ1cm)微量含む。人頭大の礫あり。試掘調査33～36トレンチの2層を細分したものである。

#### 第II<sub>b</sub>層 黒色土

粘性はややあり、しまりはある。ローム粒・YPk微量含む。試掘調査33～36トレンチの2層を細分したものである。

#### 第III<sub>a</sub>層 黒褐色土

粘性はなく、しまりはある。焼土粒少量、礫(φ3cm)・YPk微量含む。上面が1面目(平安時代)の遺構確認面である。赤みの強い黒褐色土であることから試掘調査33・34トレンチの3～5層に相当するものと考える。

#### 第III<sub>b</sub>層 黒褐色土

粘性は弱く、しまりはある。YPk粒多量、ロームブロック(φ5mm)・YPk(φ1cm)微量含む。上面が1面目(平安時代)の遺構確認面である。試掘調査35・36トレンチの3層を細分したものである。

#### 第IV層 黒色土

粘性は弱く、しまりはある。YPk粒微量含み、ロームブロック(φ5mm)あり。試掘調査35・36トレンチの3層を細分したものである。

#### 第IV<sub>a</sub>層 黒色土

粘性・しまりともにある。ロームブロック(φ5mm)・YPk粒微量含む。試掘調査35・36トレンチ3層を細分したものである。

#### 第V層 黒色土

粘性は弱く、しまりはある。焼土粒(φ5mm)・礫(φ5cm)・YPk(φ1cm)微量含む。

#### 第VI層 黑褐色土

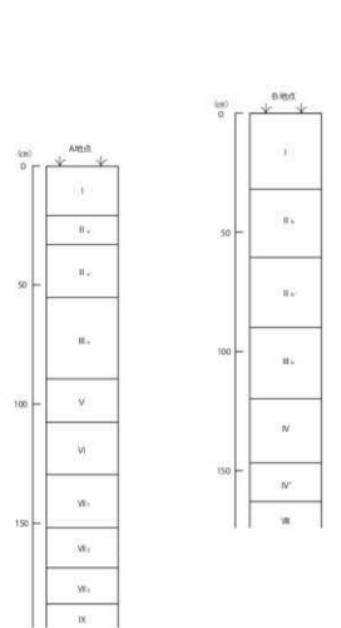
粘性はなく、しまりはある。焼土粒多量、礫(拳大)・YPk(φ5mm)少量、焼土粒(φ5mm)微量含む。

第1表 上原I遺跡調査一覧(文献番号は巻末の参考文献参照)

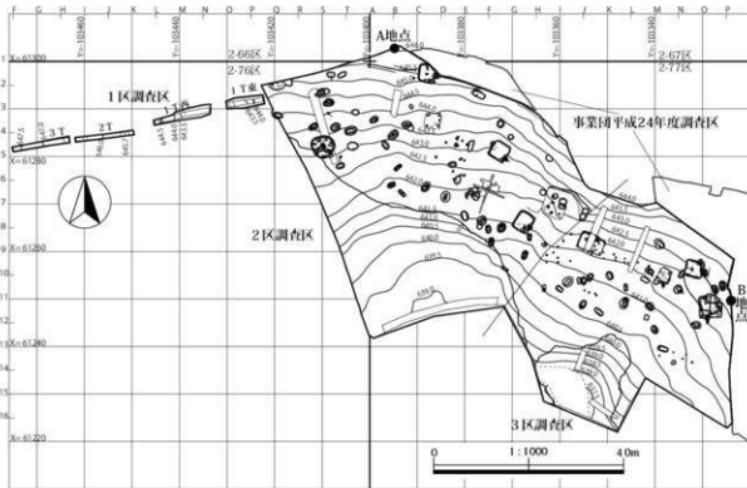
番号	調査年度	調査機関	調査面積	概要	備考
1	平成18年度	長野原町 教育委員会	37m <sup>2</sup> (150m <sup>2</sup> )	遺構なし	文献22
	平成18年度	H	140m <sup>2</sup> (1536m <sup>2</sup> )	(論文) 前期・中期後半古墳 ・中期後半墓道跡(?)・南北墓道跡	文献22
2	平成24年度	H	4250m <sup>2</sup> (5099m <sup>2</sup> )	(論文) 前期整穴住居跡9・中期整穴住居跡4・ 前期～中期土坑10・(生土)土坑1 (古墳) 前期整穴住居跡1・中期土坑2 (平安) 整穴住居跡11・陥し穴59	本報告
3	平成23年度	H	9m <sup>2</sup> (9m <sup>2</sup> )	遺構なし	文献22
A	平成24年度	公益財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団	1392m <sup>2</sup> (~m <sup>2</sup> )	(論文) 前期初期整穴住居8など (平安) 整穴住居2・陥し穴11など	文献100 未報告

742.0m →

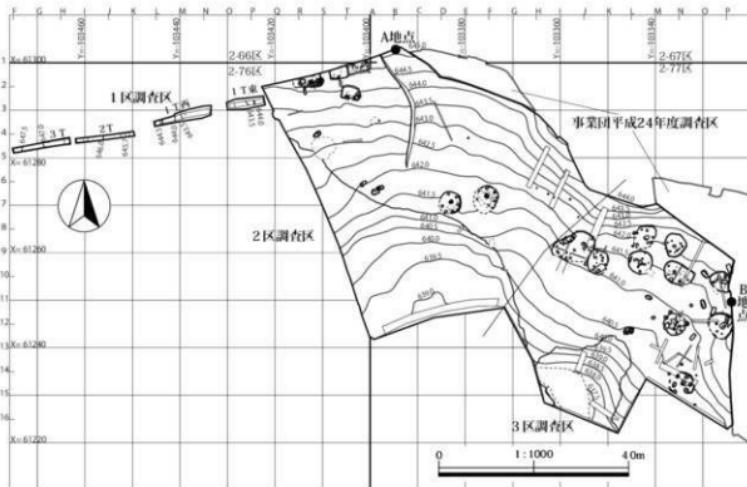
644.0m →



第2図 基本土層柱状図(1/20)



第3図 調査区1面図全体図(1/1,000)



第4図 調査区2面図全体図(1/1,000)

## 第VII層 黑色土

粘性・しまりともにある。焼土粒 ( $\phi$  5 mm)・礫(拳大)・YPk微量含む。

## 第VII<sub>2</sub>層 黑色土

粘性はややあり、しまりはある。焼土粒少量、焼土粒 ( $\phi$  1 cm)・礫 ( $\phi$  3 cm)・YPk 微量含む。

### 第VII層 黑色土

粘性・しまりともにあり。焼土粒 ( $\phi$  5 mm)・YPk ( $\phi$  1 cm) 少量含む。A 地点の周辺から検出された陥落穴の底面および下位壁面では関東ローム層が確認されているが、本トレンチではそれよりも深い位置でも確認されていない。このことから、A 地点周辺に南北方向に走る埋没谷があると考えられる。

第Ⅶ層 黑褐色土

粘性はややあり、しまりはある。ロームブロック ( $\phi$  1 cm)・ローム粒を少量含む。漸移層と考えられる。試掘調査 36・37 トレンチの 4 層に相当する。

第Ⅸ層 暗褐色土

粘性はややあり、しまりはある。ロームブロック ( $\phi$  1 cm)・YPk 多量、蝶（拳大）微量含む。漸移層と考えられる。

## 第4章 検出された遺構と遺物

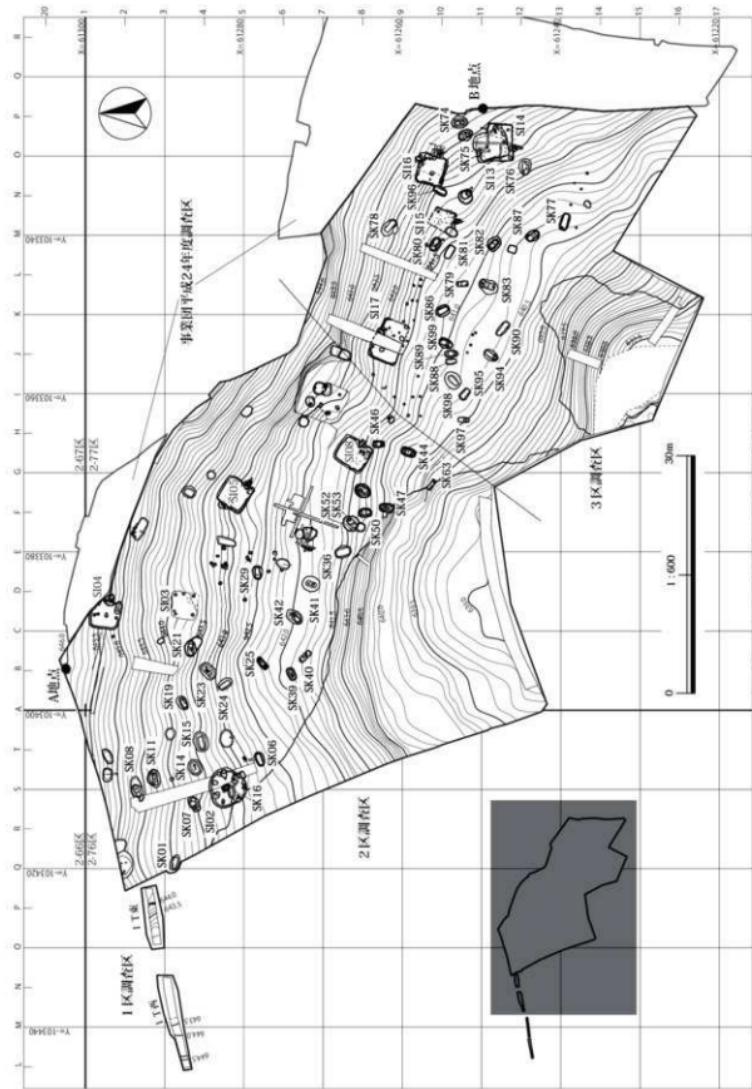
## 第1節 遺跡の概要

上原Ⅰ遺跡は、群馬県吾妻郡長野原町大字林字上原に所在する縄文時代前期～中期の集落跡、平安時代の集落跡を主体とする複合遺跡である。吾妻川左岸の最上位段丘面上に立地しており、この最上位段丘面のほぼ中央に位置している。遺跡範囲の東側は平坦面が続いており、約150mの所に花畠遺跡がある。南側も平坦面が続いている。東原Ⅰ遺跡、林中原Ⅱ遺跡と接する。西側は上原Ⅳ遺跡と接しており、その先は押手沢を越えて王城山の山裾に至る。北西側は上原Ⅱ・Ⅲ遺跡がある平坦面張り出し部に続き、北側は王城山の山裾となっている。

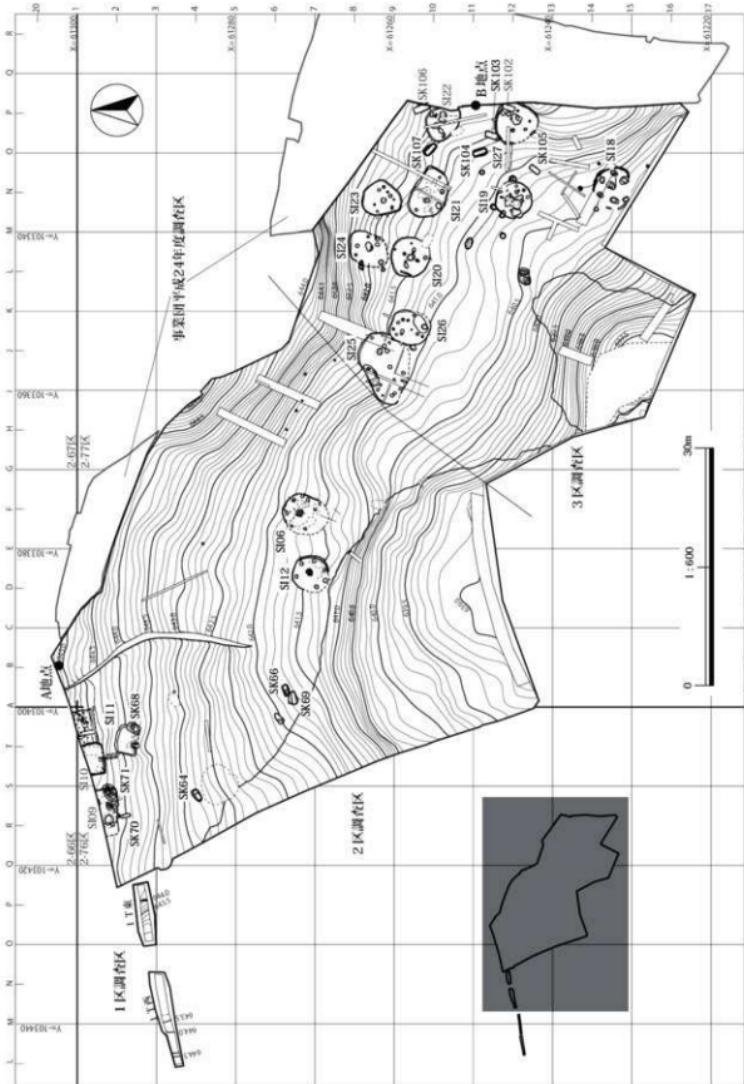
今回の発掘調査は上原Ⅰ遺跡の第2次調査にある。調査範囲は遺跡範囲の北東側になり、大字林字上原1036-1外20筆に所存する。調査範囲の北西側は長さ約25m、幅約5mの非常に細長い形をしている。発掘調査を行なうにあたって、まずトレンチ掘削を行い、遺構が確認されれば全面で発掘調査を行うこととした。そのため1区調査区として先行して発掘調査を実施した。1区調査区は、約3mの段差があつたため、下段から調査を行つた(1T)。調査の結果旧河道の流路内であり、遺構がないことが確認された。2・3区調査区の発掘調査終了後、上段の調査を行ない(2T・3T)、上段も旧河道の流路内で遺構がないことが確認された。東側の広い調査範囲は、排土置き場の都合で反転して発掘調査を行なつたため調査段階では2区、3区と2つの調査区としたが、本報告では1つの調査区と捉え2・3区調査区とする。発掘調査地の現況は畠地・水田である。北東から南西方向に向かって緩やかに低くなる傾斜面地。標高は637.5m~646.0mである。

今回の発掘調査で確認された遺構は、縄文時代前期の竪穴住居跡9軒、中期の竪穴住居跡4軒、前期～中期の土坑10基、ピット12基、弥生時代前期の土坑1基、古墳時代前期の竪穴住居跡1軒、中期の土坑2基、平安時代の竪穴住居跡11軒、陥し穴59基、土坑3基、焼土遺構4基、中世以降の土坑3基、焼土遺構6基、時期不明の竪穴住居跡1軒、土坑21基、焼土遺構1基、旧河道1条、ピット51基である。それ以外にSI01・07、SK04・05・12・18・20・22・26・27・30・32・37・49・67・91～93・110・111・116・118・119は発掘調査を行なったが、整理調査の結果遺構ではないと判断し欠番とした。

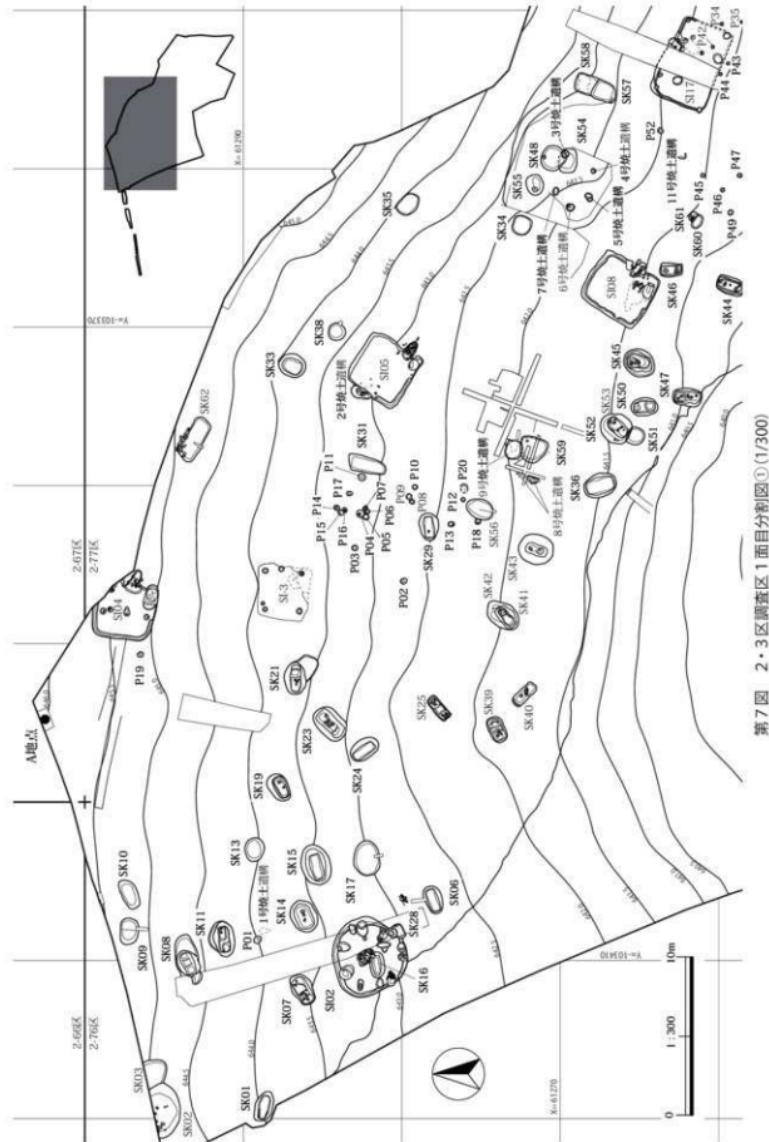
出土した遺物の種類は、繩文土器、弥生土器、古式土師器、土師器、須恵器、灰釉陶器、中近世陶磁器、中世錢貨、羽口、鍛冶渣、石器、石製品、金属製品で、その数量はテンバコ23箱分であった。



第5圖 2·3區調查區1面目全體圖(1/600)

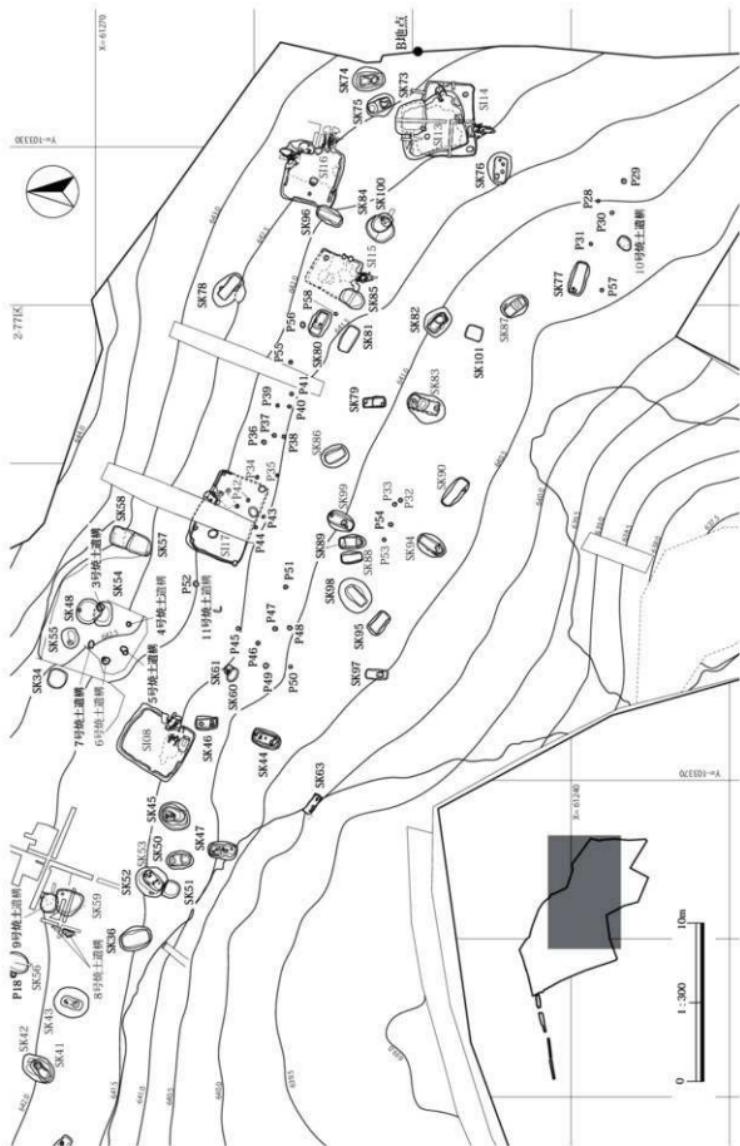


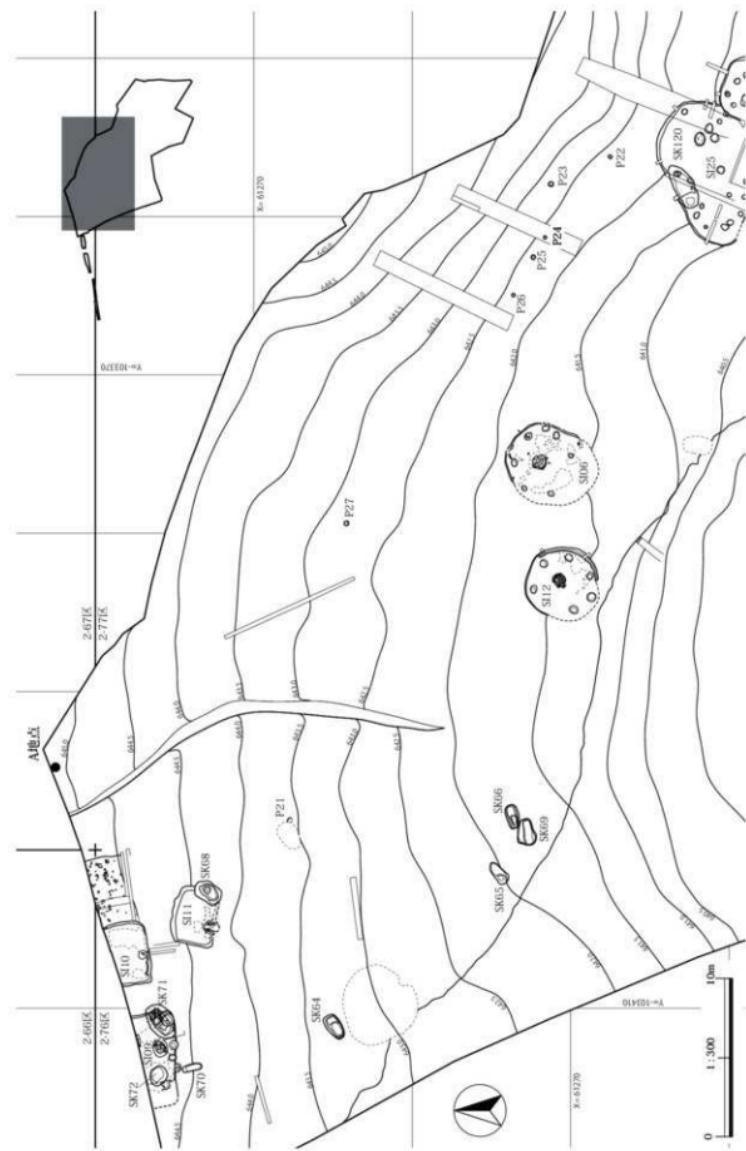
第6图 2·3区调查区2面目的全貌图(1/600)



第7图 2:3区调查区1面目分割图①(1:300)

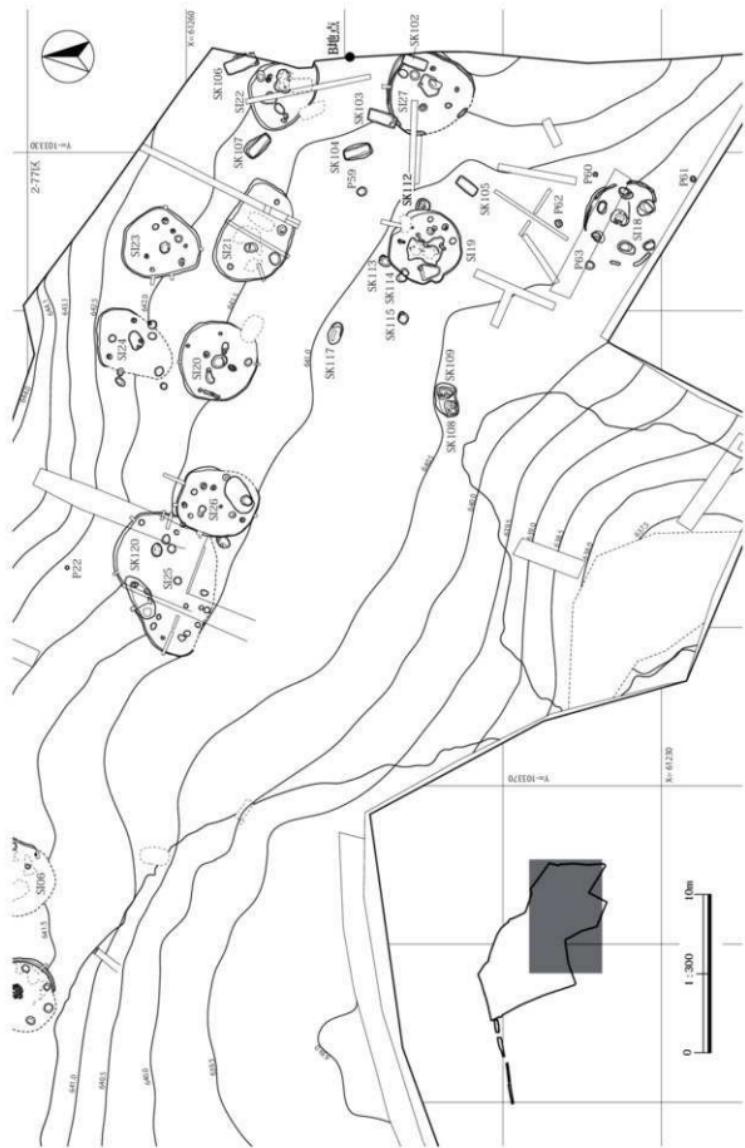
第8図 2・3区調査区1面目分割図②(1/300)



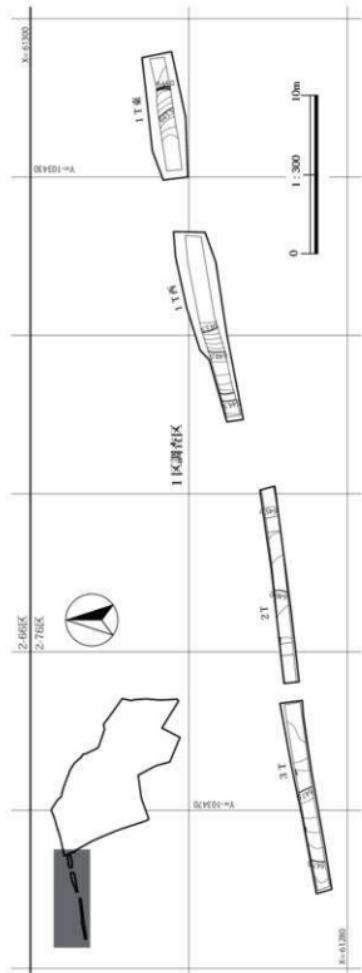


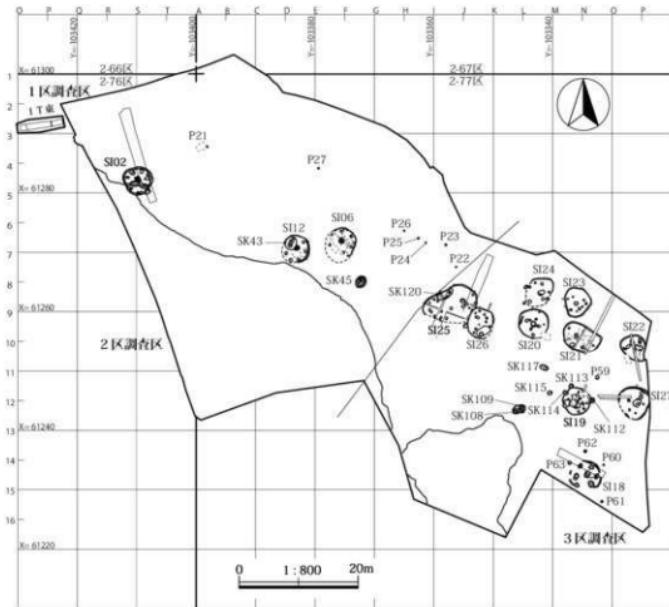
第9図 2・3区調査区2面目分割図①(1/300)

第10図 2・3区調査区2面目分割図②(1/300)



第11図 1区調査区分割図(1/300)





第12図 繩文時代遺構配置図(1/800)

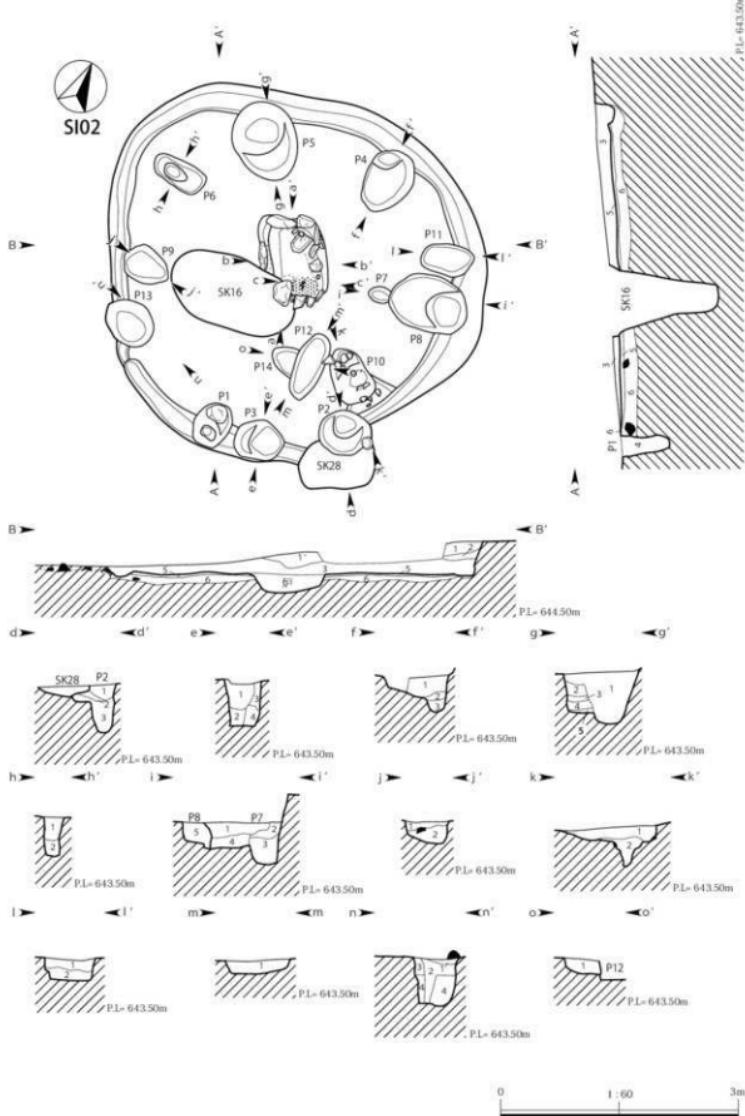
## 第2節 繩文時代の遺構と遺物

### (1) 竪穴住居跡

SiO<sub>2</sub> (第13~18回／PL 58・81)

**位置** 2-76区R・S-4・5グリッド(2・3区調査区北西部)。**重複関係** SK16・28と重複し、本遺構の方が古い。**遺存状態** 南西側で上部が削平されているが、概ね良好である。**覆土** 上層は暗褐色土、下層は黒色土・黒褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。主軸は4.65m、副軸は4.70m、確認面からの深さは最深46cm、床面積は11.74m<sup>2</sup>以上を測る。**主軸方位** N-26°-W。**壁・壁溝** 壁高は東壁で45cm、北壁で25cmを測り、ほぼ垂直に立ち上がる。西・南壁は現存していない。壁溝は全周で確認された。溝幅が12~27cm、床面からの深さは10cmを測る。**床面** 直床式で、ほぼ全面で貼床が確認された。概ね平坦である。**柱穴** P1~P15まで確認され、P15は掘り方で確認された。平面形は梢円形が主体である。位置・規模からP1~P7・P13が主柱穴と考えられる。それぞれの規模は、第2表に記載する。**炉跡** 住居跡のほぼ中央に位置する。平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸118cm、短軸85cm、床面からの深さは火床面で14cm、最深16cmを測る。焼土部分の厚さは3cmを有する。壇壠部に埋設土器を伴う石垣板で、刃物を切石と自然石が併用され、石が抜かれた隙間がある。

その他の施設 確認されていない。 遺物検出状況 北半分の壁寄りの覆土下層から多数の土器片が出土している。住居跡南西部の床面から第17図の剪的式に類似した透鉢が押出しされた状態で出土している。  
遺物



### S102土層説明 AA' BB'

1. 黒 褐 色 土 層: 粘性弱い。しまりあり。燒土粒・YPk(φ 5 mm)微量含む。
- 1'. に茶褐色土層: 粘性ややあり。しまりあり。黒褐色土粒少量含む。YPk粒微量含む。
2. 黒 褐 色 土 層: 粘性ややあり。しまり弱い。炭化鉱・YPk粒微量含む。
3. 黑 褐 色 土 層: 粘性ややあり。しまり弱い。炭化鉱・燒土粒・YPk粒微量含む。
4. 黑 褐 色 土 層: 粘性ややあり。しまり弱い。ローム粒・YPk粒微量含む。(P1)
5. 黄 褐 色 土 層: 粘性弱い。しまり弱い。黒褐色土粒少量含む。
6. 黒 褐 色 土 層: 粘性弱い。しまりあり。砂礫少量含む。

### S102ピット土層説明

#### dd' P2

1. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。白色粒・YPk粒微量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性あり。しまりあり。ローム粒多量含む。YPk粒微量含む。
3. 黑褐色土層: 粘性あり。しまりあり。暗褐色土粒・砂粒少量含む。
4. ローム粒微量含む。

#### ee' P3

1. 黒 色 土 層: 粘性弱い。しまり弱い。白色粒少量含む。ローム粒微量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまり弱い。砂粒多量含む。ローム粒微量含む。
3. 黑 色 土 層: 粘性弱い。しまり弱い。ロームブロック(φ 1 cm)少量含む。YPk粒微量含む。ロームブロック(φ 7 cm)あり。
4. 灰黃褐色土層: 粘性ややあり。しまり弱い。砂粒多量含む。ローム粒微量含む。ロームブロック(φ 3 cm)あり。

#### ff' P4

1. 黒 色 土 層: 粘性弱い。しまり弱い。白色粒少量含む。
2. 灰黃褐色土層: 粘性ややあり。しまり弱い。砂粒多量含む。
3. 黑褐色土層: 粘性ややあり。しまり弱い。砂粒多量含む。

#### gg' P5

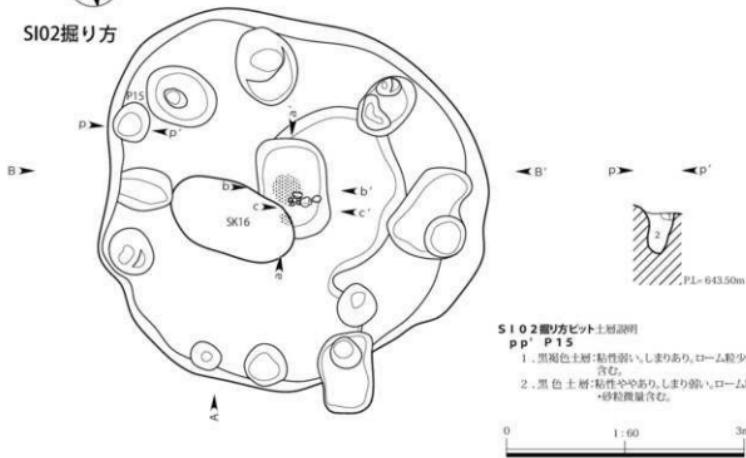
1. 黒 色 土 層: 粘性ややあり。しまりあり。砂粒少量含む。YPk粒微量含む。
2. 黑 色 土 層: 粘性ややあり。しまりあり。礫(φ 2 ~ 6 cm)多量含む。
3. 灰黃褐色土層: 粘性ややあり。しまり弱い。
4. 黑褐色土層: 粘性ややあり。しまり弱い。砂粒多量含む。
5. 灰黃褐色土層: 粘性ややあり。しまり弱い。砂粒多量含む。

#### hh' P6

1. 黑 色 土 層: 粘性弱い。しまりあり。礫(拳大)少量含む。白色粒微量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性ややあり。しまり弱い。砂粒多量含む。



S102掘り方



第14図 S102掘り方実測図(1/60)

### II' P7・8

1. 黑 色 土 層: 粘性弱い。しまりあり。白色粒少量含む。YPk粒微量含む。ロームブロック(φ 3 cm)あり。
2. 黑 色 土 層: 粘性ややあり。しまり弱い。ローム粒微量含む。
3. 黑褐色土層: 粘性ややあり。しまり弱い。ローム粒微量含む。
4. 黑褐色土層: 粘性ややあり。しまりあり。礫(φ 3 cm)多量含む。(以上PT)
5. 黑 色 土 層: 粘性ややあり。しまりあり。ローム粒微量含む。(P8)

### JJ' P9

1. 黑 色 土 層: 粘性弱い。しまりあり。YPk粒少量含む。ロームブロック(φ 3 cm)あり。
2. 黑褐色土層: 粘性ややあり。しまりあり。礫(φ 3 cm)多量含む。

### kk' P10

1. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。砂粒・YPk粒少量含む。ロームブロック(φ 3 cm)あり。
2. 黑褐色土層: 粘性ややあり。しまり弱い。ローム粒微量含む。

### ll' P11

1. 黑 色 土 層: 粘性弱い。しまり弱い。ローム粒微量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性ややあり。しまりあり。礫(φ 3 cm)多量含む。

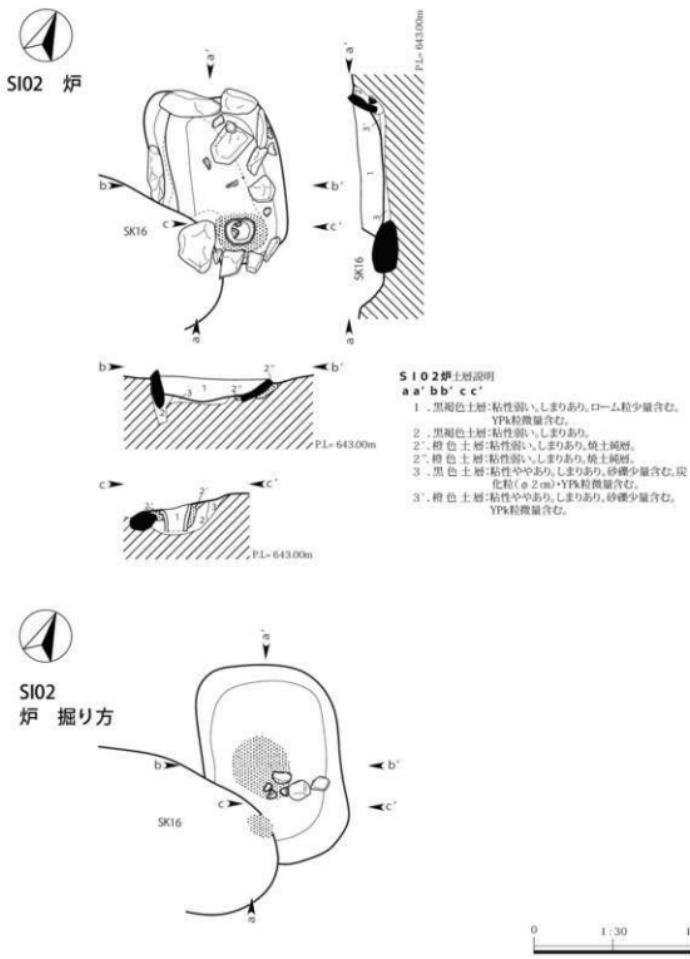
### mm' P12

1. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。砂粒少量含む。YPk粒微量含む。ロームブロック(φ 3 cm)あり。

2. 黑褐色土層: 粘性ややあり。しまり弱い。ローム粒微量含む。
3. 黑褐色土層: 粘性ややあり。しまりあり。礫(φ 3 cm)多量含む。
4. 黑褐色土層: 粘性ややあり。しまり弱い。ローム粒微量含む。

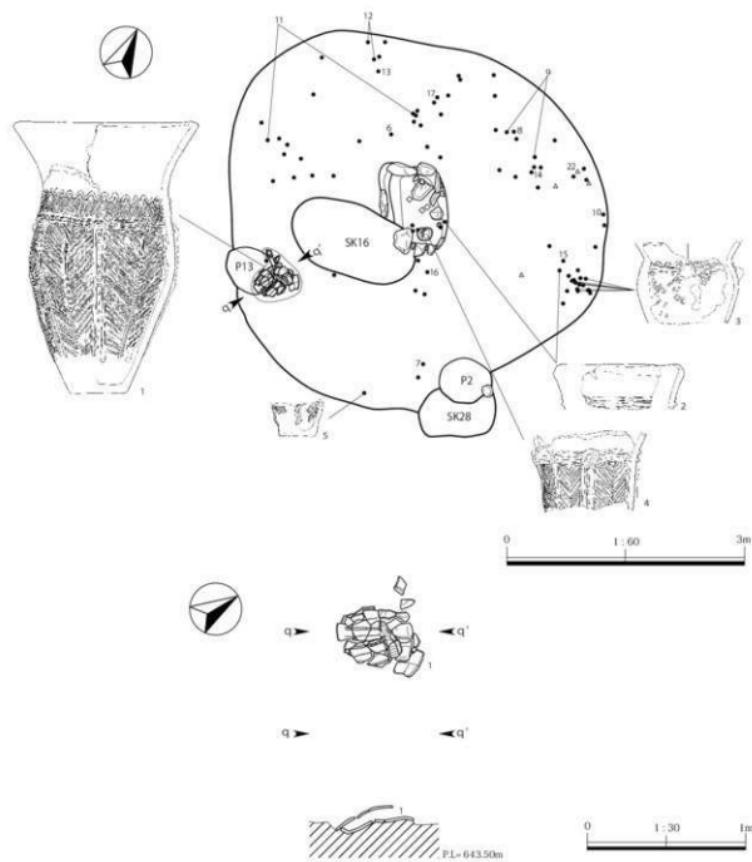
### oo' P14

1. 赤褐色土層: 粘性ややあり。しまりあり。黒色土ブロック(φ 2 cm)微量含む。

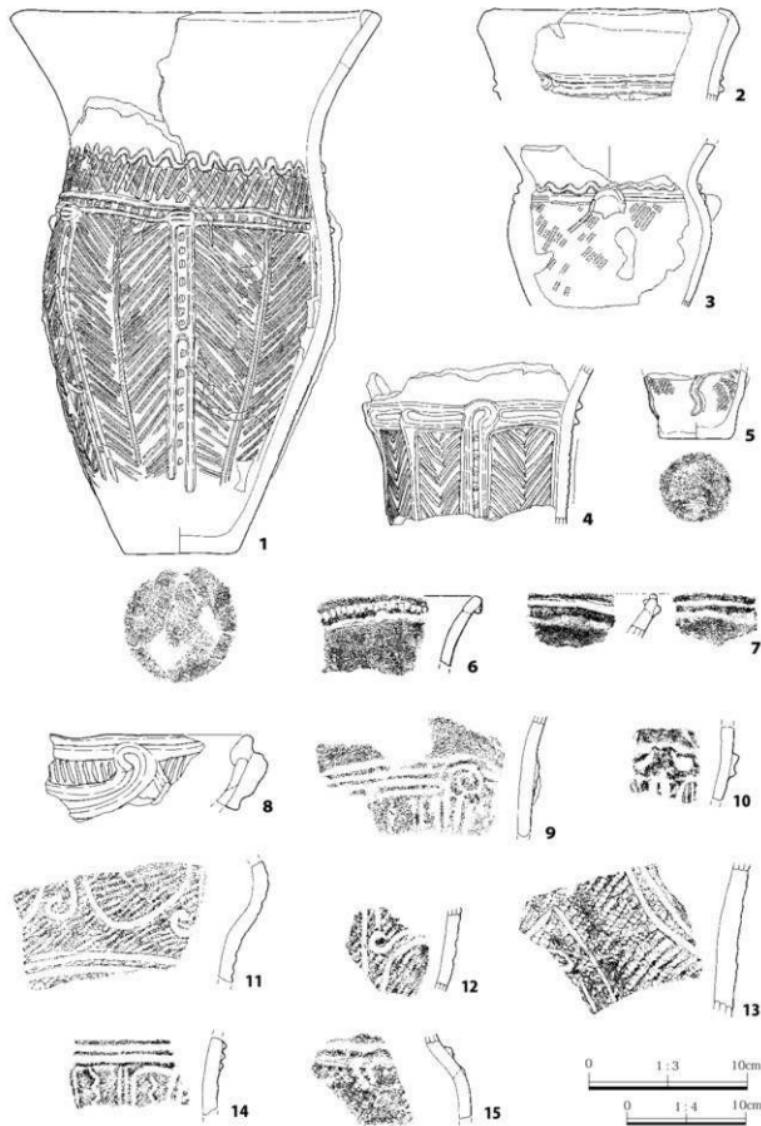


第15図 SiO<sub>2</sub>炉・炉掘り方実測図(1/30)

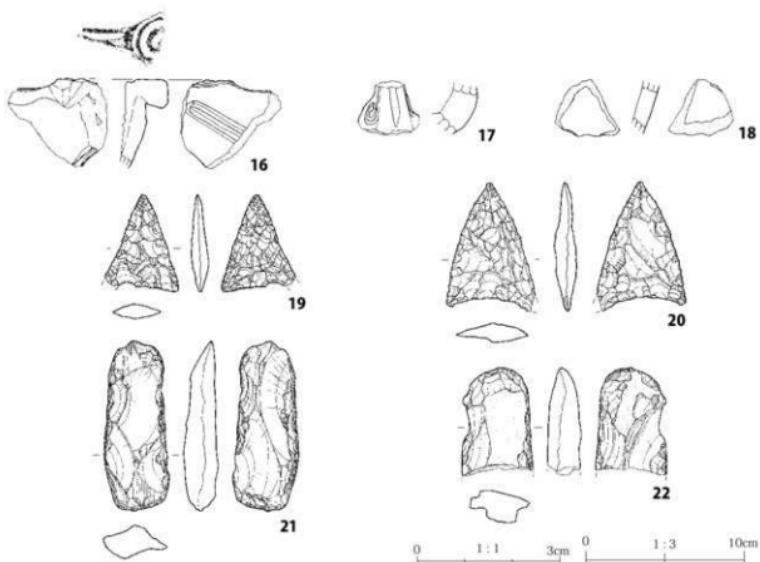
物 出土遺物のうち、縄文土器18点、石鐵2点、打製石斧2点を図示し得た。 備考 本遺構は、ほぼ中央に石壠炉を配置する直径約4.7mの竪穴住居跡である。帰属時期は、竪穴住居跡の形態および出土遺物から縄文時代中期中葉と考えられる。

第16図 SiO<sub>2</sub>遺物出土状況図(1/30・1/60)第2表 SiO<sub>2</sub> ピット計測表

	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8
長軸長(cm)	57	67	62	83	103	70	101	(27)
短軸長(cm)	45	57	50	60	79	33	70	21
深さ(cm)	62	61	57	49	67	46	55	24
	P 9	P10	P11	P12	P13	P14	P15	
長軸長(cm)	62	73	61	88	71	(31)	50	
短軸長(cm)	43	48	40	37	54	(35)	40	
深さ(cm)	27	63	30	11	64	9	52	



第17図 S102出土遺物実測図①(1/3・1/4)



第18図 S102出土遺物実測図②(1/1・1/3)

## SI06(第19~23図/PL 59・81・82)

**位置** 2-77区E・F-6・7グリッド(2面/2・3区調査区中央部北側)。**重複関係**なし。**遺存状態** 上部が削平されており、南西側約2/3は壁が現存していない。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。主軸は推定5.97m、副軸は推定5.11m、確認面からの深さは最深31cm、床面積は推定22.27m<sup>2</sup>を測る。**主軸方位** N-20°E **壁・壁溝** 壁高は東・北壁で21~25cmを測り、西・南壁は現存しない。いずれの壁も外傾して立ち上がる。壁溝は確認されていない。

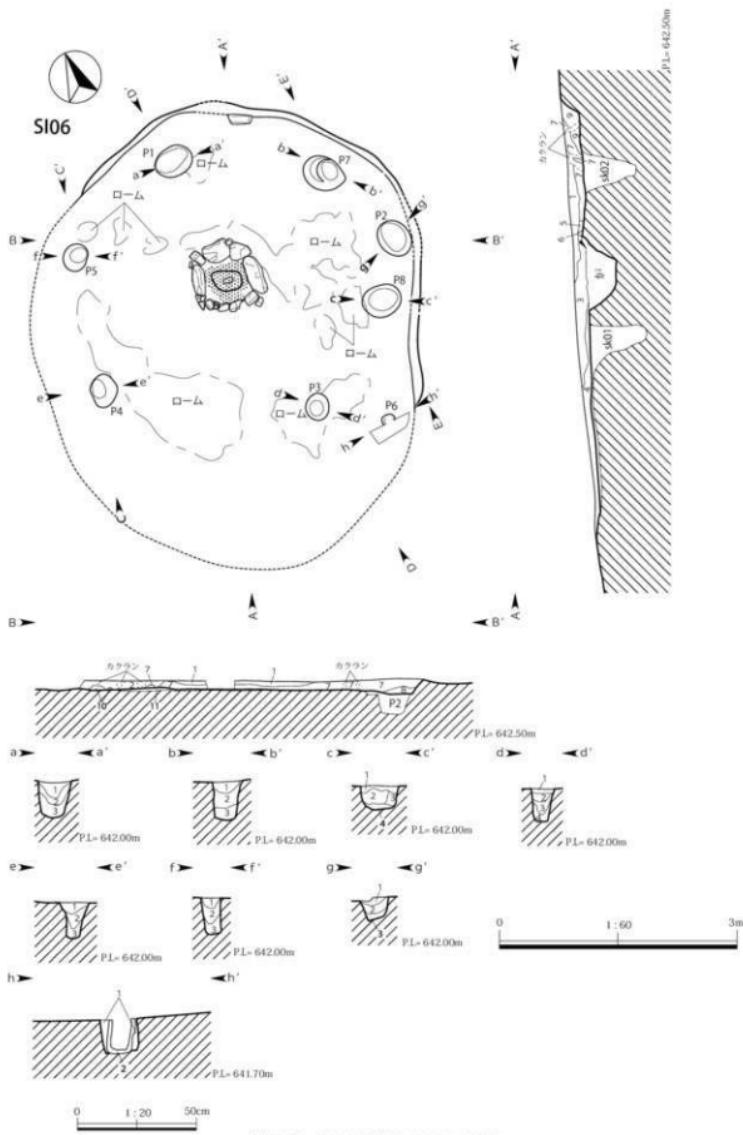
**床面** 直床式で、広範囲で貼床が確認された。南側がわずかに低いものの概ね平坦である。**柱穴** P1~P8まで確認された。平面形は梢円形を呈する。P6以外は位置・規模から主柱穴と考えられる。それぞれの規模は第3表に記載する。

第3表 SI06 ピット計測表

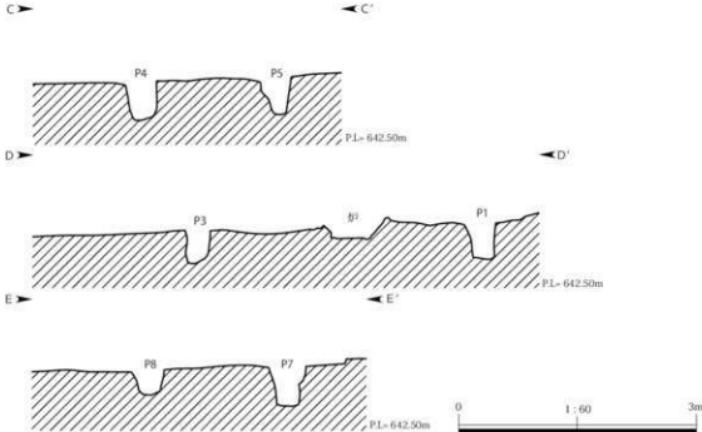
**炉跡** 住居跡の中央やや北寄りに位置する。平面形は正方形を呈し、規模は長軸91cm、短軸89cm、床面

	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8
長軸(cm)	49	48	34	41	34	(21)	52	49
短軸(cm)	37	39	30	34	29	(11)	40	40
深さ(cm)	47	29	41	49	52	13	30	53

からの深さは火床面で26cm、最深で45cmを測る。焼土部分の厚さは9cmを有する。平らな石を使用した石圓炉で、東・西側は1つの大きな石で直線的であるのに対し、南・北側は小さな石が3~4つ使われて湾曲している。このことから、東西に大きな石を置いて大きさを決めた後、南北に小さめの石を充て込んで炉を形成したと考えられる。**その他の施設** 埋設土器1基(P6)と床下土坑2基が確認された。埋設土器は住居跡南東部壁際に位置する。一回り大きく穴を掘り、土器の下半分が埋められていた。覆土中から上半分の一部が出土していることから、壊れた土器を使用したと考えられる。床下土坑2基は、長軸線のやや東側で炉跡を挟むように南北に位置している。平面形はsk01が梢円形、sk02が円形を呈する。規模はsk01が長軸104cm、短



第19図 SI06実測図①(1/20・1/60)



## SI06土層図

## AA' BB'

1. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、YPk(φ 5mm)多量含む。ロームブロック(φ 3cm)・埴土粒・YPk(φ 5mm)微量含む。
2. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、埴土粒(φ 5mm)・YPk(粒・φ 1mm)少量含む。
3. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、YPk(φ 5mm)多量含む。YPk粒少量含む。炭化粧・埴土粒(φ 5mm)・YPk(φ 3cm)微量含む。
4. 黑褐色土層: 粘性ややあり、しまりあり、ロームブロック(φ 5mm)・埴土粒・YPk(φ 5mm・1cm)・礫(φ 3cm)微量含む。
5. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、ロームブロック少量含む。YPk(φ 5mm)微量含む。
6. 黑色土層: 粘性ややあり、しまりあり、ロームブロック・YPk(φ 5mm)微量含む。
7. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、埴土粒(φ 5mm)少量含む。YPk(粒・φ 1mm)微量含む。
8. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、埴土粒少量含み赤味有。YPk(粒・φ 1mm)微量含む。
9. 黑褐色土層: 粘性なし、しまりあり、埴土粒(φ 5mm)・YPk(φ 5mm・3cm)・礫(φ 1mm)微量含む。ロームブロック(φ 3cm)あり。
10. 黑褐色土層: 粘性あり、しまりあり、黒褐色土層少量含む。埴土粒・YPk(φ 5mm)微量含む。
11. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、ロームブロック(φ 3cm)等に、白色粒少量含む。ローム粒微量含む。(鉄床)

## SI06ピット土層図

## aa' P1

1. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、埴土粒(φ 5mm)・YPk粒少量含む。ローム粒・YPk(φ 1mm)微量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性ややあり、しまりあり、埴土粒・YPk(φ 5mm)微量含む。埴土粒(φ 5mm)ごく微量含む。
3. 黑褐色土層: 粘性あり、しまりややあり、ローム粒少量含む。YPk粒ごく微量含む。

## bb' P7

1. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、YPk粒微量含む。ロームブロック(φ 1cm)・白色粒(φ 5mm)微量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性ややあり、しまりあり、白色粒・YPk(φ 1mm)微量含む。
3. 黑色土層: 粘性あり、しまりあり、ローム粒少量含む。

## cc' P8

1. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、埴土粒・YPk(φ 5mm)微量含む。
2. 黑色土層: 粘性ややあり、しまりあり、白色粒・YPk粒微量含む。
3. 黑褐色土層: 粘性ややあり、しまりあり、ローム粒少量含む。
4. 黑褐色土層: 粘性ややあり、しまりあり、ローム粒微量含む。YPk粒微量含む。

## dd' P3

1. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、ロームブロック(φ 3cm)帶状に少量含む。ローム粒・埴土粒・YPk粒微量含む。
2. 黑色土層: 粘性あり、しまりややあり、白色粒微量含む。
3. 黑色土層: 粘性あり、しまりややあり、白色粒・YPk粒微量含む。
4. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、YPk(φ 1mm)微量含む。ローム粒ごく微量含む。

## ee' P4

1. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、埴土粒(φ 5mm)・YPk粒少量含む。ロームブロック(φ 5mm)・埴土粒・YPk(φ 5mm)微量含む。
2. 黑色土層: 粘性あり、しまりややあり、埴土粒(φ 5mm)・YPk(粒・φ 1mm)微量含む。
3. 黑褐色土層: 粘性あり、しまりあり、ローム粒・YPk(φ 5mm)微量含む。

## ff' P5

1. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、埴土粒(φ 5mm)・YPk粒微量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性ややあり、しまりあり、ロームブロック(φ 1cm)・ローム粒・埴土粒・YPk粒微量含む。
3. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、ローム粒少量含む。YPk粒微量含む。

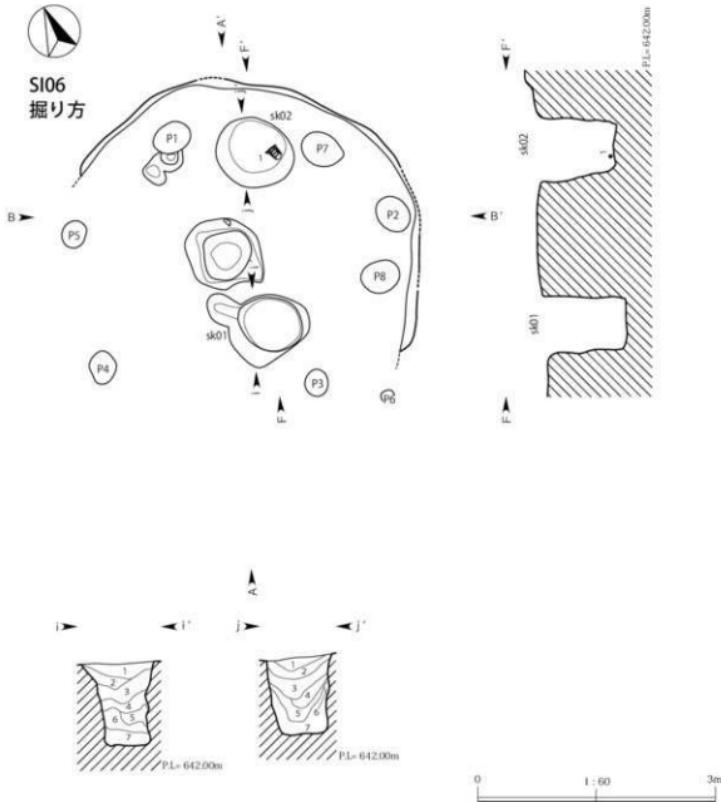
## gg' P2

1. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、埴土粒(φ 5mm)・YPk粒微量含む。
2. 黑色土層: 粘性あり、しまりややあり、ロームブロック(φ 1cm)・埴土粒(φ 1cm)・YPk(φ 5mm)微量含む。
3. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、ローム粒少量含む。YPk粒微量含む。

## hh' P6

1. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、埴土粒・YPk粒微量含む。

第20図 SI06実測図②(1/60)

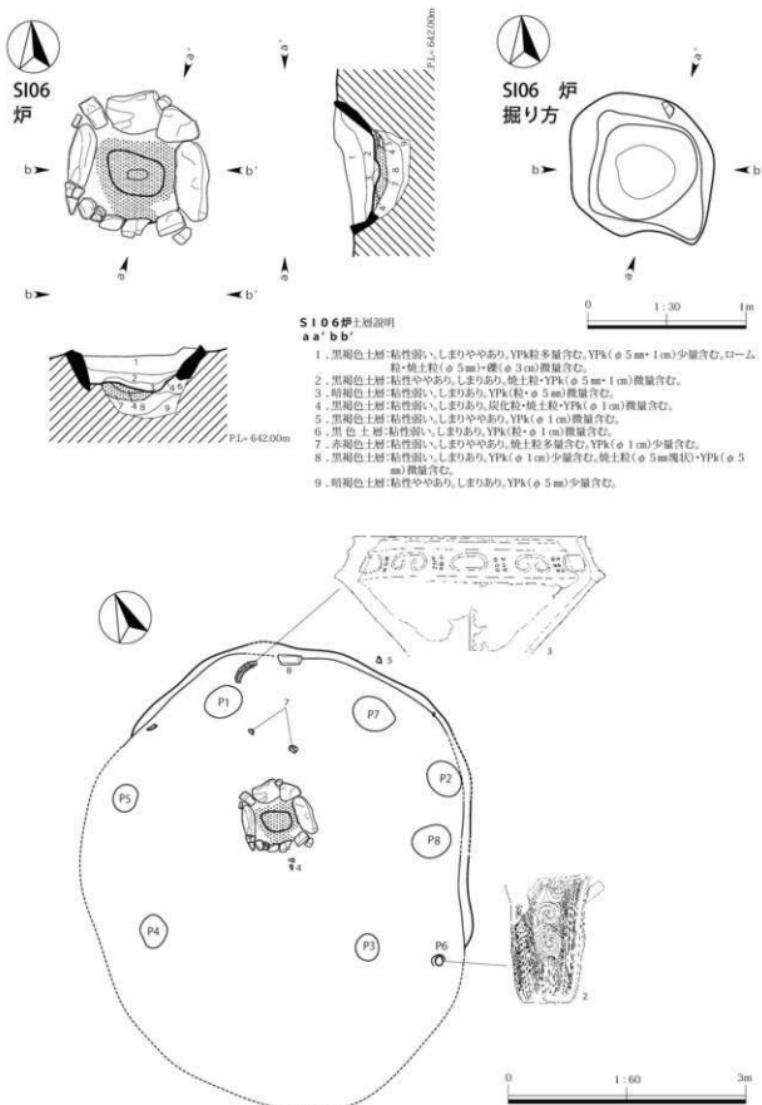
**SI06床下土坑地図説明****i i' sk01**

1. 黒褐色土層：粘性弱い。しまりややあり。YPk(粒・φ 5mm)少量含む。ロームブロック(φ 1cm)・ローム粒・桃土粒・YPk(φ 1cm)微量含む。
2. 黒褐色土層：粘性弱い。しまりややあり。ローム粒少量含む。桃土粒・YPk(粒・φ 5mm)微量含む。
3. 黑褐色土層：粘性ややあり。しまりあり。YPk(φ 5mm)少量含む。ローム粒・桃土粒・YPk(粒・φ 1cm)微量含む。
4. 黑褐色土層：粘性ややあり。しまりあり。YPk(φ 1cm)少量含む。ローム粒(φ 3 mm)塊状・YPk(φ 5mm)微量含む。
5. 黄褐色土層：粘性弱い。しまりあり。ローム層。黒褐色土粒微量含む。
6. 黑褐色土層：粘性ややあり。しまりややあり。ローム粒少量含む。ロームブロック(φ 5mm)微量含む。
7. 黑褐色土層：粘性ややあり。しまりややあり。ローム粒少量含む。白色味あり。ロームブロック(φ 5mm)微量含む。

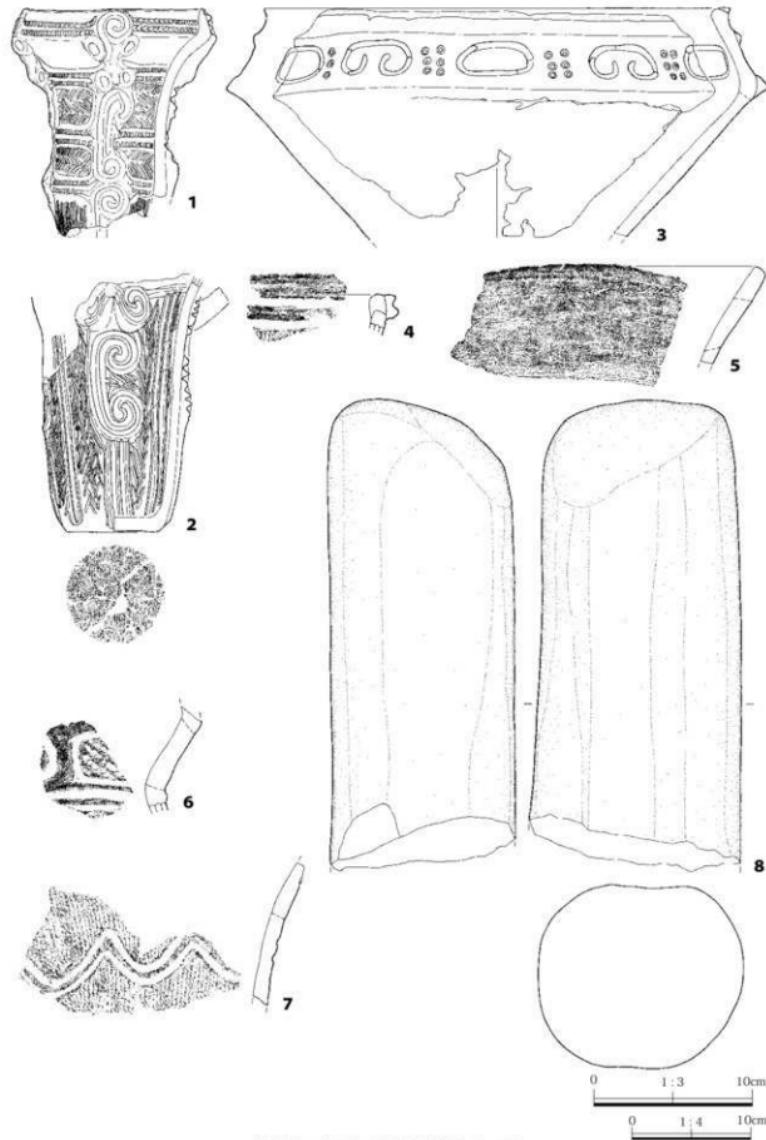
**j j' sk02**

1. 黒褐色土層：粘性やや弱い。しまりあり。白色粒少量含む。ローム粒・桃土粒・YPk(φ 5mm)微量含む。
2. 黑褐色土層：粘性やや弱い。しまりあり。白色粒・YPk(φ 5mm)少量含む。桃土粒(粒・φ 5mm)微量含む。
3. 黑褐色土層：粘性あり。しまりややあり。桃土粒・YPk(φ 5mm)少量含む。ロームブロック(φ 5mm)・桃土粒(φ 5mm)・YPk(粒・φ 1cm)微量含む。
4. 黑褐色土層：粘性やや弱い。しまりややあり。桃土粒・YPk(φ 5mm)微量含む。白色粒ごく微量含む。
5. 黑褐色土層：粘性あり。しまりあり。ロームブロック(φ 5mm)・ローム粒・桃土粒・白色粒・YPk粒微量含む。
6. にじみ 黄褐色土層：粘性弱い。しまりあり。ローム純地。
7. 黑褐色土層：粘性あり。しまりあり。ローム粒少量含む。ロームブロック(φ 5mm)・桃土粒・YPk粒微量含む。

第21図 SI06掘り方実測図(1/60)



第22図 SI06炉・炉掘り方実測図(1/30)・遺物出土状況図(1/60)



第23図 SI06出土遺物実測図 (1/3・1/4)

軸 88cm、床面からの深さ 106cm、sk02 が長軸 99cm、短軸 89cm、床面からの深さ 102cm を測る。形態から貯蔵穴の可能性が考えられる。sk02 の底面からは第 23 図 1 の底部を欠損した桶倉式に類似する小形深鉢が出土している。**遺物検出状況** 遺物量は少なく、住居跡全域の覆土下層で散見された。北壁際の床面付近からは、同図 3 の大型の浅鉢と同図 8 の石棒が出土している。**遺物** 出土遺物のうち、縄文土器 7 点、石棒 1 点を図示し得た。**備考** 本遺構は、壁際に 6 本の柱穴を巡らし、ほぼ中央に石圓柱を持つ直径約 4.8 m の竪穴住居跡である。縫隙時期は、竪穴住居跡の形態および出土遺物から縄文時代中期中葉と考えられる。

#### SI12 (第 24 ~ 27 図 / P L 60・61・82)

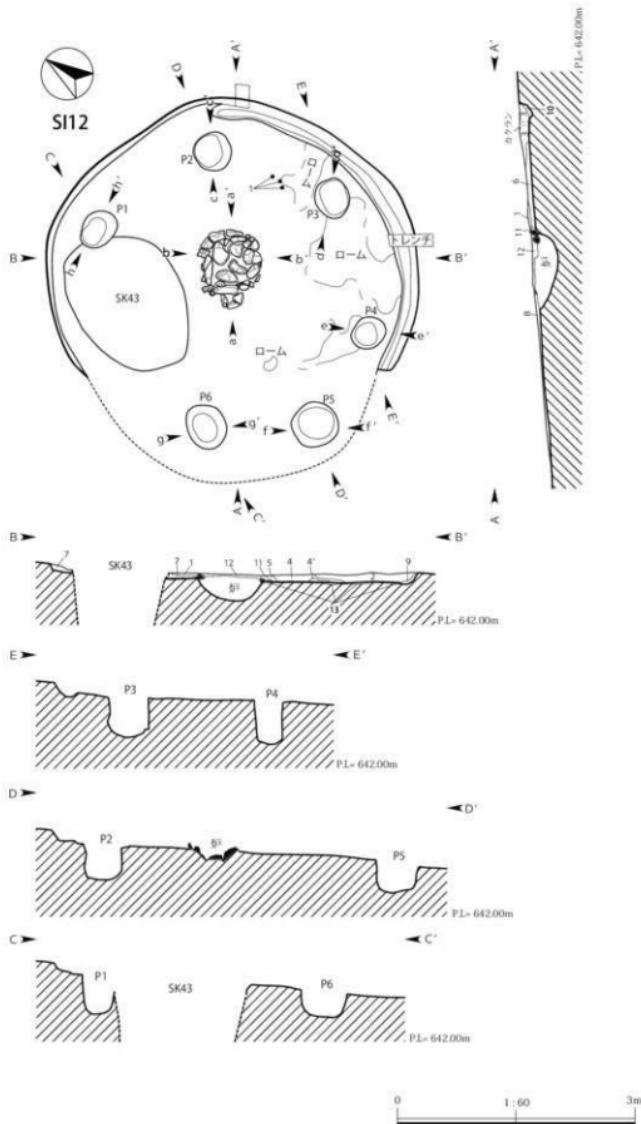
**位置** 2-77 区 C・D-6・7 グリッド (2 面 / 2・3 区調査区中央部北側)。**重複関係** SK43 と重複し、本遺構の方が古い。**遺存状態** 上部が削平されており、壁の大半が現残していない。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は主軸が 4.83 m 以上、副軸が 4.67 m 以上、確認面からの深さは最深 41cm、床面積は推定 15.70m<sup>2</sup> を測る。**主軸方位** N=55°—E  
**壁・壁溝** 南西側は削平されており現存しない。その他の壁は 10 ~ 17cm を測り、ほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は東壁で確認された。溝幅は 15 ~ 23cm、床面からの深さは 5 cm を測る。**床面** 直床式で、南東部壁際の一部で貼床が確認された。南側に向かって緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。**柱穴** P 1 ~ P 10 が確認され、P 7 ~ P 10 は掘り方で確認された。平面形は円形を呈する。P 1 ~ P 6 は位置・規模から主柱穴

第 4 表 SI12 ピット計測表

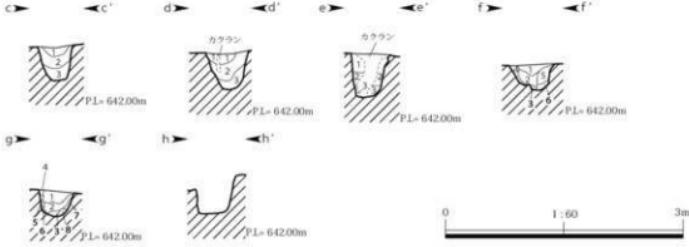
	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9	P 10
長軸長 (cm)	51	48	50	44	57	57	36	33	19	23
短軸長 (cm)	41	46	43	38	57	48	33	32	17	21
深さ (cm)	48	46	52	55	34	35	41	15	15	17

と考えられる。それぞれの規模は第 4 表に記載する。

**炉跡** 住居跡のほぼ中央に位置する。平面形は正方形を呈し、南西辺に小さな張り出しを有する。規模は長軸 82cm、張り出し部を含むと 99cm、短軸 82cm、床面からの深さは火床面で 25cm を測る。張り出し部は長軸方向 18cm、短軸方向 27cm を測る。平らな石を使用した石圓柱で、西隅部を基点として平らで大きめの石を L 字に置き、そこから小さめの石を並べて炉を形成したと考えられる。第 27 図 4 の壊れた石皿も炉石に利用していた。底面にも石が埋め込まれているが、凹凸があり面が意識されていない。**その他の施設** なし。**遺物検出状況** 遺物量は少なく、住居跡東寄りの覆土下層で散見された。**遺物** 出土遺物のうち、縄文土器 3 点、石皿 1 点を図示し得た。**備考** 本遺構は、壁際に 6 本の柱穴を巡らし、ほぼ中央に石圓柱を持つ直径約 4.7 m の竪穴住居跡である。縫隙時期は、竪穴住居跡の形態および出土遺物から縄文時代中期中葉と考えられる。



第24図 SI12実測図①(1/60)



S112 土壤說明

AA' BB'

1. 黒褐色土: 粘性物質多く、(少し)固形化。 $\text{YPh}(\phi 5\text{ mm})$ : 塵土+ $\text{YPh}$ 微量含む。
  2. 黒褐色土: 粘性物質多く、(少し)固形化。 $\text{YPh}(\phi 5\text{ mm})$ :  $\text{YPh}$ 少量含む。尘土+ $\text{YPh}(\phi 5\text{ mm})$ + $\text{YPh}(\phi 3\text{ cm})$ 微量含む。
  3. 黑褐色土: 粘性物質多く、(少し)固形化。 $\text{YPh}(\phi 5\text{ mm})$ :  $\text{YPh}(\phi 5\text{ mm})$ 少量含む。
  4. 黑褐色土: 粘性物質多く、(少し)固形化。 $\text{YPh}(\phi 5\text{ mm})$ : 塵土+ $\text{YPh}$ 微量含む。
  - 4'. 黑褐色土: 粘性物質多く、(少し)固形化。 $\text{YPh}(\phi 5\text{ mm})$ :  $\text{YPh}(\phi 5\text{ mm})$ 少量含む。
  5. 黑褐色土: 粘性物質多く、(少し)固形化。 $\text{YPh}(\phi 5\text{ mm})$ :  $\text{YPh}(\phi 5\text{ mm})$ 微量含む。
  6. 黑褐色土: 粘性物質多く、(少し)固形化。 $\text{YPh}(\phi 5\text{ mm})$ :  $\text{YPh}(\phi 5\text{ mm})$ 微量含む。
  7. 黑褐色土: 粘性物質多く、(少し)固形化。 $\text{YPh}(\phi 5\text{ mm})$ : 塘土+ $\text{YPh}(\phi 5\text{ mm})$ 微量含む。
  8. 黑褐色土: 粘性物質多く、(少し)固形化。 $\text{YPh}(\phi 5\text{ mm})$ : 少量含む。尘土+ $\text{YPh}$ 微量含む。
  9. 黑褐色土: 粘性物質多く、(少し)固形化。 $\text{YPh}(\phi 5\text{ mm})$ : 少量含む。尘土+ $\text{YPh}$ 微量含む。
  10. 黑褐色土: 粘性物質多く、(少し)固形化。 $\text{YPh}(\phi 5\text{ mm})$ : 少量含む。尘土+ $\text{YPh}$ 微量含む。
  11. 黑褐色土: 粘性物質多く、(少し)固形化。 $\text{YPh}(\phi 5\text{ mm})$ :  $\text{YPh}$ 微量含む。
  12. 黑褐色土: 粘性物質多く、(少し)固形化。 $\text{YPh}(\phi 1\text{ m})$ : 塘土+ $\text{YPh}(\phi 5\text{ mm})$ 微量含む。尘土+ $\text{YPh}$ 微量含む。
  13. 黑褐色土: 粘性物質多く、(少し)固形化。 $\text{YPh}(\phi 3\text{ m})$ : 多量含む。尘土+ $\text{YPh}(\phi 1\text{ m})$ 微量含む。

## S112ビット土層説明

CC' B2

1. 黒褐色土層:粘性弱い。しまりあり。純土層・YPk(粒・ $\phi$  5 mm)少額含む。炭化物( $\phi$  5 mm)微量含む。
  2. 黒褐色土層:粘性ややあなり。しまりややあり。純土層・YPk(粒・ $\phi$  5 mm)微量含む。
  3. 黒褐色土層:粘性あり。しまりあり。純土層(粒・ $\phi$  5 mm)・YPk(粒・ $\phi$  5 mm)微量含む。

dd' P 3

1. 黒褐色土層: 貼り性弱い。しまりあり。YPK粒少量含む。ロームブロック(φ 5 mm)-焼土粒(粒・φ 5 mm)微量含む。
  2. 黒褐色土層: 貼り性弱い。しまりあり。焼土粒・YPK粒(粒・φ 5 mm)微量含む。
  3. 黒色土層: 貼り性あり。しまり弱い。ローム粒・YPK粒(φ 5 mm)微量含む。

• 88 P 4

1. 黒色土層:粘性弱い。しまりあり。Ypk粒微量含む。
  2. 黒色土層:粘性弱い。しまりあり。ローム粒・Ypk(Φ1mm)微量含む。
  3. 黒褐色土層:粘性弱い。しまりあり。ローム粒多量含む。Ypk(Φ5mm)微量含む。

f f' P5

- 黒褐色土 売行量：約1t しまりあり YPK少 領域合。ローマ粉・燒土微微量含む。
  - 黒褐色土 売行量：約1t しまりあり ローマ粉 YPK少微量含む。
  - 黒褐色土 売行量：約1t しまりあり ローマ少 領域合 YPK少・粒度・φ 5mm 微量含む
  - 黒褐色土 売行量：約1t しまりあり YPK少 領域合。ローマ粉微量含む。
  - 黒褐色土 売行量：約1t しまりあり YPK少 少告む。ローマ粉微量含む。
  - 黒褐色土 売行量：約1t しまりあり ローマ粉 YPK少微量含む。

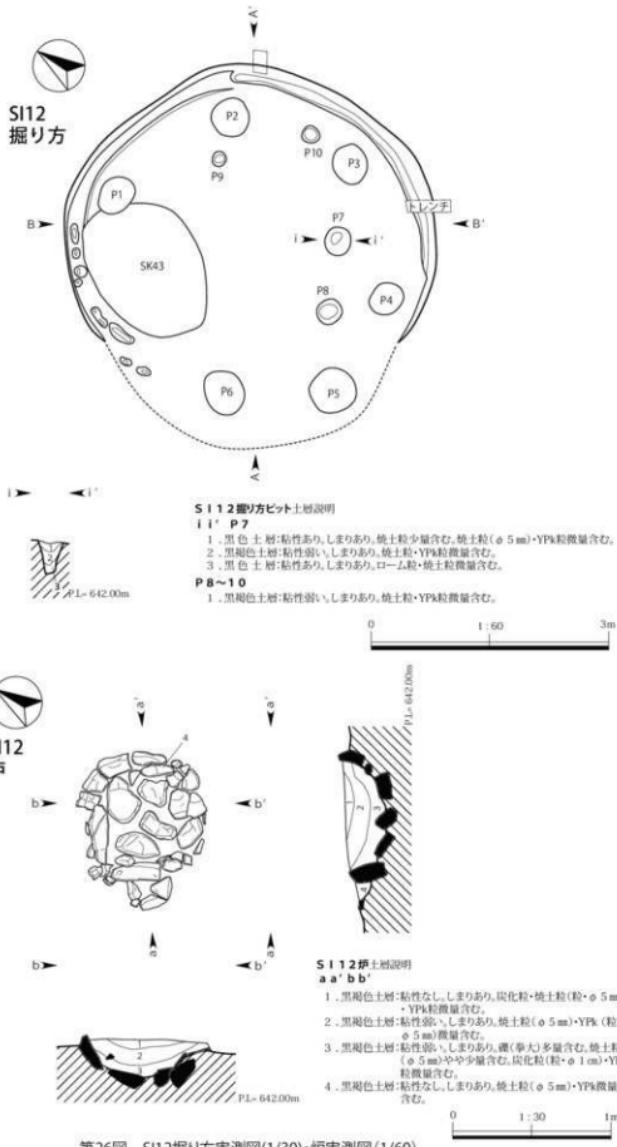
gg' P6

- 黒褐色土: 黒褐色、粒状崩壊、じまあり、ローム-YPKf<sub>1</sub>重量含む。
  - 黒褐色土: 黒褐色、粒状崩壊、じまあり、ローム-YPKf<sub>2</sub>重量含む。
  - 暗褐色土: 黒褐色、粒状崩壊、じまあり、ローム-YPKf<sub>3</sub>重量含む。
  - 黒褐色土: 黒褐色、粒状崩壊、じまあり、ローム-粗粒( $\phi 5\sim 10$ )、YPKf<sub>4</sub>重量含む。
  - 黒褐色土: 黒褐色、粒状崩壊、じまあり、ローム-YPKf<sub>5</sub>重量含む。
  - 黒褐色土: 黒褐色、粒状崩壊、じまあり、ローム-YPKf<sub>6</sub>重量含む。
  - 黒褐色土: 黒褐色、粒状崩壊、じまあり、ローム-YPKf<sub>7</sub>重量含む。
  - 黒褐色土: 黒褐色、粒状崩壊、じまあり、ローム-YPKf<sub>8</sub>重量含む。
  - 暗褐色土: 黒褐色、粒状崩壊、じまあり、ローム-YPKf<sub>9</sub>重量含む。
  - 暗褐色土: 黒褐色、粒状崩壊、じまあり、ローム-YPKf<sub>10</sub>重量含む。

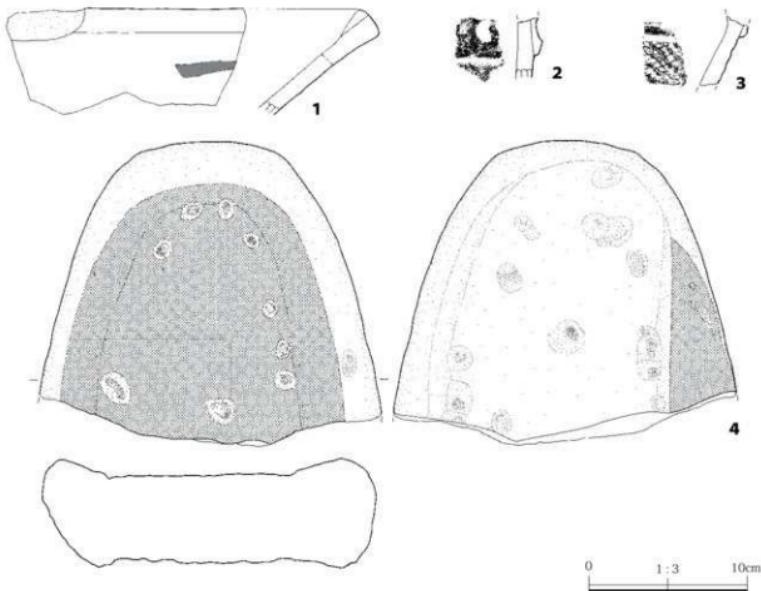
h h' P 1

1. 黒褐色土粉: 脂肪弱い。しまりあり。YPK粒少量含む。ローム-粉-燒土粒(粒・φ 5 mm)・YPK(φ 5 mm)・礫(φ 5 cm)微量含む。
  2. 黑褐色土粉: 脂肪ややあり。しまり弱い。焼土粒・YPK(粒・φ 5 mm)微量含む。
  3. 黑褐色土粉: 脂肪あり。しまりややあり。ローム-粉-YPK粒少量含む。燒土粒・YPK(φ 5 mm)微量含む。

第25回 SI12実測図②(1/60)



第26図 SI12掘り方実測図(1/30)・炉実測図(1/60)



第27図 SI12出土遺物実測図(1/3)

## SI18 (第28~32図／PL 60・61・83)

位置 2-77区M-14、N-14・15グリッド(2面／2・3区調査区南東隅部)。重複関係なし。

**遺存状態** 地山と遺構覆土の見分けが付き難いことから、見分けが付く面まで掘り下げた結果、上部が削平されてしまい、壁の大半が現存していない。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積と考えられる。**平面形と規模** 平面形は円形を呈すると考えられる。主軸は4.99m以上、副軸は5.43m、確認面からの深さは最深33cm、床面積は推定17.84m<sup>2</sup>を測る。**主軸方位** N-22°-E **壁・壁溝** 壁高は北壁が31cmを測り、その他の壁は現存していない。北壁は外傾して立ち上がる。壁溝は北壁から東壁、西壁で部分的に確認された。溝幅は8~25cm、床面からの深さは13cmを測る。**床面** 直床式で、中央部で踏み締りが確認された。南方向に非常に緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。**柱穴** P 1~P 6まで確認された。P 6が不整形を呈し、その他は梢円形を呈する。位置・規模から6本柱の主柱穴と考えられる。それぞれの規模は第5表に記載する。

**炉跡** 住居跡の中央やや東寄りに位置

する。平面形は円形を呈し、規模は長軸

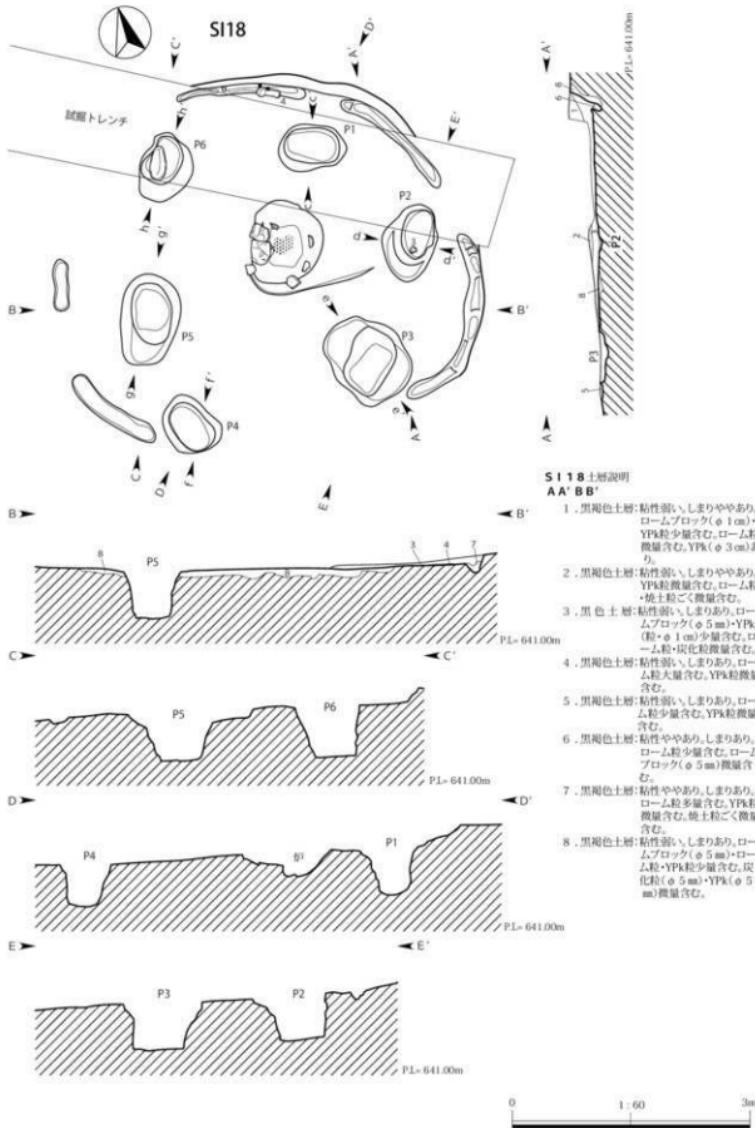
	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6
長軸長(cm)	51	48	50	79	44	57
短軸長(cm)	41	46	43	68	38	57
深さ(cm)	48	46	52	54	55	34

部分の厚さは3cmを有する。西側のみ平らな石が現存していることから、石が抜かれてしまった石囲炉と考えられる。

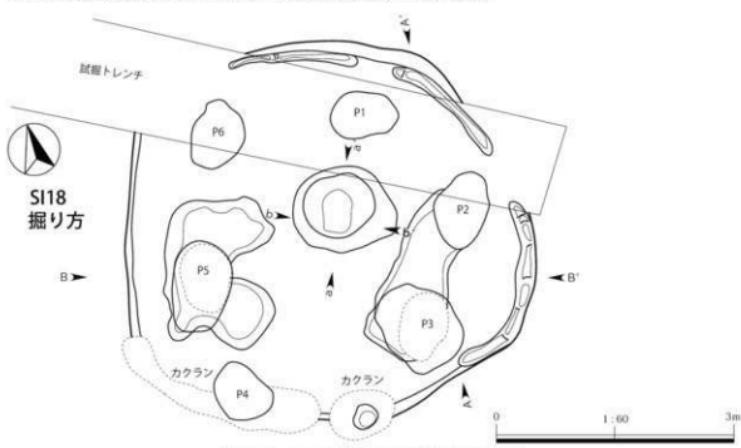
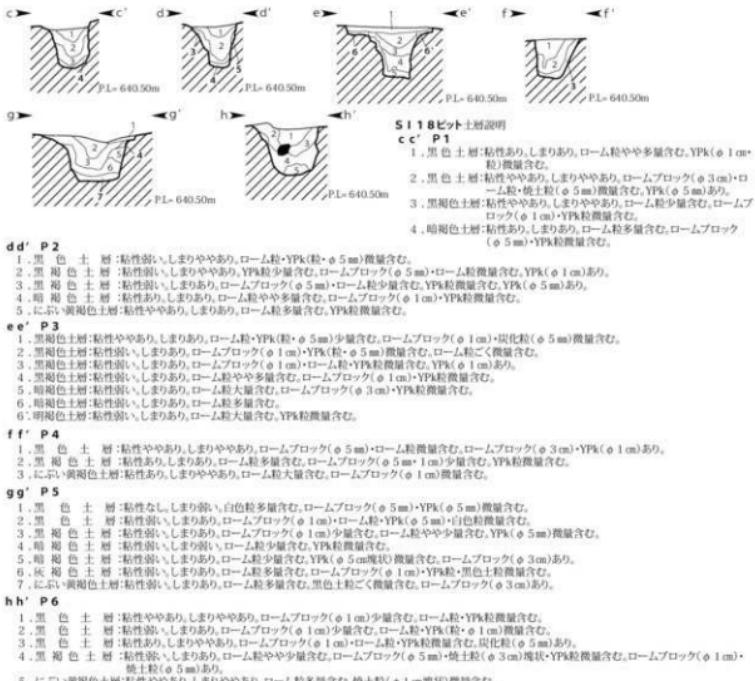
**その他の施設** 確認されていない。**遺物検出状況** 出土量は少なく、住居跡東側の覆土下層で土器片が散見された。北壁際からは第32図4のおよそ半分に割れた石皿が出土している。

**遺物** 出土遺物のうち、縄文土器3点・石皿1点を図示し得た。

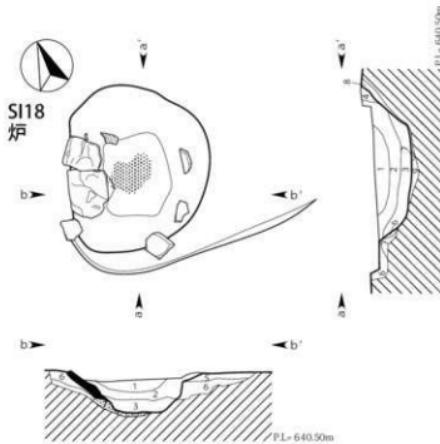
**備考** 本遺構は、壁際に6本の柱穴を巡らし、ほぼ中央に石囲炉を



第28図 SI18実測図①(1/60)



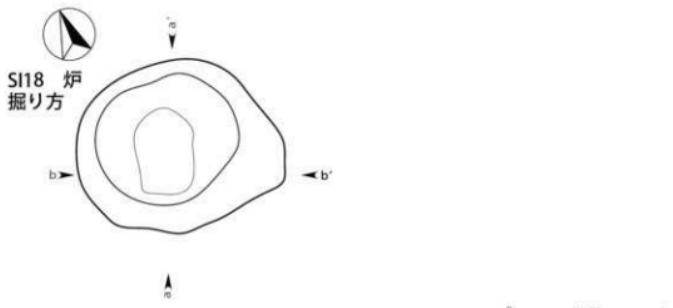
第29図 SI18実測図②・掘り方実測図(1/60)



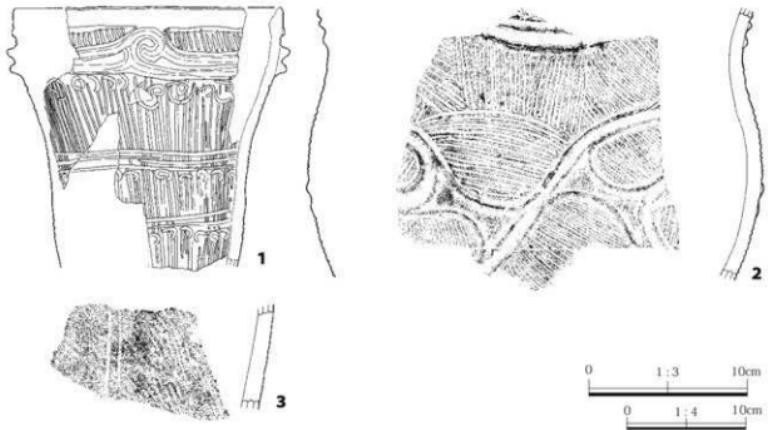
## SI18炉 土層説明

a-a' b-b'

1. 黒褐色土層：粘性なし、しまりあり、YPk(φ 1cm)少量含む。ロームブロック(φ 1cm)・焼土粒・YPk粒微量含む。YPk(φ 3cm)あり。
2. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりややあり、ローム粒・YPk粒少量含む。焼土粒やや少量含む。ロームブロック(φ 5cm)微量含む。ロームブロック(φ 3cm)・YPk(φ 5cm)あり。
3. 粘褐色土層：粘性弱い、しまりややあり、ローム粒やや多量含む。ロームブロック(φ 5cm・1cm)・炭化粒(φ 5cm)・YPk粒微量含む。
4. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒やや少量含む。YPk粒微量含む。
5. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒多量含む。ロームブロック(φ 1cm)・焼土粒(φ 5mm)微量含む。YPk(φ 5cm)あり。
6. 粘褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒少量含む。ロームブロック(φ 1cm)・焼土粒・YPk粒微量含む。
7. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒多量含む。焼土粒少量含む。
8. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒多量含む。ロームブロック(φ 5cm)・YPk(粒・φ 5mm)微量含む。
9. に付い黄褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒多量含む。ロームブロック(φ 5cm)・焼土粒(粒・φ 5mm)・YPk粒微量含む。



第30図 SI18炉・炉掘り方実測図(1/30)



第31図 SI18出土遺物実測図①(1/3・1/4)

持つ直径約5.4mの竪穴住居跡である。縕属時期は、竪穴住居跡の形態・出土遺物から縦文時代中期後葉と考えられる。

#### SI19(第33~37図／PL 61・84)

**位置** 2-77区M・N-11・12グリッド(2面／2・3区調査区東部)。**重複関係** SK112~114と重複し、本遺構の方が新しい。**遺存状態** 地山と遺構覆土の見分けが付き難いことから、見分けが付くまで掘り下げた結果、上部が削平されてしまい、壁の大半が現存していない。北東部の一部がカクランで壊されている。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積と考えられる。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。主軸は4.60m、副軸は4.60m、確認面からの深さは最深14cm、床面積は14.72m<sup>2</sup>を測る。**主軸方位** N-22°-E  
**壁・壁溝** いずれの壁高も5~10cmを測り、外傾して立ち上がる。壁溝は確認されていない。**床面** 直床式で、中央部に向かって緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。**柱穴** P1~P10まで確認された。平面形は円形が主体で、浅いものが多い。それぞれの規模は第6表に記載する。

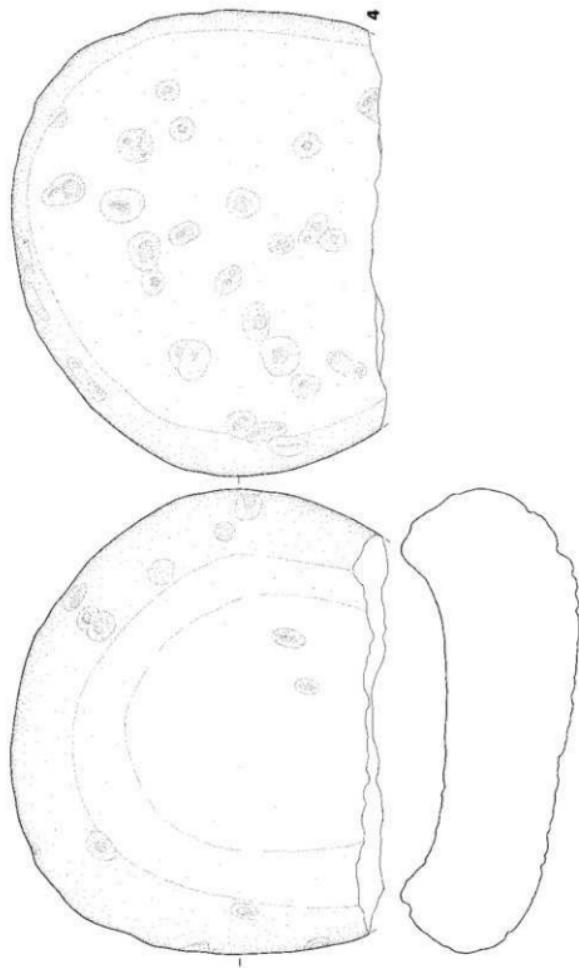
第6表 SI19ピット計測表

	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9	P10
長軸長(cm)	35	13	30	36	49	29	40	44	142	53
短軸長(cm)	34	13	26	32	37	25	35	37	90	40
深さ(cm)	26	19	35	7	24	21	14	5	46	20

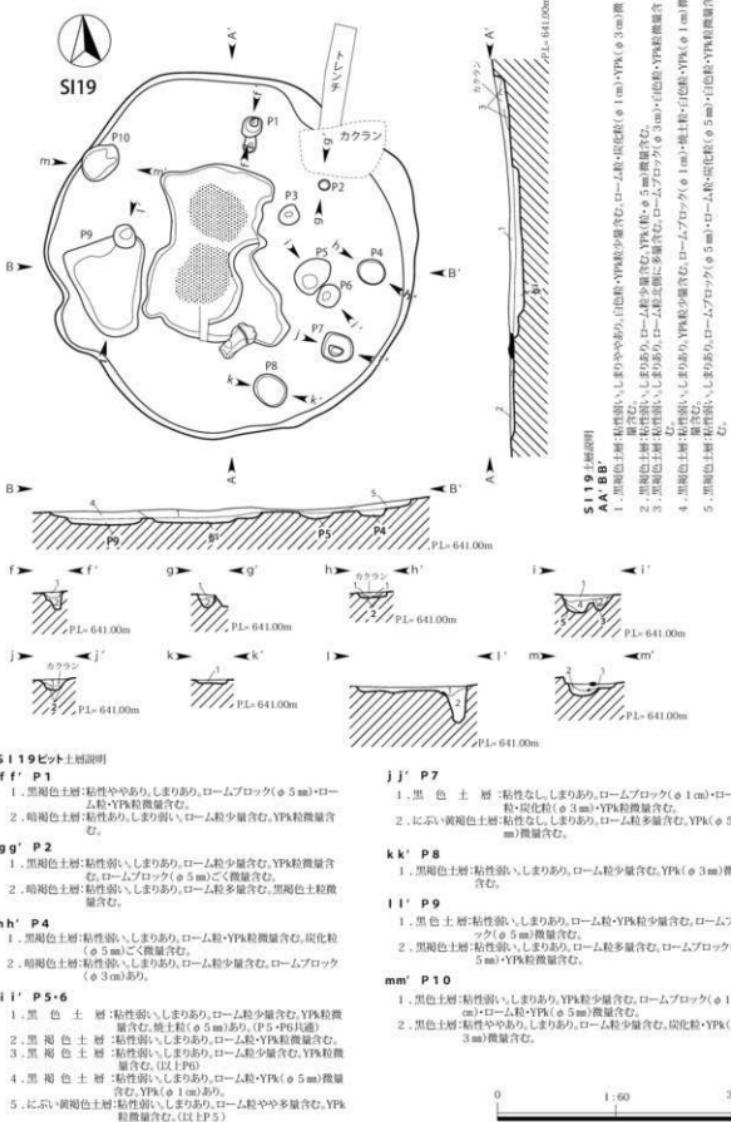
**炉跡** 住居跡のほぼ中央に位置する。平面形は瓢箪形を呈し、規模は長軸222cm、短軸118~189cm、床面から火床面まで深さ8cmを測る。火床面は南北に2つ並んで確認され、平面形はともに円形を呈する。北側の火床面は長軸76cm、短軸51cmを測り、焼土部分は3cmの厚さを有する。南側の火床面は長軸82cm、短軸64cmを測り、焼土部分は3cmの厚さを有する。**その他の施設** 北側火床面の東側から第36図3の埋設土器が確認された。遺物の直径より一回り大きい穴を掘り、そこに体部のみの遺物を埋設している。**遺物検出状況** 遺物量は少なく、住居跡中央付近の覆土下層で散見された。**遺物** 出土遺物のうち、縦文土器7点、石器5点、石匙1点、磨製石斧1点、スクレイパー1点、不明石器1点を図示し得た。**備考** 本遺構は、住居跡ほぼ中央に火床面が2つある地床炉を持つ直径4.6mの竪穴住居跡である。縕属時期は、出土遺物から縦文時代前期初頭と考えられる。

二四三一

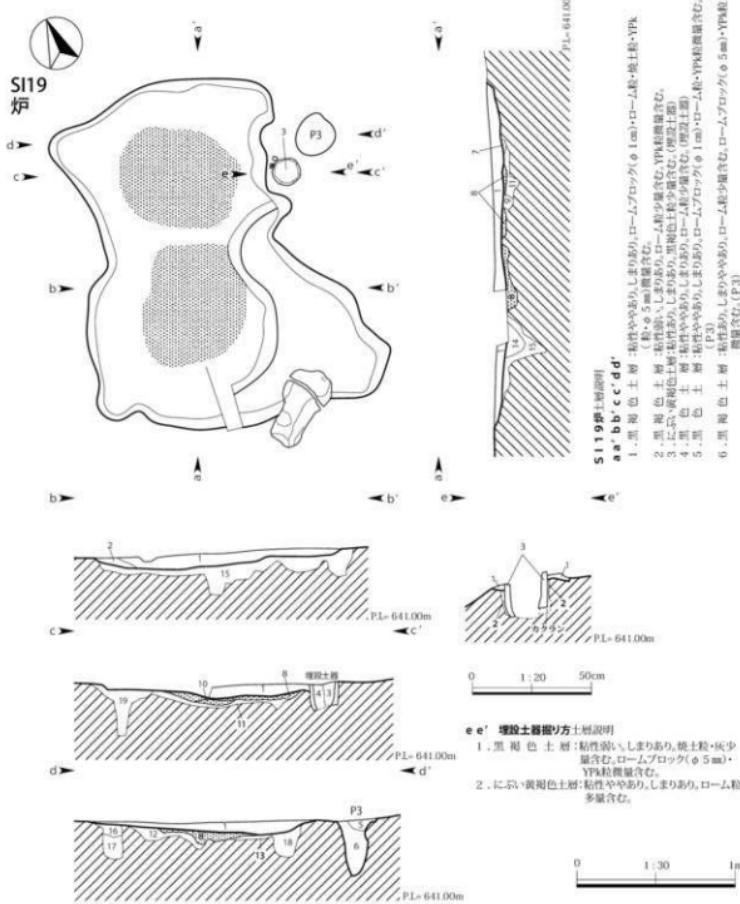
1:3  
10cm



第32圖 S18出土遺物實測圖②(1/3)

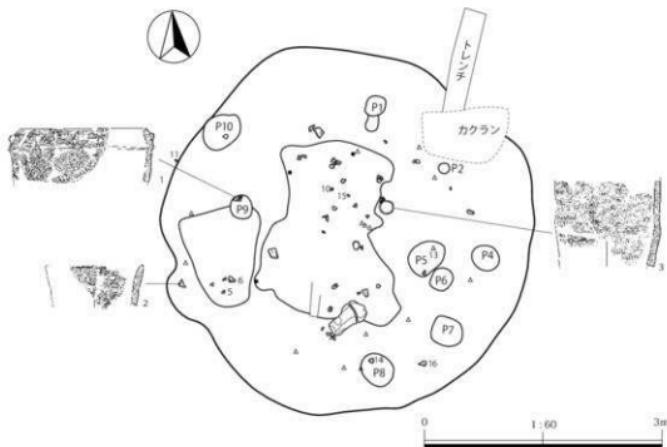


第33図 SI19実測図(1/60)

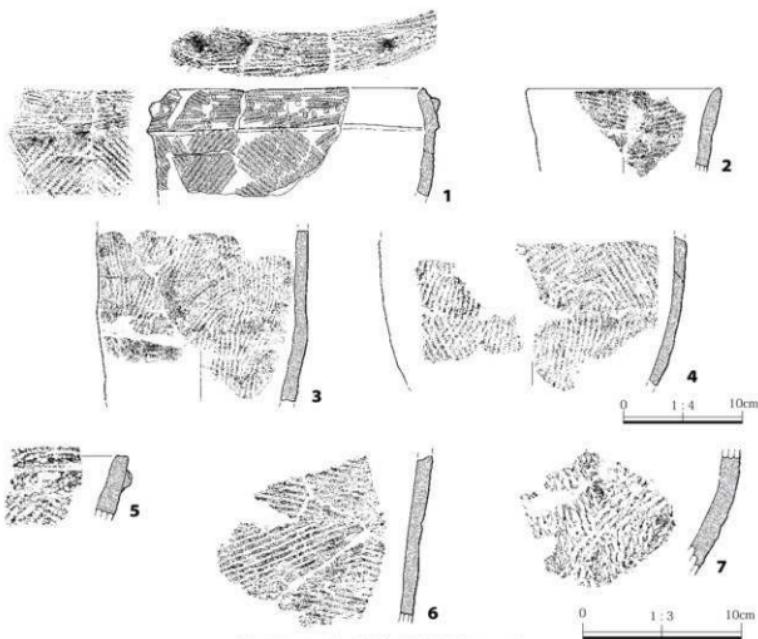
**SI19炉実測図****c c' d d'**

7. 黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。地土粒少量含む。ロームブロック(φ 3cm)あり。(一部焼化)。
8. 黄褐色土層：粘性弱い。しまりあり。地土粒少量含む。炭化粒(φ 1cm)-YPk(φ 5mm)微量含む。
9. 黑褐色土層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒-地土粒(φ 3mm)微量含む。YPk(φ 3cm)あり。
- 10.赤褐色土層：粘性弱い。しまりあり。地土粒弱。
- 11.明赤褐色土層：粘性弱い。しまりあり。地土粒少量含む。炭化粒-YPk粒微量含む。
- 12.暗褐色土層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒多量含む。YPk粒微量含む。
- 13.黄褐色土層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒大量含む。YPk粒弱。
- 14.黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒-YPk粒微量含む。YPk(φ 3cm)-地土粒(φ 5mm)あり。
- 15.黑褐色土層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒少量含む。YPk粒微量含む。YPk(φ 1cm)あり。
- 16.黑褐色土層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒少量含む。YPk(φ 1cm)あり。
- 17.暗褐色土層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒少量含む。ロームブロック(φ 3cm)-YPk粒微量含む。
- 18.黑褐色土層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒少量含む。ロームブロック(φ 5mm)-YPk粒微量含む。ロームブロック(φ 1cm)-YPk(φ 5mm)あり。
- 19.黑褐色土層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒少量含む。ロームブロック(φ 5mm)-YPk粒微量含む。ロームブロック(φ 1cm)-YPk(φ 5mm)あり。

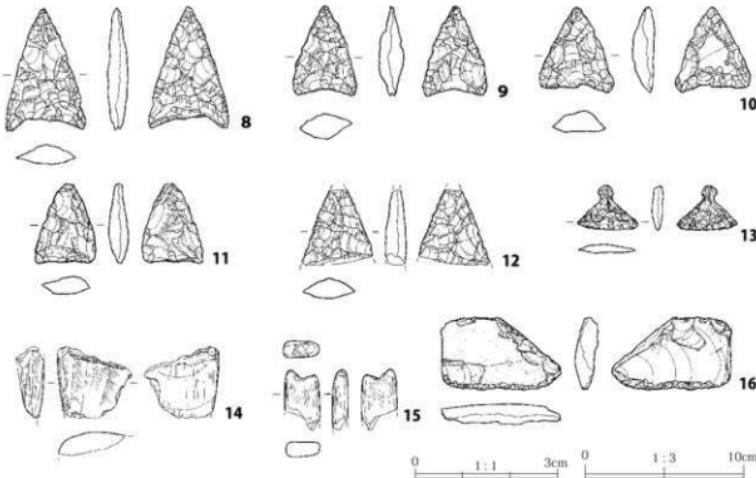
第34図 SI19炉実測図(1/20・1/30)



第35図 SI19遺物出土状況図(1/60)



第36図 SI19出土遺物実測図①(1/3・1/4)



第37図 SI19出土遺物実測図②(1/1・1/3)

SI20 (第38~41図/P L 62・64・84)

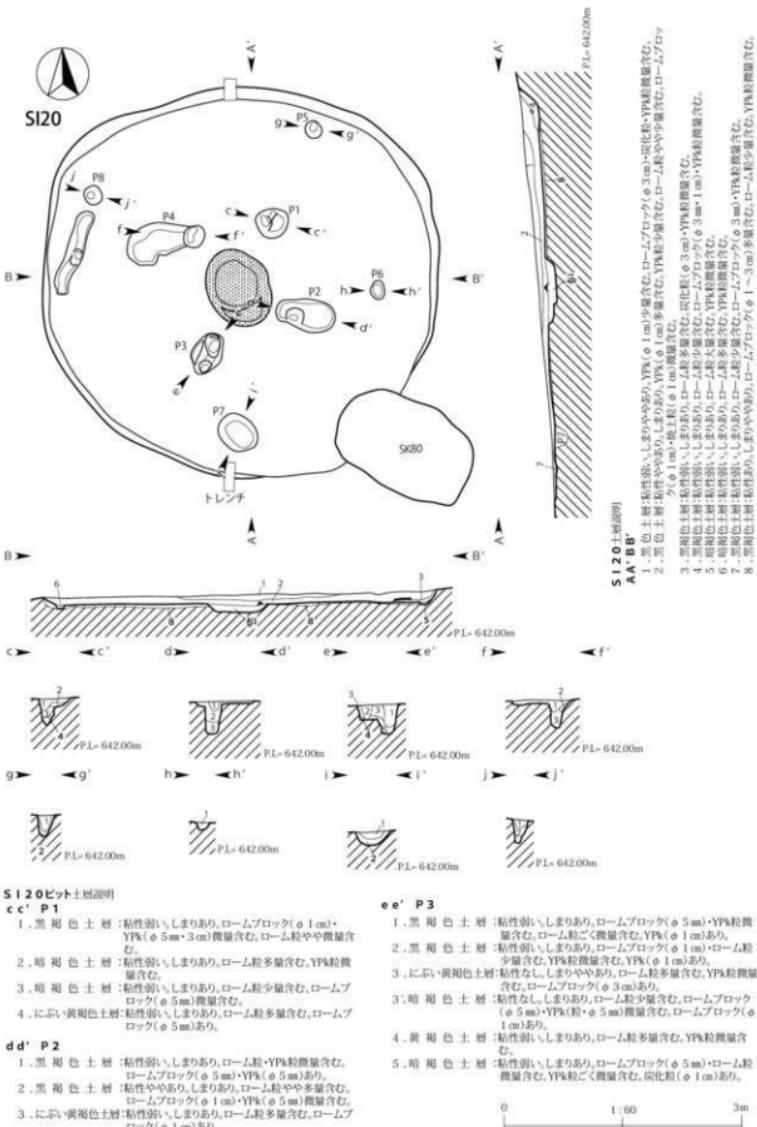
**位置** 2-77区K・L-8・9グリッド(2面/2・3区調査区東部北側)。 **重複関係** SK80と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 地山と遺構覆土の見分けが付き難いことから、見分けが付く面まで掘り下げた結果、上部が削平されてしまい、壁の大半が現存していない。また、南東部の一部をSK80によって壊されている。 **覆土** 黒色土が基調であるが、下層に黒褐色土・暗褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。主軸は4.98m、副軸は5.08m、確認面からの深さは最深22cm、床面積は推定18.53m<sup>2</sup>を測る。 **主軸方位** N-13°-W **壁・壁溝** 壁高は東・西・北壁が13~20cmを測り、いずれの壁も外傾して立ち上がる。南壁は現存していない。壁溝は西壁で一部確認された。溝幅は19~22cm、床面からの深さは6cmを測る。 **床面** 直床式で、一部で踏み跡が確認された。概ね平坦である。 **柱穴** P 1~P 8まで確認された。平面形は円形・橢円形を呈する。P 1~P 4が円周に位置するが、規模から主柱穴と考えられる。それぞれの規模は第7表に記載する。

第7表 SI20 ピット計測表

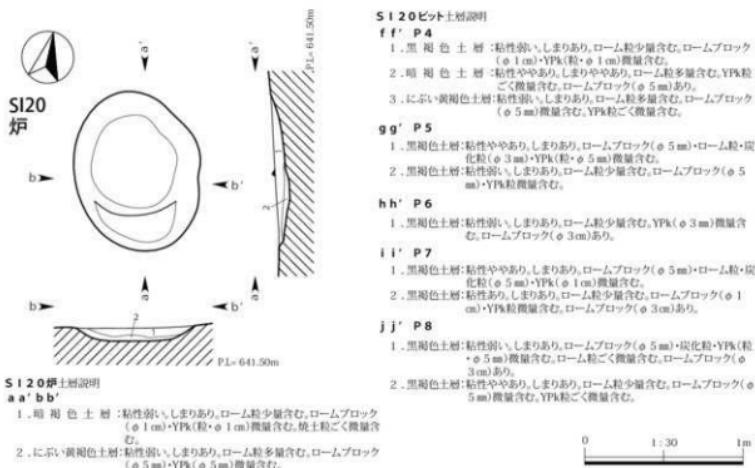
	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8
長軸長(cm)	41	75	56	99	22	23	53	23
短軸長(cm)	38	41	38	51	21	18	42	22
深さ(cm)	36	41	39	36	28	10	20	30

**炉跡** 住居跡のほぼ中央に位置する。火床面は焼土化が非常に弱く不明瞭で、平面形は円形を呈する。規模は長軸102cm、短軸80cmを測り、焼土部分の厚さは1cmに満たない。 **その他の施設** 確認されていない。

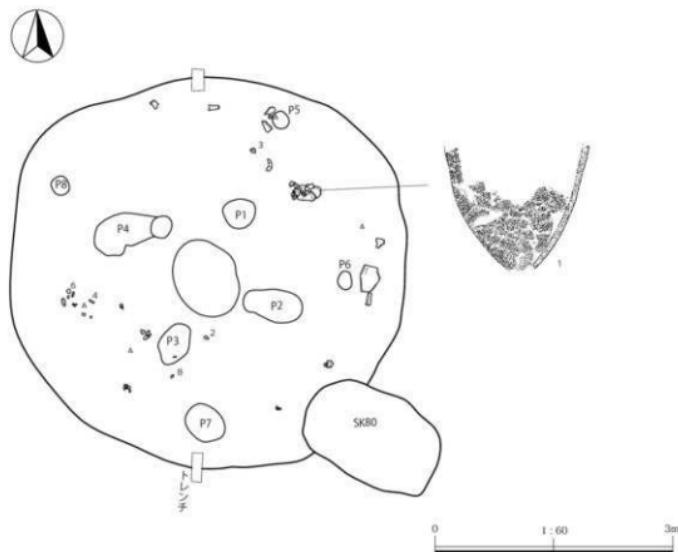
**遺物検出状況** 遺物量は少ないが、北東側と南西側の覆土下層からまとまって出土した。 **遺物** 出土遺物のうち、縄文土器6点、石礫1点、剥片(石器未完成か)1点を図示した。 **備考** 本遺構は、ほぼ中央に地床柱をもつ直径約5mの竪穴住居跡である。がの周囲4か所に主柱穴があると考えられる。帰属時期は、出土遺物から縄文時代前期初頭と考えられる。



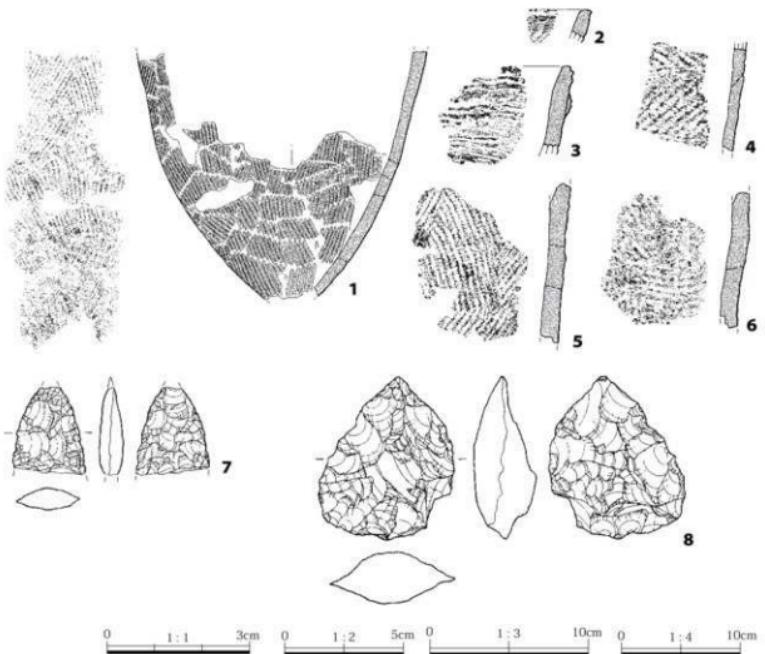
第38図 SI20実測図 (1/60)



第39図 SI20炉実測図(1/30)



第40図 SI20遺物出土状況図(1/60)



第41図 SI20出土遺物実測図(1/1・1/2・1/3・1/4)

## SI21 (第42~44図／PL 62・64・84)

**位置** 2-77区M・N-9・10グリッド(2面/2・3区調査区東部北側)。**重複関係** SK96と重複し、本遺構の方が古い。**遺存状態** 地山と遺構覆土の見分けが付き難いことから、見分けが付く面まで掘り下げた結果、南東側の上部が削平されてしまい、壁の大半が現存していない。**覆土** 上層は黒色土、下層は黒褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。主軸は6.52m、副軸は4.43m、確認面からの深さは最深43cm、床面積は20.87m<sup>2</sup>を測る。**主軸方位** N-63°-W。**壁・壁溝** 壁高は西・北壁が27~32cm、東・南壁が11~15cmを測り、いずれの壁も外傾して立ち上がる。壁溝は確認されていない。**床面** 直床式で、西側の一部で貼床が確認された。南側へ非常に緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。**柱穴** P1~P4まで確認された。平面形は円形を呈する。いずれのピットも掘り込みが浅く主柱穴の可能性は低い。それぞれの規模は第8表で記載する。

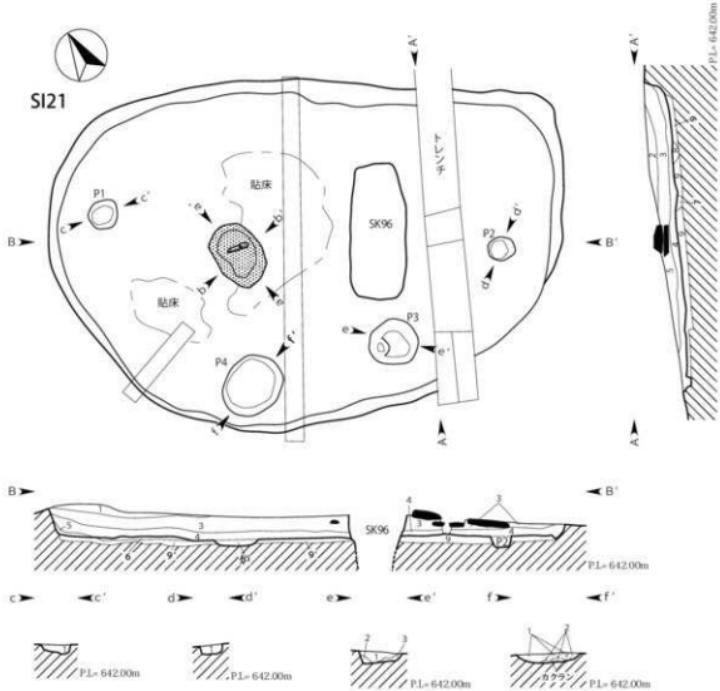
**炉跡** 住居跡中央の西寄りに位置する。火床面は焼土化が 第8表 SI21 ピット計測表

非常に弱く不明瞭で、平面形は円形を呈する。規模は長軸82cm、短軸59cmを測り、焼土部分の厚さは1cmに満たない。

**その他の施設** 確認されていない。**遺物検出状況** 遺物

量は少なく、住居跡北側の覆土下層から散見された。**遺物** 出土遺物のうち、縄文土器11点、石鏃2点、石匙1点、凹石1点を図示し得た。**備考** 本遺構は、中央西寄りに地床炉をもつ6.5m×4.4mの楕円形の竪穴住居跡である。帰属時期は、出土遺物から縄文時代前期初頭と考えられる。

	P 1	P 2	P 3	P 4
長軸長(cm)	41	36	62	83
短軸長(cm)	38	30	58	69
深さ(cm)	14	15	18	13



## SI21 土層説明

## AA' BB'

1. 黒色土層：粘性をなし、しまりあり。YPhk粒少量含む。ローム粒・YPhk(ø 5 mm)微量含む。
2. 黒色土層：粘性をなし、しまりあり。YPhk粒少量含む。ロームブロック(ø 1 cm)・燒土粒・YPhk(ø 5 mm)微量含む。
3. 黒色土層：粘性を弱く、しまりあり。YPhk粒(ø 3 mm)微量含む。YPhk粒(ø 1 cm)・YPhk(ø 1 cm)・YPhk(ø 1 cm)ごく微量含む。炭化物(ø 1 cm)あり。
4. 黒色土層：粘性を弱く、しまりあり。YPhk粒(ø 3 mm)微量含む。YPhk粒(ø 3 mm)・YPhk(ø 3 mm)微量含む。
5. 黒褐色土層：粘性を弱く、しまりあり。YPhk粒少量含む。ロームブロック(ø 5 mm)微量含む。
6. 黑褐色土層：粘性を弱く、しまりあり。YPhk粒少量含む。YPhk粒(ø 3 mm)微量含む。
7. 黑褐色土層：粘性を弱く、しまりあり。YPhk粒少量含む。YPhk粒(ø 1 cm)微量含む。
8. 黑褐色土層：粘性を弱く、しまりあり。YPhk粒少量含む。YPhk粒少量含む。YPhk粒微量含む。
9. 黄褐色土層：粘性を弱く、しまりあり。YPhk粒少量含む。YPhk粒微量含む。
- 9'. 黄褐色土層：粘性を弱く、しまりあり。YPhk粒少量含む。YPhk粒微量含む。

## SI21 ビット上層説明

## cc' P1

1. 黑褐色土層：粘性弱い。しまりあり。YPhk粒少量含む。YPhk粒微量含む。

## dd' P2

1. 黑褐色土層：粘性ややあり。しまり弱い。YPhk粒多量含む。YPhk粒(ø 1 cm)・YPhk粒微量含む。燒土粒(ø 5 mm)あり。

## ee' P3

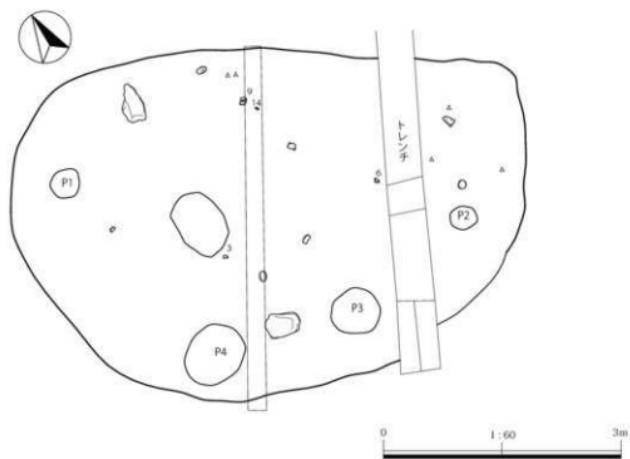
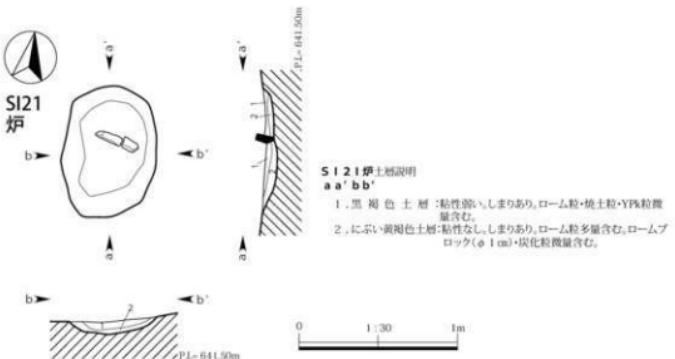
1. 黑褐色土層：粘性弱い。しまりあり。YPhk粒少量含む。YPhk粒(ø 1 cm)・YPhk粒微量含む。YPhk粒(ø 3 cm)・YPhk粒(ø 3 cm)・燒土粒(ø 5 mm)・YPhk(ø 5 mm)あり。
2. 黑褐色土層：粘性弱い。しまりあり。YPhk粒少量含む。YPhk粒(ø 5 mm)・YPhk(ø 5 mm)微量含む。
3. 褐色土層：粘性ややあり。しまりややあり。YPhk粒多量含む。YPhk粒微量含む。

## ff' P4

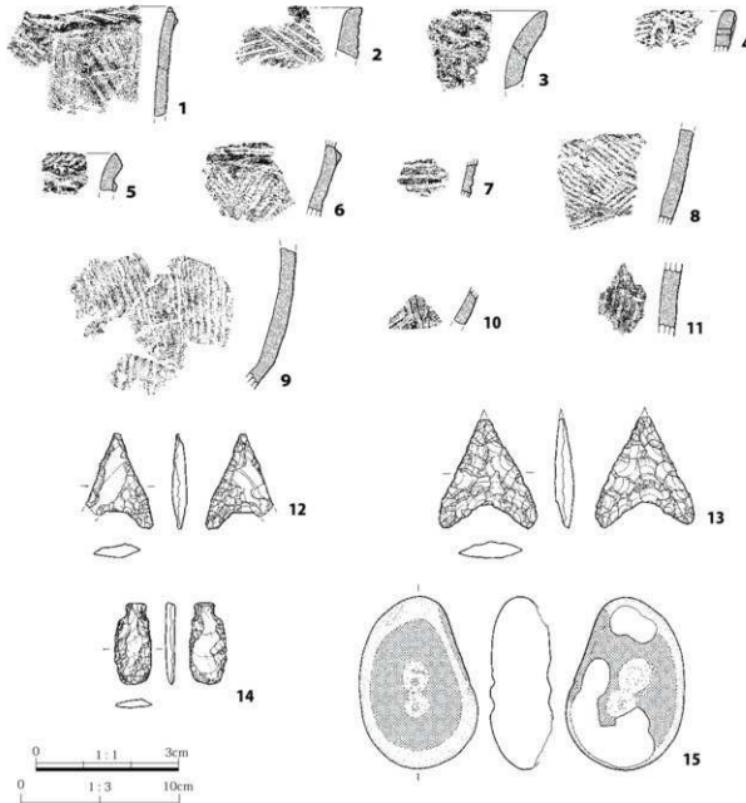
1. 黑褐色土層：粘性弱い。しまりあり。YPhk粒少量含む。YPhk粒(ø 5 mm)・YPhk(ø 5 mm)微量含む。
2. 褐色土層：粘性なし。しまりあり。YPhk粒大量含む。YPhk粒微量含む。



第42図 SI21実測図(1/60)



### 第43図 SI21炉実測図(1/30)・遺物出土状況図(1/60)

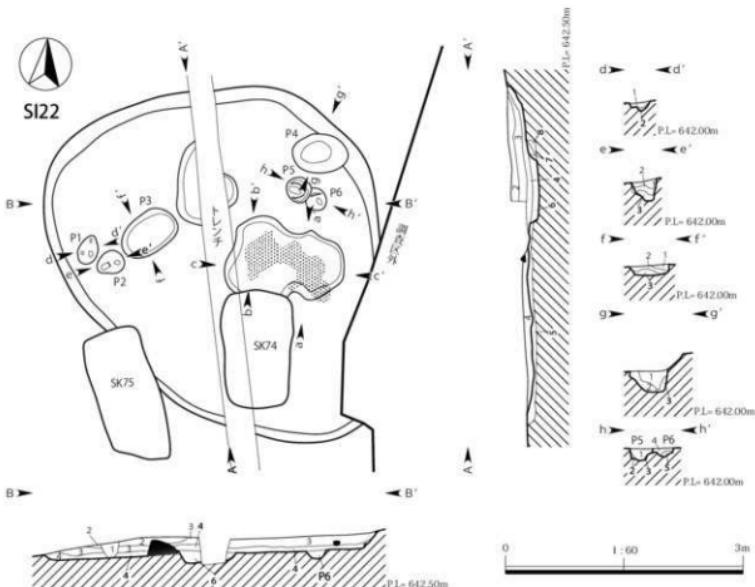


第44図 SI21出土遺物実測図 (1/1・1/3)

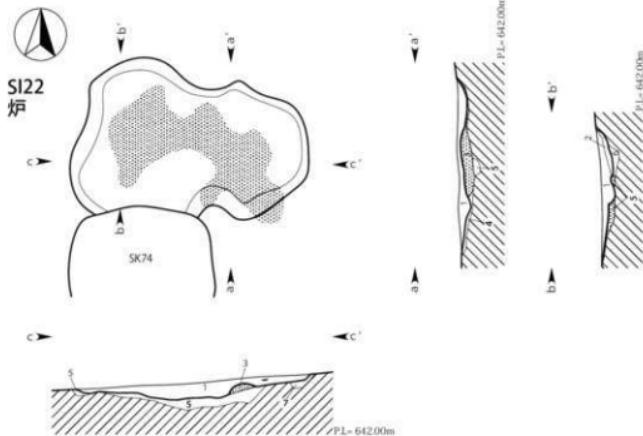
SI22 (第 45 ~ 50 図 / PL 63・64・84・85)

**位置** 2-77 区 O・P-9・10 グリッド (2面 / 2・3 区調査区北東隅部東壁際)。 **重複関係** SK74・75 と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 地山と遺構覆土の見分けが付き難いことから、見分けが付く面まで掘り下げる結果、上部が削平されてしまい、壁の大半が現存していない。SK74・75 によって一部が壊され、東壁のごく一部が調査区外にある。 **覆土** 上層は黒色土、下層は黒褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。主軸は 5.11 m 以上、副軸は 4.05 m、確認面からの深さは最深 28 cm、床面積は 12.22 m<sup>2</sup> 以上を測る。 **主軸方位** N-56°W **壁・壁溝** 壁高は東・北壁が 19 ~ 22 cm、西・南壁が 5 ~ 9 cm を測り、いずれの壁も外傾して立ち上がる。壁溝は確認されていない。

**床面** 直床式であるが、貼床や踏み締りは確認されなかった。概ね平坦である。 **柱穴** P 1 ~ P 6 まで確認された。平面形は円形・梢円形を呈する。P 1 ~ P 3 が西側に、P 4 ~ P 6 が東側に位置し、深さから P 2・P 4 が主柱穴の可能性がある。それぞれの規模は第 9 表に記載する。



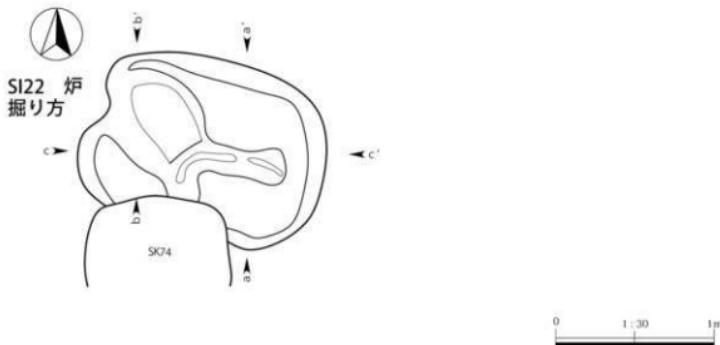
第45図 SI22実測図(1/60)



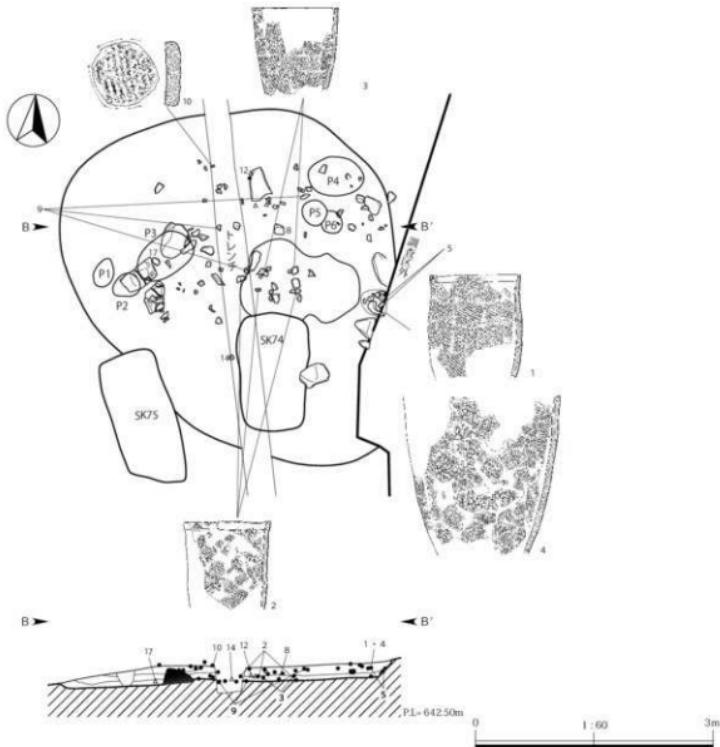
## SI22炉上層説明

a a' b b' c c'

- 1 . 黒褐色土層：粘性弱い。しまりややあり。焼土粒少量含む。ロームブロック(Φ 5mm)・ローム粒・炭化粒(Φ 3mm)微量含む。
- 2 . 暗褐色土層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒多量含む。YPk粒微量含む。ロームブロック(Φ 5mm)あり。
- 3 . 褐色土層：粘性弱い。しまりあり。焼土粒多量含む。炭化粒(Φ 5mm)・YPk(Φ 5mm)微量含む。
- 4 . 黑褐色土層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒・焼土粒・YPk(Φ 5mm)微量含む。
- 5 . 暗褐色土層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒多量含む。焼土粒少量含む。ロームブロック(Φ 5mm)・YPk(Φ 5mm)微量含む。
- 6 . 暗褐色土層：粘性弱い。しまりあり。ローム粒少量含む。焼土粒微量含む。YPk(Φ 5mm)あり。
- 7 . 黑褐色土層：粘性あり。しまりあり。YPk(Φ 5mm)微量含む。焼土粒ごく微量含む。



第46図 SI22炉・炉掘り方実測図(1/30)



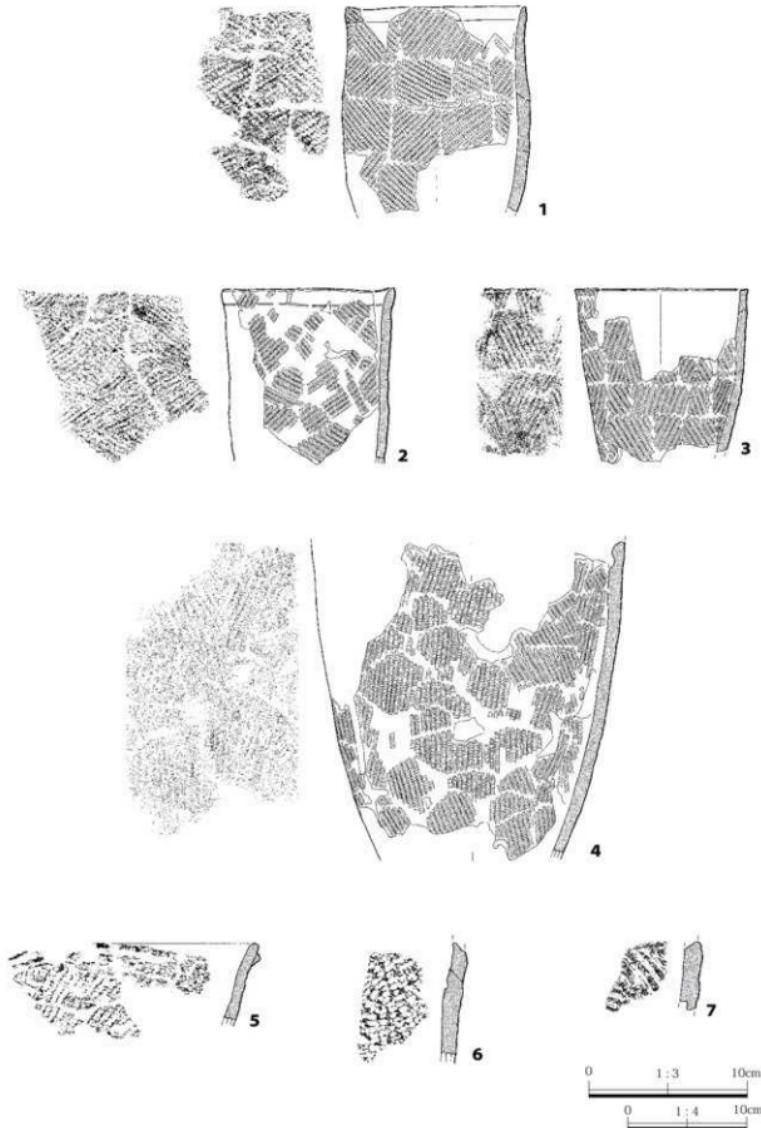
第47図 SI22遺物出土状況図(1/60)

第9表 SI22 ピット計測表

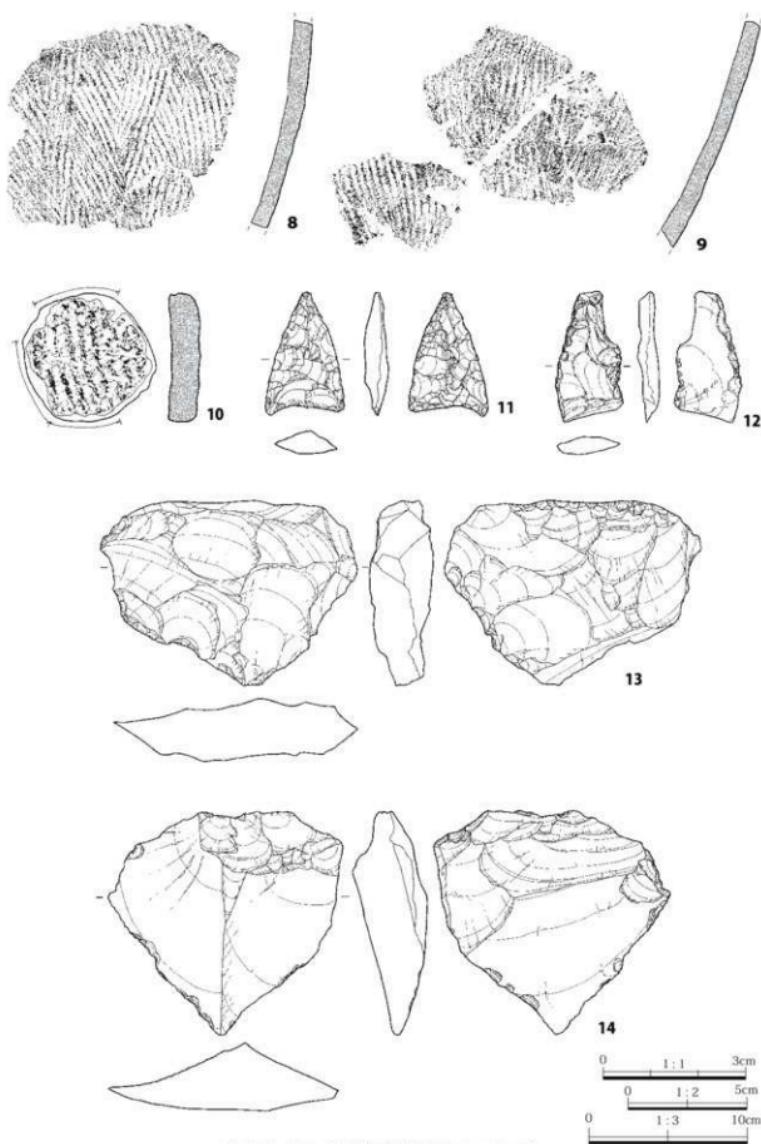
	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6
長軸長(cm)	37	34	76	71	31	28
短軸長(cm)	24	29	49	49	31	(26)
深さ(cm)	14	27	15	30	17	11

**炉跡** 住居跡中央の東寄りに位置する。平面形は瓢箪形を呈し、規模は長軸150cm、短軸72~150cm以上、床面から火床面までの深さは9cmを測る。火床面の平面形は不整形を呈し、長軸124cm、短軸20~58cmを測り、焼土部分の厚さは6cmを有する。**その他の施設** 住居跡中央や西北寄りで土坑2基が確認されたが、性格は不明である。**遺物検出状況** 遺物量は少ないが、住居跡北側から多く出土している。**遺物** 出土遺物のうち、網や兜9点、土製壺1点、石碗1点、石臼1点、石核2点、削片2点、磨石1点を回復<sup>得た</sup>。

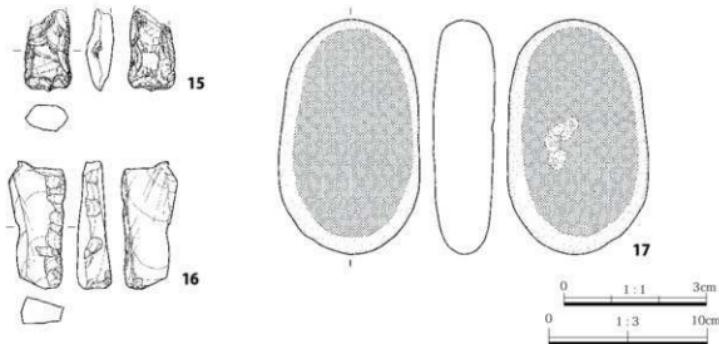
**備考** 本遺構は、中央やや東寄りに床灰床をもつ $5.1\text{ m} \times 4.0\text{ m}$ の楕円形の竪穴住居跡である。帰属時期は、出土遺物から縄文時代前期初頭と考えられる。



第48図 SI22出土遺物実測図①(1/3・1/4)



第49図 SI22出土遺物実測図②(1/1・1/2・1/3)



第50図 SI22出土遺物実測図③(1/1・1/3)

SI23 (第 51 ~ 53 図 / PL 63・64・85)

**位置** 2-77 区 M・N-8・9 グリッド (2面 / 2・3 区調査区東部北側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 地山と遺構覆土の見分けが付き難いことから、見分けが付く面まで掘り下げる結果、上部が削平されてしまい、壁の大半が現存していない。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は不整円形を呈する。主軸は 4.90 m、副軸は 4.52 m、確認面からの深さは最深 21 cm、床面積は 15.10 m<sup>2</sup> を測る。

**主軸方位** N-10°-E **壁・壁溝** 壁高は 8 ~ 13 cm を測り、いずれの壁も外傾して立ち上がる。壁溝は確認されていない。 **床面** 直床式であるが、貼床や踏み締りは確認されなかった。南側へ緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。 **柱穴** P 1 ~ P 8 まで確認された。平面形は円形を呈するものが主体である。炉からやや離れた場所で環状に位置し、深さから P 1 ~ 3・P 5 ~ 7 が柱穴の可能性が考えられる。それぞれの規模は第 10 表に記載する。

第 10 表 SI23 ピット計測表

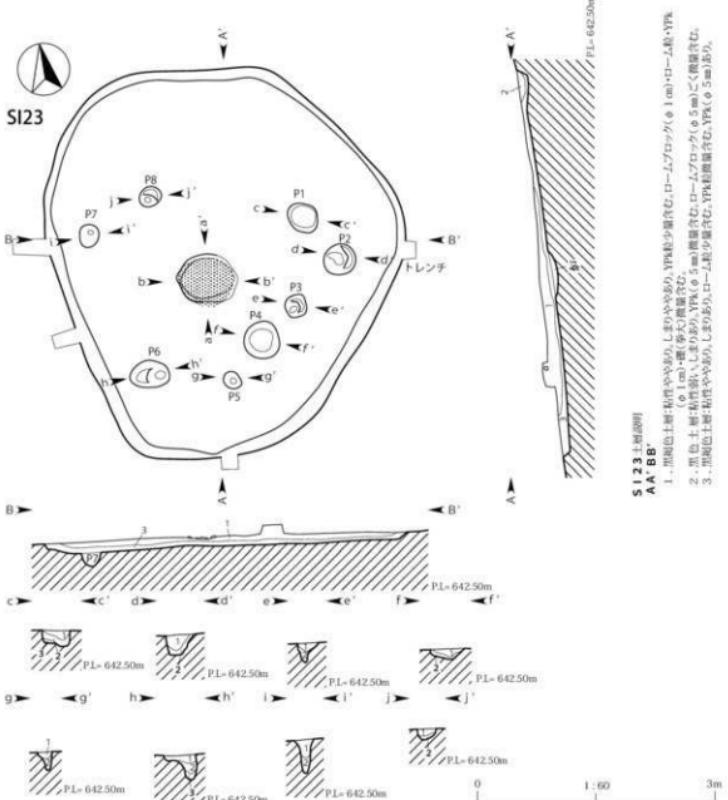
	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8
長軸長 (cm)	38	41	27	47	22	49	28	28
短軸長 (cm)	36	38	26	45	20	34	23	24
深さ (cm)	18	27	28	14	26	33	52	15

**炉跡** 住居跡のほぼ中央に位置する。火床面は焼土化が弱くやや不明瞭で、平面形は円形を呈する。規模は長軸 76 cm、短軸 59 cm を測り、焼土部分の厚さは 7 cm を有する。掘り方の平面形は円形を呈し、長軸 63 cm、短軸 59 cm、床面からの深さは最深 11 cm を測る。 **その他の施設** 確認されていない。 **遺物検出状況** 遺物量は少なく、東側の覆土下層に土器片が散見された。住居跡中央及び北西壁際の覆土下層から第 53 図 1・2 の遺存状態の良い尖底の深鉢が出土している。 **遺物** 出土遺物のうち、縄文土器 3 点を図示し得た。 **備考**

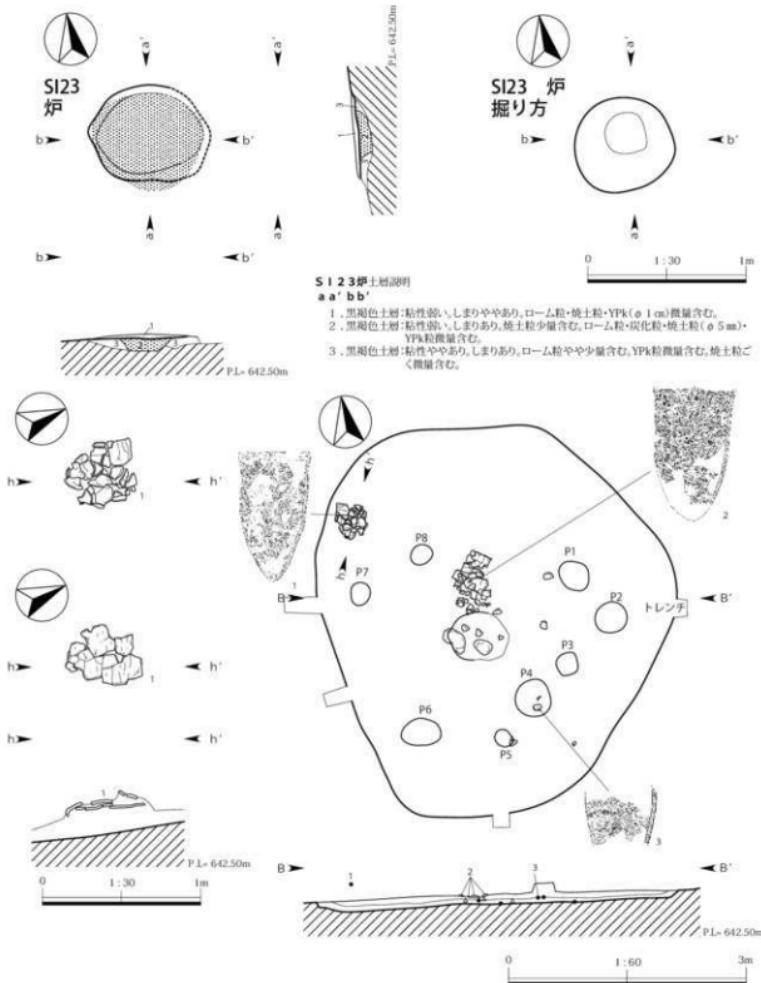
本遺構は、ほぼ中央に地床炉をもつ直径約 4.9 m の竪穴住居跡である。帰属時期は、出土遺物から縄文時代前期初頭と考えられる。

SI24 (第 54 ~ 56 図 / PL 64・65・86)

**位置** 2-77 区 L・M-7・8 グリッド (2面 / 2・3 区調査区東部北側)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 地山と遺構覆土の見分けが付き難いことから、見分けが付く面まで掘り下げる結果、上部が削平されてしまい、南北側の壁が現存していない。床面も明確に確認できず、住居範囲は推定となっている。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈すると考えられるが、南北側がきちんと確認できないため不確実である。主軸は 5.65 m 以上、副軸は 3.85 m 以上、確認面からの深さは最深 11 cm、



第51図 SI23実測図(1/60)

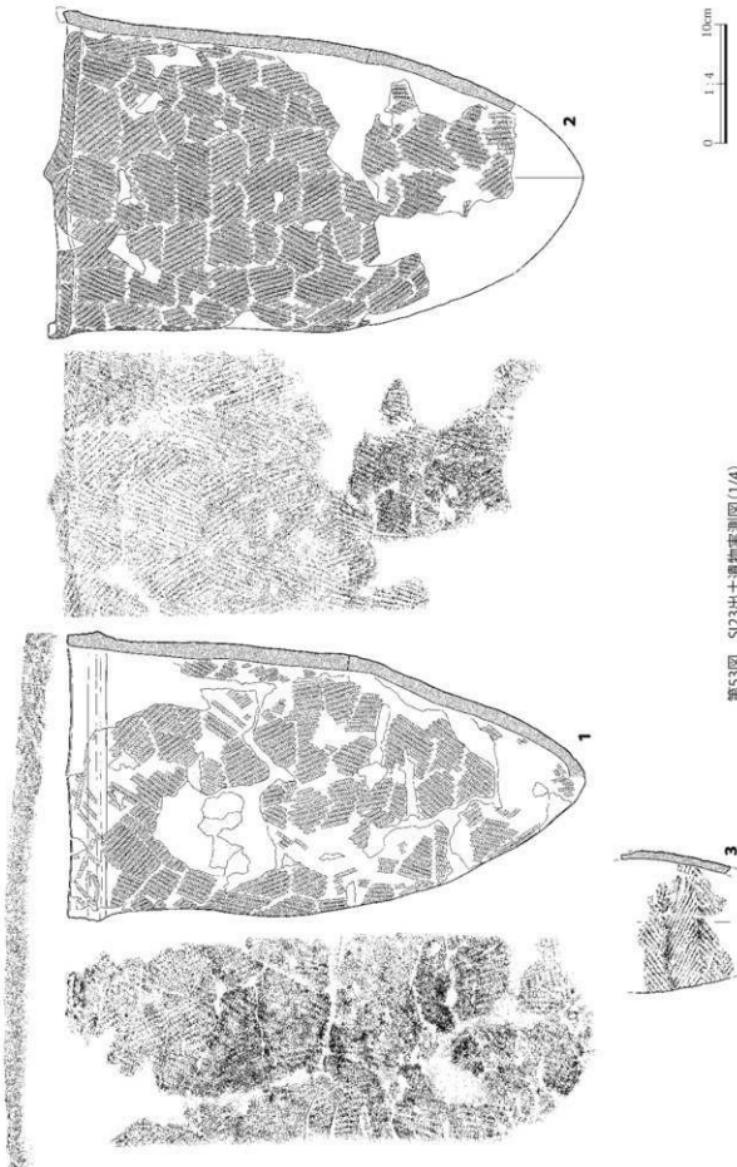


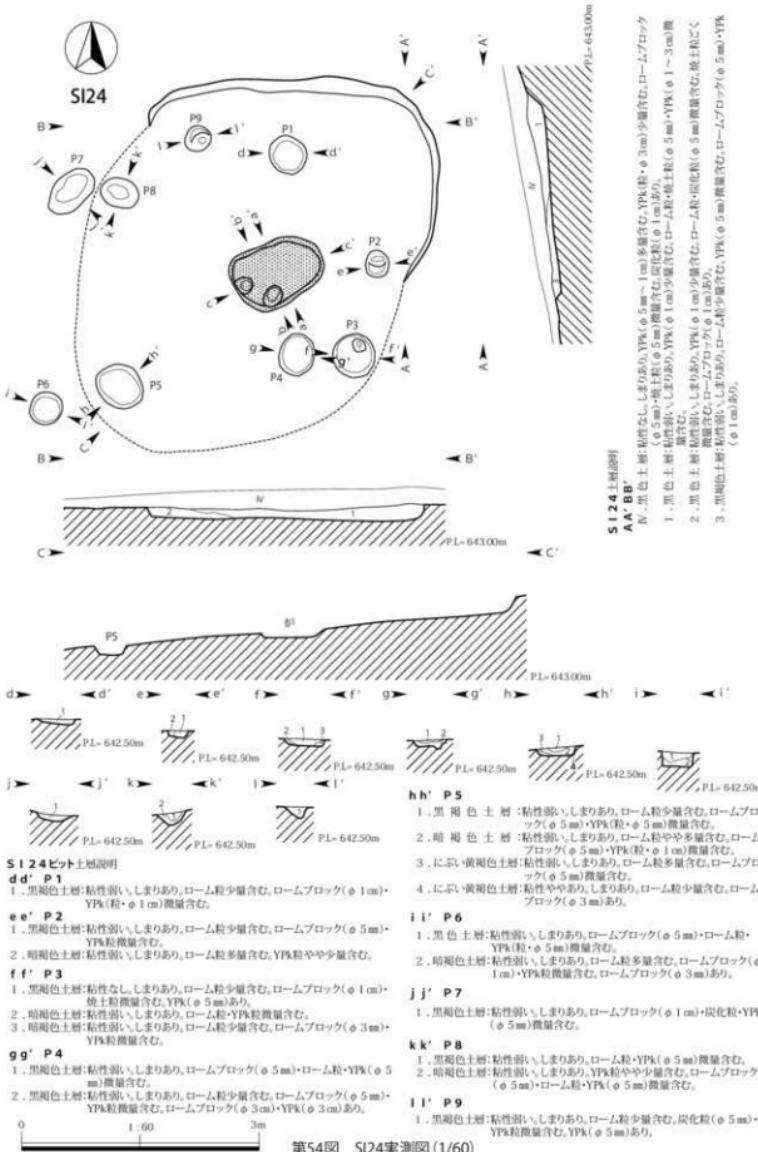
第52図 SI23炉・炉掘り方実測図(1/30)・遺物出土状況図(1/60)

床面積は推定  $14.93\text{ m}^2$  を測る。 **主軸方位** N-42°-E **壁・溝** 壁高は北壁が 21cm を測り、外傾して立ち上がる。その他の壁は現存していない。壁溝は確認されなかった。**床面** 直床式であるが、貼床や踏み締りは確認されなかった。南側に向かって緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。**柱穴** P1～P9まで確認された。平面形は円形・橢円形を呈する。P6・P7は住居跡推定範囲外に位置する。いずれも掘り込みは浅く、主柱穴の可能性は低い。それぞれの規模は第11表に記載する。

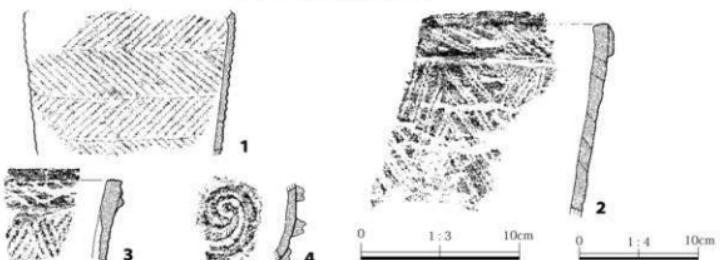
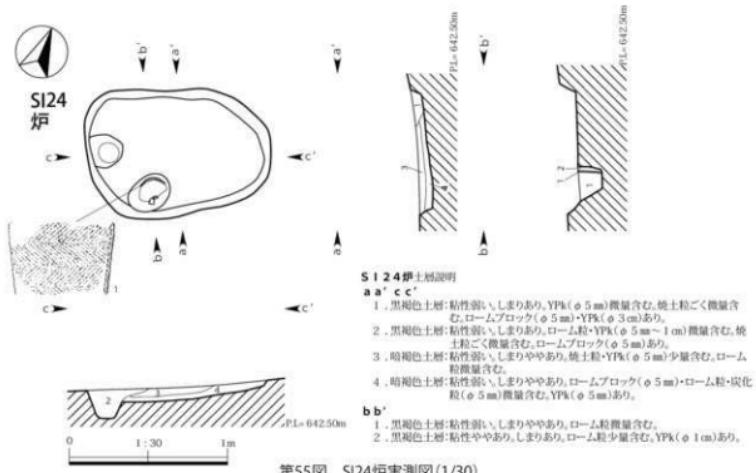
0 1:4 10cm

第53圖 S123出土遺物實測圖(1/4)





第54図 SI24実測図(1/60)



第11表 SI24 ピット計測表

	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9
長軸長(cm)	47	33	56	53	60	41	68	48	28
短軸長(cm)	47	29	53	44	52	41	42	37	24
深さ(cm)	9	14	17	11	13	19	15	19	15

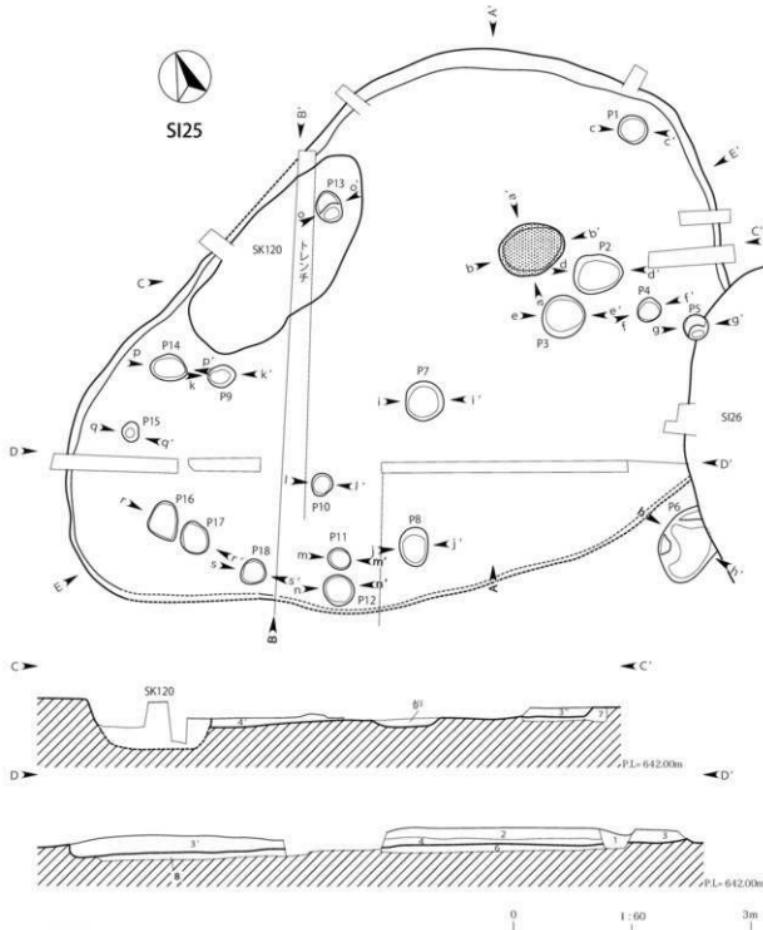
**炉跡** 住居跡の中央や東寄りに位置する。火床面は焼土化が非常に弱く不明瞭で、平面形は楕円形を呈する。規模は長軸 118cm、短軸 81cm を測り、焼土部分の厚さは 1cm に満たない。**その他の施設** 炉の南壁際から第 56 図 1 の埋設土器が確認された。

**遺物検出状況** 遺物量は非常に少なく、覆土下層から散見された。

**遺物** 出土遺物のうち、縄文土器 4 点を図示し得た。**備考** 本遺構は、ほぼ中央に地床がもつ竪穴住居跡であるが、遺存状態が悪いため平面形や規模などは不確実である。帰属時期は、出土遺物から縄文時代前期初頭と考えられる。

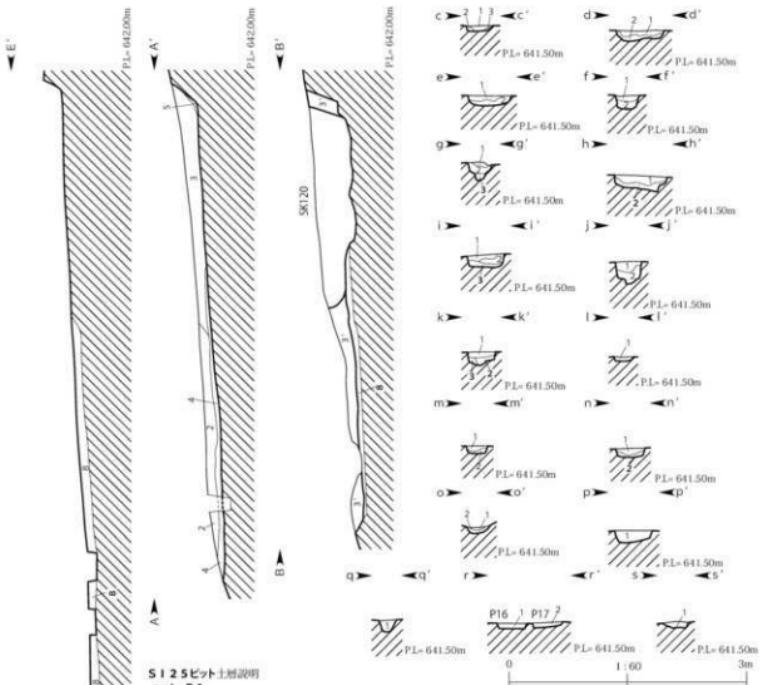
#### SI25 (第 57 ~ 63 図 / P L 65・67・86・87)

**位置** 2-77 区 H・I・J-8・9 グリッド (2面 / 2・3 区調査区東部北側)。**重複関係** SI26、SK120 と重複し、本遺構の方が古い。**遺存状態** 地山と遺構覆土の見分けが付き難いことから、見分けが

**SI25 土層説明****A' A' B' B' C' C' D' D' E' E'**

1. 黒色土層: 粘性弱く、しまり弱い。ローム粒少量含む。土粒子・YPk粒微量含む。ロームブロック(ø 1cm)あり。
2. 黒色土層: 粘性ややあり、しまりあり。YPk粒少量含む。ロームブロック(ø 1cm)・炭化物(ø 1cm)・YPk(ø 1cm)微量含む。
3. 黒色土層: 粘性弱く、しまり弱い。YPk(ø 5mm-1cm)少量含む。ロームブロック(ø 1cm)・D2粘土・YPk(ø 3cm)微量含む。
4. 黒色土層: 粘性弱く、しまり弱い。YPk(ø 5mm-1cm)少量含む。炭化物・土粒子・YPk粒微量含む。ロームブロック(ø 1cm)あり。
5. 黑褐色土層: 粘性弱く、しまりあり。ローム粒少量含む。ローム・YPk(ø 1cm)微量含む。
6. 黑褐色土層: 粘性弱く、しまりあり。ローム粒・YPk粒微量含む。ロームブロック(ø 1cm)あり。
7. 黑褐色土層: 粘性弱く、しまりあり。ローム粒・YPk粒微量含む。ローム・YPk(ø 5mm)・YPk(ø 1cm)微量含む。
8. 黑褐色土層: 粘性ややあり。しまりあり。YPk(ø 5mm)少量含む。ローム粒・YPk(ø 1cm)微量含む。

第57図 SI25実測図①(1/60)

**S125ビット土層説明****c'c'' P1**

1. 黒褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。YPk粒少量含む。ロームブロック(φ 5mm)・ローム粒・YPk(φ 1cm)微量含む。
2. 暗褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。ローム粒少量含む。YPk粒微量含む。
3. 暗褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。ローム粒少量含む。YPk粒微量含む。ロームブロック(φ 1cm)あり。

**d'd'' P2**

1. 黒色土層: 粘性弱い。しまりあり。YPk(φ 1cm)少量含む。ローム粒・炭化粒(φ 5mm)・YPk(φ 3cm)・YPk粒微量含む。ロームブロック(φ 5mm)あり。
2. 黑褐色土層: 粘性やや弱い。しまりあり。ローム粒少量含む。ロームブロック(φ 5mm)・YPk(φ 5mm)あり。

**e'e'' P3**

1. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。ローム粒・炭化粒・YPk(粒・φ 5mm)微量含む。ロームブロック(φ 1cm)あり。
2. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。ローム粒少量含む。YPk粒微量含む。

**f'f'' P4**

1. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。ロームブロック(φ 5mm)・ローム粒・炭化粒(φ 5mm)・YPk(φ 1cm)・YPk粒微量含む。ロームブロック(φ 3cm)・YPk(φ 3cm)あり。
2. 暗褐色土層: 粘性あり。しまりあり。ローム粒少量含む。YPk粒微量含む。ロームブロック(φ 3cm)・YPk(φ 1cm)あり。

**g'g'' P5**

1. 黒色土層: 粘性弱い。しまりあり。ロームブロック(φ 5mm)・ローム粒・YPk(φ 5mm)微量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。ローム粒多量含む。ロームブロック(φ 5mm)微量含む。YPk粒微量含む。
3. にぶい黄褐色土層: 粘性なし。しまりあり。ローム粒多量含む。YPk粒微量含む。

**h'h'' P6**

1. 黑色土層: 粘性やや弱い。しまりあり。ロームブロック(φ 3cm)・YPk粒少量含む。ロームブロック(φ 5mm)・YPk(φ 5mm)微量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性やや弱い。しまりあり。ローム粒少量含む。ロームブロック(φ 1cm)・YPk粒微量含む。

3. にぶい黄褐色土層: 粘性やや弱い。しまりあり。ローム粒やや多量含む。

YPk粒微量含む。ロームブロック(φ 5mm)あり。

**i'i'' P7**

1. 黑色土層: 粘性やや弱い。しまりあり。ローム粒・YPk粒微量含む。ロームブロック(φ 3cm)・YPk(φ 5mm)微量含む。

2. 黑褐色土層: 粘性やや弱い。しまりあり。ローム粒少量含む。ローム

ブロック(φ 1cm)・YPk粒微量含む。

3. にぶい黄褐色土層: 粘性やや弱い。しまりあり。ローム粒やや多量含む。

YPk粒微量含む。ロームブロック(φ 5mm)あり。

**j'j'' P8**

1. 黑色土層: 粘性弱い。しまりあり。YPk粒少量含む。ロームブロック(φ 1cm)・ローム粒微量含む。YPk(φ 5mm)あり。
2. 黑褐色土層: 粘性やや弱い。しまりあり。ローム粒やや多量含む。YPk(粒・φ 5mm)微量含む。ロームブロック(φ 3cm)あり。

**k'k'' P9**

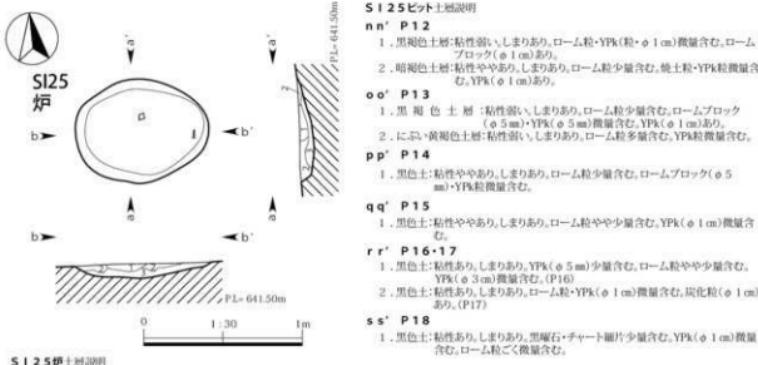
1. 黑色土層: 粘性弱い。しまりあり。粘性粒・YPk(粒・φ 5mm)微量含む。ローム粒ごく微量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。ローム粒少量含む。YPk粒微量含む。
3. 暗褐色土層: 粘性あり。しまりあり。ローム粒多量含む。YPk(φ 1cm)あり。

**l'l'' P10**

1. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。ローム粒少量含む。YPk粒微量含む。YPk(φ 1cm)あり。

2. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。ローム粒少量含む。YPk粒微量含む。

第58図 S125実測図②(1/60)



SI25 炉

a' a' b' b'

1. 黒褐色土層:粘性弱い。しまりあり。ローム粒・YPk(粒・φ 1cm)微量含む。ロームブロック(φ 1cm)あり。
2. 黒褐色土層:粘性ややあり。しまりあり。ローム粒少量含む。純土粒・YPk粒微量含む。YPk(φ 1cm)あり。

3. 黄褐色土層:粘性弱い。しまりあり。ローム粒少量含む。ローム粒や少量含む。YPk(φ 1cm)微量含む。

**s s' P18**

1. 黒色土:粘性あり。しまりあり。黒曜石・チャート細片少量含む。YPk(φ 1cm)微量含む。ローム粒ごく微量含む。

**r r' P16-17**

1. 黑色土:粘性あり。しまりあり。YPk(φ 5mm)少量含む。ローム粒や少量含む。YPk(φ 3mm)微量含む。(P16)

2. 黑色土:粘性あり。しまりあり。ローム粒・YPk(φ 1cm)微量含む。炭化粒(φ 1cm)あり。(P17)

**q q' P15**

1. 黑色土:粘性ややあり。しまりあり。ローム粒やや少量含む。YPk(φ 1cm)微量含む。

**p p' P14**

1. 黑色土:粘性ややあり。しまりあり。ローム粒少量含む。ロームブロック(φ 5mm)微量含む。

**n n' P12**

1. 黒褐色土層:粘性弱い。しまりあり。ローム粒・YPk(粒・φ 1cm)微量含む。ロームブロック(φ 1cm)あり。

2. 黑褐色土層:粘性ややあり。しまりあり。ローム粒少量含む。純土粒・YPk粒微量含む。YPk(φ 1cm)あり。

**o o' P13**

1. 黑褐色土層:粘性弱い。しまりあり。ローム粒少量含む。ロームブロック(φ 5mm)微量含む。YPk(φ 5mm)あり。

2. 黑褐色土層:粘性弱い。しまりあり。ローム粒少量含む。YPk(φ 1cm)あり。

第59図 SI25炉実測図(1/30)

付く面まで掘り下げた結果、上部が削平されてしまい、南側の壁の大半が現存していない。また、床面も明確に確認できず、住居範囲は推定となっている。南東部・北西部の一部はSI26、SK120によって壊されている。

**覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 平面形と規模 平面形は梢円形を呈する。主軸は9.45m、副軸は6.42m以上、確認面からの深さは最深32cm、床面積は推定41.56m<sup>2</sup>を測る。 主軸方位 N-78°-E

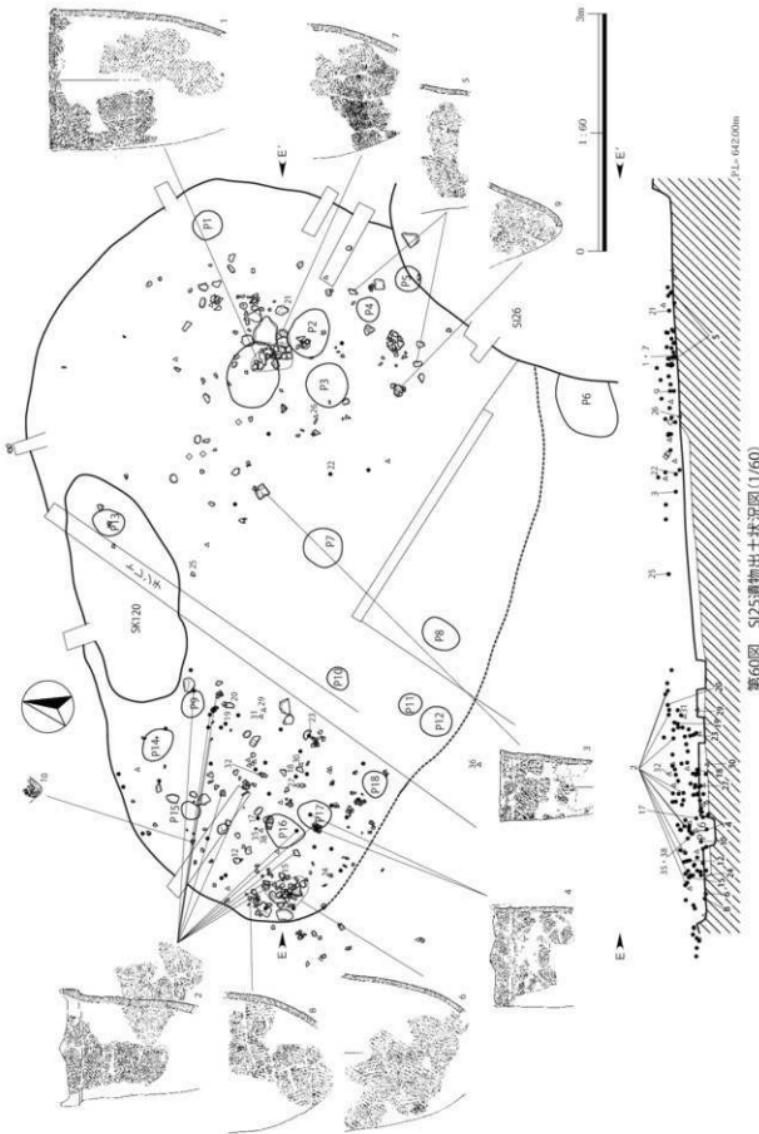
**壁・壁溝** 壁高は東・西壁が12~35cm、北壁が35cmを測り、いずれも外傾して立ち上がる。南壁は現存していない。壁溝は確認されなかった。 床面 直床式で、一部で踏み繕りが確認された。南側に向かって非常に緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。 柱穴 P1~P18まで確認され、その内P6は竪穴外と考えられる。平面形は円形・梢円形を呈する。東側と西側に集中しているが、掘り込みは浅く主柱穴の可能性は低い。P18からは多量の黒曜石・チャート細片が出土した。覆土ごと採取し抽出した所、出土量は黒曜石が4.3g、チャートが5.4gであった。付近で石器製作が行なわれていたと考えられる。それぞれの規模は第12表に記載する。

第12表 SI25 ピット計測表

	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9
長軸長(cm)	36	62	53	30	32	(77)	50	49	35
短軸長(cm)	36	49	53	29	32	68	48	36	28
深さ(cm)	8	13	15	19	23	18	16	26	17
	P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17	P18
長軸長(cm)	29	28	38	41	46	25	47	42	32
短軸長(cm)	27	27	38	32	34	20	37	36	31
深さ(cm)	6	8	11	11	16	17	10	8	7

**炉跡** 住居跡中央の東寄りに位置する。火床面は焼土化が弱く不明瞭で、平面形は梢円形を呈する。規模は長軸51cm、短軸29cmを測り、焼土部分の厚さは1cmに満たない。 **その他の施設** 確認されなかった。 **遺物検出状況** 遺物量は多く、住居跡西端部・東側の覆土から多く出土し、床面付近からも少量出土している。

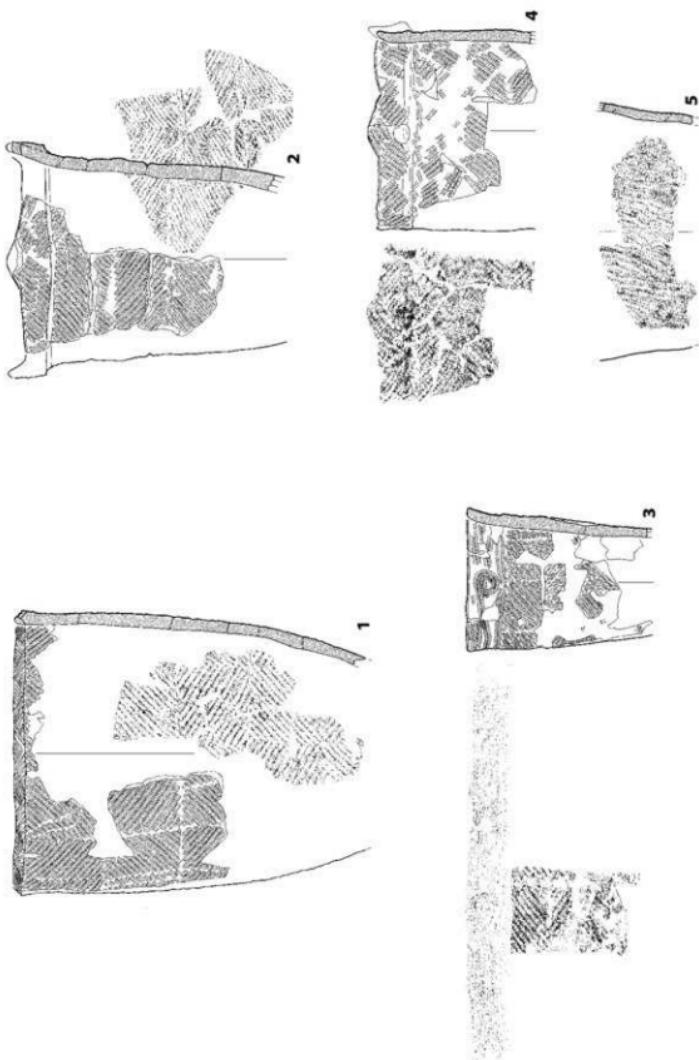
**遺物** 出土遺物のうち、縄文土器25点、石鏡8点、石錐2点、石匙1点、磨製石斧1点、剥片1点を図示し得た。 **備考** 本遺構は、中央東寄りに地床炉をもつ梢円形の竪穴住居跡である。縄文時代前期初頭と考えられる。

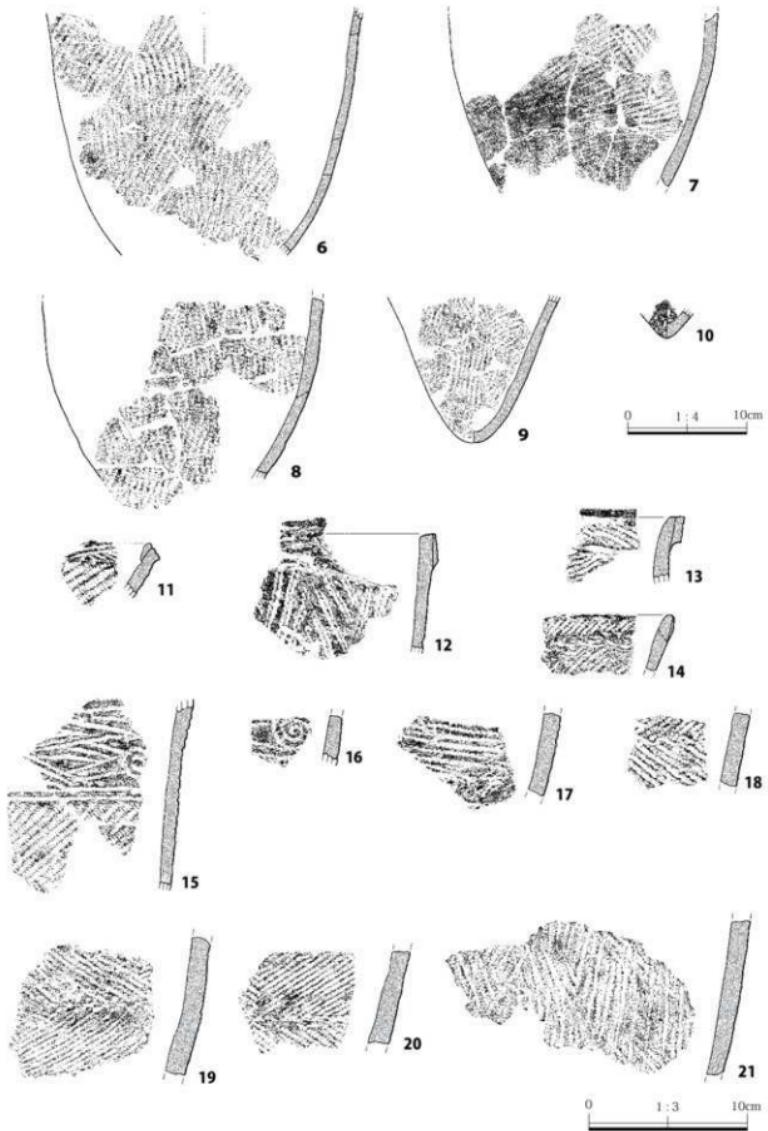


第60図 S125遺物出土状況図(1/60)

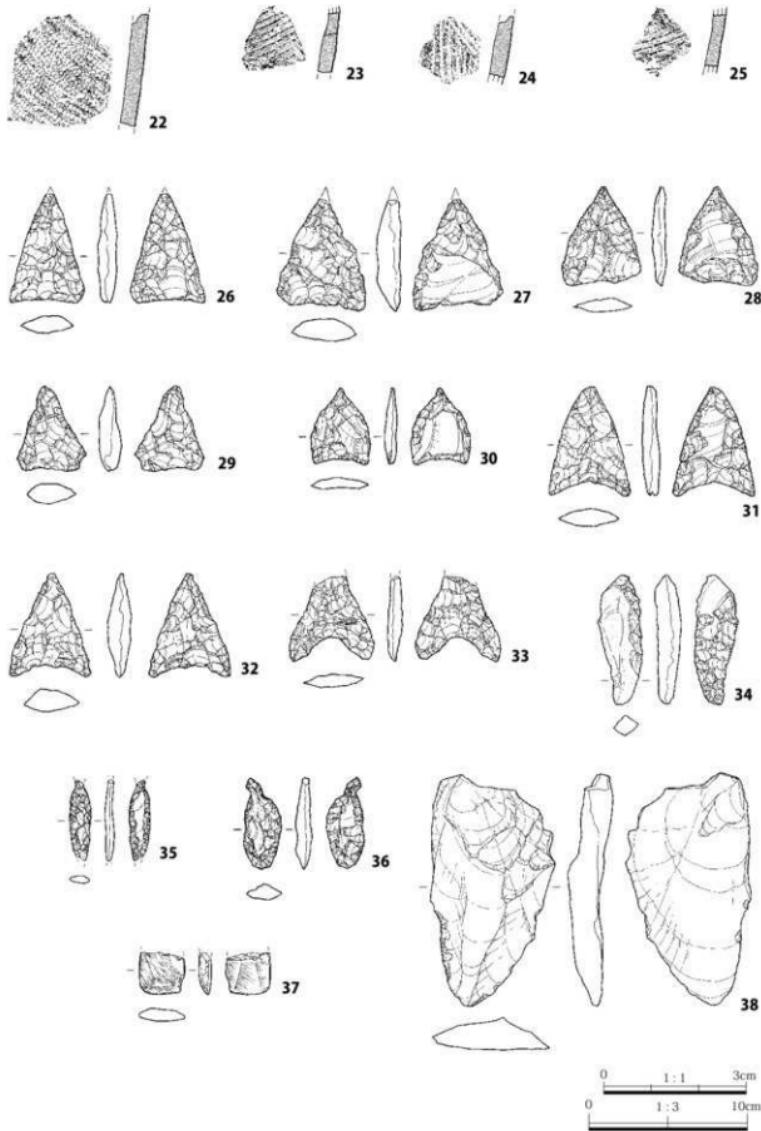
第61圖 S125出土遺物實測圖①(1/4)

0 1:4 10cm





第62図 SI25出土遺物実測図②(1/3・1/4)



第63図 SI25出土遺物実測図③(1/1・1/3)

## SI26 (第 64 ~ 66 図／PL 66・67・87)

**位置** 2—77 区 J—8・9、K—9 グリッド (2面／2・3 区調査区東部北側)。 **重複関係** SI25 と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 地山と遺構覆土の見分けが付き難いことから、見分けが付く面まで掘り下げた結果、上部が削平されてしまい、壁の大半が現存していない。 **覆土** 上層は黒色土、下層は黒褐色土・暗褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。主軸は 5.32 m、副軸は 4.41 m、確認面からの深さは最深 29cm、床面積は 17.10m<sup>2</sup>を測る。 **主軸方位** N—24°—E **壁・壁溝** 西壁が 25cm、北壁が 12cm を測り、いずれも外傾して立ち上がる。東・南壁は削平され 5~7 cm を測る。壁溝は確認されなかった。 **床面** 直床式であるが、貼床や踏み締りは確認されなかった。南側に向かって緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。 **柱穴** P 1 ~ P 9 まで確認された。平面形は円形を呈する。位置・規模から P 3・P 5・P 8 が主柱穴の可能性が考えられる。それぞれの規模は第 13 表に記載する。

第 13 表 SI26 ピット計測表

	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9
長軸長 (cm)	39	41	34	21	41	32	73	30	38
短軸長 (cm)	36	39	30	18	38	32	43	30	32
深さ (cm)	7	18	21	28	19	22	18	45	17

**炉跡** 住居跡南壁際に位置する。火床面までは 2 段階で掘り込まれる。最初の掘り込みは、平面形は北東—南西方向に梢円形を呈し、規模は長軸 281cm、短軸 139cm、床面からの深さは最深 6 cm を測る。火床面までの掘り込みはその南端部に位置し、平面形は円形を呈する。規模は長軸 73cm、短軸 62cm、床面から火床面までの深さは最深 12cm を測る。 **その他の施設** 確認されなかった。 **遺物検出状況** 遺物量は非常に少なく、覆土下層からまばらに出土している。 **遺物** 出土遺物のうち、石匙 1 点を図示し得た。 **備考** 住居跡南壁際に地床炉をもつ円形の竪穴住居跡と判断した。帰属時期は、時期を特定し得る遺物はないが、周辺の竪穴住居跡と同時期の縄文時代前期初頭と考えられる。

## SI27 (第 67 ~ 71 図／PL 66・67・87)

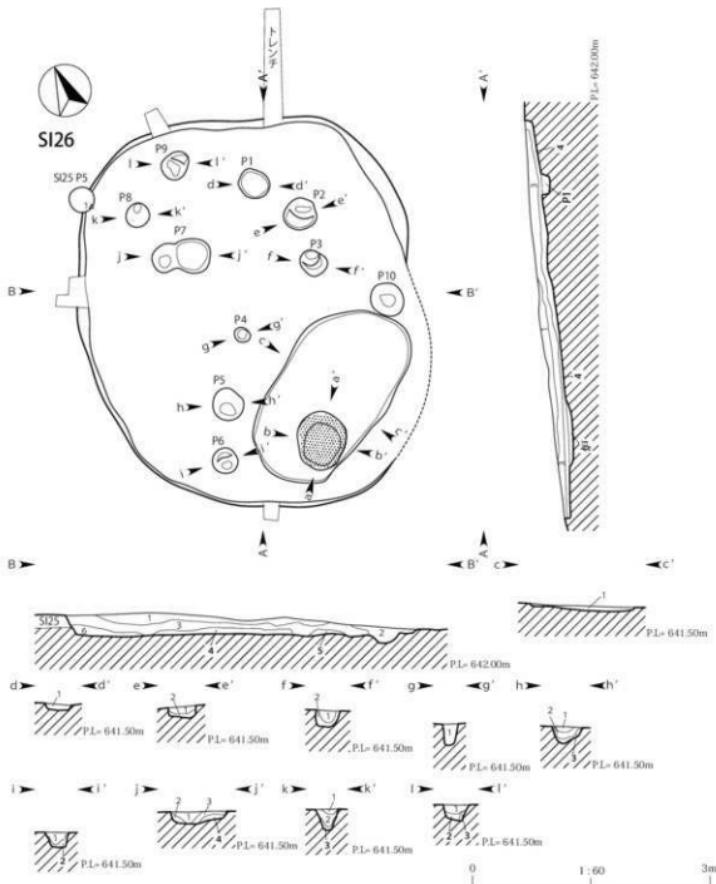
**位置** 2—77 区 O・P—11・12 グリッド (2面／2・3 区調査区東部東壁際)。 **重複関係** SK102・103 と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 地山と遺構覆土の見分けが付き難いことから、見分けが付く面まで掘り下げた結果、上部が削平されてしまい、壁の大半が現存していない。東壁の一部が調査区外にあり、SK102・103 によって床面・壁面の一部が壊されている。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。

**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。主軸は 5.35 m 以上、副軸は 5.50 m、確認面からの深さは最深 15 cm、床面積は 19.84m<sup>2</sup>以上を測る。 **主軸方位** N—46°—E **壁・壁溝** 壁高は 8 ~ 13cm を測り、いずれも外傾して立ち上がる。溝溝は東・南・北壁と西壁の一部で確認された。溝幅は 16 ~ 26cm、床面からの深さは 6 cm を測る。 **床面** 直床式であるが、貼床や踏み締りは確認されなかった。西側に向かって緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。 **柱穴** P 1 ~ P 6 まで確認された。平面形は円形を呈するものが主体である。P 2・P 3・P 6 は規模・形状から、主柱穴の可能性がある。P 1 からは多量の黒曜石・チャート細片が出土した。覆土ごと採取し抽出した所、出土量は黒曜石片が 7.9 g、チャート片が 10.9 g であった。付近で石器製作が行なわれていたと考えられる。それぞれの規模は、第 14 表に記載する。

**炉跡** 住居跡ほぼ中央に位置する。平面形は梢円形を呈し、規模は長軸 150cm、短軸 108cm、床面から火床面までの深さは最深 3 cm を測る。火床面の平面形は梢円形を呈する。規模は長軸 149cm、短軸 81cm を測り、焼土部分の厚さは 6 cm を有する。 **その他の施設** 確認されていない。 **遺物検出状況** 遺物量は少なく、北側の覆土下層で散見された。P 6 の南側で黒曜石・チャートの細片が集中する箇所が確認された。土ごと採取し抽出した所、黒曜石片が 16.4 g、チャート片が 0.9 g

第 14 表 SI27 ピット計測表

	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6
長軸長 (cm)	62	62	33	31	43	50
短軸長 (cm)	48	60	25	24	32	46
深さ (cm)	7	28	31	15	10	26

**SI26上層説明****AA' BB'**

1. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり、YPh粒少量含む。ロームブロック(φ 5 mm)・ローム粒・YPk(φ 1 cm)微量含む。
2. 黒褐色土層：粘性なし、しまりあり、YPh粒少量含む。ロームブロック(φ 5 mm)・ローム粒微量含む。YPk(φ 5 mm)あり。
3. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒少量含む。ロームブロック(φ 1 cm)・YPk(粒・φ 1 cm)微量含む。埴土粒(φ 5 mm)あり。
4. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒微量含む。ロームブロック(φ 1 cm)・YPk(粒・φ 1 cm)微量含む。
5. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒少量含む。YPk粒微量含む。
6. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒少量含む。ロームブロック(φ 1 cm)・YPk粒微量含む。ロームブロック(φ 3 cm)あり。

**SI26ヒート土層説明****CC'**

1. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒多量含む。ロームブロック(φ 3 cm)・埴土粒(φ 5 mm・3 cm)微量含む。

**dd' pp'**

1. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒少量含む。ロームブロック(φ 3 cm)微量含む。

**ee' p2**

1. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒・YPk(粒・φ 5 mm)微量含む。ロームブロック(φ 1 cm)・埴土粒(φ 5 mm)あり。
2. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒やや多量含む。YPk粒微量含む。

## SI26ビット土層説明

## ff' P3

1. 黒色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒・YPk(φ 1cm)含む。
2. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒少量含む、YPk粒微量含む。

## gg' P4

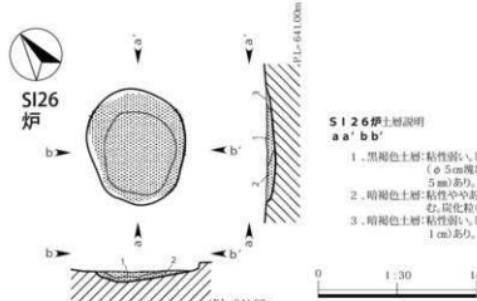
1. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒・YPk粒微量含む、ロームブロック(φ 1cm)あり。

## hh' P5

1. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒少量含む、YPk粒微量含む、ロームブロック(φ 1cm)・YPk(φ 5mm)あり。
2. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒やや多量含む、YPk粒微量含む、ロームブロック(φ 3cm)あり。
3. 黑褐色土層：粘性なし、しまりあり、ローム粒多量含む、YPk粒微量含む、ロームブロック(φ 1cm)あり。

## ii' P6

1. 單褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒や多量含む、ロームブロック(φ 1cm)・炭化粒・YPk(粒・φ 5mm)微量含む。
2. ぶい 黄褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒やや多量含む、YPk粒微量含む。



第65図 SI26炉実測図(1/30)

## jj' P7

1. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒やや少量含む、ロームブロック(φ 1cm)・YPk(φ 5mm)微量含む、YPk粒微量含む。
2. 單褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒微量含む、YPk粒微量含む。
3. ぶい 黄褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒多量含む、ロームブロック(φ 1cm)微量含む、炭化粒(φ 5mm)・YPk粒微量含む。
4. 黄褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒少量含む、YPk粒微量含む、ロームブロック(φ 3cm)あり。

## kk' P8

1. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり、YPk粒微量含む、ローム粒ごく微量含む、ロームブロック(φ 5mm)あり。
2. 黑褐色土層：粘性やや弱い、しまりあり、ローム粒やや少量含む、ロームブロック(φ 5mm)・YPk粒微量含む、YPk(φ 1cm)あり。
3. 黑褐色土層：粘性あり、しまりあり、ローム粒多量含む、YPk粒微量含む、ロームブロック(φ 5mm)あり。

## ll' P9

1. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり、YPk粒少量含む、ロームブロック(φ 1cm)・ローム粒微量含む。
2. 單褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒少量含む、ロームブロック(φ 3cm)・YPk粒微量含む。
3. ぶい 黄褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒やや多量含む、YPk粒微量含む、ロームブロック(φ 3cm)あり。

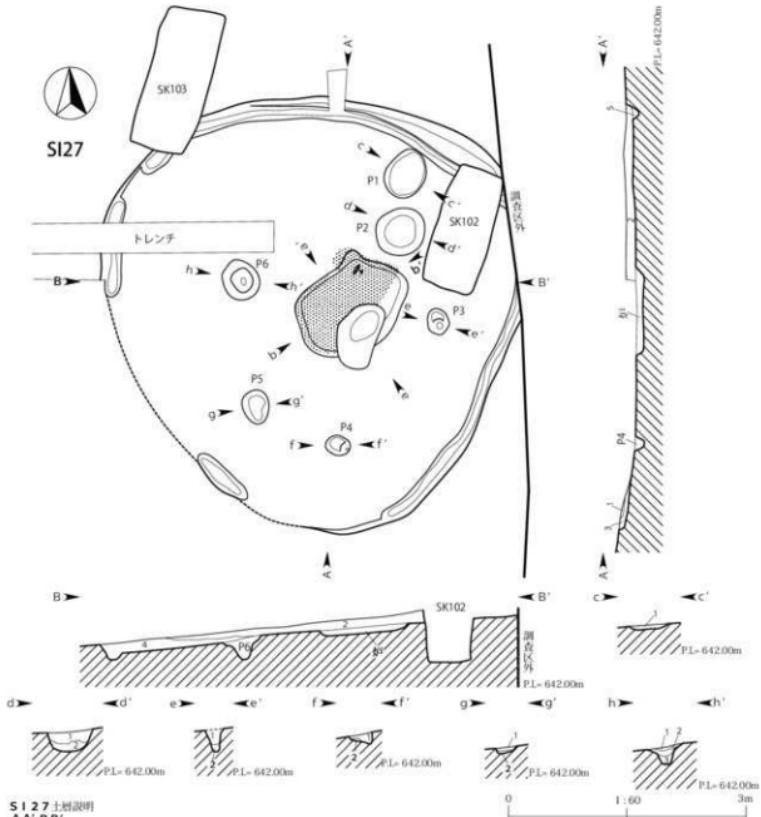
SI26炉土層説明  
aa' bb'

1. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり、炭化粒・燒土粒(φ 1cm)少量含む、ローム粒(φ 5cm強度)微量含む、ロームブロック(φ 3cm)・燒土粒・YPk(φ 5mm)微量含む。
2. 單褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒・燒土粒少量含む、炭化粒(φ 5mm)あり。
3. 單褐色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒少量含む、燒土粒微量含む、YPk(φ 1cm)あり。

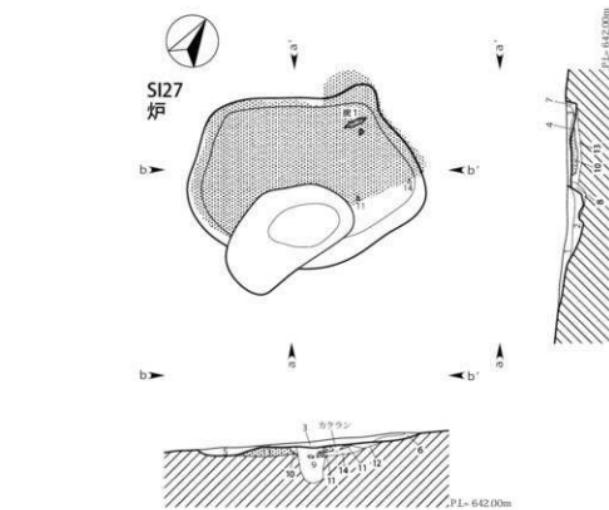


第66図 SI26出土遺物実測図(1/30)

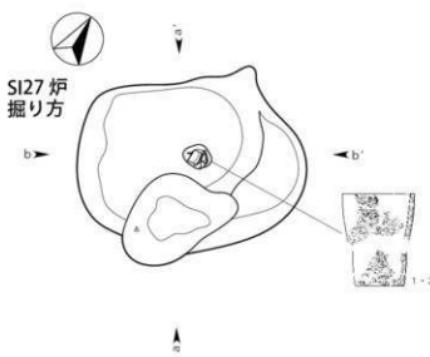
出土した。炉から炭化物が出土し、第68図炭1で樹種同定分析、放射性炭素年代測定分析を行なった(第8編自然科学研究)。遺物 出土遺物のうち、縄文土器10点、石礫7点、石錐2点、剥片1点、石匙1点を図示した。備考 住居跡ほぼ中央に地床がもつ円形の竪穴住居跡である。黒曜石・チャートの細片がかたまって出土していたことから、石器製作が行なわれていたと考えられる。帰属時期は、出土遺物から縄文時代前期初頭と考えられる。



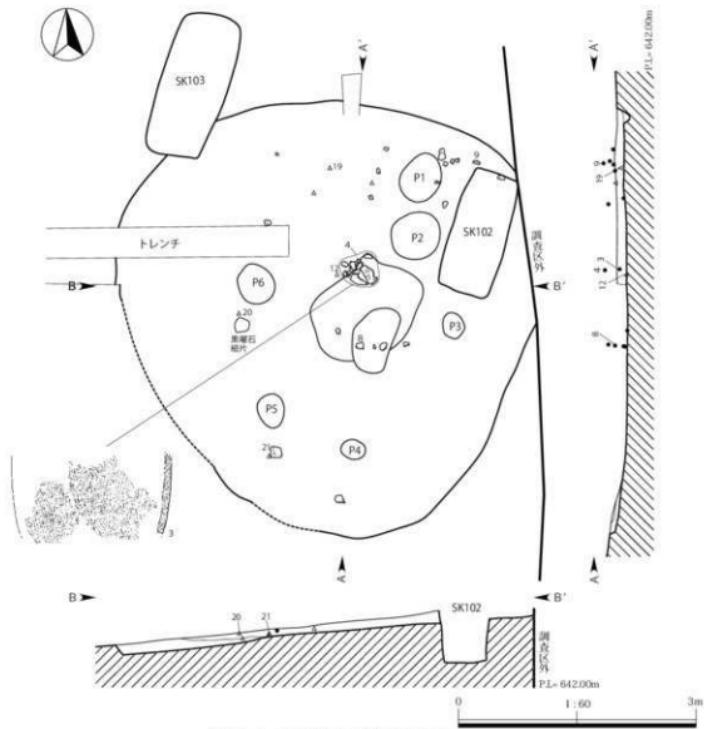
第67図 SI27実測図(1/60)



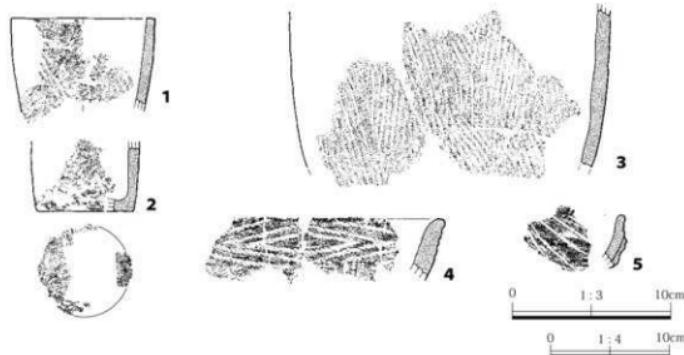
- SI27 炉掘り方**
- b → b'
- 1 - 2
- 0 1:30 1m



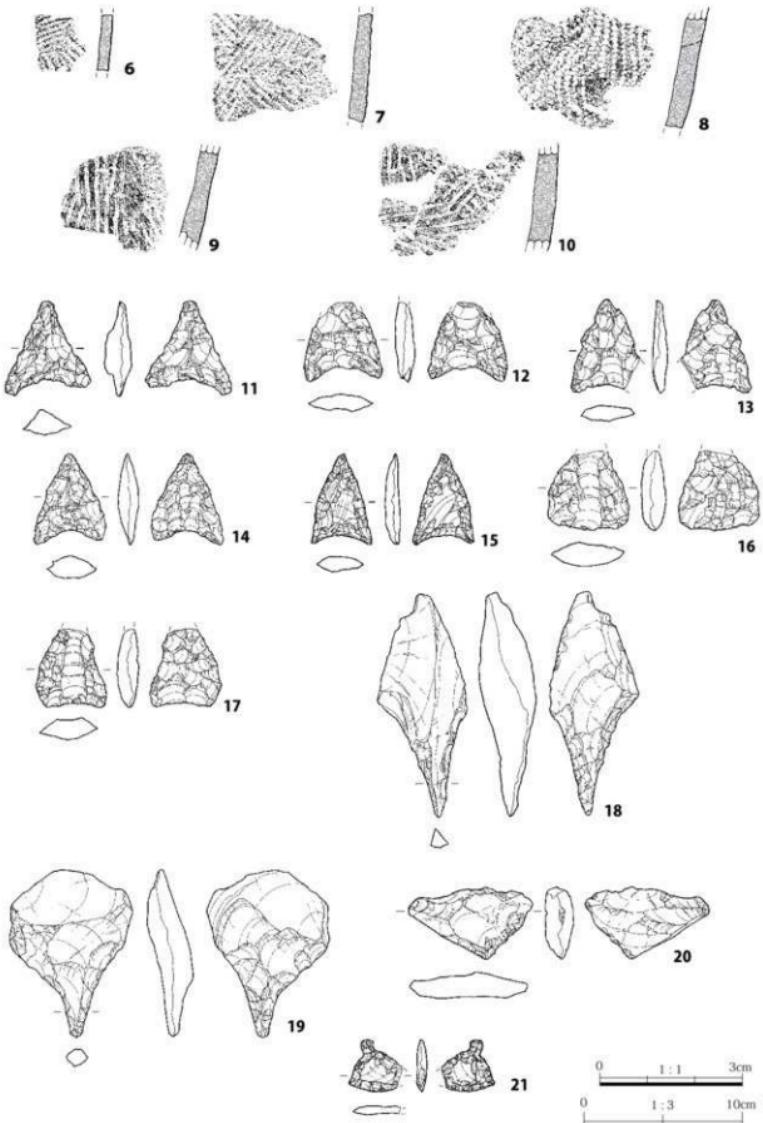
第68図 SI27炉・炉掘り方実測図(1/30)



第69図 SI27遺物出土状況図(1/60)



第70図 SI27出土遺物実測図①(1/3・1/4)



第71図 SI27出土遺物実測図②(1/1・1/3)

## (2) 土坑

SK43 (第 72・77 図／PL 87)

**位置** 2-77 区 D-6 グリッド(2・3 区調査区中央部)。 **重複関係** SI12 と重複し、本遺構の方が新しい。

**遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸 221cm、短軸 187cm、確認面からの深さ 128cm を測る。 **主軸方位** N-18°-E **壁面** いずれの壁も大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 南北両端が窪む。 **遺物** 覆土中から縄文土器片が出土し、3 点を図示し得た。 **備考** 本遺構は、遺構の形態・規模を見ると陥し穴と考えられる。帰属時期は、下位の形状が平安時代と想定されるものと比較して直線的ではないこと、大きめの縄文土器片(加曾利 E 式)が出土していること、遺構の切り合い関係から、縄文時代の中期以降と判断した。

SK45 (第 73・77 図／PL 87)

**位置** 2-77 区 F-7・8 グリッド (2・3 区調査区中央部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

**覆土** 上層はロームブロックを大量に含む黒褐色土で、下層は黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸 207cm、短軸 169cm、確認面からの深さ 141cm を測る。 **主軸方位** N-27°-E **壁面** いずれの壁も外傾して立ち上がり、上位が強く聞く。 **底面** 北部が一段低くなり、小さな窪みが見られる。 **遺物** 打製石斧 1 点が出土し、図示し得た。 **備考** 本遺構は、遺構の形態・規模を見ると陥し穴と考えられる。帰属時期は、下位の形状が平安時代と想定されるものと比較して直線的ではないこと、打製石斧が出土していることから、SK43 と同様に縄文時代の中期以降と判断した。

SK108 (第 74 図)

**位置** 2-77 区 K-12 グリッド (2 面／2・3 区調査区東部中央)。 **重複関係** SK109 と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 東側が SK109 によって壊されている。 **覆土** 黒褐色土・暗褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は楕円形または隅丸長方形を呈すると考えられる。規模は長軸 138cm 以上、短軸 135cm、確認面からの深さ 46cm を測る。 **主軸方位** N-71°-E **壁面** 西・南・北壁は外傾して立ち上がる。東壁は現存していない。 **底面** 南西隅部が一段低く、凸凹している。 **遺物** なし。

**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は、2 面目で確認された遺構であることから縄文時代前期～中期と考えられる。

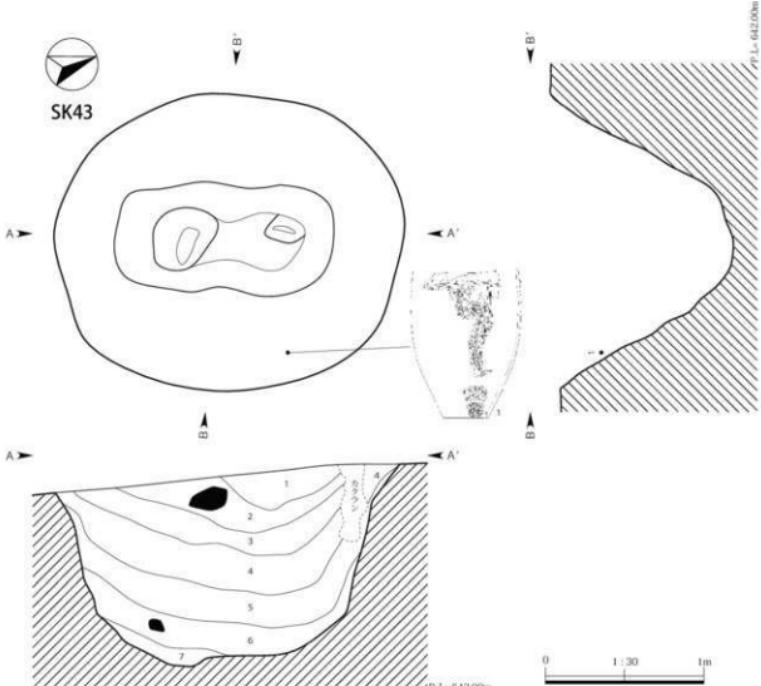
SK109 (第 74 図)

**位置** 2-77 区 K・L-12 グリッド (2 面／2・3 区調査区東部中央)。 **重複関係** SK108 と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 遺構は良好であるが、覆土は SK108 と同時に半分以上掘り下げてしまった。

**覆土** にぶい黄褐色土、黒褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 134cm、短軸推定 120cm、確認面からの深さ 93cm を測る。 **主軸方位** N-2°-W **壁面** ほぼ垂直に立ち上がり、中位以上は大きく外傾する。 **底面** 西側がわずかに窪むが、概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は、2 面目で確認された遺構であることから縄文時代前期～中期と考えられる。

SK112 (第 75 図)

**位置** 2-77 区 N-11・12 グリッド (2 面／2・3 区調査区東端中央)。 **重複関係** SI19 と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 西側が SI19 によって壊されている。 **覆土** 上層は黒褐色土、下層は暗褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 88cm、短軸 69cm 以上、確認面からの深さ 29cm を測る。 **主軸方位** N-12°-E **壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。



SK43 土層説明

A-A'

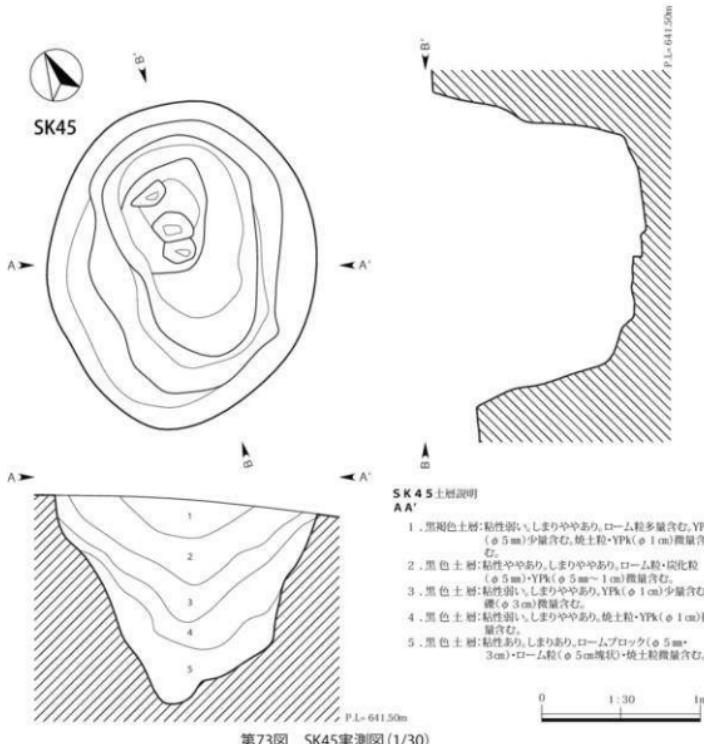
1. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり、YPk(φ 1cm)少量化含む、ローム粒・焼土粒(φ 5mm)・礫(φ 3cm)微量含む、炭化粒(φ 1cm)ごく微量含む。
2. 黒色土層：粘性弱い、しまりややあり、炭化粒・YPk(φ 5mm)少量化含む、焼土粒・YPk(φ 1cm)・礫(人頭大)微量含む、炭化粒(φ 1cm)ごく微量含む。
3. 黒色土層：粘性弱い、しまりややあり、炭化粒(φ 5mm)・焼土粒(φ 5mm)微量含む、YPk(φ 5mm)ごく微量含む。
4. 黑色土層：粘性弱い、しまりあり、炭化粒・焼土粒(φ 5mm)・YPk(φ 1cm)微量含む、礫(φ 3cm)ごく微量含む。
5. 黑色土層：粘性弱い、しまりややあり、焼土粒(φ 5mm)微量含む、YPk(φ 5mm)ごく微量含む。
6. 黑色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒・炭化粒(φ 5mm)・焼土粒(φ 5mm)・礫(拳大)微量含む。
7. 黒色土層：粘性弱い、しまりあり、ローム粒・礫(φ 3cm)少量化含む、焼土粒(φ 5mm)微量含む。

第72図 SK43実測図(1/30)

**底面** 中央に向かって階段状に低くなる。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は、遺構の切り合い関係から縄文時代前期と考えられる。

## SK113 (第75図／P L 67)

**位置** 2-77区M-11グリッド(2面／2・3区調査区東部中央)。 **重複関係** SI19と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 南部がSI19によって壊されている。 **覆土** 黒色土が基調であるが、下層に暗褐色土・黄褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は不整形を呈する。規模は長軸80cm以上、短軸63cm以上、確認面からの深さ24cmを測る。 **主軸方位** N-26°-E **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 中央に向かって傾斜する。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は、遺構の切り合い関係から縄文時代前期と考えられる。

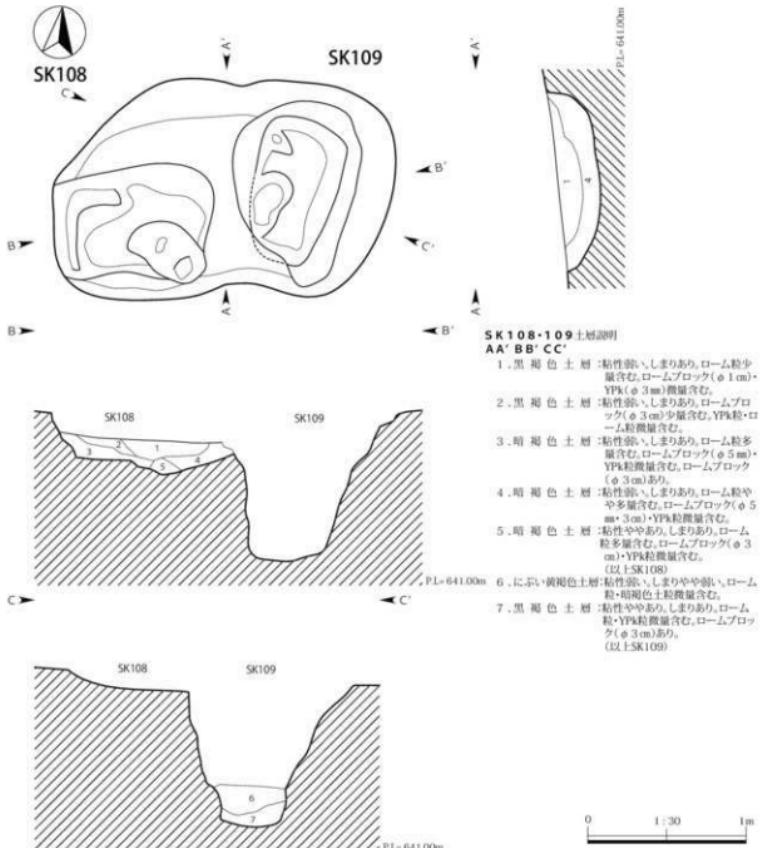


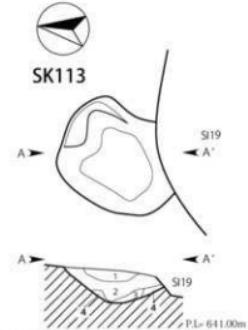
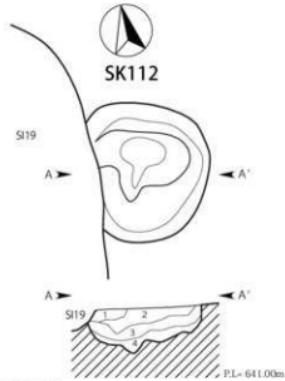
#### SK114 (第 75 図)

**位置** 2-77 区 M-11 グリッド (2面 / 2・3区調査区東部中央)。  
**重複関係** SI19 と重複し、本遺構の方が古い。  
**遺存状態** 南東部が SI19 によって壊されている。  
**覆土** 黒色土・黒褐色土が基準で、自然堆積を示す。  
**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 50cm 以上、短軸 57cm、確認面からの深さ 18cm を測る。  
**主軸方位** N-46°-W  
**壁面** 大きく外傾して立ち上がる。  
**底面** 中央に向かって傾斜する。  
**遺物** なし。  
**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は、遺構の切り合い関係から縄文時代前期と考えられる。

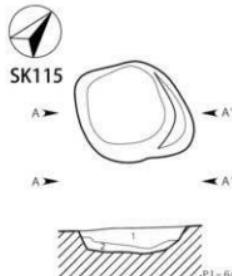
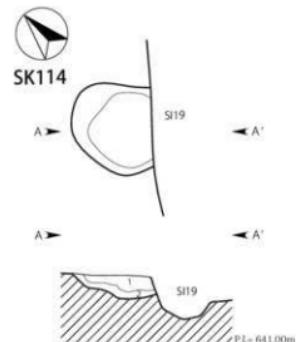
#### SK115 (第 75 図 / P.L. 67)

**位置** 2-77 区 L-11 グリッド (2面 / 2・3区調査区東部中央)。  
**重複関係** なし。  
**遺存状態** 良好。  
**覆土** 黒褐色土が基準で、自然堆積を示す。  
**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 71cm、短軸 64cm、確認面からの深さ 10cm を測る。  
**主軸方位** N-49°-E  
**壁面** 外傾して立ち上がる。  
**底面** 概ね平坦である。  
**遺物** なし。  
**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は、2面目で確認された遺構であることから縄文時代前期～中期と考えられる。





#### SK114 土層説明



#### SK115 土層説明 AA'

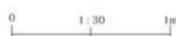
#### SK116 土層説明

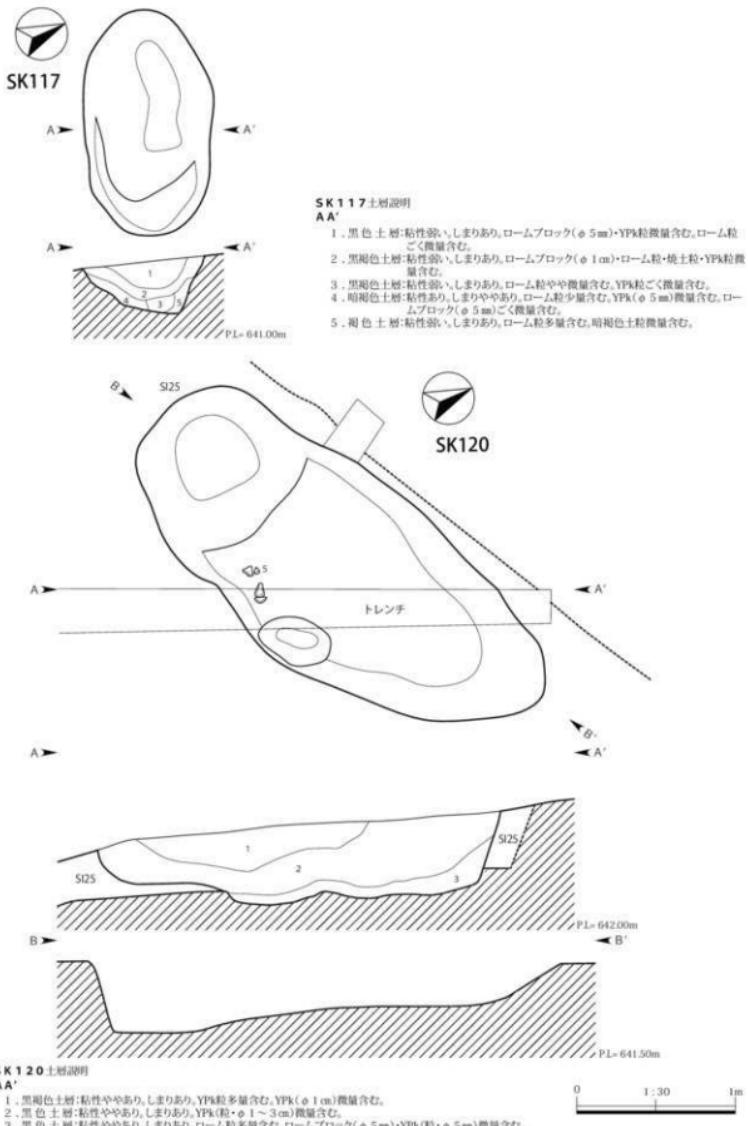
1. 黒色土層: 粘性ややあり。しまりややあり。ロームブロック(φ 5mm)・ローム粒・YPK(φ 5mm)微量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性ややあり。しまりあり。ローム粒少量含む。ロームブロック(φ 5mm)あり。YPK(φ 5mm)微量含む。

第75図 SK112～115実測図(1/30)

#### SK120 (第76・77図／PL 87)

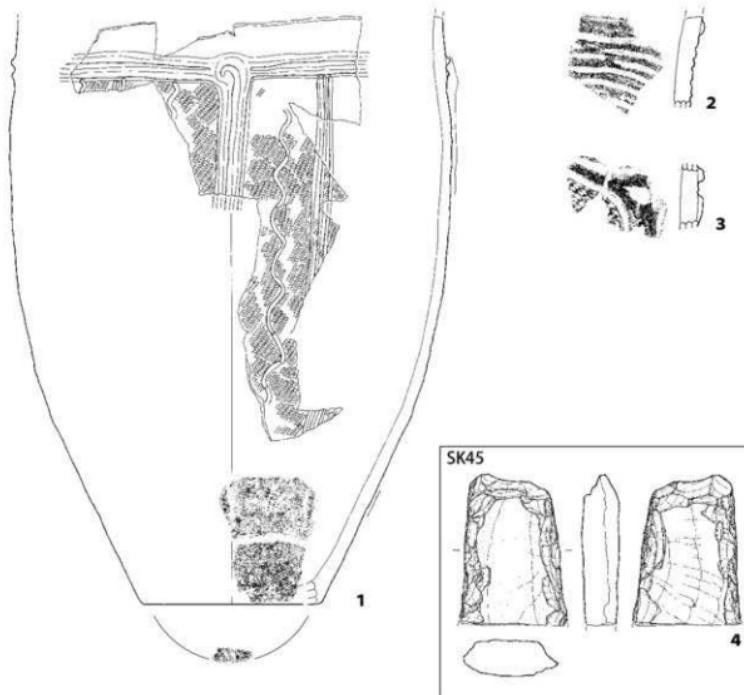
**位置** 2-77区1-8グリッド(2面／2・3区調査区東部)。 **重複関係** SI25と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基調であるが、上層に黒褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は不整形を呈する。規模は長軸298cm、短軸132cm、確認面からの深さ43cmを測る。 **主軸方位** N-60°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦であるが、



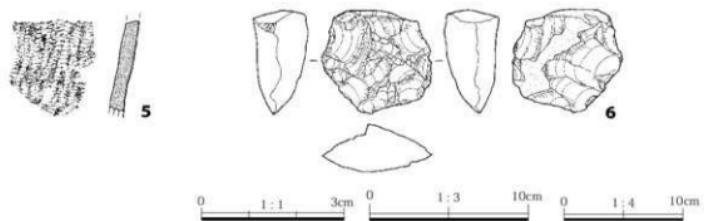


第76図 SK117・120実測図(1/30)

SK43



SK120



第77図 繩文時代土坑出土遺物実測図(1/1・1/3・1/4)

西端部が一段低くなる。南東部に小さな窪みがある。

**遺物** 繩文前期土器1点、石核1点を図示し得た。

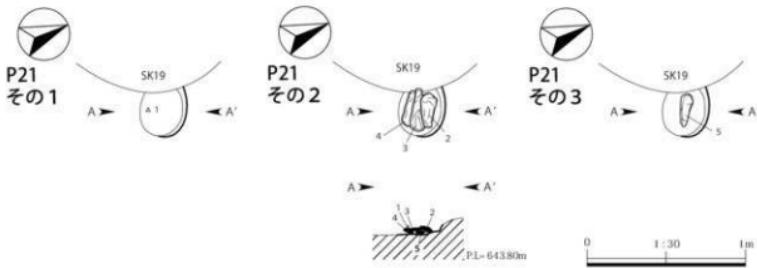
**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、遺構の切り合い関係および出土遺物から縄文時代前期～中期と考えられる。

## (3) ピット (第9・10図)

2面で確認された遺構は、上面で確認できなかった古墳時代～平安時代の遺構が含まれるが、縄文時代の竪穴住居跡が主体である。のことから、2面で確認されたピット12基はすべて縄文時代前期～中期に帰属するものと判断した。その中で、打製石斧が埋納されていたピットについて取り上げ、その他のピットの平面形や規模などの諸属性は第15表に記載した。

## 21号ピット（埋納遺構）(第78・79図／PL 67・88)

**位置** 2-77区A-3グリッド(2面/2・3区調査区西部北側)。**重複関係** SK19と重複し、本遺構の方が古い。**遺存状態** 2面の表土掘削をした際に上部を削平してしまい、壁の大半が現存していない。また、西端部がSK19によって壊されている。**覆土** 黒褐色土が基調である。遺構の状況から人為堆積であつたと考えられる。**平面形と規模** 平面形は梢円形を呈すると考えられる。長軸34cm以上、短軸30cm以上、確認面からの深さ7cmを測る。**主軸方位** N-70°-W  
**壁面** 壁高は北壁で3cmを測り、外傾して立ち上がる。**底面** 中央に向かって緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。**遺物** 打製石斧4点が出土した。ピットの長軸と石斧の長軸を合わせて、底面上に第79図5、その上に覆い隠すように同図2～4が並べられていた。下の1点と、上3点のうち北側の同図2が刃部を北西に、残りの2点が刃部を南東に向けて置かれている。上3点のうち中央の同図3が長さ27.9cmと大きく、他の3点は20.1～21.9cmとほぼ同じ大きさである。石材はすべて黒色頁岩である。**備考** 本遺構は、遺物の出土状況から打製石斧が埋納されたピットと判断した。確認面直上からも同図1の打製石斧が出土しているが、1点のみであったため図化せず座標値・標高値のみ測量して取り上げている。石材も黒色頁岩と同じであることから、一連の埋納遺物と考えられる。帰属時期は、同じ面で確認された竪穴住居跡と同時期の縄文時代前期～中期と考えられる。

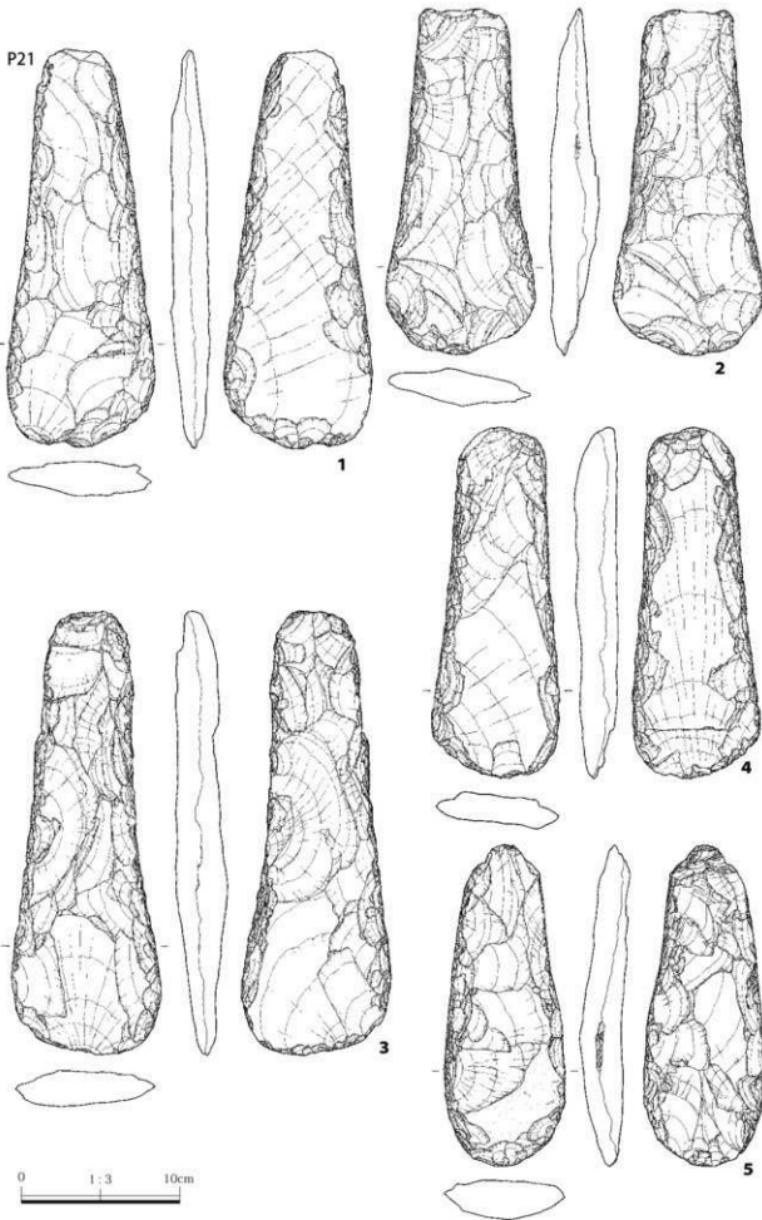


第78図 21号ピット実測図(1/30)

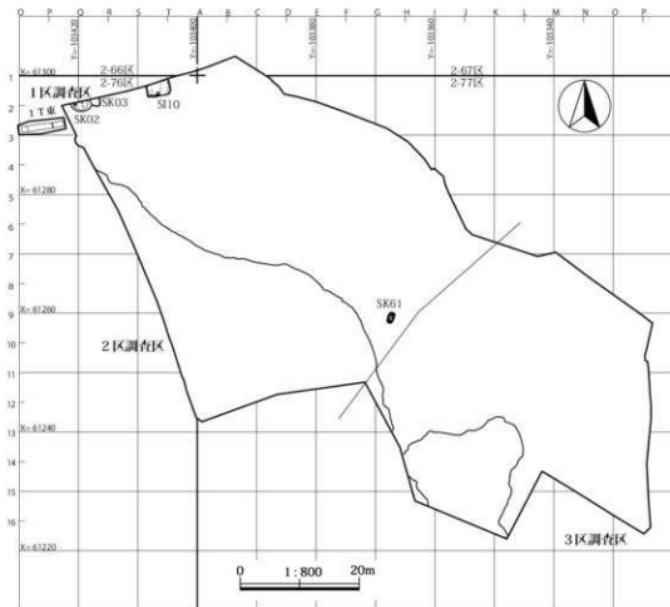
第15表 上原I遺跡II 2面目ピット観察表

遺構名	位置	平面形	規模(cm)			覆土	備考	遺構名	位置	規模(cm)			覆土	備考	
			長軸長	短軸長	深さ					平面形	長軸長	短軸長	深さ		
P21	2-77区A-3	梢円形	(34)	(30)	7	B	埋納遺構	P27	2-77区E-4	円形	29	29	39	B	
P22	2-77区I-7	円形	23	23	20	A		P59	2-77区N-11	円形	58	54	22	A	
P23	2-77区I-6	円形	32	29	79	B		P60	2-77区N-14	円形	27	26	41	A	
P24	2-77区H-6	円形	21	20	18	A		P61	2-77区N-15	円形	36	36	24	A	
P25	2-77区H-6	円形	29	27	65	A		P62	2-77区N-13	円形	46	43	19	A	
P26	2-77区G-H-6	円形	23	22	33	A		P63	2-77区M-14	円形	56	51	12	A	

※ A：黒色土 B：黒褐色土 C：暗褐色土 D：褐色土 E：にふい黄褐色土



第79図 繩文時代ピット出土遺物実測図(1/3)



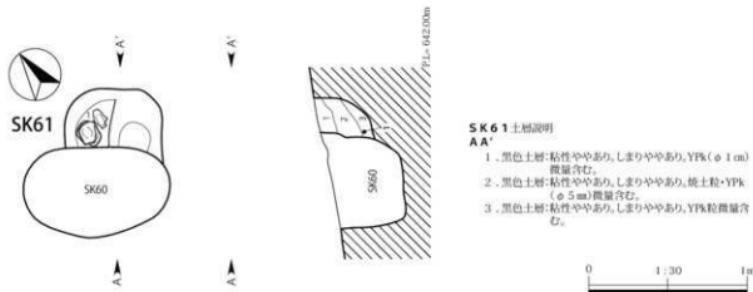
第80図 弥生・古墳時代遺構配置図(1/800)

### 第3節 弥生時代の遺構と遺物

#### (1) 土坑

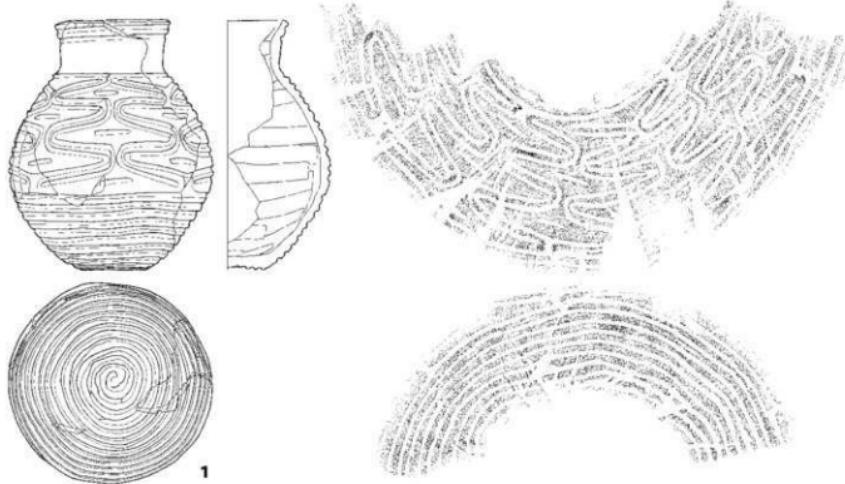
SK61 (第81・82図・PL 68・89)

**位置** 2-77 区H-8 グリッド (2・3区調査区中央部)。 **重複関係** SK60 と重複し、本遺構の方が古い。**遺存状態** 南側が SK60 によって壊されている。 **覆土** 黒色土が基調である。自然堆積を示しているが、人為堆積の可能性もある。 **平面形と規模** 平面形は不整形を呈する。規模は長軸 36m 以上、短軸 60cm、確認面からの深さ 43cm を測る。 **主軸方位** N-37°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 南東側が一段低くなりテラス状を呈する。 **遺物** テラス部の底面直上から第 82 図 1 の小型短頭壺が出土した。大きな 3 つの破片に割れており、その内の 2 点が重なった状態で出土している。口縁部から体中部の一部が欠損する。 **備考** 本遺構は、遺物の出土状況から、壊れたまたは意図的に壊した土器を埋納した土坑と考えられる。帰属時期は、出土遺物から弥生時代前期と考えられる。



第81図 SK61実測図 (1/30)

SK61



第82図 弥生時代土坑出土遺物実測図 (1/3)

## 第4節 古墳時代の遺構と遺物

### (1) 穫穴住居跡

SI10 (第83～85図／PL 68・89)

**位置** 2-76区S・T-1グリッド(2面/2・3区調査区北西隅部北壁際)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 北側約1/3が調査区外にあるが、概ね良好である。 **覆土** 上層は黒褐色土、下層は黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は隅円形を呈すると考えられる。主軸が2.59m以上、副軸が4.02m、確認面からの深さは最深39cm、床面積は7.78m<sup>2</sup>以上を測る。 **主軸方位** N-8°-W **壁・壁溝** 壁高は東、西壁が25～30cm、南壁が10cmを測る。いずれの壁もほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は南壁の一部で確認された。溝幅20～25cm、床面からの深さ5cmを測る。 **床面** 直床式であるが、貼床や踏み織りは確認されなかった。概ね平坦である。 **柱穴** P1が南壁際中央で、P2が掘り方南西隅付近で確認された。位置・規模からP1は主柱穴の可能性が考えられる。それぞれの規模は第16表に記載する。

**炉跡・カマド** 確認されていない。 **その他の施設** なし。 **遺物検出状況** 遺物量は少なく、住居跡東側で散見された。また、覆土内から少量の燒土と炭化材が出土した。第84図炭5・6で樹種同定分析、同図炭6で放射性炭素年代測定分析を行なった(第8編自然科学分析)。 **遺物** 出土遺物のうち、古墳時代前期の古式土師器8点を図示し得た。S字状口縁台付甕・壺が出土している。 **備考** 本遺構は、南側約2/3が確認された竪穴である。炉跡や柱穴などの住居内施設が確認されていないが、形態および出土遺物の様相などから竪穴住居跡と判断した。帰属時期は、出土遺物から古墳時代前期と考えられる。

第16表 SI10ピット計測表

	P 1	P 2
長軸長(cm)	55	84
短軸長(cm)	52	66
深さ(cm)	43	12

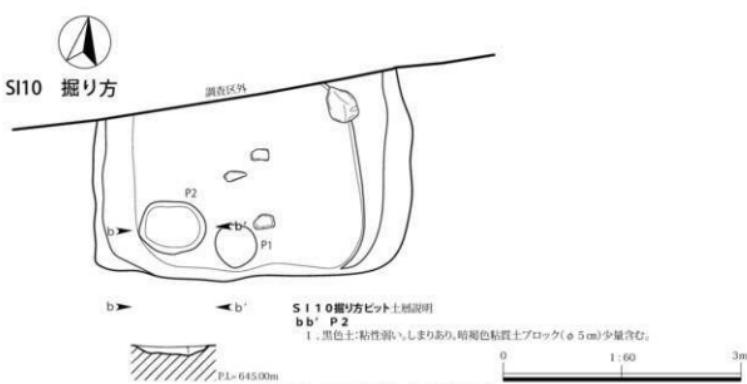
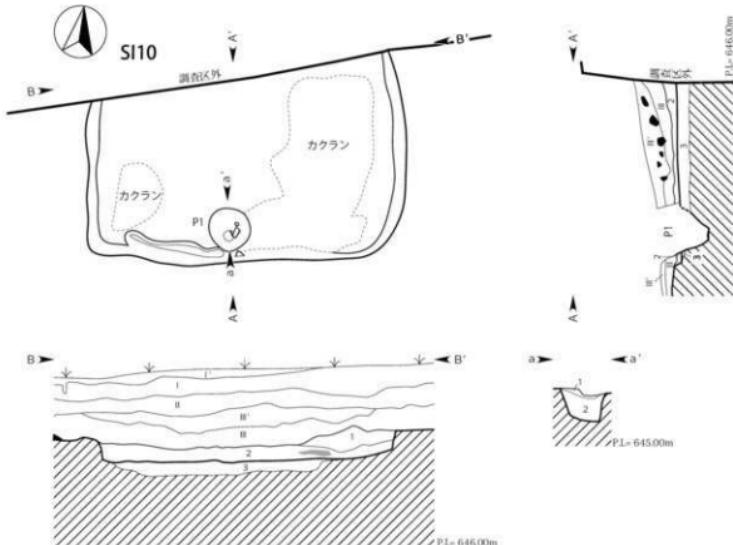
### (2) 土坑

SK02 (第86～88図／PL 68・89)

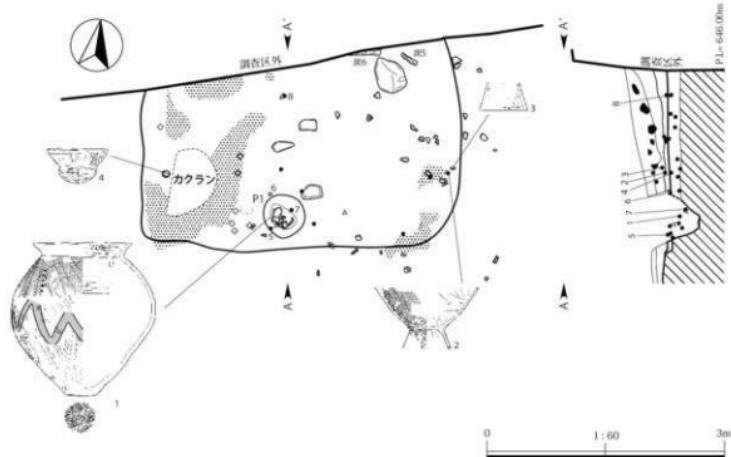
**位置** 2-76区P・Q-1・2グリッド(2・3区調査区北西隅部北壁際)。 **重複関係** SK03と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 北側が調査区外となるが、概ね良好である。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は楕円形を呈ると考えられる。規模は長軸317cm以上、短軸171cm以上、確認面からの深さ45cmを測る。 **主軸方位** N-78°-E **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** 底面付近から繩文土器片、土師器片、石が出土し、土師器4点を図示し得た。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、出土遺物から古墳時代中期と考えられる。

SK03 (第86・87図／PL 68)

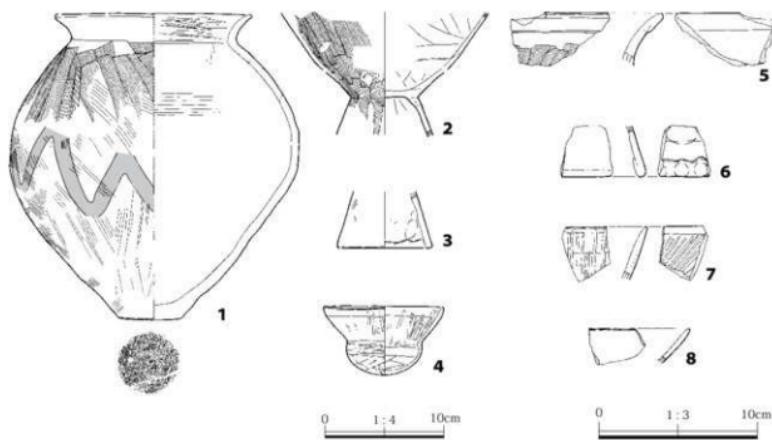
**位置** 2-76区Q-1・2グリッド(2・3区調査区北西隅)。 **重複関係** SK02と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 西側がSK02によって壊され、北側は調査区外となる。 **覆土** 上層は黒色土、下層は黒褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は楕円形を呈ると考えられる。規模は長軸173cm以上、短軸140cm以上、確認面からの深さ28cmを測る。 **主軸方位** N-78°-E **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 南に向かって傾斜しているが、概ね平坦である。 **遺物** 古式土師器片、土師器片が出土しているが、図示し得るものではなかった。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。時期を特定し得る遺物が出土していないため帰属時期は不明であるが、遺構の切り合い関係から古墳時代前期～中期と考えられる。



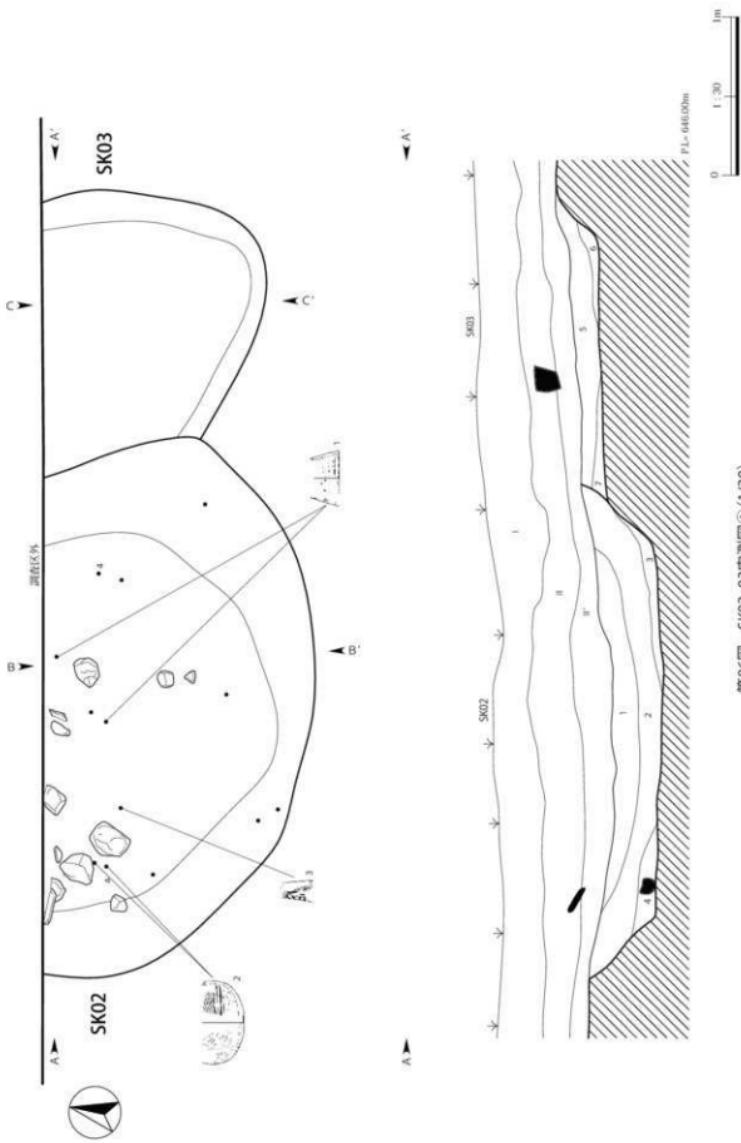
第83図 SI10・掘り方実測図(1/60)



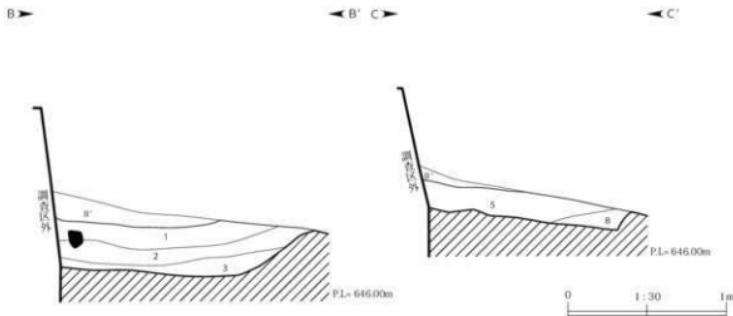
第84図 SI10遺物出土状況図(1/60)



第85図 SI10出土遺物実測図(1/3・1/4)

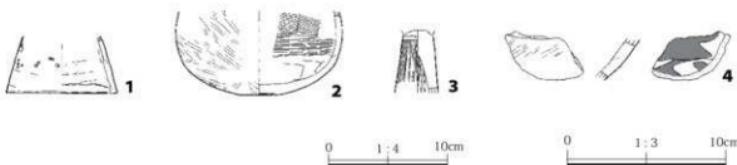


第86回 SK02・03実測図①(1/30)

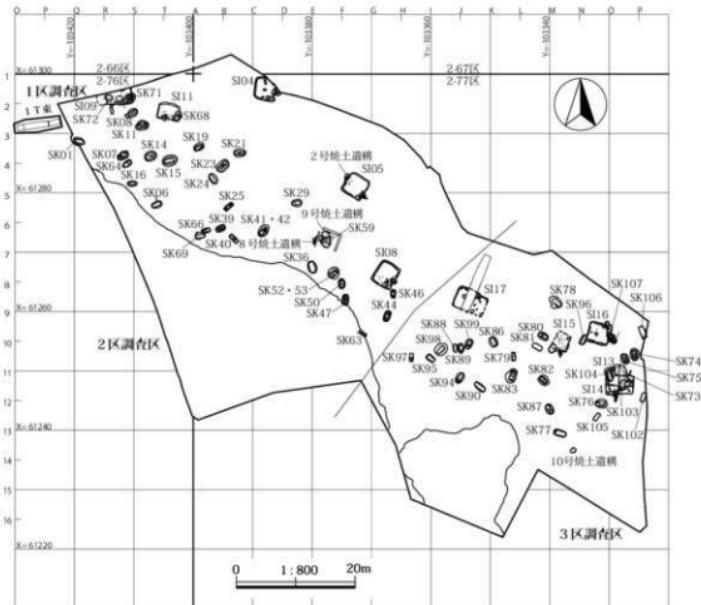


第87図 SK02-03実測図②(1/30)

## SK02



第88図 古墳時代土坑出土遺物実測図(1/3・1/4)



第89図 平安時代遺構配置図 (1/800)

## 第5節 平安時代の遺構と遺物

### (1) 穫穴住居跡

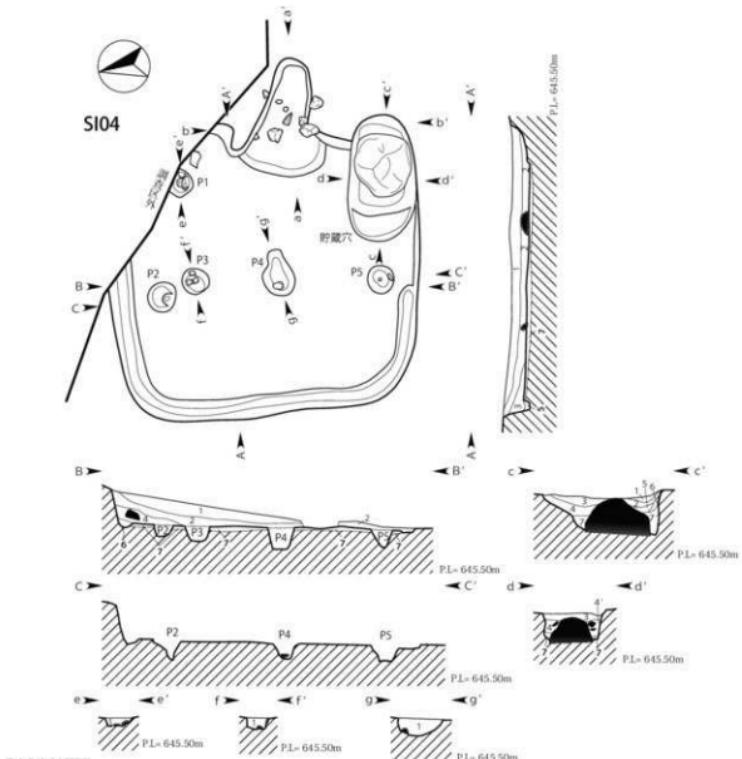
SI04 (第 90 ~ 93 図／P L 69・89)

**位置** 2-77 区 C-1 グリッド (2・3 区調査区西部北壁際)。**重複関係** なし。**遺存状態** 北東隅部が調査区外にあり、南側は壁がほとんど現存していない。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は隅丸方形を呈する。主軸は 3.71 m、副軸は 3.92 m 以上、確認面からの深さは最深 65 cm、床面積は 8.79 m<sup>2</sup> 以上を測る。**主軸方位** N=80°-W  
**壁・壁溝** 壁高は東・西壁が 17 ~ 35 cm、北壁が 52 cm、南壁が 5 cm を測る。いずれの壁も外傾して立ち上がる。壁溝は住居跡西半分で確認された。溝幅は 18 ~ 26 cm、床面からの深さは 7 cm を測る。**床面** 直床式で、一部で貼床が確認された。概ね平坦である。**柱穴** P 1 ~ P 5 まで確認された。P 2・P 3 が北側、P 5 が南側にあり対称の位置にあることから主柱穴と考えられる。それぞれの規模は、第 17 表に記載する。**カマド** 第 17 表 SI04 ピット計測表

東壁のほぼ中央に位置する。全長は 150 cm、最大幅 110 cm を測る。火床面は 16 cm 振り込まれ、焼土部分は 9 cm の厚さを有する。ロームを含む黒褐色土で外形を造り、支持材に自然石が使用されていた。

カマド内に支脚と考えられる石が残っていた。**その他の施設** 貯蔵穴 1 基が確認された。南東隅部に位置し、平面形は梢円形を呈する。長軸 160 cm、短軸 88 cm、床面からの深さは 46 cm を測る。ほぼ中央に直径 80 cm 大

	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5
長軸長 (cm)	31	38	35	59	35
短軸長 (cm)	(25)	35	33	39	34
深さ (cm)	11	12	17	25	21



SI04 土層説明

## AA' BB'

1. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり。砂土粒（φ 5mm）・白土粒（φ 1cm）少々含む。炭化粒（φ 1cm）・礫（φ 5cm）微量含む。
2. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり。礫（φ 3cm）少々含む。炭化粒（φ 1cm）・砂土粒（φ 5mm）微量含む。
3. 黑褐色土層：粘性弱い・中強度、しまりあり。砂土粒（φ 5mm）・礫（φ 3cm）微量含む。
4. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり。砂土粒（φ 3mm）・礫（φ 5cm）微量含む。礫（拳大）あり。
5. 黑褐色土層：粘性あり、しまりややあり。砂土粒（φ 3mm）・YPk粒微量含む。
6. 黑褐色土層：粘性あり、しまりややあり。砂土粒（φ 3mm）・YPk粒微量含む。
7. 黑褐色土層：粘性なし、しまりあり。礫（φ 1cm）多量含む。礫（φ 5cm）少量含む。YPk粒微量含む。

## SI04 貯藏穴土層説明

## cc' dd'

1. 黑褐色土層：粘性やや弱い、しまりあり。炭化粒・焼土粒・礫（φ 1cm）・YPk（φ 5cm）微量含む。
2. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり。燒土粒（φ 1cm）微量含む。
3. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりややあり。炭化粒・焼土粒（φ 5mm）・YPk粒微量含む。
4. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりややあり。燒土粒（φ 5mm）少量含む。礫（φ 1cm）・YPk粒微量含む。
- 4'. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりややあり。燒土粒（φ 5mm）少量含む。YPk粒微量含む。
5. 黑褐色土層：粘性ややあり、しまりややあり。燒土粒（φ 5mm）・YPk粒微量含む。
6. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり。燒土粒（φ 5mm）少量含む。礫（φ 5mm）・YPk（φ 5cm）微量含む。
7. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり。燒土粒（φ 1cm）・YPk粒微量含む。
- 7'. 黑褐色土層：粘性ややあり、しまりややあり。燒土粒・YPk粒微量含む。

## SI04 ピット土層説明

## ee' ff' dd'

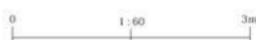
1. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり。燒土粒（φ 5cm）・礫（φ 5cm）・YPk（粒・φ 5cm）微量含む。

## ff' P3

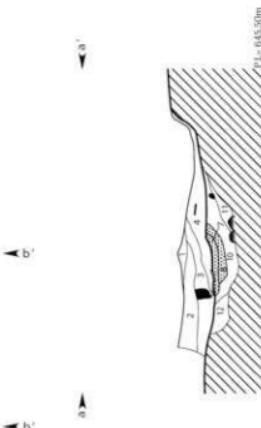
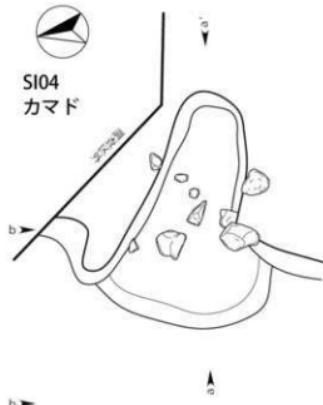
1. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりあり。礫（φ 5cm）少量含む。燒土粒（粒・φ 5mm）・YPk（粒・φ 5cm）微量含む。

## gg' P4

1. 黑褐色土層：粘性弱い、しまりややあり。礫（φ 5cm）少量含む。炭化粒（φ 5mm）・燒土粒（φ 5mm）・YPk（φ 5mm）微量含む。



第90図 SI04実測図(1/60)



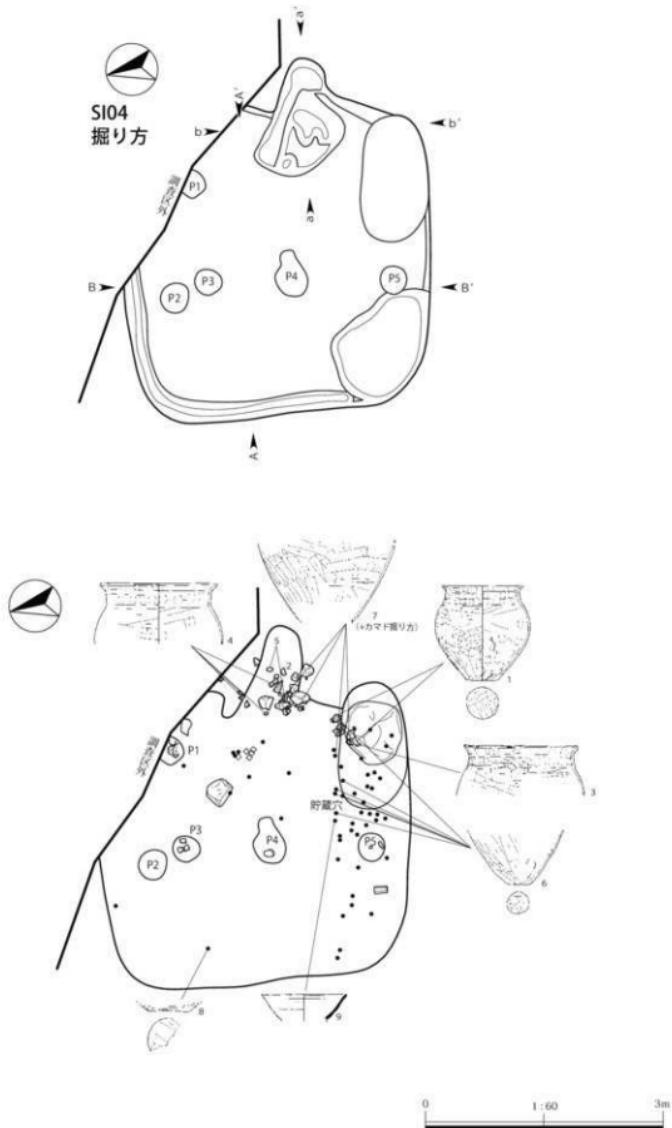
5. 黒褐色土層：粘性弱い・しまりややあり。燒土粒( $\phi 5\text{ mm}$ )少量含む。
6. 暗褐色土層：粘性弱い・しまり弱い・ローム粒少量含む。燒土粒( $\phi 5\text{ mm}$ )少量含む。
7. 暗褐色土層：粘性弱い・しまりややあり。燒土粒微量含む。
8. 赤褐色土層：粘性弱い・しまりややあり。燒土粒強(燃焼面)
9. にぶい黄褐色土層：粘性弱い・しまりややあり。燒土粒( $\phi 1\text{ cm}$ )少量含む。YPK粒(白粒)微量含む。
10. 黑褐色土層：粘性弱い・しまりあり。燒土粒微量含む。

11. 黑褐色土層：粘性ややや柔らか・しまりあり。燒土粒+YPK粒( $\phi 1\text{ cm}$ )微量含む。
12. 黑褐色土層：粘性弱い・しまりあり。YPK粒少量含む。燒土粒微量含む。
13. 黑褐色土層：粘性弱い・しまりあり。燒土粒+YPK粒微量含む。
14. 黑褐色土層：粘性なし・しまりあり。にぶい黄褐色粘土粒少量含む。燒土粒+YPK粒微量含む。
15. 黑褐色土層：粘性弱い・しまり弱い・ロームブロック( $\phi 5\text{ mm}$ )・炭化粒・燒土粒+YPK粒微量含む。
16. 黑褐色土層：粘性弱い・しまりあり。にぶい黄褐色粘土粒少量含む。ローム粒+YPK粒( $\phi 1\text{ cm}$ )微量含む。
17. 黑色土層：粘性やややあり・しまりあり。炭化粒( $\phi 1\text{ cm}$ )・燒土粒( $\phi 5\text{ mm}$ )・YPK粒微量含む。

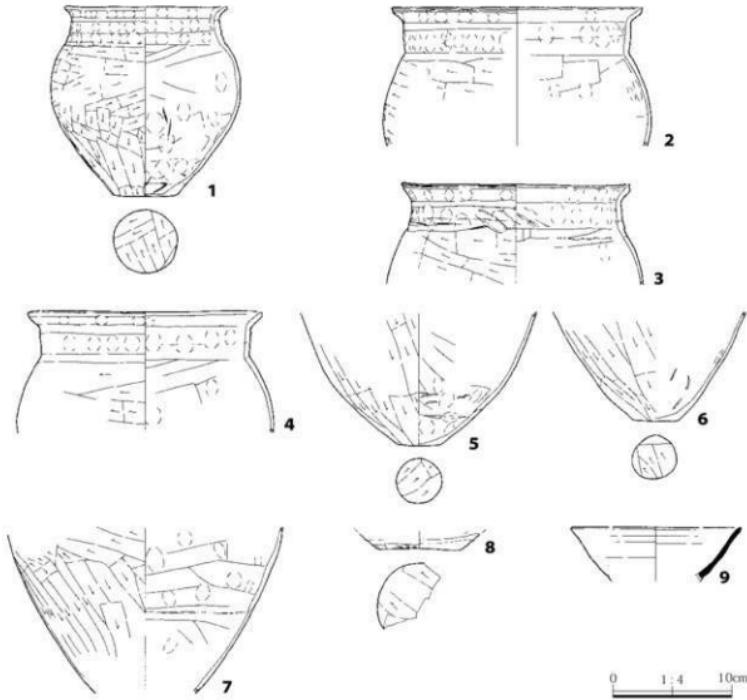


0 1:30 1m

第91図 SI04カマド・カマド掘り方実測図(1/30)



第92図 SI04堀り方実測図・遺物出土状況図(1/60)



第93図 SI04出土遺物実測図(1/4)

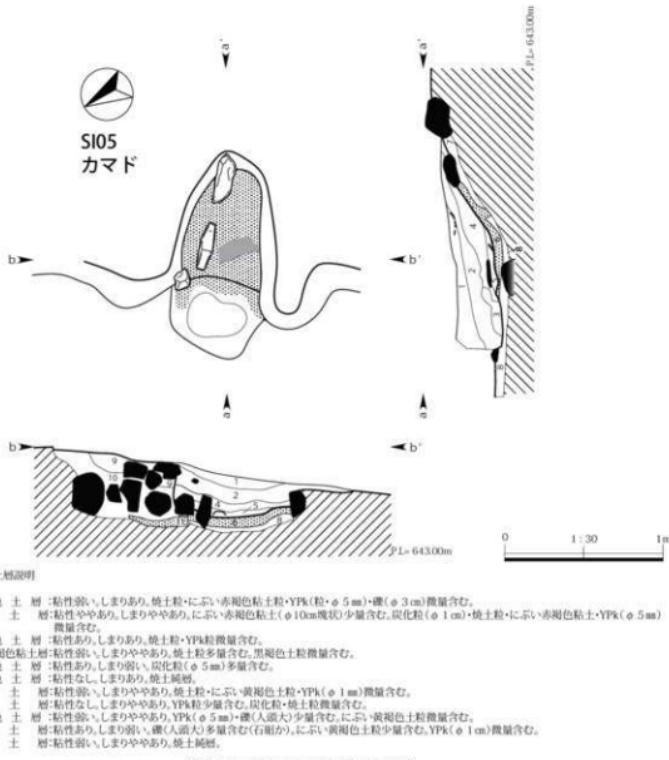
岩がある。 遺物検出状況 住居跡南壁際の床面および床付近から多く出土している。また、カマド及び貯蔵穴付近からは多数のコの字状口縁甕が出土している。 遺物 出土遺物のうち、土師器8点、須恵器1点を図示し得た。 備考 本遺構は、東壁にカマドをもつ2本柱と考えられる小型の堅穴住居跡である。帰属時期は、出土遺物から9世紀後半と考えられる。

## SI05 (第94～98図／PL 69・70・89)

**位置** 2-77区E-4、F-4・5グリッド(2・3区調査区中央部北側)。 **重複関係** 2号焼土遺構と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 2号焼土遺構によって西壁の一部が壊されている。また、南壁はほとんど現存していない。 **覆土** 黒褐色土・黒色土が互層をなし、堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は開丸方形を呈する。主軸は3.67m以上、副軸は3.73m、確認面からの深さは最深78cm、床面積は10.37m<sup>2</sup>を測る。 **主軸方位** N=60°-W **壁・壁溝** 壁高は、東・西壁が55～60cm、北壁が70cm、南壁が6cmを測る。東壁はほぼ垂直に、西・北壁は外傾して立ち上がる。壁溝は南西隅部周辺で確認された。溝幅は18～23cm、床面からの深さは9cmを測る。 **床面** 直床式で、ほぼ全面で踏み締りが確認された。南壁際がやや高いものの、概ね平坦である。 **柱穴** 確認されなかった。 **カマド** 東壁の南隅寄りに位置する。全長は131cm、最大幅は60cmを測る。火床面は9cm掘り込まれ、焼土部分の厚さは6cmを有する。ロームを含む黒褐色土で外形を造り、支持材に切石・自然石が使用されていた。左袖は幅80cmにわたって支持材



第94図 SI05・掘り方実測図 (1/60)



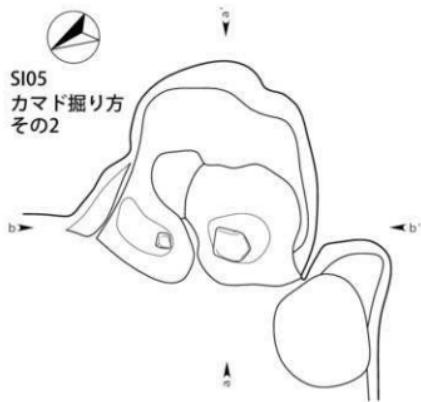
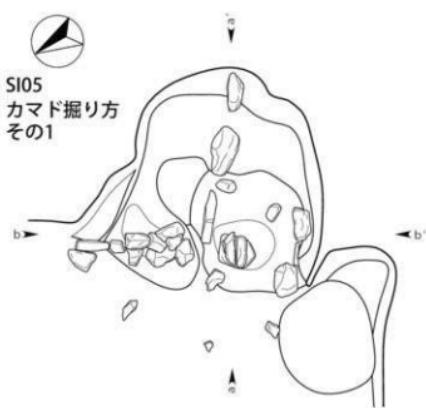
第95図 SI05カマド実測図(1/30)

が置かれている。支持材の下には焼土が堆積していることから、カマドの造り替えが行なわれたと考えられる。

**その他の施設** 眇藏穴1基が確認された。南東隅部に位置し、平面形は円形を呈する。長軸71cm、短軸62cm、床面からの深さ29cmを測る。**遺物検出状況** 出土量は少なく、土器片が西壁際およびカマド内に散見された。床面近くであるが破片が多いことから埋没過程の流れ込みの可能性が高いと考えられる。**遺物** 出土遺物のうち、土師器3点、須恵器4点を図示した。**備考** 本遺構は、柱穴を確認できなかった小型の竪穴住居跡で、カマドは造り替えられていたと考えられる。帰属時期は、出土遺物から9世紀後半と考えられる。

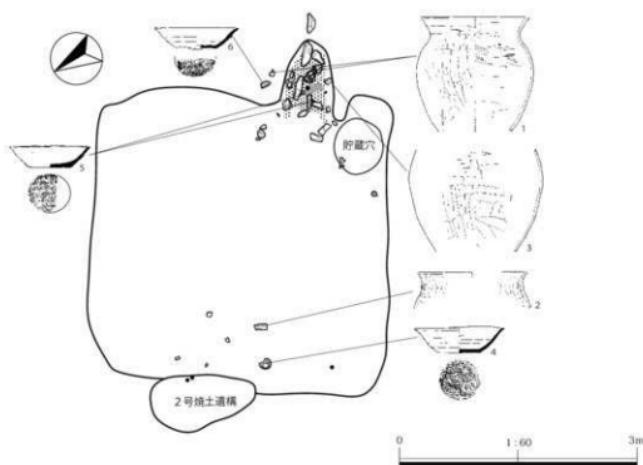
#### SI08 (第99~102図／P L 70・90)

**位置** 2-77区F-7、G-7・8グリッド(2・3区調査区中央部)。**重複関係** なし。**遺存状態** 南東隅部の壁が若干削平されているが、概ね良好である。**覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。中層に多量の炭化材・焼土、下層にロームが含まれている。**平面形と規模** 平面形は隅丸方形を呈する。主軸は3.64m、副軸は4.28m、確認面からの深さは最深56cm、床面積は11.11m<sup>2</sup>を測る。**主軸方位** N-57°-W  
**壁・壁溝** 壁高は、西・北壁が31~39cm、東・南壁が12~17cmを測る。東・西壁はほぼ垂直に、南・北壁は外傾して立ち上がる。壁溝は東壁北半分・北壁・西壁と南壁西半分で確認された。溝幅は16~31cm、

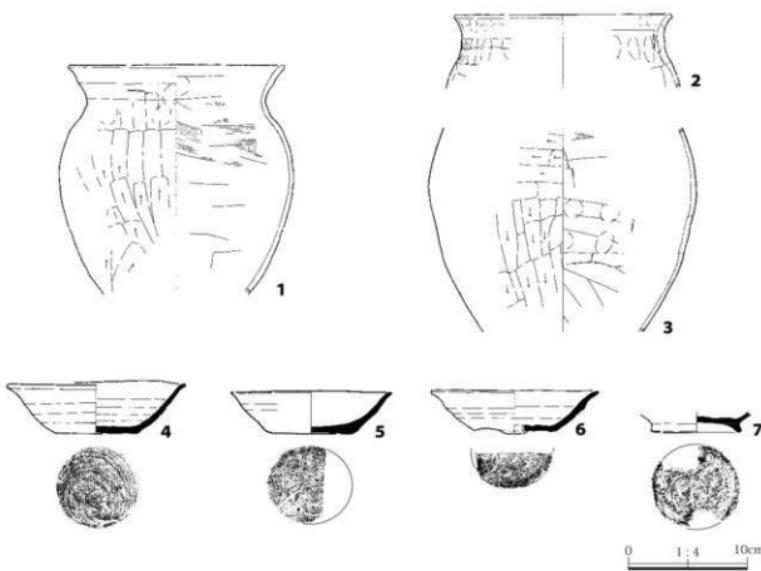


0 1:30 1m

第96図 SI05カマド掘り方実測図(1/30)



第97図 SI05遺物出土状況図(1/60)



第98図 SI05出土遺物実測図(1/4)

床面からの深さは3cmを測る。 **床面** 直床式で、部分的に踏み締りが確認された。南側がわずかに低くなっているが、概ね平坦である。 **柱穴** P1が掘り方で確認された。平面形は円形を呈し、長軸32cm、短軸31cm、床面からの深さ16cmを測る。 **カマド** 東壁のほぼ中央に位置する。全長は113cm、最大幅は140cmを測る。火床面は6cm掘り込まれ、焼上部分は4cmの厚さを有する。ロームを含む黒褐色土で外形を造り、支持材に切石・自然石が使用されていた。また、カマドの前方南側に切石を含むカマド構築土と同じような土の塊が確認されており、壊されたカマドの一部と考えられる。 **その他の施設** 貯蔵穴1基が南東隅部で確認された。平面形は楕円形を呈し、長軸89cm、短軸57cm、床面からの深さは19cmを測る。壁面に、ぶい黄褐色粘質土が貼られていた。 **遺物検出状況** 中位から上位にかけて、多量の炭化材と焼土が出土している。第101図版1・9で樹種同定分析、同図版4で放射性炭素年代測定分析を行なった（第8編自然科学分析）。炭化材は住居跡中央やや南寄りを中心に放射状に出土していることから、焼失住居であると考えられる。土器はあまり多く出土しておらず、住居跡南東部の覆土下層で散見された。床面付近から第102図1の土師器費、同図8の刀子が出土している。 **遺物** 出土遺物のうち、土師器4点、須恵器3点、金属器（刀子）1点を図示した。土師器のロクロ整形小型甕が1点確認され、コの字状口縁甕と共に伴している。 **備考** 本遺構は、柱穴を確認できなかった中型の堅穴住居である。炭化材の出土状況から廃絶後に焼失した住居跡と考えられる。帰属時期は、出土遺物から9世紀後半～10世紀前半と考えられる。

#### SI09 A・B（第103～111図／PL 71・73・90）

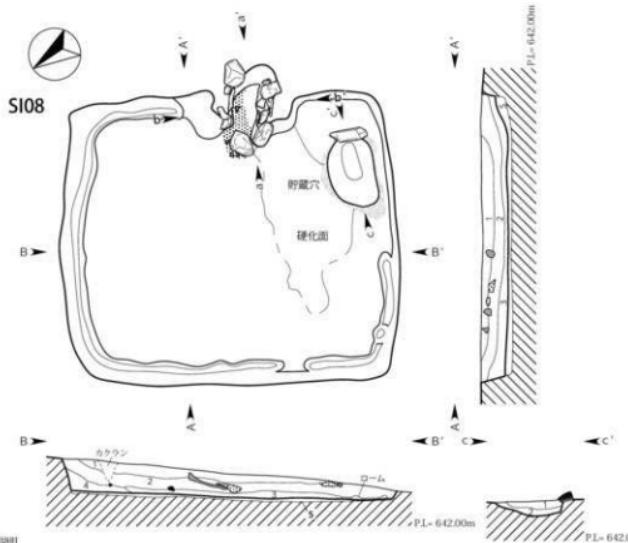
**位置** 2-76区Q・R-1・2グリッド（2面／2・3区調査区北西隅部北壁際）。 **重複関係** 建て替えが行われたと考えられる堅穴住居跡で、新しい方をA、古い方をBとした。ともにSK71と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 北側約1/2が調査区外にある。上部が削平されており、壁の大半が現存していない。

**覆土** 黒色土が基調であるが、下層に黒褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** SI09 Aの平面形は偏丸形を呈すると考えられる。主軸は4.43m、副軸は2.63m以上、確認面からの深さは最深58cm、床面積は9.86m<sup>2</sup>以上を測る。SI09 Bの平面形は偏丸形を呈ると考えられる。主軸は推定4.22m、副軸は1.81m以上、確認面からの深さは最深48cm、床面積は7.78m<sup>2</sup>以上を測る。 **主軸方位**

SI09 A・BともにN-87°-E。 **壁・壁溝** 壁高は、SI09 Aの東・西壁が51～60cm、南壁が10cmを測り、北壁は確認されていない。SI09 Bの西壁が57cmを測り、東・南壁が現存しておらず、北壁は確認されていない。いずれの壁もほぼ垂直に立ち上がる。壁溝はSI09 A・Bともに調査区壁面では確認できたが、平面では確認できなかった。 **床面** SI09 Aは直床式で、一部で貼床、ほぼ全域で踏み締りが確認された。概ね平坦である。SI09 Bは直床式で、北部で貼床、中央部で踏み締りが確認された。概ね平坦である。 **柱穴** SI09 AはP1～P3まで確認された。P3は位置及び規模から壁柱穴と考えられる。SI09 Bは確認されなかった。それぞれの規模は第18表で記載する。 **カマド** SI09 Aは東壁の南 第18表 SI09 Aピット計測表

	P 1	P 2	P 3
長軸長(cm)	53	55	49
短軸長(cm)	40	54	43
深さ(cm)	26	24	29

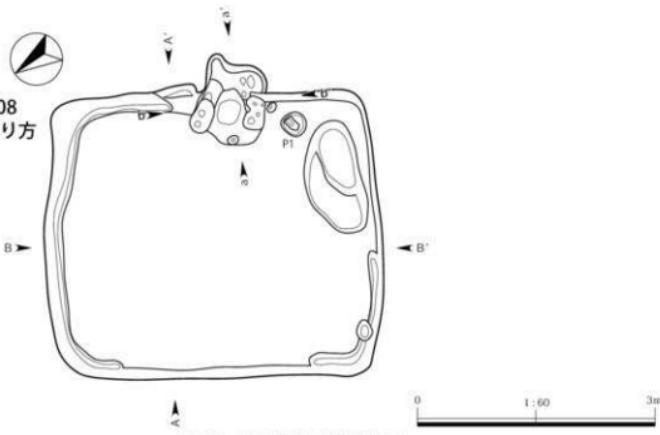
隅付近に位置する。全長は108cm、最大幅は85cmを測る。火床面は15cm掘り込まれている。焼上部分は2面確認され、上面が3cm・下面が5cmの厚さを有する。支脚が刺された状態で出土している。ロームを含む黒褐色土で外形を造り、支持材に切石・自然石が使用されていた。SI09 Bは東壁のほぼ中央に位置すると考えられる。調査区北壁際で確認され大半が調査区外にあることから、規模・構造は不明である。 **その他の施設** SI09 Aは南東隅部で貯蔵穴1基が確認された。平面形は円形を呈する。規模は長軸74cm、短軸72cm、床面からの深さ5cm、最深で11cmを測る。底面には白色粘土が詰められていた。SI09 Bは南東隅部付近で貯蔵穴が確認された。平面形は楕円形を呈する。規模は長軸114cm、短軸88cm、床面からの深さは10cm、最深で37cmを測る。底面には白色・橙色粘土が詰められており、底面上から平らな石が、粘土の下からは高台部の欠損した須恵器皿など多くの土器が出土しており、住居を造り変える際に埋められた可能性が考えられる。 **遺物検出状況** SI09 Aは遺物量が少なく、住居跡全域の床面から散見された。また、覆土下層から炭化材・焼土が出土しており、焼失住居と考えられる。第106図版2で樹種同定分析を行なった（第8編自然

**SI08上層説明****AA' BB'**

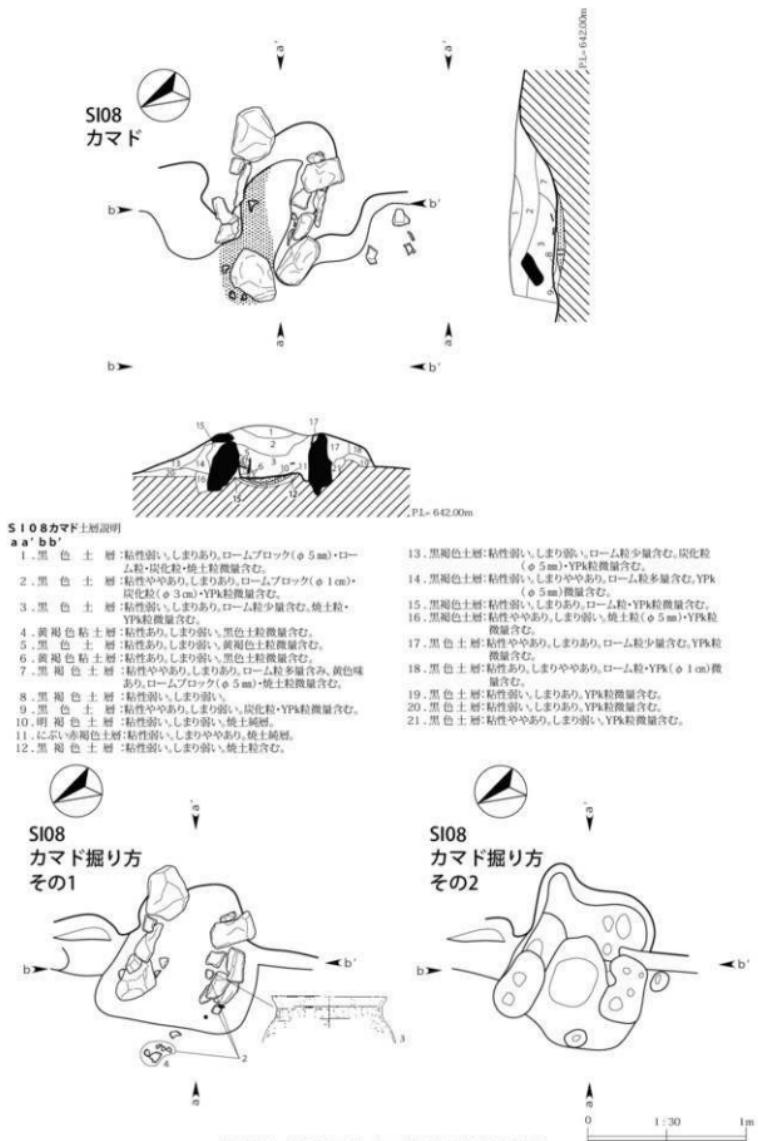
1. 黒色土層: 構造弱い。しまりあり。炭化粒(粒・φ 3cm)・焼土粒・YPk(φ 5mm)微量含む。
2. 黒色土層: 構造やや弱い。しまりあり。炭化材(φ 10cm)多量で10本割合有。焼土粒多量含む。YPk(粒・φ 5mm)微量含む。
3. 黒色土層: 構造やや弱い。しまりあり。ローム粒少量含む。炭化粒(φ 1cm)・焼土粒・YPk粒微量含む。
4. 黒色土層: 構造やや弱い。しまりあり。YPk粒少量含む。焼土粒微量含む。
5. 黒色土層: 構造やや弱い。しまりあり。ローム粒・YPk(φ 1cm)微量含む。

**SI08貯藏穴土層説明****CC'**

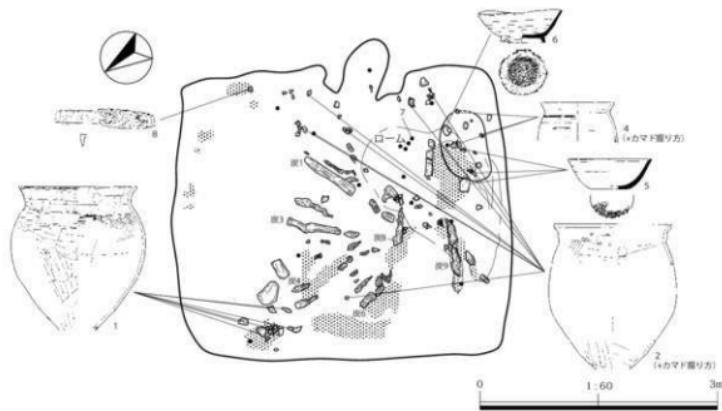
1. 黒色土層: 構造弱い。しまりあり。ローム粒・炭化粒(φ 3cm)にぶつ黄褐色土ブロック(φ 3cm程度)少量含む。
2. 黒色土層: 構造あり。しまりややあり。ローム粒・YPk粒にぶつ黄褐色土ブロック(φ 3cm程度)微量含む。

**SI08  
掘り方**

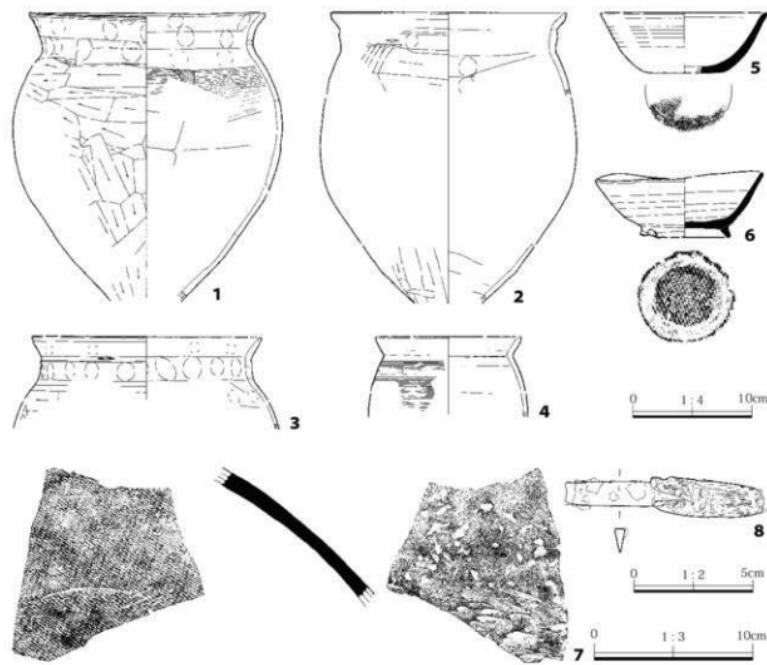
第99図 SI08・掘り方実測図(1/60)



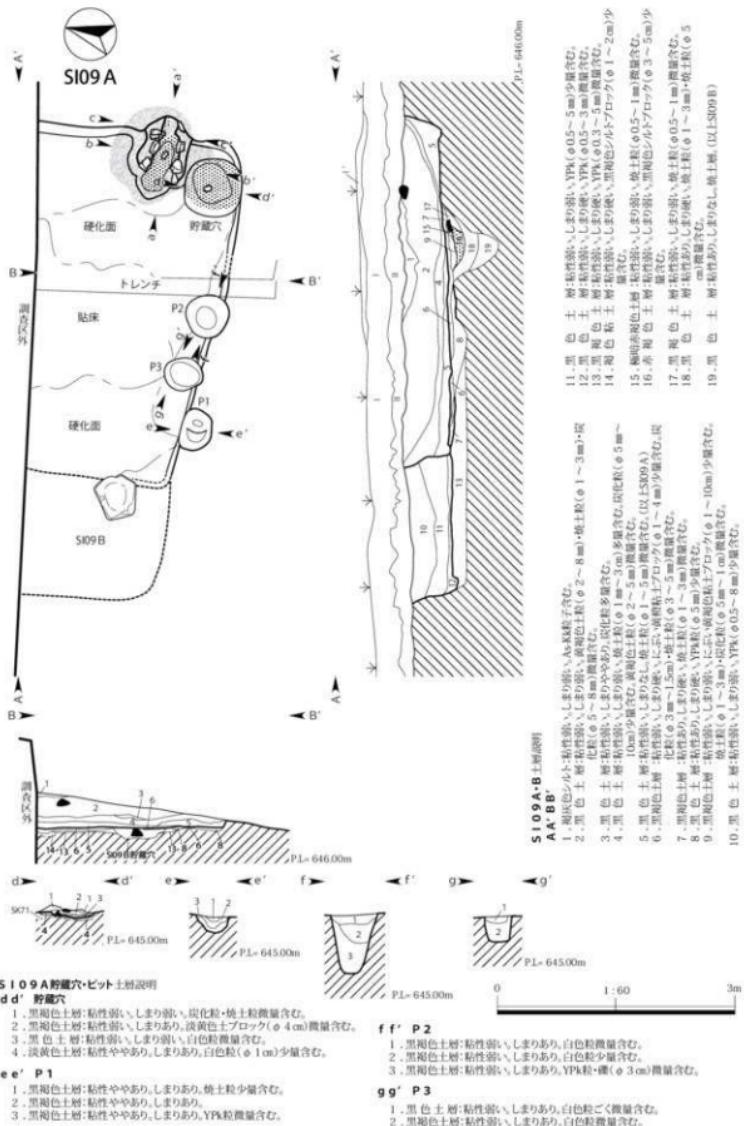
第100図 SI08カマド・カマド掘り方実測図(1/30)



第101図 SI08遺物出土状況図(1/60)

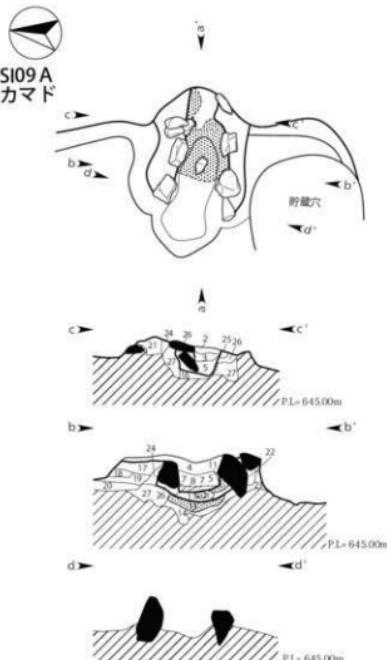


第102図 SI08出土遺物実測図(1/2・1/3・1/4)

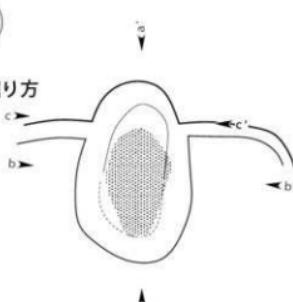


第103回 S109A 実測図(1/60)

SI09 A  
カマド



SI09A



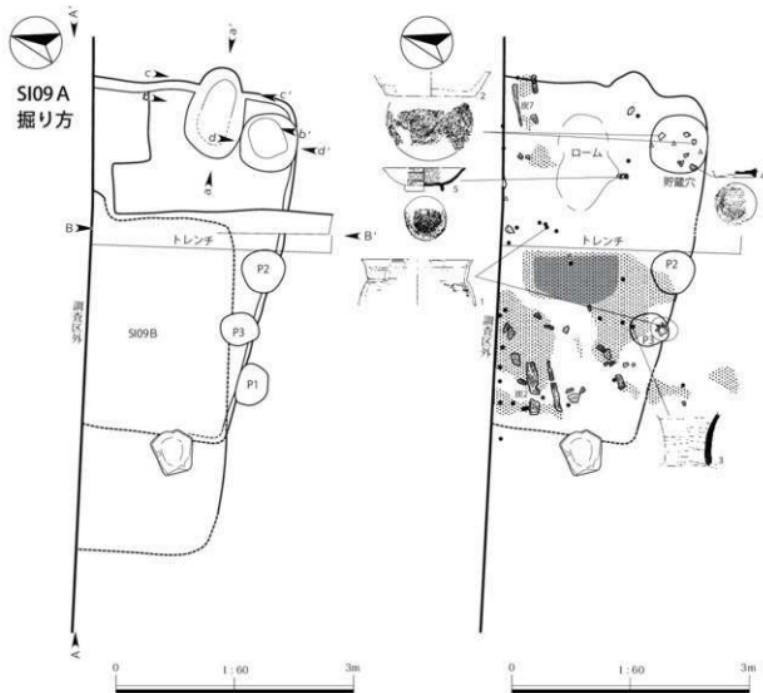
第104図 SI09Aカマド・カマド掘り方実測図(1/30)

S109Aカマド土壌説明

aa' bb' cc'

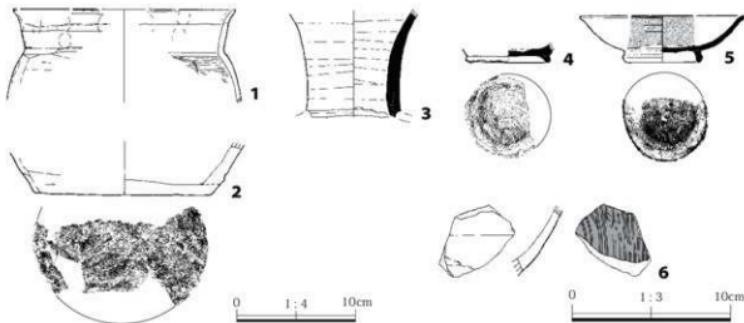
1. 黒褐色土層 性弱い。しまりあり。供試土（約 5 mm）・埴土類・YPKf・培根土粘質土微含む。
  2. 黒褐色土層 性弱い。しまりややあり。埴土類少含量含む。化粧粒・YPKf・微含む。
  3. 黒褐色土層 性弱い。しまりあり。埴土類（約 5 mm）・YPKf微含む。
  4. 黑褐色土層 性弱い。しまりややあり。埴土類（約 5 mm）・YPKf・5 mm）・培根土粘質土微含む。
  5. 黑褐色土層 性弱い。しまりややあり。培根土粘質土粒多量含む。埴土類（約 5 mm）・YPKf・微含む。繆（季）等。
  6. 黑褐色土層 性弱い。しまりあり。ローム・埴土類粘質土含む。性ややや弱い。しまりあり。埴土類少含量含む。化粧粒・微含む。
  7. 黑褐色土層 性弱い。しまり弱い。埴土類（約 5 mm）少含量含む。
  8. 黄褐色土層 性弱い。しまり弱い。
  9. 黄褐色土層 性弱い。しまりややあり。埴土類・黒褐色土粒少量含む。
  10. 黑褐色土層 性弱い。しまり弱い。ローム粒少量含む。化粧粒・黒褐色土粒少量含む。ロームブロック（約 8 mm）。
  11. 棕色土層 性弱い。しまりややあり。黒褐色土粒微細含む。
  12. 淡黃褐色土層 性弱い。しまりやや弱い。
  13. 紅褐色土層 性弱い。
  14. にぶら紅褐色土層 性弱い。しまり弱い。
  15. 棕色土層 性弱い。しまりやや弱い。黒褐色土粒少量含む。
  16. にぶら紅褐色土層 性弱い。しまりやや弱い。黒褐色土粒微量含む。
  17. 黑褐色土層 性弱い。しまり弱い。ローム粒少量含む。ロームブロック（約 5 mm）・培根土微含む。
  18. 黄褐色土層 性弱い。しまりやや弱い。しまりあり。化粧粒・黒褐色土粒微量含む。
  19. 浅黃褐色土層 性弱い。しまりやや弱い。しまりあり。黒褐色土ブロック（約 10 mm）少含量含む。埴土類・淡黄褐色土粒微量含む。
  20. 黑褐色土層 性弱い。しまりあり。
  21. 黑褐色土層 性弱い。しまり弱い。ローム粒少量含む。
  22. 黑褐色土層 性弱い。しまりあり。埴土類微量含む。
  23. にぶら紅褐色土層 性弱い。しまりやや弱い。黒褐色土粒微量含む。
  24. 淡黃褐色土層 性弱い。しまりやや弱い。しまりあり。埴土類微量含む。
  25. 棕褐色土層 性弱い。しまりやや弱い。しまりあり。埴土類微量含む。
  26. 黑褐色土層 性弱い。しまりやや弱い。埴土類微量含む。
  27. 黄褐色土層 性弱い。しまりやや弱い。埴土類微量含む。黒褐色土粒微量含む。



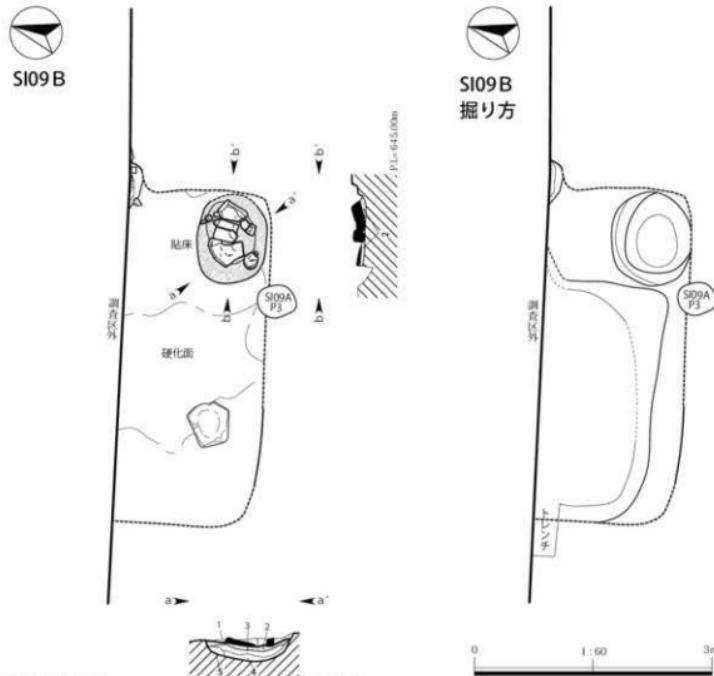


第105図 SI09 A 掘り方実測図 (1/60)

第106図 SI09 A 遺物出土状況図 (1/60)



第107図 SI09 A 出土遺物実測図 (1/3 + 1/4)

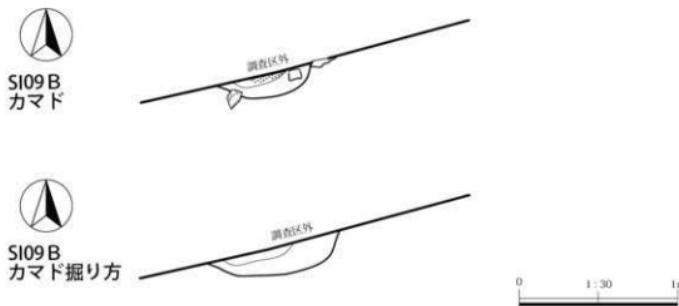


S109B貯藏穴土層說明

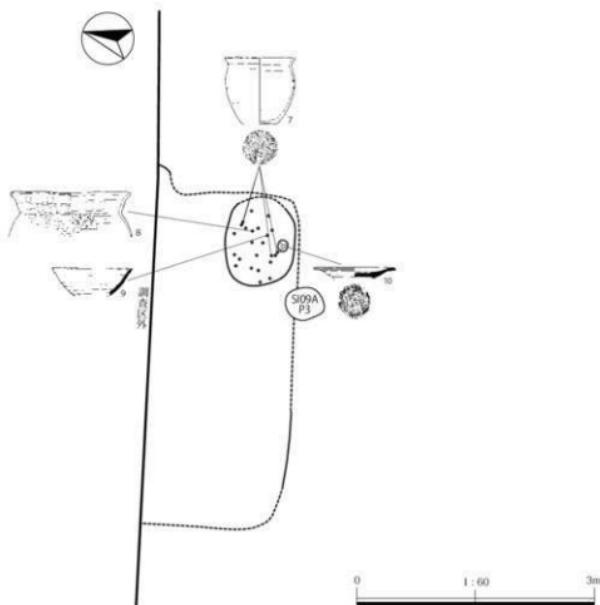
a' b b'

- 1. 黒褐色土層(粘性弱い)、しまり硬い、ロムブロッケ( $\phi 1\sim2\text{cm}$ )・炭化物( $\phi 1\sim2\text{cm}$ )・焼土粒( $\phi 1\sim2\text{cm}$ )・微量含む。
  - 2. 黄褐色土層(粘性なし)、しまり弱い、黄褐色シルバーブロック( $\phi 5\sim20\text{cm}$ )・多量含む。炭化土塊・ロムブロッケ( $\phi 3\text{cm}\sim1\text{cm}$ )・炭化物( $\phi 5\text{mm}\sim1\text{cm}$ )・微量含む。
  - 3. 暗赤褐色土層(粘性弱い)、しまり硬い、焼土粒( $\phi 1\sim2\text{cm}$ )・多量含む、焼土粒( $\phi 1\sim2\text{cm}$ )・少量含む。炭化物( $\phi 5\text{mm}\sim1\text{cm}$ )・微量含む。
  - 4. 黑褐色土層(粘性弱い)、しまり弱い、黄褐色粘土ブロック( $\phi 1\sim10\text{cm}$ )・多量含む。
  - 5. 黑褐色土層(粘性弱い)、しまり弱い、YPC( $\phi 0.5\sim1\text{cm}$ )・微量含む。

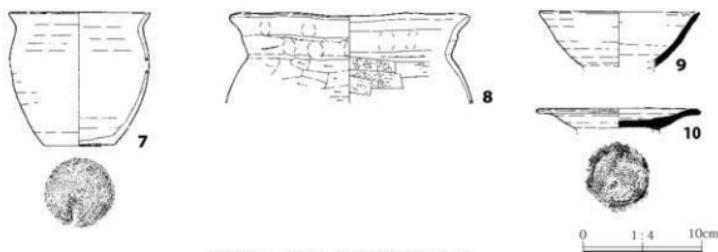
第108図 SI09B・掘り方実測図(1/60)



第109図 SI09B カマド・カマド掘り方実測図(1/30)



第110図 SI09 B貯蔵穴遺物出土状況図(1/60)



第111図 SI09 B出土遺物実測図(1/4)

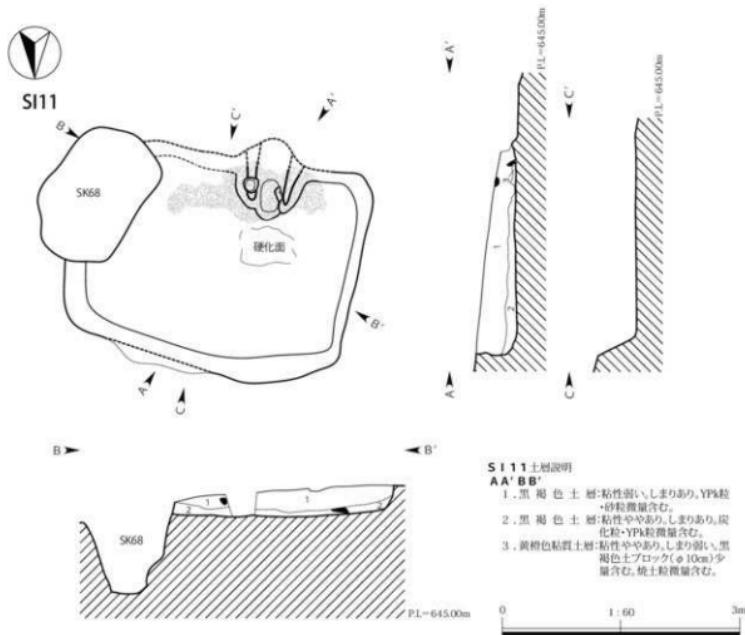
科学分析)。SI09 Bは遺物量が少なく、覆土中からはわずかに散見された程度であるが、埋められたと考えられる貯蔵穴からは比較的多くの土器片が出土している。 遺物 出土遺物のうちSI09 Aは土師器2点、土師質土器1点、須恵器2点、灰釉陶器1点を図示し得た。SI09 Bは土師器2点、須恵器2点を図示し得た。その内、小型口クロ彫とコの字状口縁彫が共伴している。 備考 本遺構は、ほぼ同じ位置で建て替えが行われたと考えられる竪穴住居跡である。カマドの位置がSI09 Bは東壁中央に、SI09 Aが東壁南隅寄りにあることから、カマド位置が南側に推移したことが窺える。帰属時期は、出土遺物からSI09 Aが9世紀後半～10世紀前半頃、SI09 Bが9世紀後半頃と考えられる。

## SI11 (第112~115図/P.L.71・73・90)

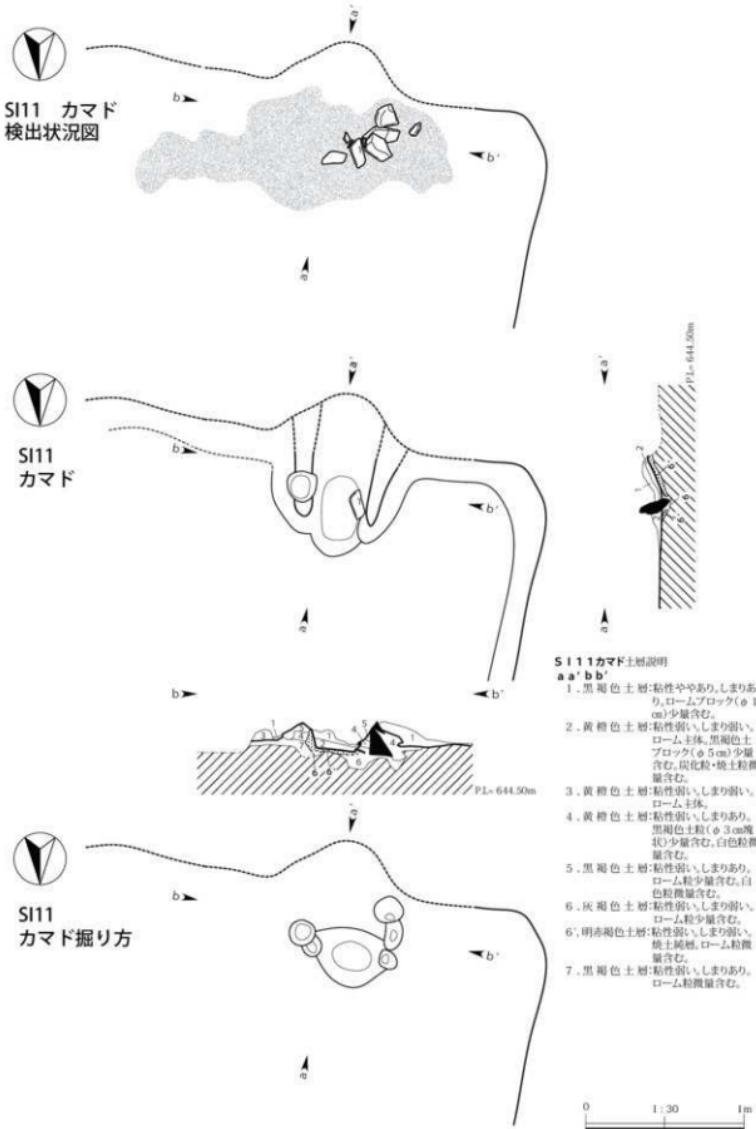
**位置** 2-76区S・T-1・2グリッド(2面/2・3区調査区北西隅部)。 **重複関係** SK68と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** SK68に南東隅部を壊されている。また、南壁も削平されている。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。主軸は2.78m、副軸は3.62m以上、確認面からの深さは最深53cm、床面積は6.75m<sup>2</sup>以上を測る。 **主軸方位** N-11°-E **壁・壁溝**

壁高は、北壁が46cm、東・西壁が29cmを測る。南壁は現存していない。いずれの壁もほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は確認されなかった。 **柱穴** 確認されなかった。 **カマド** 南壁の中央やや西寄りに位置する。遺存状態が悪く、全長は103cm、最大幅は86cm以上を測る。火床面は4cm掘り込まれ、焼土部分の厚さは3cmを有する。ロームブロックを含む黒褐色土で外形を造り、支持材に切石が使用されていた。 **その他の施設** 確認されていない。 **遺物検出状況** 南西部の床面付近から多く出土している。 **遺物** 出土遺物のうち、土師器1点、土師質土器3点、須恵器4点、灰釉陶器1点を図示した。1点が墨書き土器で、吉井型羽釜と月夜野型羽釜とが共伴している。

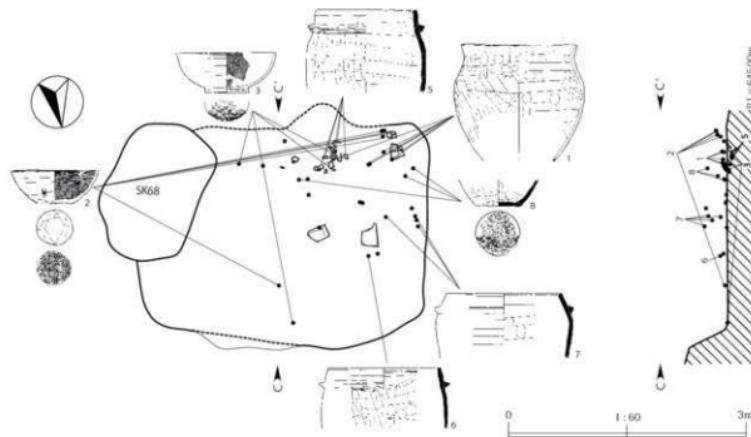
**備考** 本遺構は、南壁にカマドを持つ小型の竪穴住居跡である。帰属時期は、出土遺物から9世紀後半~10世紀前半と考えられる。



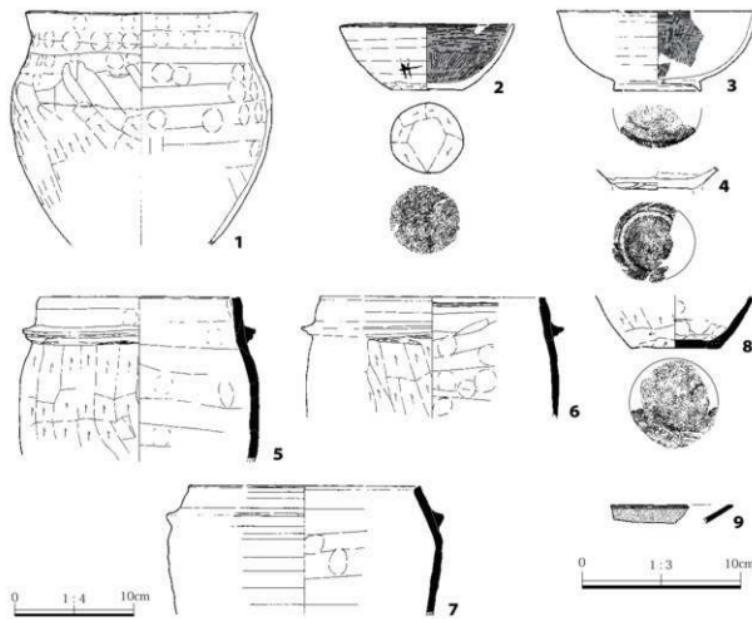
第112図 SI11実測図(1/60)



第113図 SI11カマド検出状況図・カマド・カマド掘り方実測図(1/30)



第114図 SI11遺物出土状況図(1/60)



第115図 SI11出土遺物実測図(1/3・1/4)

## SI13 (第116~121図/P L 72・73・90)

**位置** 2-77区N・O-10・11グリッド (2・3区調査区北東隅部)。 **重複関係** SI14、SK73・103・104と重複し、本遺構はSI14、SK73より古く、SK103・104よりは新しいと考えている。 **遺存状態** 北東隅部がSK73によって、上部がSI14によって壊されているが、概ね良好である。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は隅丸方形を呈する。主軸は3.57m、副軸は4.11m以上、確認面からの深さは最深41cm、床面積は9.92m<sup>2</sup>以上を測る。 **主軸方位** N-72°-E **壁・壁溝** 壁高は、東・西・南壁が6~16cm、北壁が24cmを測る。東・西壁は大きく外傾し、南・北壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は確認されなかった。 **床面** 直床式であるが、貼床や踏み締りは確認されなかった。南東側に向かって非常に緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。 **柱穴** P 1 ~ P 4まで確認され、その内のP 3・P 4は掘り方から確認された。平面形は円形を呈する。P 1はやや深いことから主柱穴の可能性がある。それぞれの規模は第19表に記載する。 **カマド** 東壁の南隅寄りに位置する。第19表 SI13ピット計測表

全長92cm、最大幅62cmを測る。火床面は11cm掘り込まれ、焼土部分は11cmの厚さを有する。土層観察の結果、地山掘り残して外形を造っていたと判断した。 **その他の施設** 確認されなかった。 **遺物検出状況** 遺物量は少なく、住居跡中央部の覆土中で散見された。

**遺物** 出土遺物のうち、土師器2点、須恵器2点を図示し得た。 **備考** 本遺構は、東壁の南隅寄りにカマドを持つ小型の竪穴住居跡である。帰属時期は、出土遺物から9世紀後半頃と考えられる。

## SI14 (第122~126図/P L 72・73・90)

**位置** 2-77区N・O-11グリッド (2・3区調査区北東隅部)。 **重複関係** SI13、SK73・103・104と重複し、本遺構はSK73より古く、SI13、SK103・104より新しい。 **遺存状態** 遺構確認時に1軒の竪穴住居跡と土坑1基の重複と判断して掘り下げを行なったため、床面の大半を下のSI13まで掘り下げてしまった。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。上層にAs-Kkが多く堆積する。 **平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。主軸は3.29m以上、副軸は4.66m、確認面からの深さは最深56cm、床面積は推定14.23m<sup>2</sup>を測る。 **主軸方位** N-3°-E **壁・壁溝** 壁高は、東・西壁が7cm、南・北壁が15cmを測る。東・西壁は大きく外傾し、南・北壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は確認されていない。 **床面** 直床式であるが、貼床や踏み締りは確認されなかった。中央部がわずかに高いものの、概ね平坦である。 **柱穴** P 1 ~ P 3まで確認され、P 3は掘り方で確認された。平面形は梢円形を呈する。P 1・P 2は南東・南西隅部に位置していることから主柱穴(壁柱穴)の可能性が考えられる。それぞれの規模は第20表に記載する。

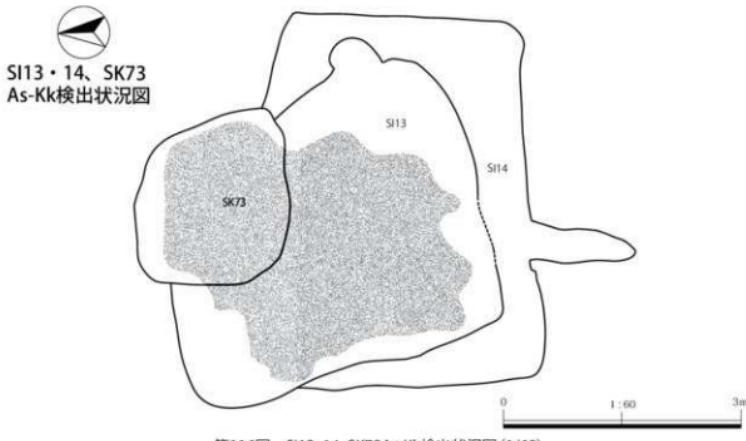
**カマド** 南壁の中央西隅寄りに位置する。全長177cm、最大幅75cmを測る。火床面は7cm掘り込まれ、焼土部分は7cmの厚さを有する。ロームを含む黒褐色土で外形を造り、支持材に切石・自然石が使用されていた。 **その他の施設** 確認されていない。 **遺物**

**検出状況** 遺物量は非常に少なく、南西隅部の覆土下層で散見された。 **遺物** 出土遺物のうち、須恵器3点を図示し得た。 **備考** 本遺構は、南壁ほぼ中央にカマドを持つ中型の竪穴住居跡である。帰属時期は、上層にAs-Kkが堆積していること及び出土遺物から10世紀前半頃と考えられる。

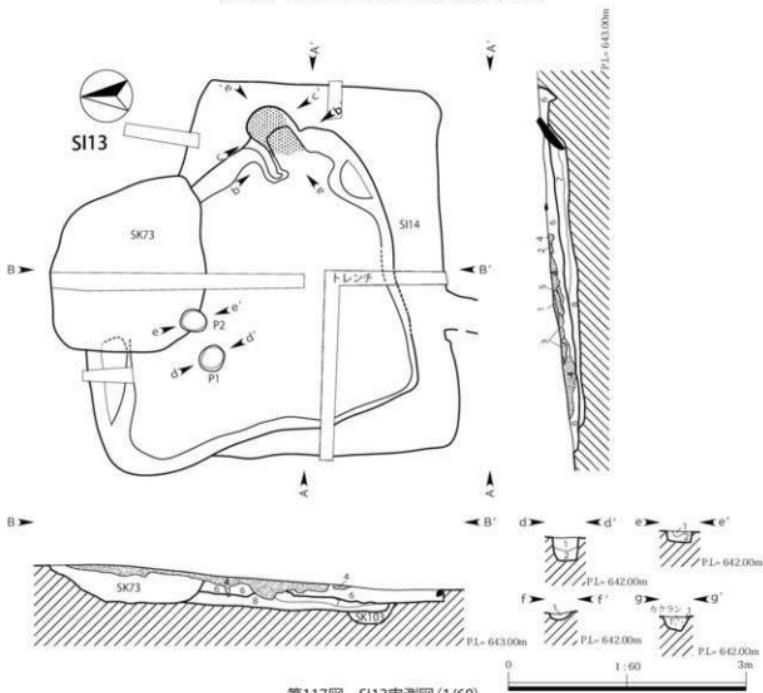
	P 1	P 2	P 3	P 4
長軸長(cm)	33	33	28	33
短軸長(cm)	32	28	26	25
深さ(cm)	30	16	12	15

第20表 SI14ピット計測表

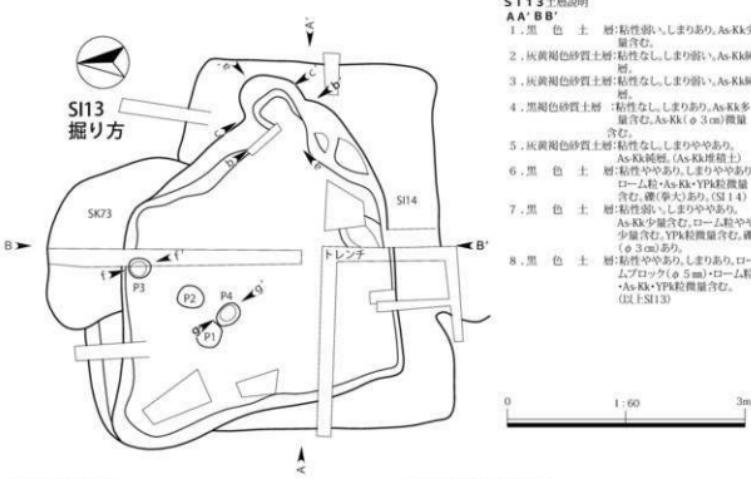
	P 1	P 2	P 3
長軸長(cm)	48	34	40
短軸長(cm)	36	28	(31)
深さ(cm)	12	20	12



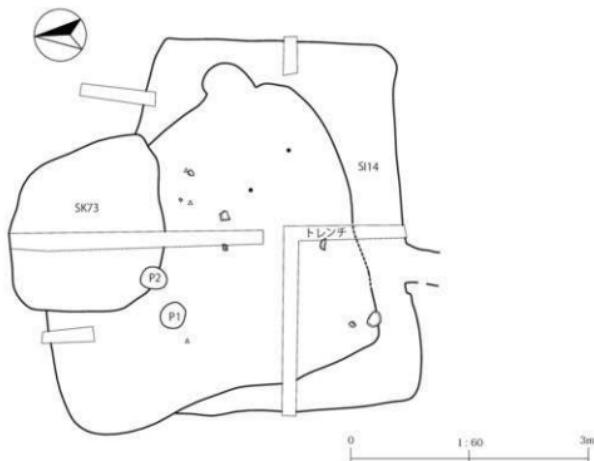
第116図 SI13・14、SK73As-Kk検出状況図 (1/60)



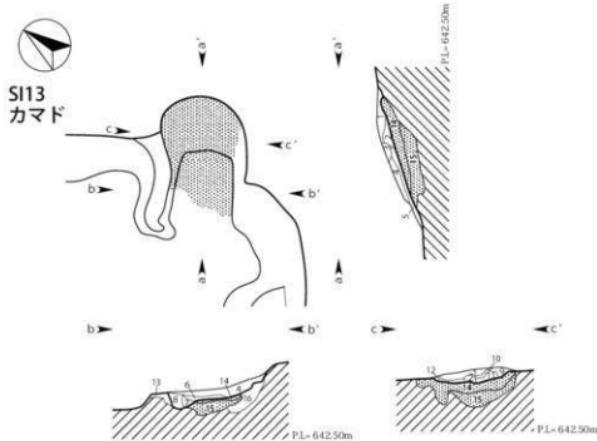
第117図 SI13実測図 (1/60)



第118図 SI13掘り方実測図(1/60)



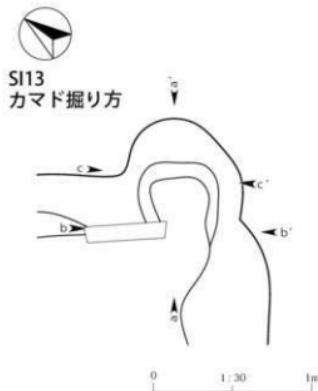
第119図 SI13遺物出土状況図(1/60)



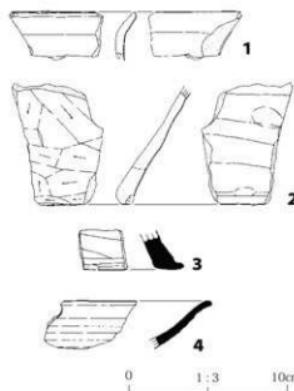
SI13カマド土層説明

a-a' bb' cc'

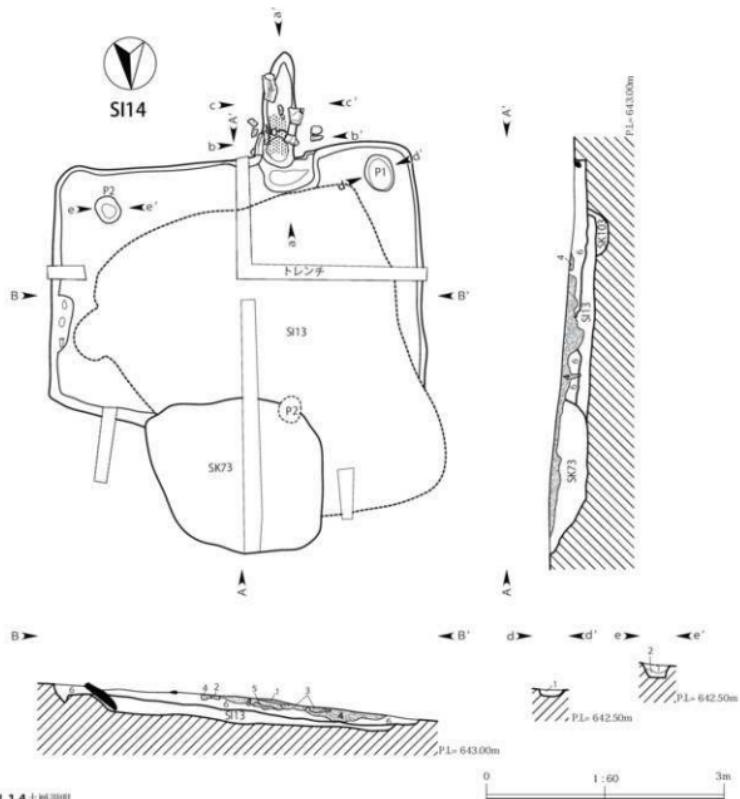
1. 黒褐色土層(粘性なし)しまりややあり。ローム粒微量含む。炭化粒( $\phi 1\text{ cm}$ )あり。
2. 明褐色土層(粘性弱い)しまり弱い。焼土粒多量含む。炭化粒微量含む。
3. 褐色砂質土層(粘性なし)しまりあり。焼土粒微量含む。
4. 黒色土層(粘性なし)しまりややあり。ローム粒・焼土粒・白色粒微量含む。ロームブロック( $\phi 1\text{ cm}$ )あり。
5. 黑褐色土層(粘性弱い)しまりややあり。ローム粒・焼土粒・白色粒微量含む。
6. 黑褐色土層(粘性弱い)しまりややあり。ローム粒・焼土粒・白色粒微量含む。
7. 褐色粘土層(粘性強め)しまりあり。ローム粒少量含む。焼土粒微量含む。炭化粒( $\phi 1\text{ cm}$ )・焼土粒( $\phi 1\text{ cm}$ )・白色粒( $\phi 1\text{ cm}$ )あり。
8. 黑褐色土層(粘性弱い)しまり弱い。焼土粒微量含む。白色粒ごく微量含む。炭化粒( $\phi 0.3\text{ cm}$ )あり。
9. 黑褐色土層(粘性弱い)しまり弱い。焼土粒微量含む。白色粒( $\phi 0.3\text{ cm}$ )あり。
10. 褐色粘土層(粘性強め)しまりあり。ローム粒微量含む。焼土粒微量含む。白色粒ごく微量含む。
11. 褐色粘土層(粘性弱い)しまりやや弱い。焼土粒微量含む。燒土粒( $\phi 0.3\text{ cm}$ )・白色粒微量含む。ローム粒ごく微量含む。
12. 黑褐色土層(粘性弱い)しまりやや弱い。焼土粒微量含む。燒土粒( $\phi 0.5\text{ cm}$ )・白色粒微量含む。
13. 黑褐色土層(粘性ない)しまり弱い。焼土粒( $\phi 3\text{ cm}$ 塊状)少量含む。ロームブロック( $\phi 1\text{ cm}$ )・炭化粒・焼土粒( $\phi 5\text{ mm}$ )微量含む。
14. 明褐色土層(粘性弱い)しまりあり。焼土粒( $\phi 3\text{ mm}$ )大量含む。
15. 黑褐色土層(粘性弱い)しまりあり。焼土粒微量含む。炭化粒・Ypk( $\phi 5\text{ mm}$ )・白色粒微量含む。
16. 黑褐色土層(粘性弱い)しまりあり。焼土粒少量含む。炭化粒・Ypk( $\phi 5\text{ mm}$ )・白色粒微量含む。



第120図 SI13カマド・カマド掘り方実測図(1/30)



第121図 SI13出土遺物実測図(1/3)



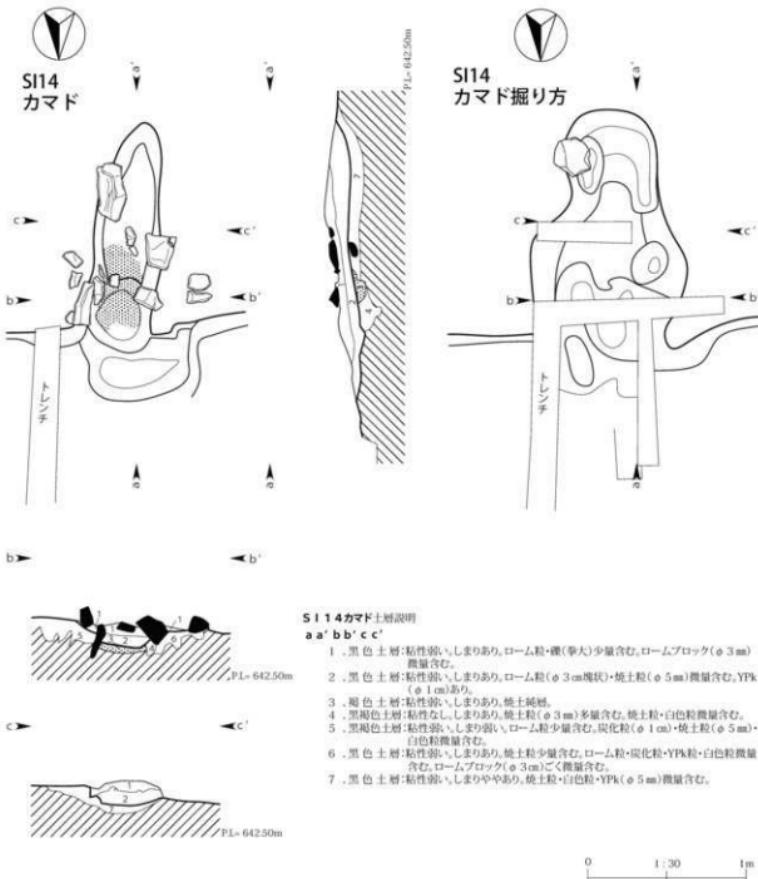
**SI14ピット上層説明  
AA'-BB'**

1. 黒色土層：粘性弱い、しまりあり、As-Kk少量含む。
2. 灰黄色砂質土層：粘性なし、しまり弱い、As-Kk純剤。
3. 灰黄色砂質土層：粘性なし、しまり弱い、As-Kk純剤。
4. 黑褐色砂質土層：粘性なし、しまりあり、As-Kk多量含む、As-Kk(Φ 3cm)微量含む。
5. 灰黄色砂質土層：粘性なし、しまりややあり、As-Kk純剤。(As-Kk堆積土)
6. 黒色土層：粘性ややあり、しまりややあり、ローム粒・As-Kk・Ypk粒微量含む。礫(拳大)あり。(SI14)

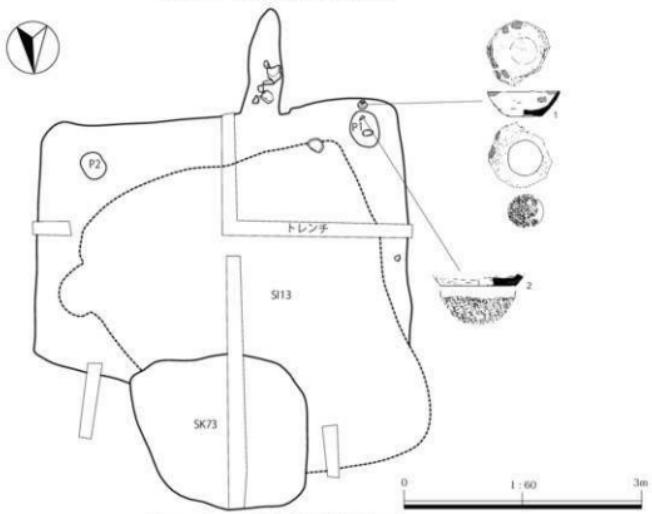
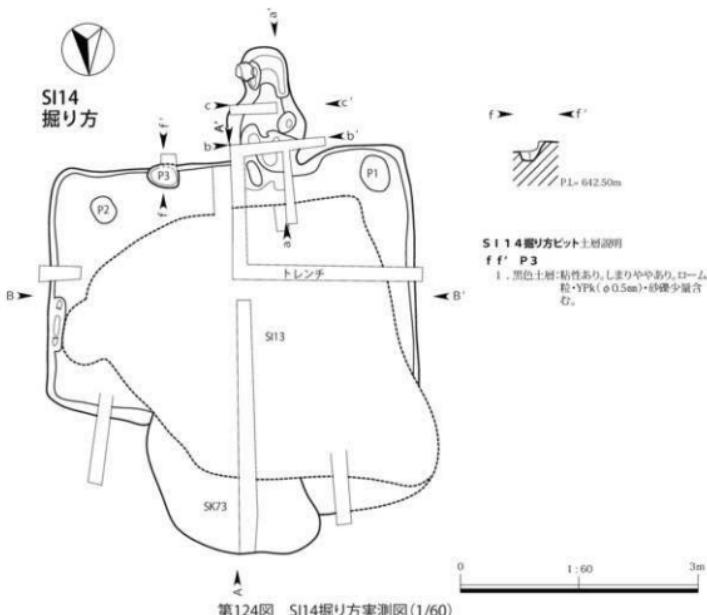
**SI14ピット上層説明  
dd'-P1**

1. 黒色土層：粘性あり、しまりややあり、Ypk粒微量含む、Ypk(Φ 5mm)ごく微量含む。
2. 黒色土層：粘性弱い、しまりややあり、Ypk粒ごく微量含む。

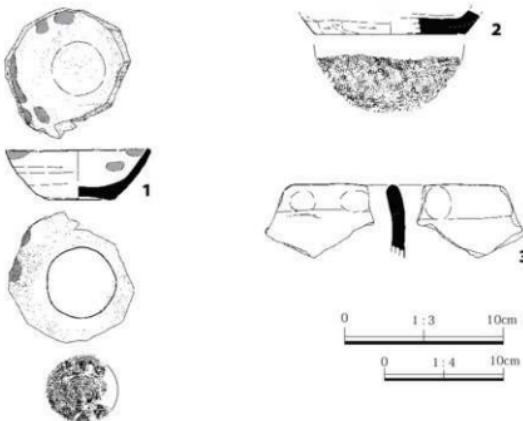
第122図 SI14実測図(1/60)



第123図 SI14カマド・カマド掘り方実測図(1/30)



第125図 SI14遺物出土状況図(1/60)



第126図 S114出土遺物実測図(1/3・1/4)

## S115(第127~130図/P L 73・74・91)

**位置** 2-77区M-9・10グリッド(2・3区調査区東部北側)。**重複関係** SK85と重複し、本遺構の方が古い。**遺存状態** 上部が削平されており、壁の大半が現存していない。また南西隅部がSK85によって壊されている。**覆土** 黒色土が基準で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は隅丸方形を呈する。主軸は3.31m、副軸は2.72m、確認面からの深さは最深24cm、床面積は6.27m<sup>2</sup>を測る。**主軸方位** N-30°-E。**壁・壁溝** 壁高は、東・北壁が11~16cmを測り、西・南壁はほとんど現存していない。東・北壁は外傾して立ち上がる。壁溝は確認されなかった。**床面** 直床式で、南側約3/4の範囲で貼床と踏み締りが確認された。概ね平坦である。**柱穴** P1~P3まで確認された。平面形は円形が主体で、いずれも東壁際に位置する。P2・P3は壁柱穴と考えられる。それぞれの規模は、第21表に記載する。

**カマド** 南壁の中央東寄りに位置する。全長133cm、最大幅60cm 第21表 S115ピット計測表

を測る。火床面は15cm掘り込まれ、焼土部分は10cmの厚さを有する。

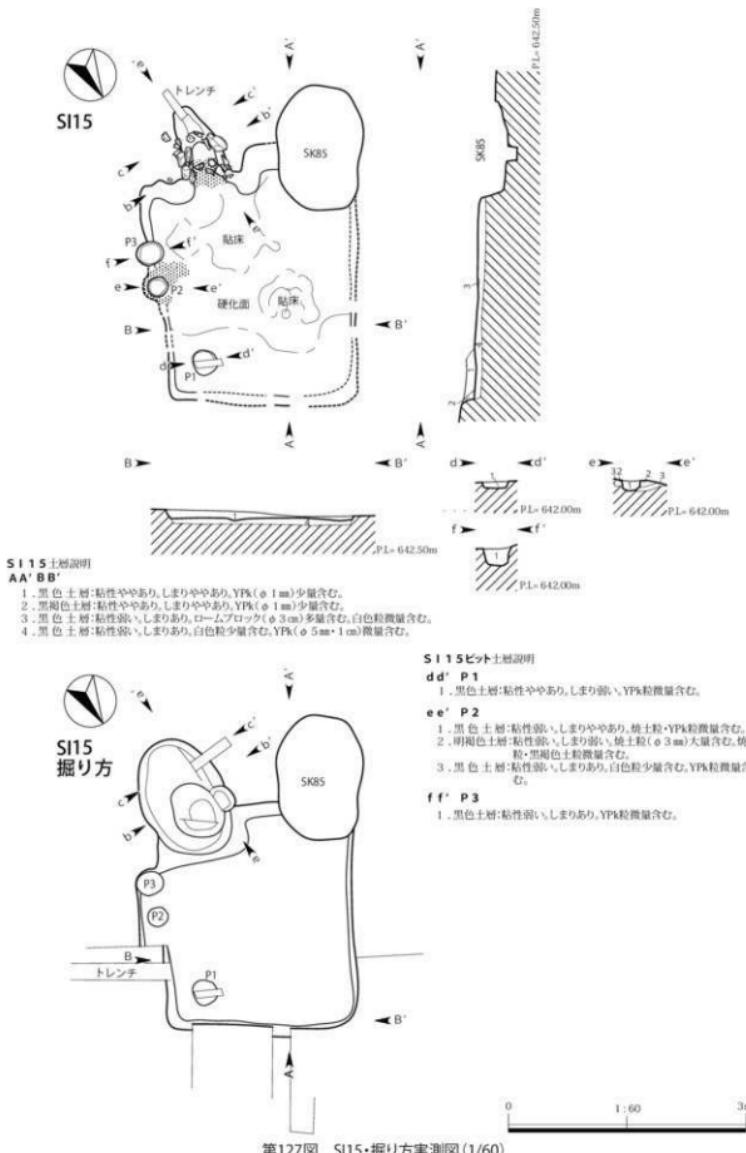
ロームブロックを含む黒褐色土で外形を造り、支持材に切石・自然石が使用されていた。

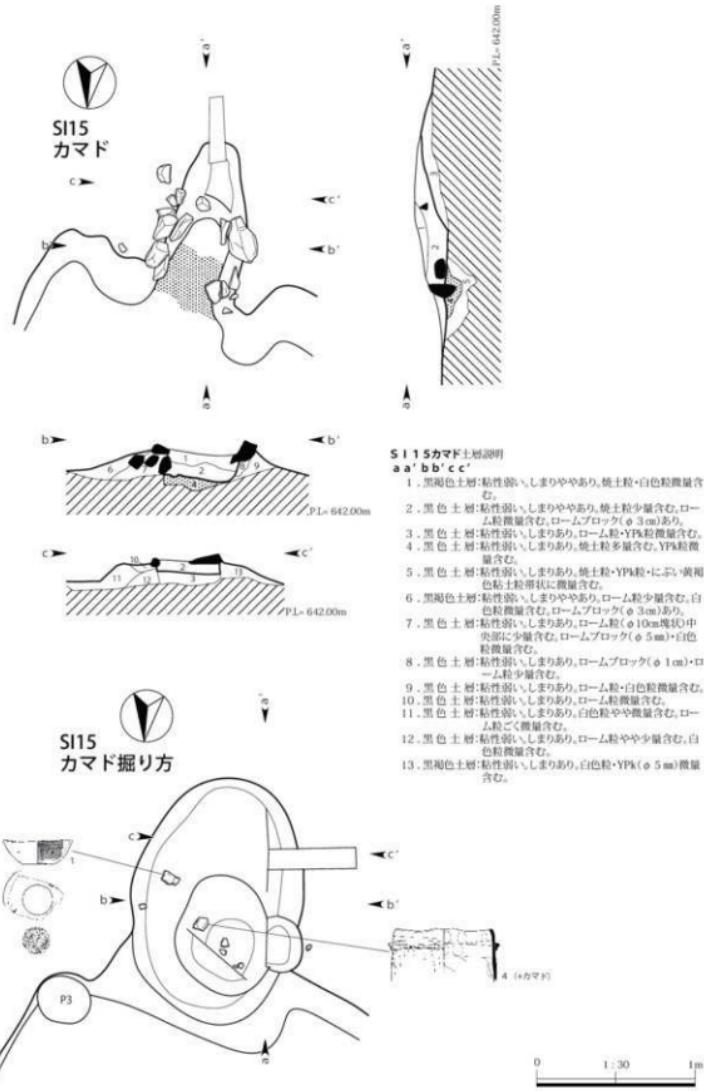
**その他の施設** 確認されていない。

**遺物検出** 遺物量は少なく、南東隅付近の床面及び床面付近で散見された。

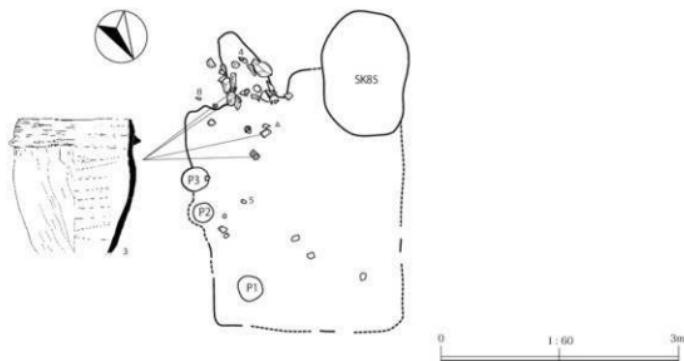
**遺物** 出土遺物のうち、土師器3点、土師質土器2点、須恵器4点を図示した。 **備考** 本遺構は、南壁にカマドを持つ小型の窓穴住居跡である。帰属時期は、出土遺物から10世紀前半と考えられる。

	P 1	P 2	P 3
長軸長(cm)	32	25	34
短軸長(cm)	31	25	29
深さ(cm)	9	16	24

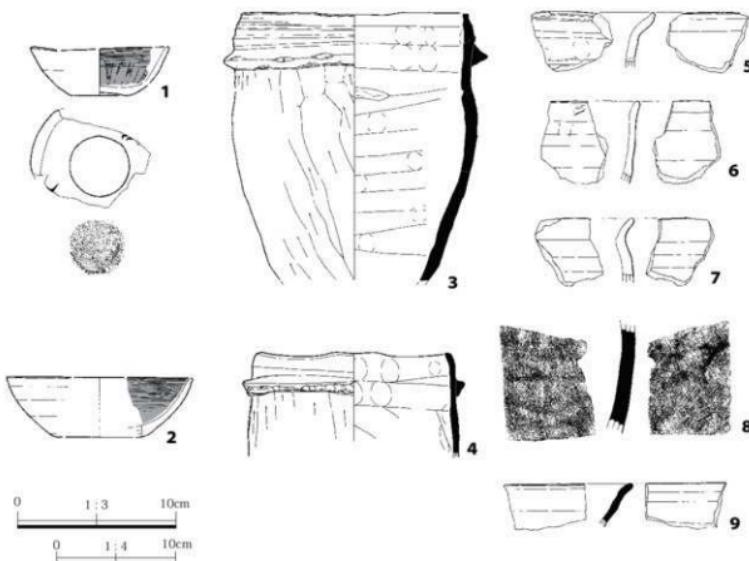




第128図 SI15カマド・カマド掘り方実測図(1/30)



第129図 SI15遺物出土状況図(1/60)



第130図 SI15出土遺物実測図(1/3・1/4)

## SI16 (第131～137図／PL 74・75・91)

**位置** 2-77区N・O-9・10グリッド(2・3区調査区北東隅部)。**重複関係** SK96と重複している。重複部分が少ないため新旧関係は判断できなかったが、本遺構の方が古いと思われる。**遺存状態** 概ね良好である。

**覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は隅丸方形を呈する。主軸は3.58m、副軸は3.82m、確認面からの深さは最深52cm、床面積は9.43m<sup>2</sup>を測る。**主軸方位** N-10°-E **壁・壁溝** 壁高は東・北壁が64～68cm、西・南壁が30～37cmを測る。東・西壁はほぼ垂直に、南・北壁は外傾して立ち上がる。壁溝は、西・南・北壁の一部で確認された。溝幅は20～24cm、床面からの深さは6cmを測る。**床面** 直床式で、東半分で踏み締りが確認された。概ね平坦である。**柱穴** P1～P5まで確認され、P3～P5は掘り方で確認された。平面形は楕円形・不整円形を呈する。P1は主柱穴と考えられる。それぞれの規模は、第22表に記載する。

第22表 SI16 ピット計測表

	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5
長軸長(cm)	20	26	52	131	43
短軸長(cm)	16	18	48	49	(31)
深さ(cm)	26	32	11	17	21

最大幅120cmを測る。火床面は10cm掘り込まれ、ほとんど焼土化していない。カマド内に支脚が残っていた。にぶい黄褐色粘質土を含む黒褐色土で外形を造り、支持材に切石が使用されていた。カマドBは東壁の中央南寄りに位置する。煙道部のみが残っており、全長118cm以上、最大幅94cm以上を測る。遺構確認時、煙道上面から多量の切石・自然石が出土しており、これらがカマドBの構築材であったと考えられる。カマドBにもにぶい黄褐色粘質土を含む黒褐色土で外形を造り、支持材に切石・自然石が使用されていたと考えられる。**その他の施設** 北東隅部で貯蔵穴が1基確認された。平面形は楕円形を呈し、規模は長軸99cm、短軸69cm、床面からの深さは36cmを測る。**遺物検出状況** 遺物量は少なく、住居跡東半分の覆土中から散見され、壁際に集中する。第137図3・13は床面から出土している。**遺物** 出土遺物のうち、土師器5点、須恵器8点を図示し得た。第137図3の塊は外面高台内に墨痕があり転用硯と考えられる。また、土師器小型ロクロ甕も出土している。**備考** 本遺構は、カマドの造り替えが行なわれた中型の竪穴住居跡である。帰属時期は、出土遺物から9世紀後半～10世紀前半と考えられる。

## SI17 (第138～142図／PL 75・91)

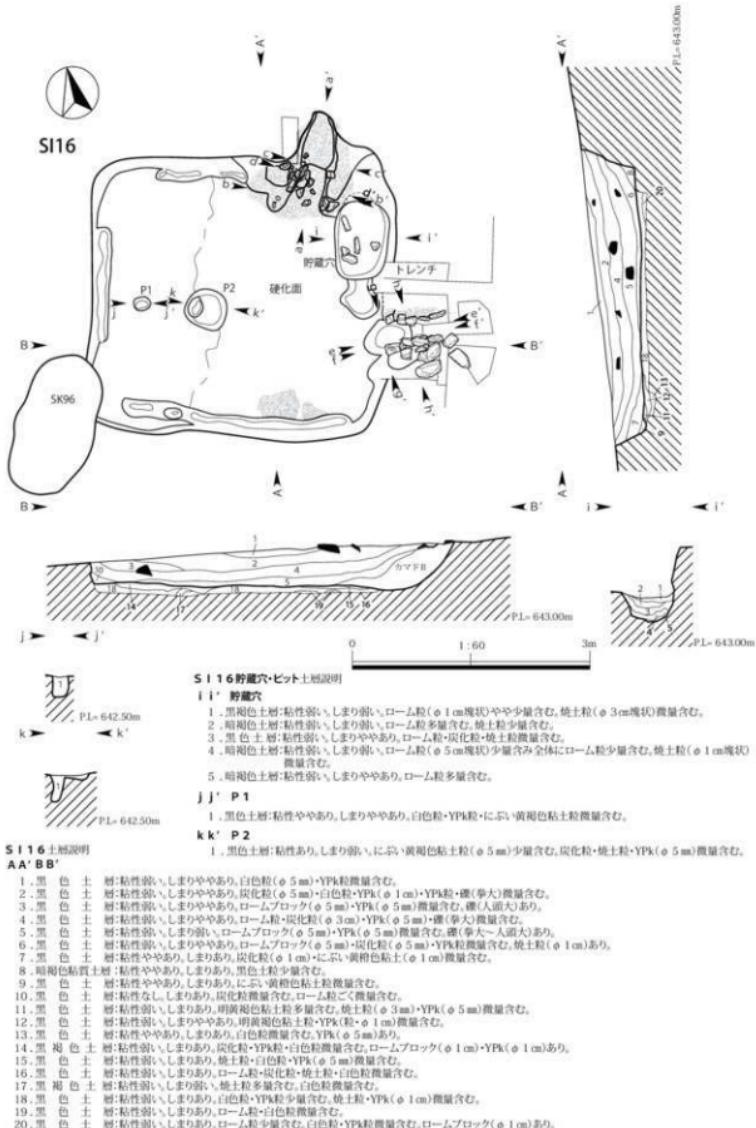
**位置** 2-77区I-8、J-8・9グリッド(2・3区調査区東部)。**重複関係** なし。**遺存状態** 上位が後世の削平によって壊されており、東・南壁は現存していない。なお、試掘トレンドが中央に走る。

**覆土** 黒色土・黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は長方形を呈すると考えられる。主軸は推定5.37m、副軸3.78m以上、確認面からの深さは最深42cm、床面積は推定15.53m<sup>2</sup>を測る。**主軸方位** N-23°-E **壁・壁溝** 壁高は、西・北壁が16cmを測り、東・南壁は現存していない。西・北壁はともにほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は西・北壁、東壁の一部で確認された。溝幅は9～16cm、床面からの深さは5cmを測る。**床面** 直床式で、貼床およびカマドの手前で踏み締りを確認した。南側に向かって緩やかに傾斜しているが、概ね平坦である。

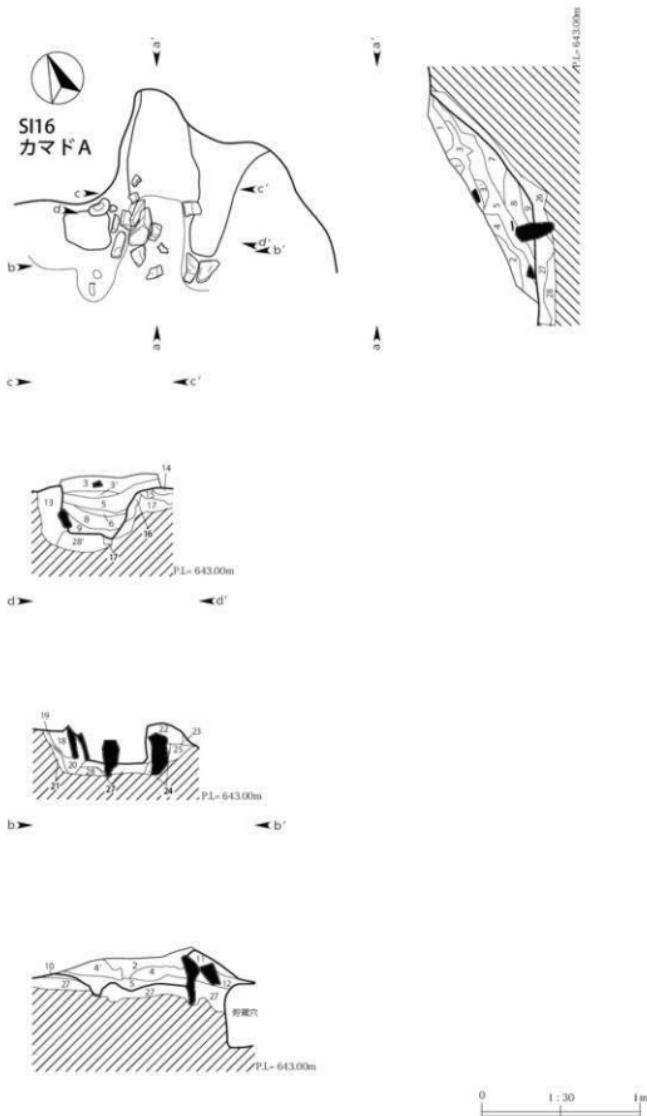
第23表 SI17 ピット計測表

	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9
長軸長(cm)	22	23	27	27	59	23	43	61	37
短軸長(cm)	20	22	25	22	50	22	40	60	29
深さ(cm)	27	18	24	32	23	18	15	22	14

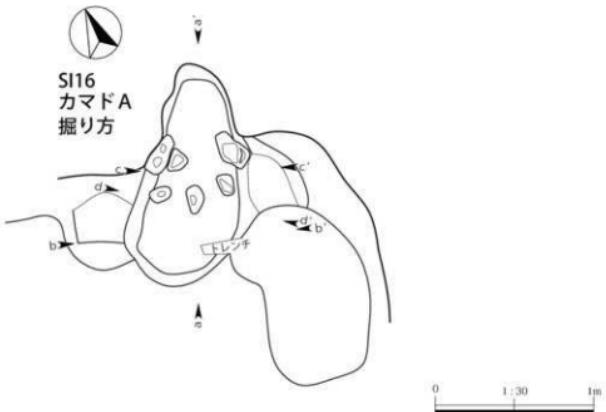
**柱穴** P1～P9まで確認された。P1・P3・P7・P9は四隅に位置することから、主柱穴(壁柱穴)の可能性が考えられる。それぞれの規模については第23表に記載する。



第131図 SI16実測図(1/60)



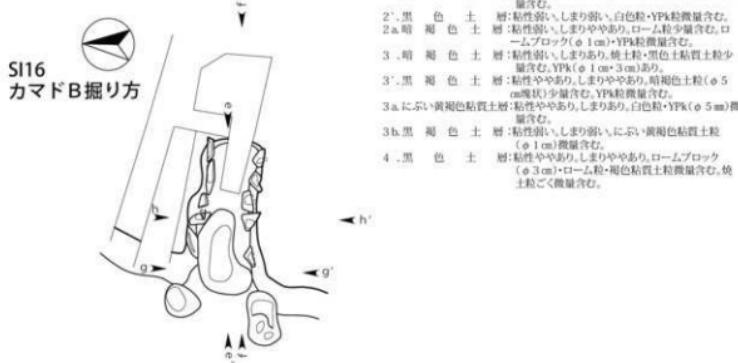
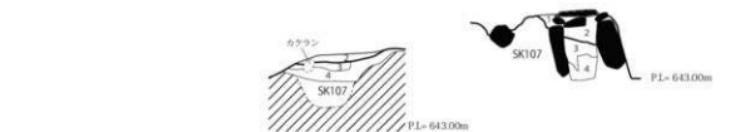
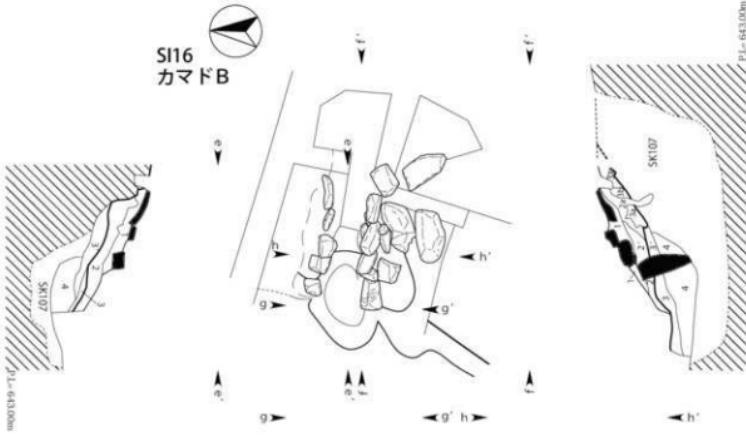
第132図 SI16カマド A実測図 (1/30)



**SI16カマドA土壌調査  
a' a' b' b' c' c' d' d'**

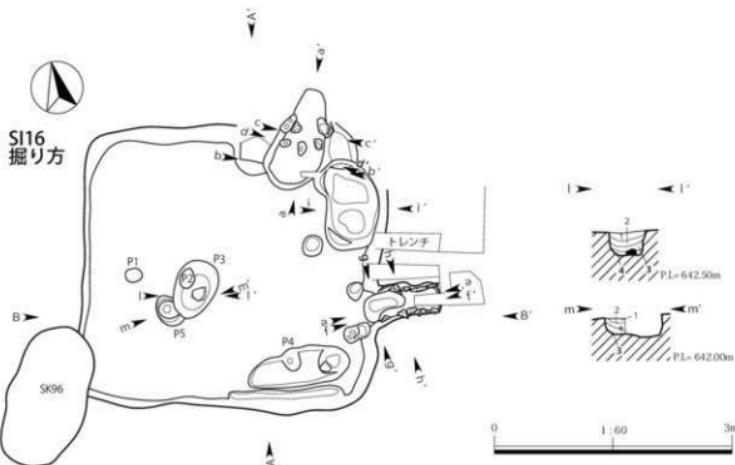
1. 細 褐 色 粘 質 土 層: 粘性弱い。しまりあり。ローム粒・白色粒・黒褐色土粒微量含む。
2. 細 褐 色 粘 質 土 層: 粘性弱い。しまりややあり。燒土粒( $\phi 5\text{mm}$ )微量含む。
3. 黒 褐 色 土 層: 粘性弱い。しまり弱い。暗褐色粘質土粒少量含む。燒土粒・白色粒微量含む。
4. 黑 褐 色 土 層: 粘性弱い。しまりややあり。ローム粒・白色粒・暗褐色粘質土粒微量含む。
- 4'. 黑 褐 色 土 層: 粘性弱い。しまりややあり。ローム粒・白色粒・暗褐色粘質土粒少量含む。
5. 黑 褐 色 土 層: 粘性弱い。しまりあり。黒褐色土質粒少量含む。燒土粒( $\phi 3\text{cm} \times \text{幅} 4$ )・白色粒微量含む。
6. 黑 褐 色 土 層: 粘性弱い。しまり弱い。ローム粒微量含む。
7. 黑 褐 色 土 層: 粘性弱い。しまり弱い。燒土粒少量含む。燒土粒( $\phi 1\text{cm}$ )・灰微量含む。
8. 黑 褐 色 土 層: 粘性弱い。しまり弱い。燒土粒少量含む。ロームブロック( $\phi 1\text{cm}$ )・燒土粒( $\phi 1\text{cm}$ )・灰微量含む。
9. 黑 褐 色 土 層: 粘性弱い。しまり弱い。ローム粒少量含む。白色粒微量含む。YPh( $\phi 5\text{mm}$ )あり。
10. 黑 褐 色 土 層: 粘性弱い。しまり弱い。ローム粒少量含む。白色粒微量含む。YPh( $\phi 5\text{mm}$ )あり。
11. 黑 褐 色 土 層: 粘性やや弱い。しまりやや弱い。YPh( $\phi 5\text{mm}$ )によく、暗褐色粘質土粒( $\phi 1\text{cm}$ )微量含む。
12. 黑 褐 色 土 層: 粘性弱い。しまり弱い。燒土粒少量含む。ロームブロック( $\phi 1\text{cm}$ )・灰化粒( $\phi 3\text{cm}$ )・YPh粒微量含む。
13. にぶい 黄褐色粘質土層: 粘性弱い。しまりやや弱い。燒土粒少量含む。燒土粒( $\phi 5\text{mm}$ )・YPh( $\phi 5\text{mm}$ )微量含む。
14. 黑 褐 色 土 層: 粘性弱い。しまり弱い。YPh( $\phi 5\text{mm}$ )によく、暗褐色粘質土粒・YPh( $\phi 1\text{cm}$ )微量含む。
15. 黑 褐 色 土 層: 粘性弱い。しまりやや弱い。燒土粒少量含む。YPh( $\phi 5\text{mm}$ )微量含む。ロームブロック( $\phi 5\text{mm}$ )あり。
16. にぶい 黄褐色粘質土層: 粘性弱い。しまり弱い。燒土粒少量含む。白色粒( $\phi 5\text{mm}$ )微量含む。
17. 黑 褐 色 土 層: 粘性弱い。しまり弱い。燒土粒( $\phi 5\text{mm}$ )側面に少量含む。白色粒・YPh( $\phi 5\text{mm}$ )微量含む。
18. にぶい 黄褐色粘質土層: 粘性弱い。しまりやや弱い。燒土粒( $\phi 5\text{mm}$ )あり。YPh粒微量含む。
19. 黑 褐 色 土 層: 粘性弱い。しまりやや弱い。白色粒・YPh粒微量含む。
20. 黑 褐 色 土 層: 粘性弱い。しまり弱い。燒土粒少量含む。灰化粒( $\phi 3\text{mm}$ )・にぶい 黄褐色粘質土粒・白色粒微量含む。
21. 黑 褐 色 土 層: 粘性弱い。しまりやや弱い。ローム粒・燒土粒・白色粒ごく微量含む。
22. にぶい 黄褐色粘質土層: 粘性弱い。しまりやや弱い。燒土粒( $\phi 5\text{mm}$ )・黒色土粒・YPh( $\phi 5\text{mm}$ )微量含む。
23. 黑 褐 色 土 層: 粘性弱い。しまり弱い。燒土粒少量含む。YPh( $\phi 5\text{mm}$ )微量含む。灰化粒( $\phi 5\text{mm}$ )あり。
24. 黑 褐 色 土 層: 粘性弱い。しまり弱い。YPh( $\phi 5\text{mm}$ )微量含む。燒土粒少量含む。燒土粒ごく微量含む。
25. 黑 褐 色 土 層: 粘性弱い。しまり弱い。白色粒・YPh粒微量含む。
26. 黑 褐 色 土 層: 粘性弱い。しまり弱い。白色粒・YPh粒微量含む。
27. 黑 褐 色 土 層: 粘性弱い。しまり弱い。YPh( $\phi 5\text{mm}$ )微量含む。
28. 黑 褐 色 土 層: 粘性弱い。しまり弱い。YPh( $\phi 5\text{mm}$ )微量含む。燒土粒・白色粒微量含む。ロームブロック( $\phi 3\text{mm}$ )あり。

第133図 SI16カマドA掘り方実測図(1/30)



第134図 SI16カマドB・カマドB掘り方実測図(1/30)

0 1:30 1m



#### SI16 挖り方ピット土層説明

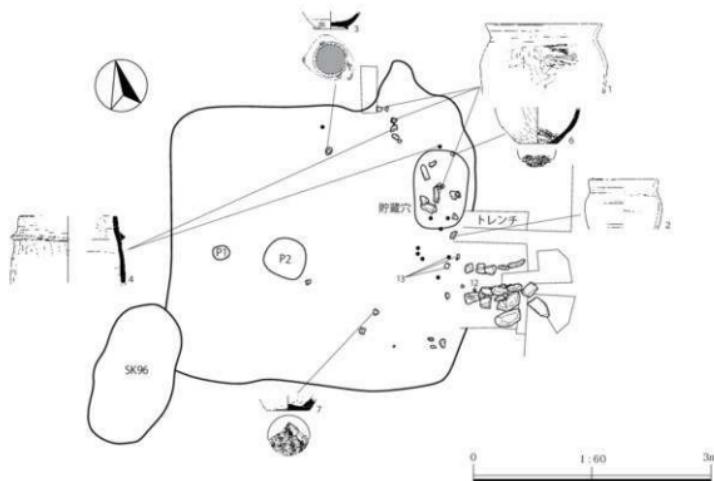
11' P 3

1. 黒色土層: 黏性弱い、しまりあり、ロームブロック(Φ 3 mm)・ローム粒・炭化粒(Φ 1 cm)・焼土粒(Φ 1 mm)を微量含む。
2. 黒色土層: 黏性弱い、しまり弱い、ローム粒・焼土粒を微量含む。
3. 黒色土層: 黏性弱い、しまり弱い、ローム粒微量含む。
4. 黒色土層: 黏性弱い、しまり弱い、ローム粒微量含む。

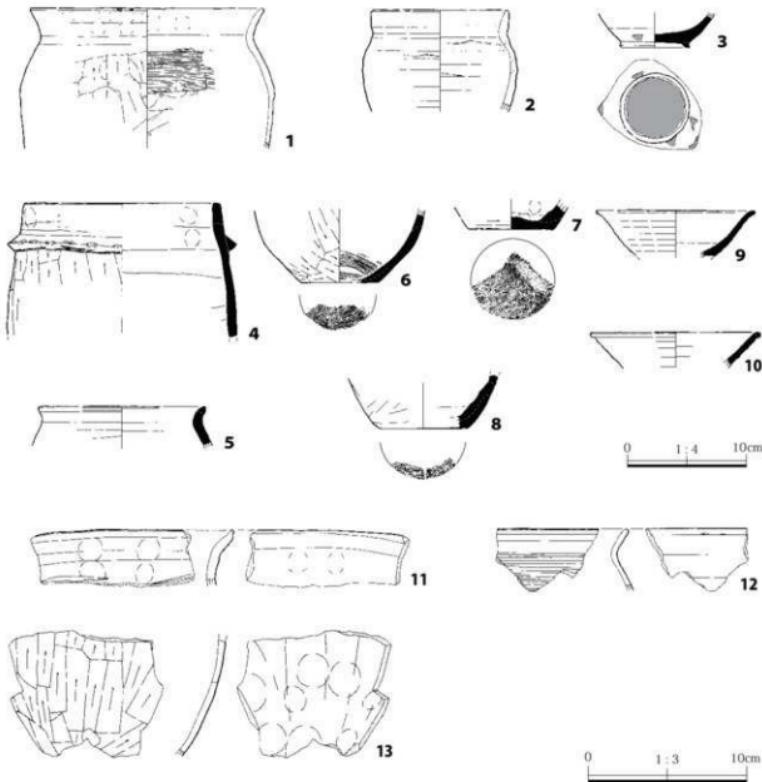
mm' P 5

1. 黒色土層: 黏性弱い、しまり弱い、燒土粒多量含む、ローム粒・炭化粒(Φ 5 mm)を微量含む。
2. 黒色土層: 黏性弱い、しまり弱い、ローム粒ごく微量含む。
3. 黒色土層: 黏性ややあり、しまりややあり、ローム粒・白色土粒ごく微量含む。

第135図 SI16掘り方実測図(1/60)

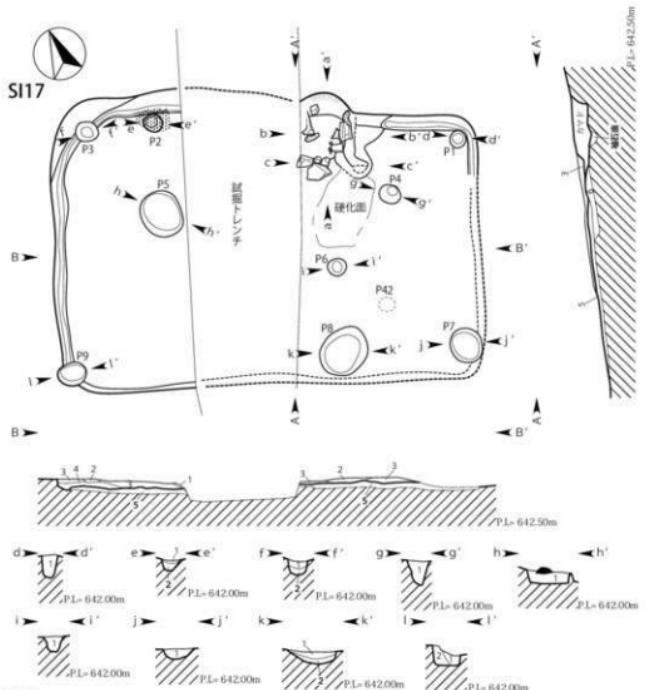


第136図 SI16遺物出土状況図(1/60)



第137図 SI16出土遺物実測図(1/3・1/4)

**カマド** 北壁中央やや東寄りに位置する。西側1／3程が試掘トレンチによる削平を受け、右袖は現存する。全長は115cm、最大幅は90cm以上を測る。火床面は15cm掘り込まれ、焼土部分は3cmの厚さを有する。褐色粘土を含む地山の黒褐色土で外形を造り、支持材に切石・自然石が使用されていた。**その他の施設** 確認されていない。**遺物検出状況** カマド内で土器が散見された。**遺物** 出土遺物のうち、土師器2点を図示し得た。**備考** 本遺構は、北壁にカマドを持つ大型の竪穴住居跡である。帰属時期は、出土遺物から10世紀前半頃と判断した。



## SI17 土層説明

## AA' BB'

1. 黒褐色土層: 粘性なし。しまり弱い。Ae-Kkブロック(Φ 3~5cm)多量含む。Ypk(Φ 1cm)微量含む。
2. 黒褐色土層: 粘性なし。しまり弱い。化粧粒(Φ 1~5cm)・板土(粒・Φ 1cm)少量含む。
3. 黒色土層: 粘性ややあり。しまりあり。Ypk(Φ 5cm)微量含む。
4. 黑色土層: 粘性弱い。しまりややあり。Ypk(Φ 5cm)少量含む。
5. 黑色土層: 粘性弱い。しまりあり。Ypk(Φ 5cm)微量含む。
6. 黑色土層: 粘性ややあり。しまりあり。Ypk(Φ 0.5~2cm)大量含む。

## SI17ビット土層説明

## dd' P1

1. 黒色土層: 粘性弱い。しまりあり。Ypk粒少量含む。白色粒・Ypk(Φ 1cm)微量含む。

## ee' P2

1. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。板土粒多量含む。白色粒微量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性ややあり。しまりあり。Ypk(Φ 5cm)少量含む。白色粒微量含む。

## ff' P3

1. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。白色粒・Ypkごく微量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性ややあり。しまりあり。Ypk(Φ 5cm)少量含む。白色粒微量含む。

## gg' P4

1. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。Ypk(Φ 5cm)少量含む。白色粒微量含む。

## hh' P5

1. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。Ypk(Φ 1cm)少量含む。白色粒・Ypk(Φ 5cm)微量含む。礫(人頭大)あり。

## ii' P6

1. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。白色粒(粒・Φ 5mm)・Ypk(Φ 5mm)微量含む。

## jj' P7

1. 黑褐色土層: 粘性ややあり。しまりあり。白色粒・Ypk(粒・Φ 1cm)微量含む。

## kk' P8

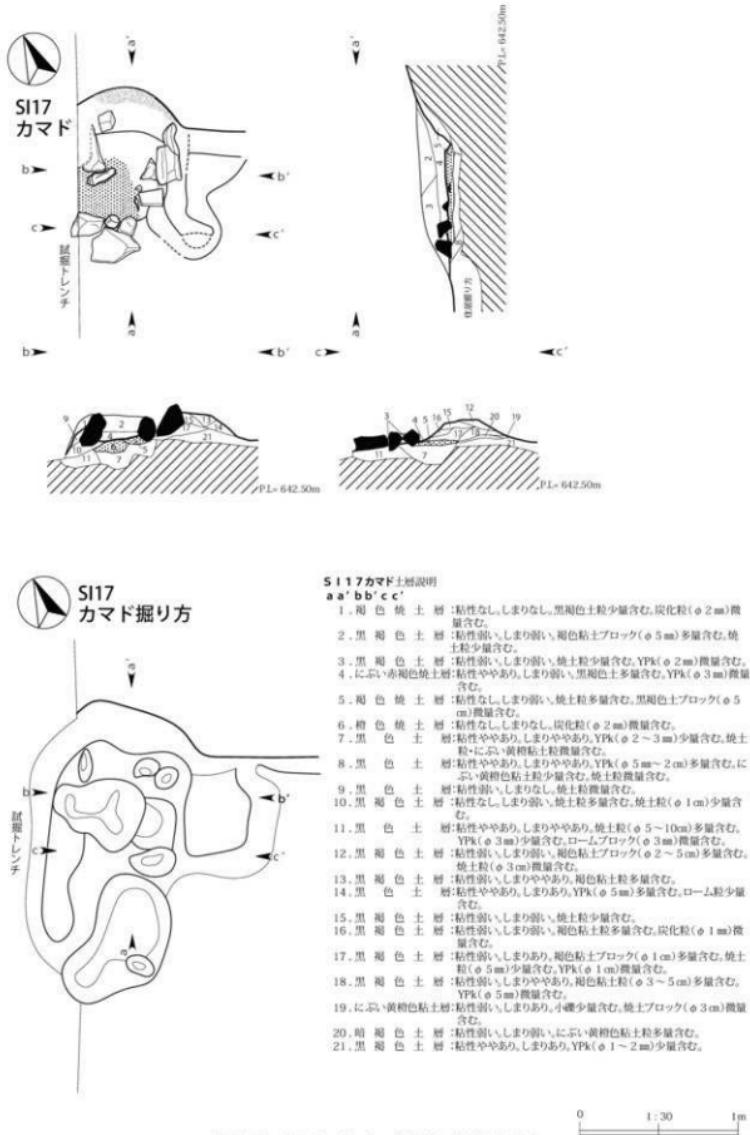
1. 黑褐色土層: 粘性弱い。しまりあり。板土粒・白色粒微量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性ややあり。しまりあり。白色粒・Ypk(Φ 1cm)微量含む。

## ll' P9

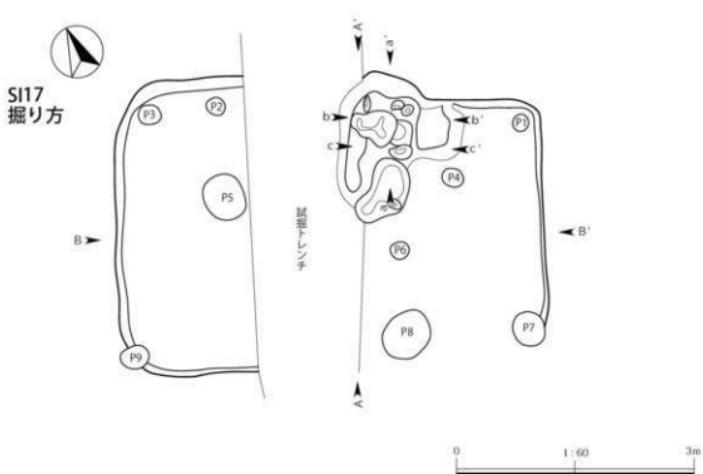
1. 黑土層: 粘性弱い。しまりあり。白色粒・Ypk(Φ 1cm)微量含む。
2. 黑褐色土層: 粘性ややあり。しまりあり。白色粒・Ypk(Φ 1cm)微量含む。



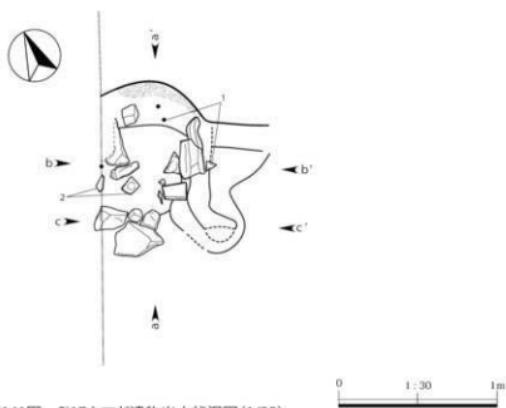
第138図 SI17実測図(1/60)



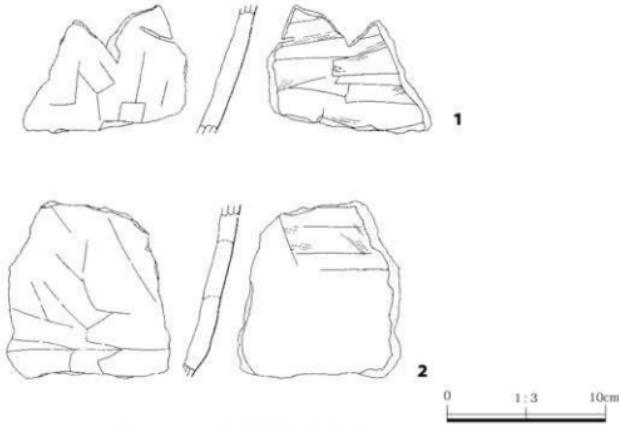
第139図 SI17カマド・カマド掘り方実測図(1/30)



第140図 SI17掘り方実測図(1/60)



第141図 SI17カマド遺物出土状況図(1/30)



第142図 SI17出土遺物実測図(1/3)

## (2) 陥し穴

SK01 (第143図)

**位置** 2—76区P・Q—3グリッド(2・3区調査区北西隅)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

**覆土** 上層は黒褐色砂質シルトと黒色砂質シルト、下層は黒色シルトと黒褐色砂質シルト・シルトが互層をなす。大多数の遺構覆土と土質が異なるのは、旧河道に近いためその影響を受けているものと考えられる。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は上位が楕円形、中位以下が隅丸長方形を呈する。規模は長軸196cm、短軸112cm、確認面からの深さ160cmを測る。 **主軸方位** N—71°—W **壁面** 下位はほぼ垂直に立ち上がり、一部でオーバーハングする。中位からは外傾して立ち上がり、北東側は段状を呈する。 **底面** 東側に向かって緩やかに傾斜するが、概ね平坦である。 **遺物** 繩文土器片が出土した。図示し得るものではなく、また遺構に伴うものではないと判断した。 **備考** 本遺構は、時期を特定し得る遺物は出土していないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK06 (第144図/PL 75)

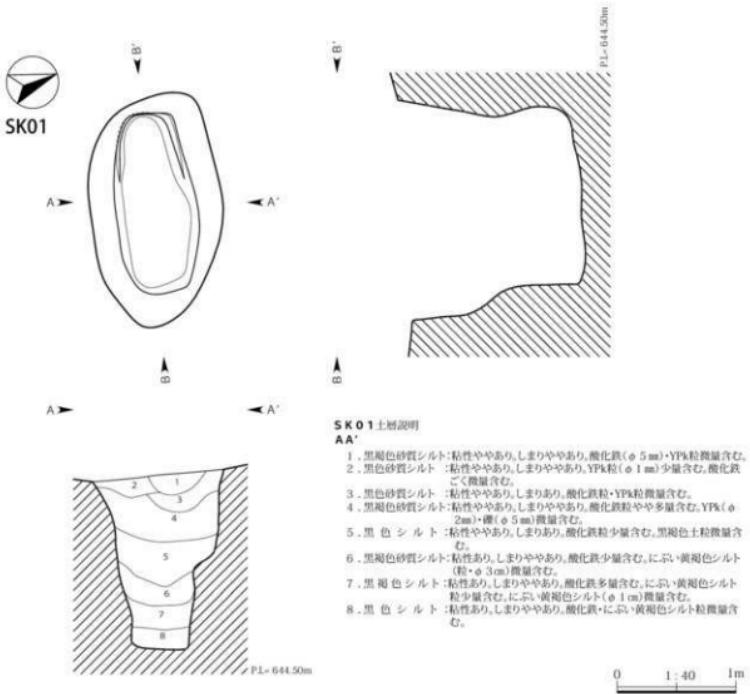
**位置** 2—76区S—5グリッド(2・3区調査区北西部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土**

黒色土と黒褐色土が互層をなし、堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は上位が楕円形、中位以下は隅丸長方形を呈する。規模は長軸179cm、短軸110cm、確認面からの深さ154cmを測る。 **主軸方位** N—68°—E **壁面** 下位はほぼ垂直に立ち上がり、中位からは外傾して立ち上がる。 **底面** 南側が段状を呈するが、概ね平坦である。 **遺物** 繩文土器片が出土した。図示し得るものではなく、また遺構に伴うものではないと判断した。 **備考** 本遺構は、時期を特定し得る遺物は出土していないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

SK07 (第145図)

**位置** 2—76区R—3グリッド(2・3区調査区北西部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土**

黒色土が基調であるが、上層に黒褐色土が堆積する。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は上位が不整形、中位以下は隅丸長方形を呈する。規模は長軸200cm、短軸131cm、確認面からの深さ126



第143図 SK01実測図(1/40)

cmを測る。 **主軸方位** N-61°—E **壁面** ほぼ垂直に立ち上がり、東・南・北壁の上位が大きく外傾する。

**底面** 長軸方向にわずかに凸凹し、工具痕と思われる小さな溝みが見られる。 **遺物** なし。 **備考** 本道構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

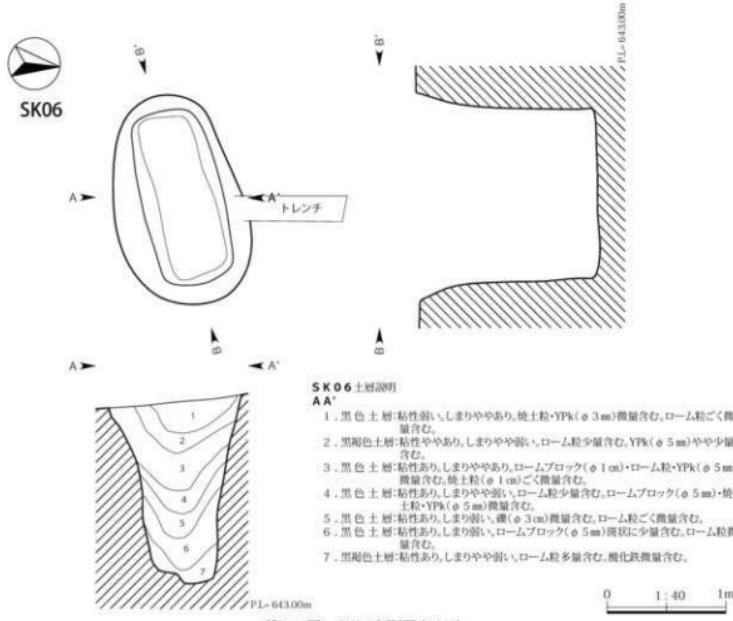
#### SK08 (第146図)

**位置** 2-76区R・S-2グリッド(2・3区調査区北西部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 東西部分がカクラン状の別の掘り込みを受けているため、上位の一部が壊されているが、中位以下は良好である。 **覆土** 黒褐色土と黒色土が互層をなし、堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は上位が不整形、中位以下が圓丸長方形を呈する。規模は長軸推定172cm、短軸151cm、確認面からの深さ145cmを測る。

**主軸方位** N-67°—E **壁面** 下位はほぼ垂直に立ち上がり、中位からは外傾する。 **底面** 長軸両端が一段低くなる。 **遺物** 繩文土器片が出土した。2点を図示したが、遺構に伴うものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載した。 **備考** 本道構は、時期を特定し得る遺物は出土していないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

#### SK11 (第147図／PL 75)

**位置** 2-76区S-2グリッド(2・3区調査区北西部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土**



第144図 SK06実測図(1/40)

黒色土と黒褐色土が互層をなし、堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は上位から中位が梢円形、下位が隅丸長方形を呈する。規模は長軸 222cm、短軸 161cm、確認面からの深さ 148cm を測る。 **主軸方位** N-78°-E **壁面** 東・西壁はほぼ垂直に立ち上がり、上位が外傾する。南・北壁は外傾して立ち上がり、北壁上位は大きく外に向く。 **底面** 長軸両端の一部が一段低くなりクランク状の高まりがある。

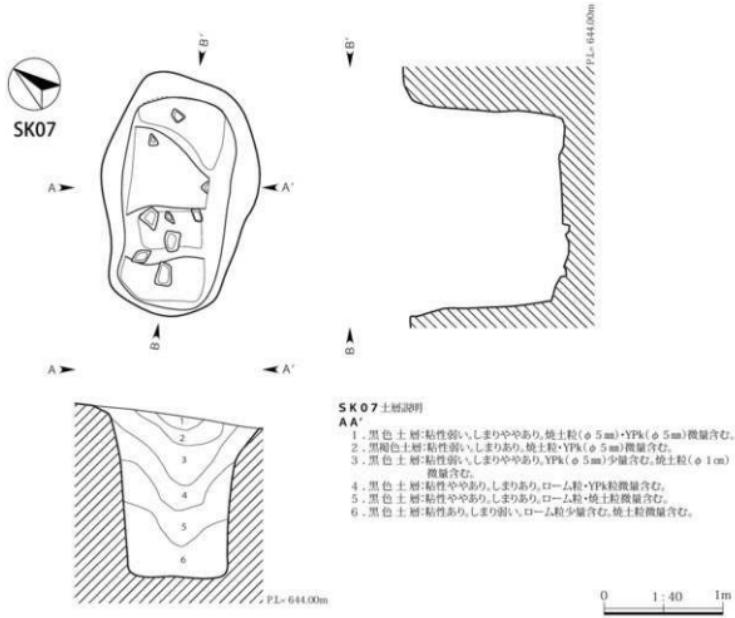
**遺物** 弥生土器片、打製石斧が出土した。弥生土器 3 点、打製石斧 1 点を図示し得たが、遺構に伴うものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載した。 **備考** 本遺構は、時期を特定し得る遺物は出土していないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

#### SK14 (第148図／PL 76)

**位置** 2-76 区 S-3 グリッド (2・3区調査区北西部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土**

黒褐色土が基調であるが、中層に黒色土が堆積する。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は上位から中位が梢円形、下位が隅丸長方形を呈する。規模は長軸 207cm、短軸 157cm、確認面からの深さ 168cm を測る。 **主軸方位** N-66°-E **壁面** 下位は外傾して立ち上がる。中位はほぼ垂直に立ち上がり、上位は外傾する。 **底面** 概ね平坦であるが、小さな窪みが見られる。 **遺物** 繩文土器片、土師器片が出土した。縩文土器 1 点を図示し得たが、遺構に伴うものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載した。

**備考** 本遺構は、時期を特定し得る遺物は出土していないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。



第145図 SK07実測図(1/40)

## SK15 (第149図)

**位置** 2-76区S・T-3・4グリッド(2・3区調査区西部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

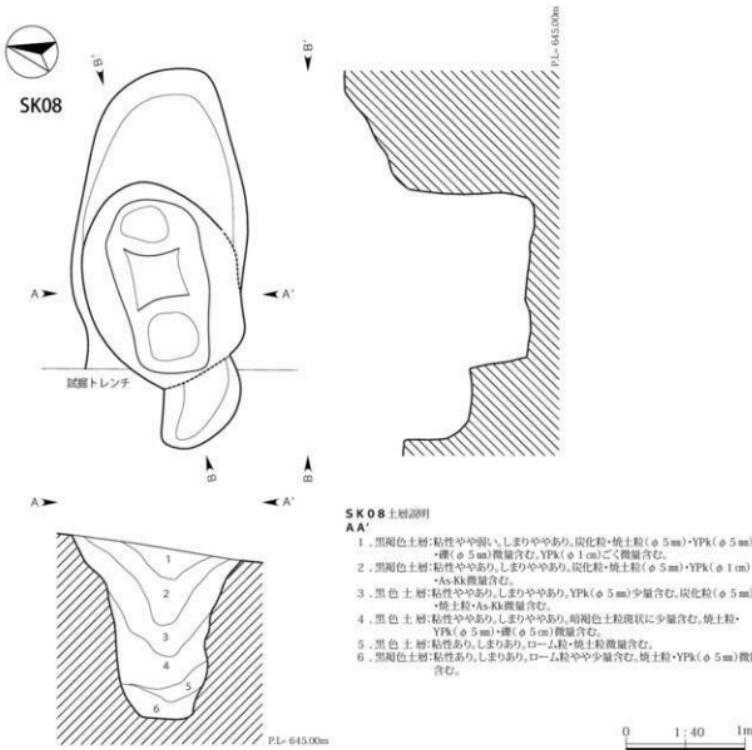
**覆土** 黒褐色土と黒色土が互層をなし、堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は上位から中位が楕円形、下位が卵丸長方形を呈する。規模は長軸256cm、短軸182cm、確認面からの深さ143cmを測る。

**主軸方位** N-75°-E **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** 繩文土器片が出土した。図示し得るものではなく、また遺構に伴うものではないと判断した。 **備考** 本遺構は、時期を特定し得る遺物は出土していないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥穴と判断した。

## SK16 (第150図)

**位置** 2-76区S・R-4グリッド(2・3区調査区北西部)。 **重複関係** S102と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土と黒褐色土が互層をなし、堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は上位から中位が楕円形、下位が卵丸長方形を呈する。規模は長軸163cm、短軸90cm、確認面からの深さ146cmを測る。

**主軸方位** N-85°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦であるが、中央がわずかに窪む。 **遺物** 繩文土器片が出土した。1点を図示し得たが、遺構に伴うものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載した。 **備考** 本遺構は、時期を特定し得る遺物は出土していないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥穴と判断した。



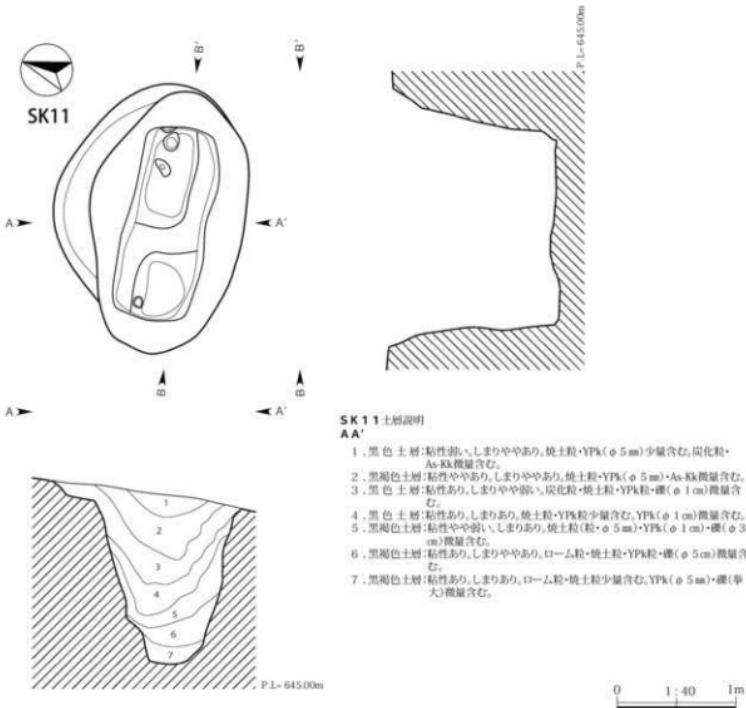
第146図 SK08実測図(1/40)

## SK19 (第150図)

**位置** 2-77 区A-3グリッド (2・3区調査区西部)。 **重複関係** P 21と重複し、本遺構の方が新しい。**遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土と黒色土が互層をなし、堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は上位が楕円形、中位以下が隅丸長方形を呈する。規模は長軸 184cm、短軸 115cm、確認面からの深さ 132cm を測る。 **主軸方位** N-56°-E **壁面** 下位はほぼ垂直に立ち上がる。中位から外傾し、西壁の傾く角度は大きい。 **底面** 概ね平坦であるが、小さな窪みが見られる。 **遺物** 繩文土器片が出土した。1点を図示したが、遺構に伴うものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載した。 **備考** 本遺構は、時期を特定し得る遺物は出土していないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

## SK21 (第151図／PL 76)

**位置** 2-77 区B-3グリッド (2・3区調査区西部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土と黒色土が互層をなし、1層は多量の繩を含んでいる。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は上位が楕円形、中位以下が隅丸長方形を呈する。規模は長軸 262cm、短軸 152cm、確認面からの

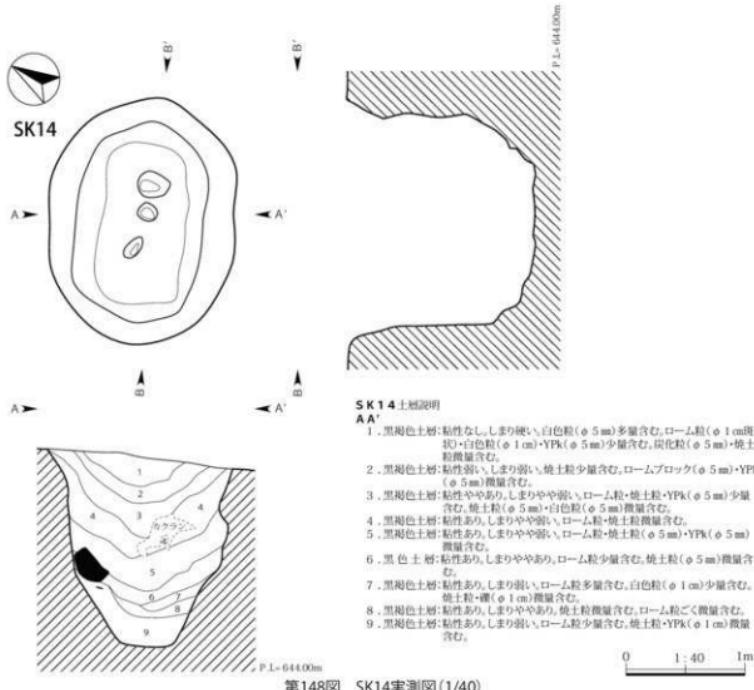


第147図 SK11実測図(1/40)

深さ 148cm を測る。**主軸方位** N-54°-W **壁面** ほぼ垂直に立ち上がり、東・南・北壁は上位が外傾する。**底面** 中央部東寄りが一段低くなる。中央部西寄りに小さな窪みが見られる。**遺物** 繩文土器片、土師器片が出土した。土師器堆形土器 1 点を図示し得たが、遺構に伴うものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載した。**備考** 本遺構は、時期を特定し得る遺物は出土していないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

## SK23 (第152図)

**位置** 2-77 区 A・B-3・4 グリッド (2・3 区調査区西部)。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 上層は黒褐色土、下層は黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は上位が楕円形、中位以下が隅丸長方形を呈する。規模は長軸 232cm、短軸 153cm、確認面からの深さ 131cm を測る。**主軸方位** N-41°-E **壁面** 南・北壁は外傾して立ち上がり、東・西壁は大きく外傾して立ち上がる。**底面** 中央に向かって緩やかに傾斜し、小さな窪みが見られる。**遺物** 繩文土器片が出土した。図示し得るものではなく、また遺構に伴うものではないと判断した。**備考** 本遺構は、時期を特定し得る遺物は出土していないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。



第148図 SK14実測図(1/40)

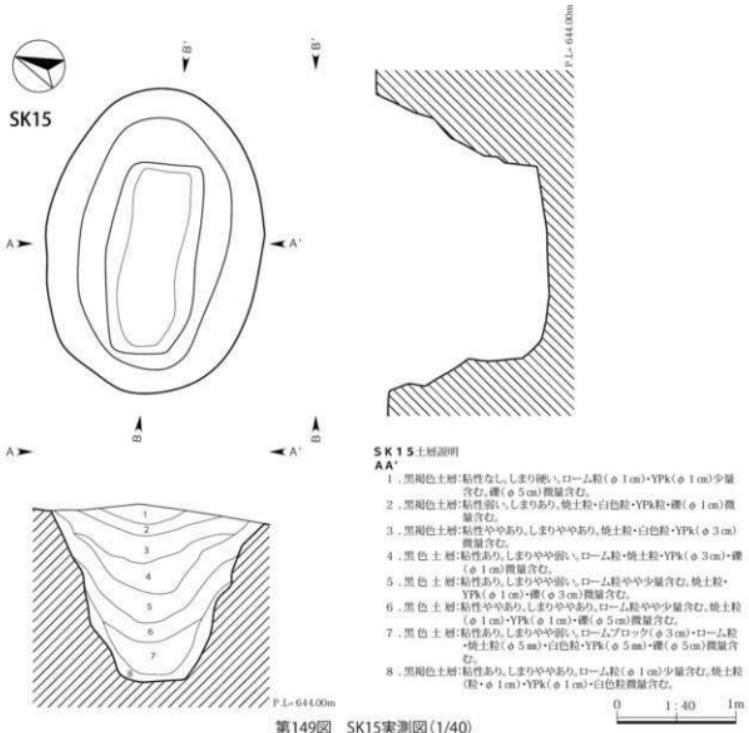
## SK24 (第153図 / P.L. 76・80)

**位置** 2-77 区A-4グリッド (2・3区調査区西部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土と黒色土が互層をなし、堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は上位が楕円形、中位以下が隅丸長方形を呈する。規模は長軸191cm、短軸120cm、確認面からの深さ133cmを測る。 **主軸方位**

N-40°-W **壁面** 南・北壁はほぼ垂直に立ち上がり、東・西壁は外傾して立ち上がる。 **底面** 長軸両端がわずかに低くなるが、概ね平坦である。 **遺物** 弥生土器片が出土した。2点を図示し得たが、遺構に伴うものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載した。 **備考** 本遺構は、時期を特定し得る遺物は出土していないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

## SK25 (第153図)

**位置** 2-77 区B-5グリッド (2・3区調査区西部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 概ね良好であるが、上位は削平されたと考えられる。 **覆土** 黒色土が基調であるが、上層に黒褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸171cm、短軸72cm、確認面からの深さ88cmを測る。 **主軸方位** N-48°-E **壁面** ほぼ垂直に立ち上がり、西・北壁は中位で屈曲する。 **底面** 長軸両端が一段低くなり、小さな窪みが見られる。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

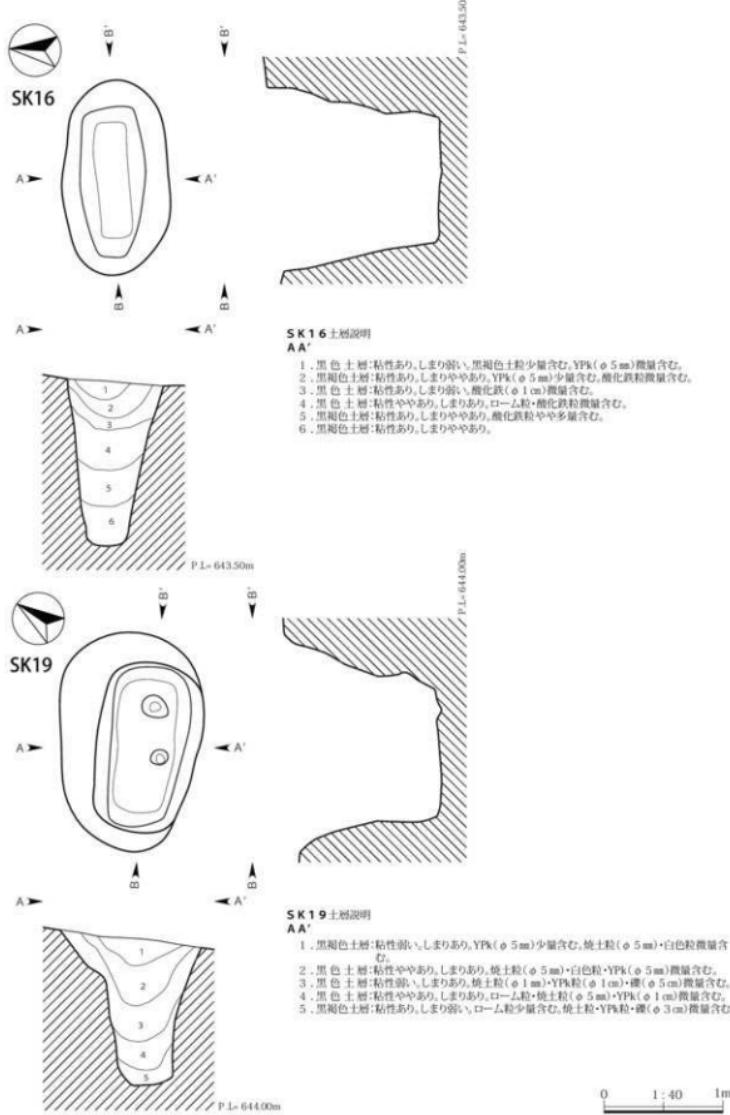


SK29 (第154図)

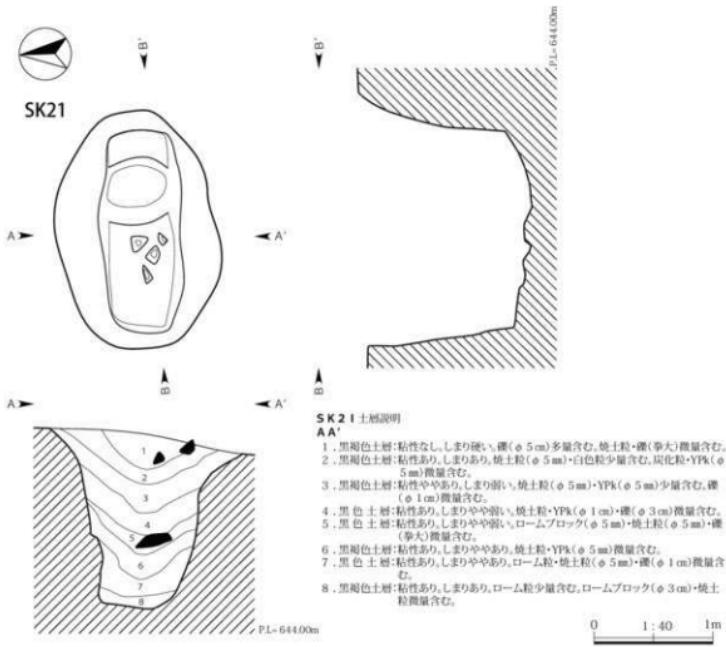
**位置** 2-77区D-5グリッド(2・3区調査区北部中央)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土と黒色土が互層をなし、堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は上位が楕円形、下位が隅丸長方形を呈する。規模は長軸172cm、短軸123cm、確認面からの深さ118cmを測る。 **主軸方位** N-83°-E **壁面** ほぼ垂直に立ち上がり、南・北壁は中位から外傾する。 **底面** 概ね平坦であるが、小さな窪みが見られる。 **遺物** 打製石斧が出土した。打製石斧1点を図示し得たが、遺構に伴うものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載した。 **備考** 本遺構は、時期を特定し得る遺物は出土していないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥穴と判断した。

SK36 (第154図)

**位置** 2-77区D-E-7グリッド(2・3区調査区中央部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は上位が楕円形、中位以下が隅丸長方形を呈する。規模は長軸207cm、短軸148cm、確認面からの深さ120cmを測る。 **主軸方位** N-16°-W **壁面** 南・北壁は外傾し、東・西壁は大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 凸凹する。 **遺物** 土器片が出土した。図示し得るものではなく、また遺構に伴うものではないと判断した。 **備考** 本遺構は、時期を特定し



第150図 SK16・19実測図(1/40)



第151図 SK21実測図(1/40)

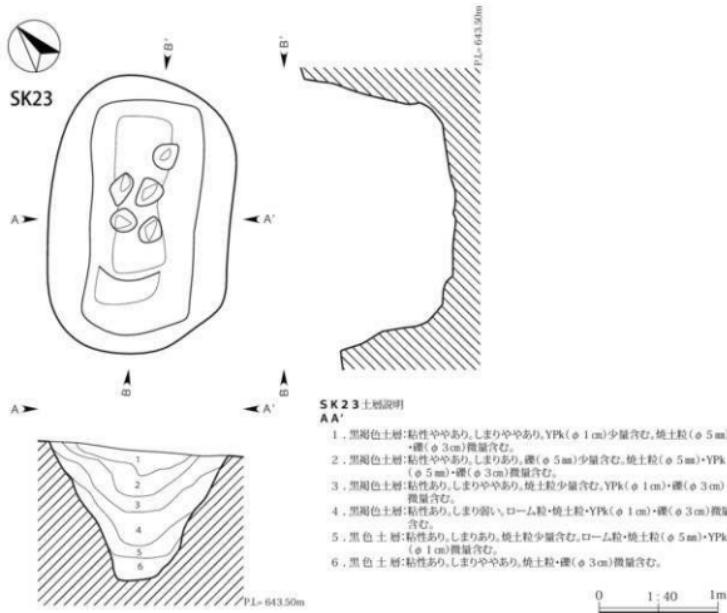
得る遺物は出土していないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

#### SK39 (第155図)

**位置** 2-77区A・B-6グリッド(2・3区調査区西部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒褐色土、下層は黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸165cm、短軸102cm、確認面からの深さ113cmを測る。 **主軸方位** N-65°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 長軸両端が一段低くなり、西側に小さな窪みが見られる。 **遺物** 瓦文土器片が出土した。図示し得るものではなく、また遺構に伴うものではないと判断した。 **備考** 本遺構は、時期を特定し得る遺物は出土していないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

#### SK40 (第155図/PL 76)

**位置** 2-77区B-6グリッド(2・3区調査区西部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 概ね良好であるが、上位は削平されたと考えられる。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸177cm、短軸70cm、確認面からの深さ84cmを測る。 **主軸方位** N-44°-W **壁面** 東・西壁はほぼ垂直に、南・北壁は外傾して立ち上がる。 **底面** 中央部が一段低くなり、小さな窪みが見られる。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。



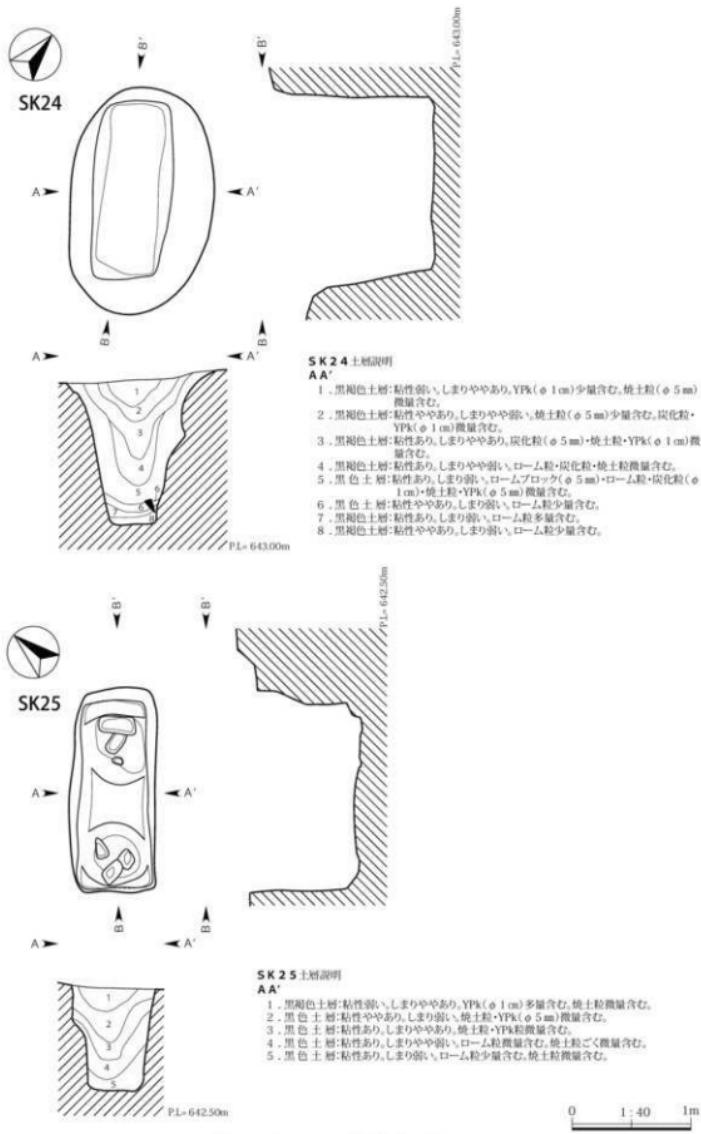
第152図 SK23実測図(1/40)

## SK41 (第156図)

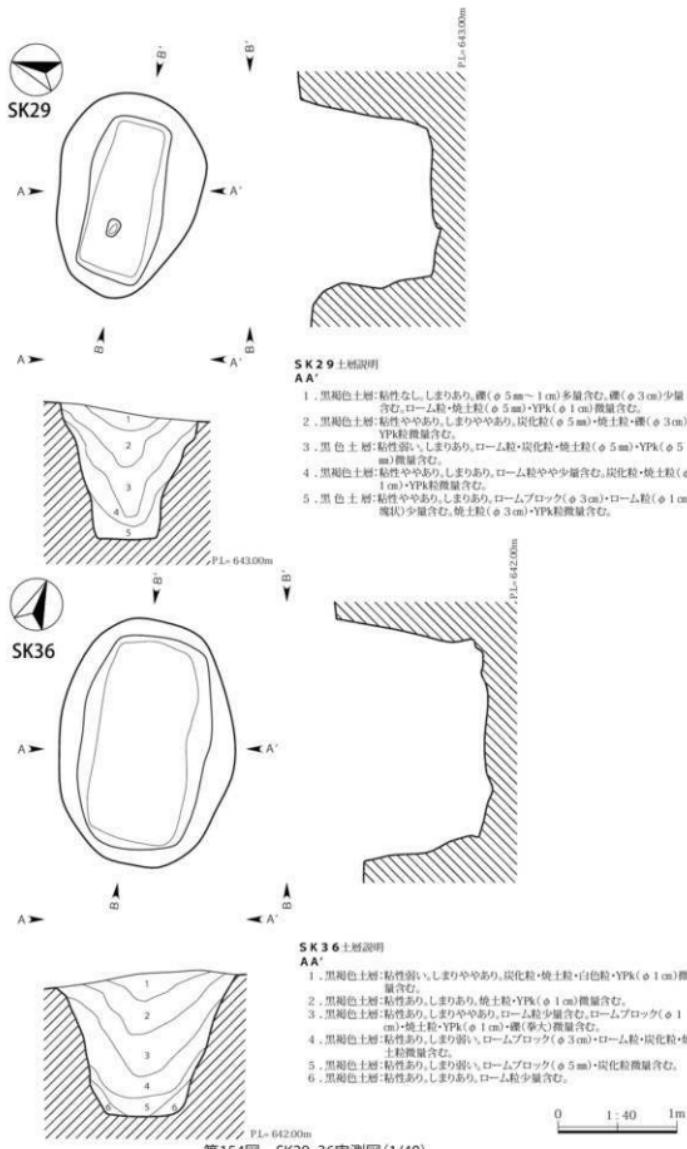
**位置** 2-77区C-6グリッド (2・3区調査区西部)。 **重複関係** SK42と重複し、本遺構の方が新しい。  
**遺存状態** 覆ね良好である。 **覆土** 黒色土が基調であるが、中位に灰黄褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は上位が楕円形、下位が丸長方形を呈する。規模は長軸230cm、短軸152cm、確認面からの深さ155cmを測る。 **主軸方位** N-41°-E **壁面** 東・西壁は外傾して立ち上がり、中位が屈曲する。南・北壁はほぼ垂直に立ち上がり、北壁は上位が外傾する。 **底面** 中央部が一段低くなり、凸凹する。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

## SK42 (第156図)

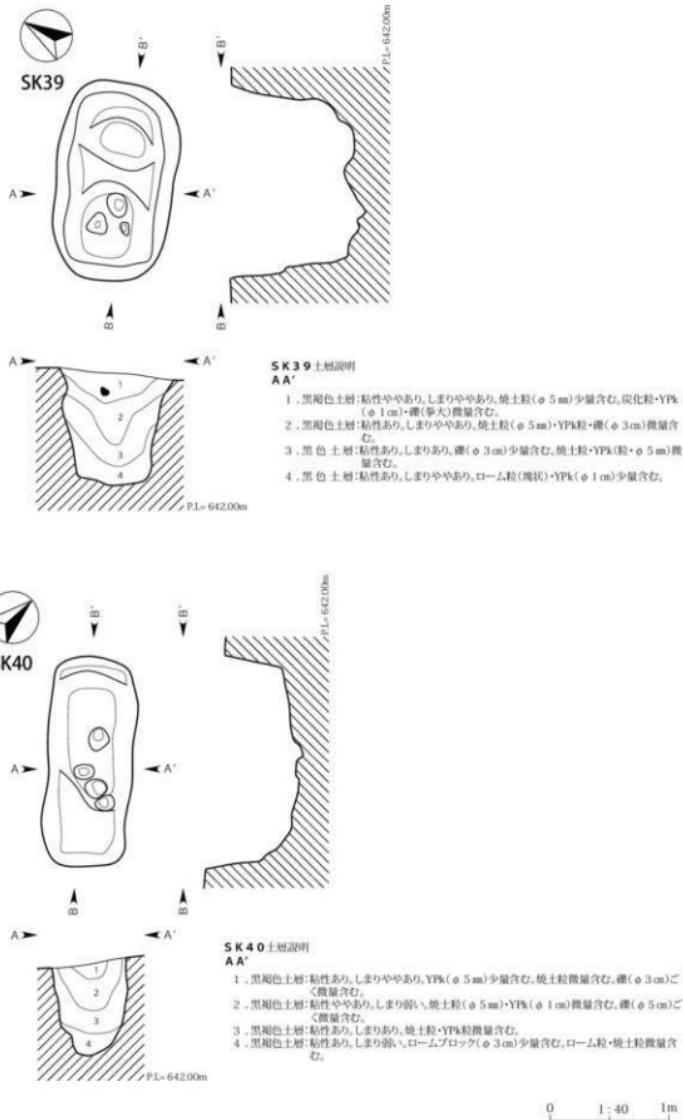
**位置** 2-77区C-6グリッド (2・3区調査区西部)。 **重複関係** SK41と重複し、本遺構の方が古い。  
**遺存状態** 南側約2/3がSK41によって壊されている。 **覆土** 遺構確認時に本遺構とSK41を單一の土坑と認識して半截を行なったため、本遺構の覆土は土層断面で確認できなかった。SK41と同様に黑色土が基調であったと記憶している。 **平面形と規模** 平面形は楕円形を呈すると考えられる。規模は長軸219cm以上207cm未満、短軸76cm以上152cm未満、確認面からの深さ86cmを測る。 **主軸方位** N-27°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 中央に向かって傾斜すると考えられる。 **遺物** 土器片が出土した。1点を図示し得たが、遺構に作るものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載した。 **備考** 本遺構は、時期を特定し得る遺物は出土していないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。



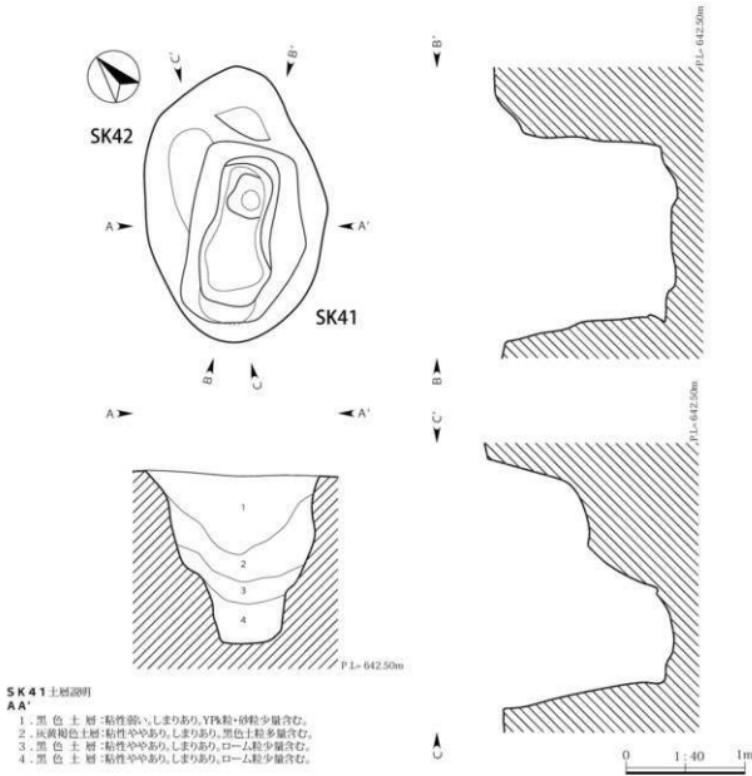
第153図 SK24・25実測図(1/40)



第154図 SK29・36実測図(1/40)



第155図 SK39・40実測図(1/40)



第156図 SK41+42実測図(1/40)

## SK44 (第157図)

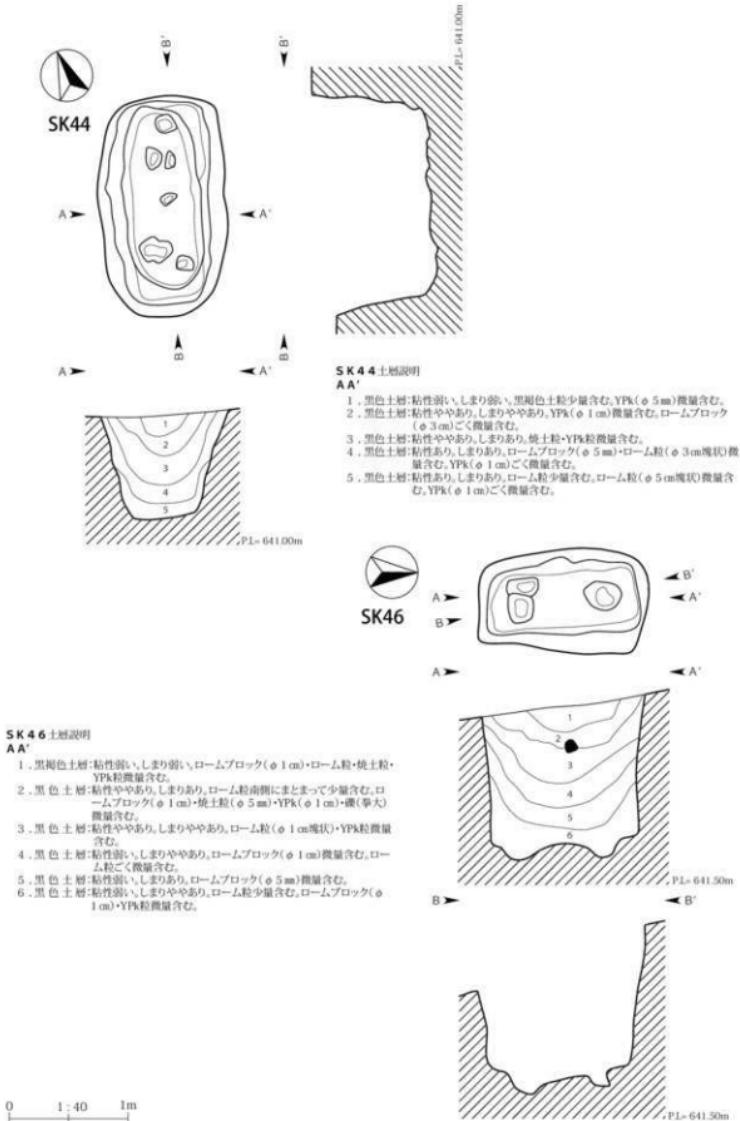
**位置** 2-77区G-8・9グリッド(2・3区調査区中央部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

**覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸186cm、短軸106cm、確認面からの深さ107cmを測る。 **主軸方位** N-23°-E **壁面** 南・北壁はほぼ垂直に、東・西壁は外傾して立ち上がる。 **底面** 小さな窪みが多数あり凸凹している。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

## SK46 (第157図)

**位置** 2-77区G-8グリッド(2・3区調査区中央部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土**

黒色土が基調であるが、上層に黒褐色土が堆積する。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸143cm、短軸89cm、確認面からの深さ143cmを測る。 **主軸方位** N-0° **壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 長軸北端に1基、南端に2基の小ピットが確認された。位置・



第157図 SK44・46実測図(1/40)

規模から逆茂木痕の可能性が考えられる。 遺物 なし。 備考 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

#### SK47 (第158図)

位置 2-77 区 E・F-8 グリッド (2・3区調査区中央部)。 重複関係 なし。 遺存状態 良好。

覆土 黒色土が基調であるが、上層に黒褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 平面形と規模

平面形は上位が楕円形、中位以下が隅丸長方形を呈する。規模は長軸 185cm、短軸 112cm、確認面からの深さ 124cm を測る。 主軸方位 N-3°-E 壁面 外傾して立ち上がる。 底面 長軸北側が一段低くなる。小さな窪みが多数見られる。 遺物 繩文土器片が出土した。図示し得るものではなく、また遺構に伴うものではないと判断した。 備考 本遺構は、時期を特定し得る遺物は出土していないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

#### SK50 (第158図)

位置 2-77 区 E・F-7・8 グリッド (2・3区調査区中央部)。 重複関係 なし。 遺存状態 良好。

覆土 黒色土が基調であるが、最下層に黒褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 平面形と規模

平面形は上位が楕円形、下位が隅丸長方形を呈する。規模は長軸 170cm、短軸 111cm、確認面からの深さ 120cm を測る。 主軸方位 N-1°-W 壁面 概ね外傾して立ち上がり、屈曲が見られる。 底面 長軸両端部が一段低くなる。 遺物 なし。 備考 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

#### SK52 (第159図)

位置 2-77 区 E-7 グリッド (2・3区調査区中央部)。 重複関係 SK51・53 と重複し、本遺構は SK51 より古く、SK53 より新しい。 遺存状態 南壁の上位が SK51 によって壊されている。 覆土 上層は黒褐色土、下層は黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 平面形と規模 平面形は上位は不整形、下位は隅丸長方形を呈する。規模は長軸推定 203cm、短軸 188cm、確認面からの深さ 156cm を測る。

主軸方位 N-27°-E 壁面 東・西・北壁は外傾して立ち上がり、南壁はほぼ垂直に立ち上がる。西壁の南側中位にはステップ状の平坦部があり、北側下位には角型の工具痕が確認された。 底面 概ね平坦である。長軸北端部・南部に同様の配置で小さな窪みが見られるが、工具痕と考えられる。 遺物 繩文土器片が出土した。1点を図示し得たが、遺構に伴うものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載した。 備考

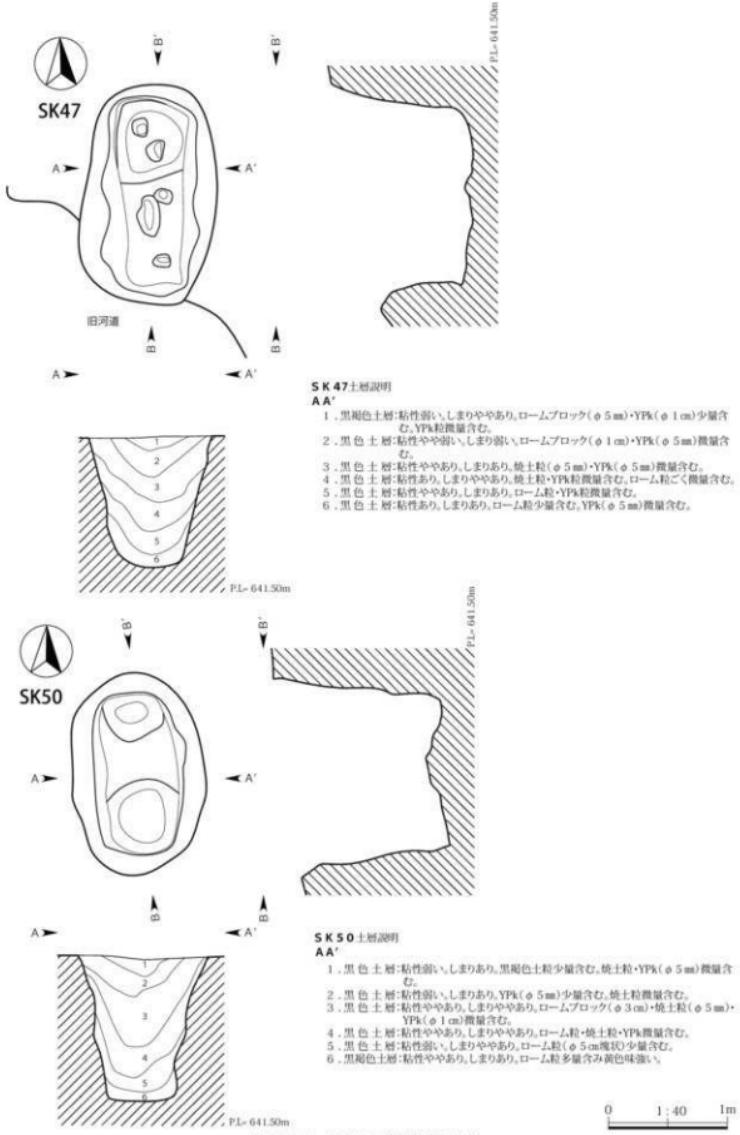
本遺構は、時期を特定し得る遺物は出土していないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

#### SK53 (第159図)

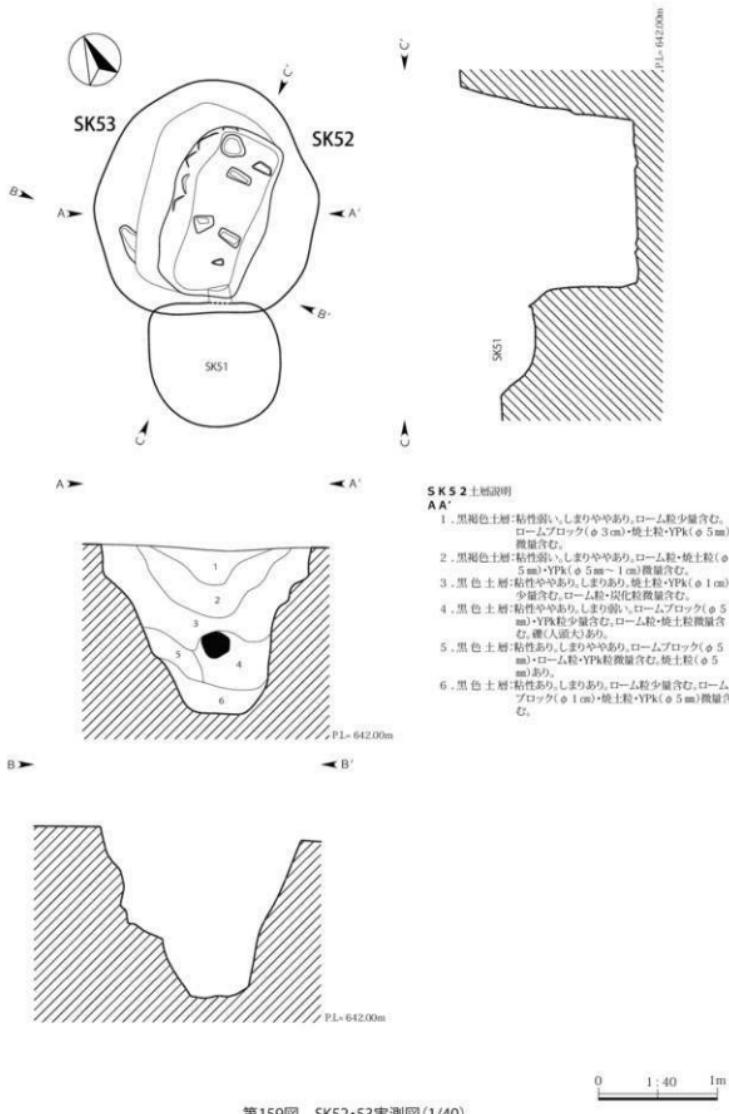
位置 2-77 区 E-7 グリッド (2・3区調査区中央部)。 重複関係 SK52 と重複し、本遺構の方が古い。

遺存状態 大半が SK52 によって壊されている。SK52 中位の西側でわずかに平坦部が確認されたことから古い本土坑があると判断した。 覆土 SK52 によって壊されているため確認できなかった。 平面形と規模

平面形は楕円形を呈すると考えられる。規模は長軸 161cm 以上 203cm 未満、短軸 98cm 以上 188cm 未満、確認面からの深さ 90cm を測る。 主軸方位 N-48°-E 壁面 不明である。 底面 中央に向かって緩やかに傾斜すると考えられる。 遺物 なし。 備考 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。



第158図 SK47・50実測図(1/40)



第159図 SK52・53実測図(1/40)

## SK63 (第 160 図)

**位置** 2-77 区 F-9 グリッド (2・3 区調査区中央部)。 **重複関係** 旧河道と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 概ね良好であるが、上位は削平されたと考えられる。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸 138cm、短軸 52cm、確認面からの深さ 60cm を測る。 **主軸方位** N-54°-W **壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 概ね平坦であるが、小ピットが 3 基見られる。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

## SK64 (第 160 図／PL 77)

**位置** 2-76 区 R-3・4 グリッド (2 面／2・3 区調査区北西部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸 166cm、短軸 93cm、確認面からの深さ 118cm を測る。 **主軸方位** N-57°-E **壁面** ほぼ垂直に立ち上がり、東・南・北壁は中位から外傾する。 **底面** 中央部南側が一段低くなる。 **遺物** 繩文土器片が出土した。1 点を図示し得たが、遺構に伴うものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載した。 **備考** 本遺構は、時期を特定し得る遺物は出土していないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

## SK66 (第 161 図)

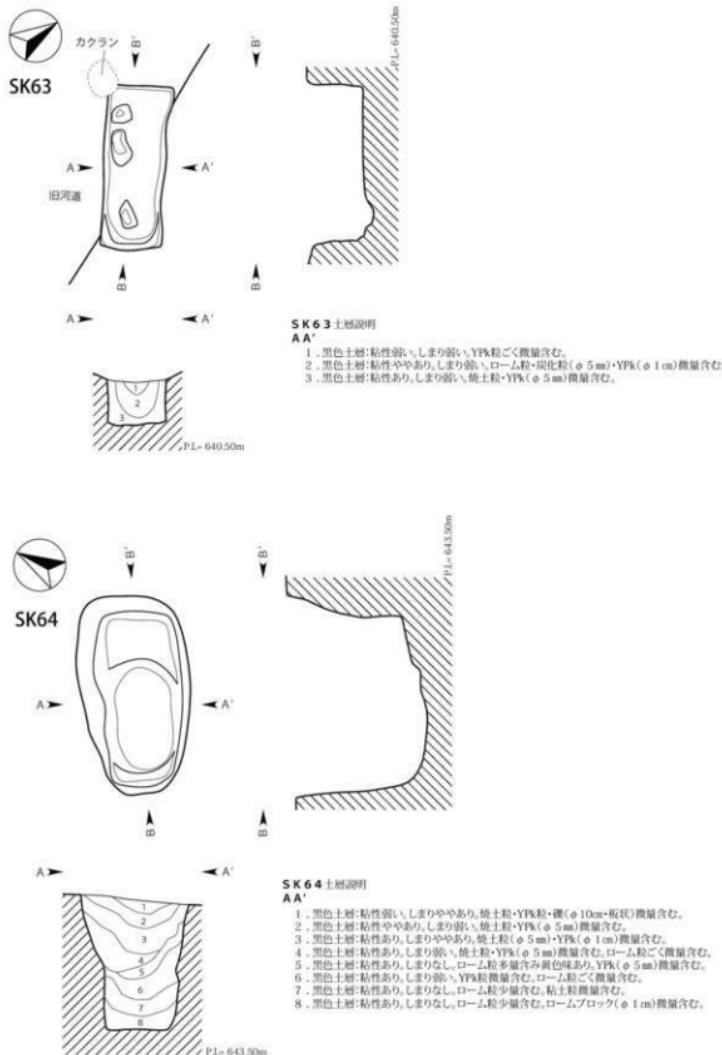
**位置** 2-77 区 A-6 グリッド (2 面／2・3 区調査区西部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土と黒色土が互層をなし、堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は上位が楕円形、中位以下が隅丸長方形を呈する。規模は長軸 150cm、短軸 80cm、確認面からの深さ 132cm を測る。 **主軸方位** N-75°-E **壁面** ほぼ垂直に立ち上がり、中位からわずかに外傾する。 **底面** 長軸西側が一段低くなる。 **遺物** 弥生土器片が出土した。1 点を図示し得たが、遺構に伴うものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載した。 **備考** 本遺構は、時期を特定し得る遺物は出土していないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

## SK68 (第 161 図)

**位置** 2-76 区 T-2 グリッド (2 面／2・3 区調査区西部)。 **重複関係** SI11 と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土と黒色土が互層をなし、堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は楕円形を呈する。規模は長軸 178cm、短軸 117cm、確認面からの深さ 140cm を測る。 **主軸方位** N-43°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 長軸北東側が一段低くなる。 **遺物** 繩文土器片が多く出土した。2 点を図示し得たが、遺構に伴うものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載した。 **備考** 本遺構は、時期を特定し得る遺物は出土していないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

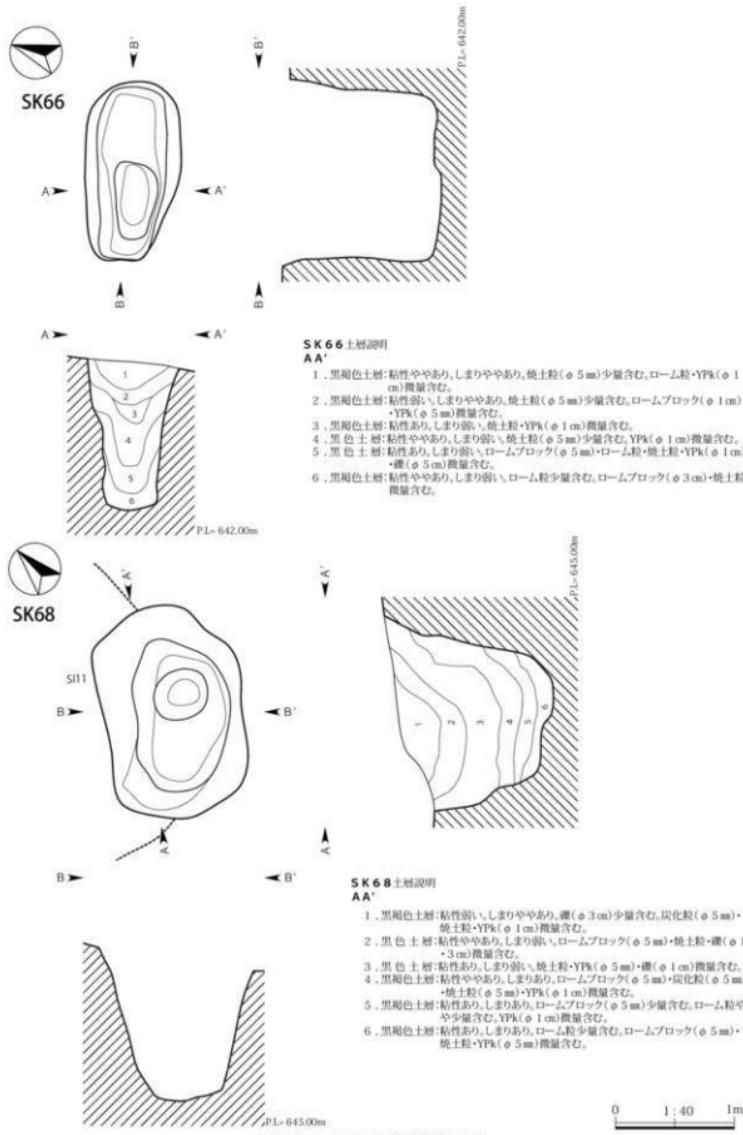
## SK69 (第 162 図)

**位置** 2-77 区 A-6 グリッド (2 面／2・3 区調査区西部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調であるが、中層に黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は上位は不整形、下位は隅丸長方形を呈する。規模は長軸 167cm、短軸 115cm、確認面からの深さ 97cm を測る。 **主軸方位** N-81°-E **壁面** ほぼ垂直に立ち上がり、北壁は中位から大きく外傾する。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** 繩文土器片が出土した。図示し得るものではなく、また遺構に伴うものではないと判断した。 **備考** 本遺構は、時期を特定し得る遺物は出土していないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

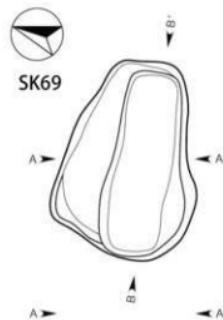


第160図 SK63・64実測図(1/40)

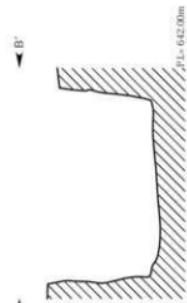
0 1:40 1m



第161図 SK66-68実測図(1/40)



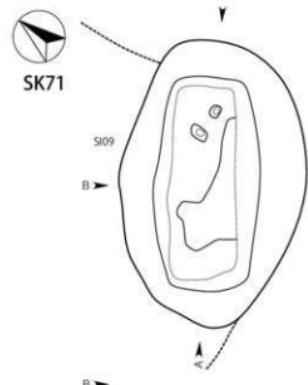
SK69



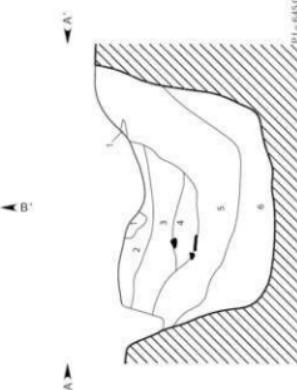
**SK69 土層説明**  
**AA'**

1. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、YPk粒少量含む、ローム粒・埴土粒・YPk(φ 1cm)微量含む。
2. 黒褐色土層: 粘性やや弱い、しまりあり、YPk(φ 1cm)少量含む、埴土粒(φ 5mm)少量含む、ローム粒ごく微量含む。
3. 黒色土 層: 粘性あり、しまりややあり、埴土粒(φ 5mm)少量含む、YPk(φ 5mm)微量含む。
4. 黑褐色土層: 粘性あり、しまりややあり、YPk(φ 1cm)・埴土粒(φ 5mm)・YPk(φ 1cm)微量含む。
5. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、ロームブロック(φ 3cm)・埴土粒(φ 5mm)・YPk粒微量含む。
6. 黑褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、YPk粒微量含む、ローム粒(塊)ごく微量含む。
7. 黑褐色土層: 粘性あり、しまりややあり、ローム粒少量含む、ロームブロック(φ 5 mm)微量含む。

PL= 642.00m



SK71

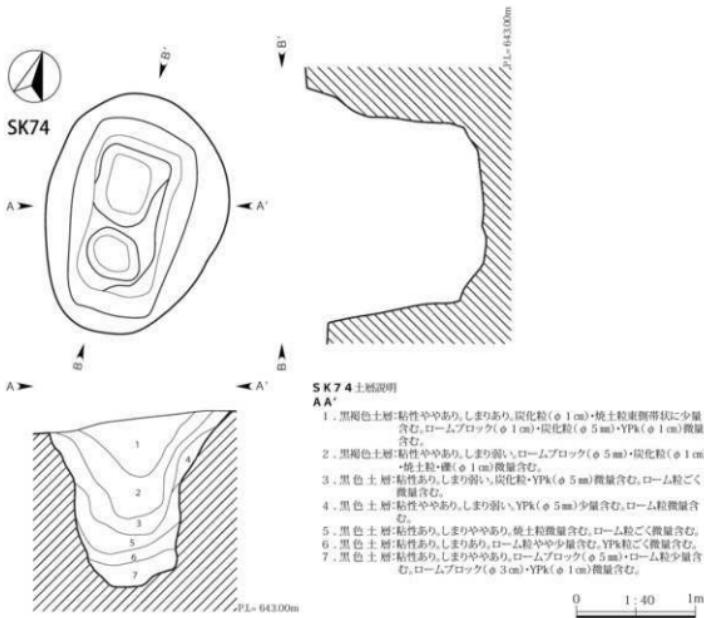


**SK71 土層説明**  
**AA'**

1. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまり弱い、埴土粒(φ 2~3cm)多量含む、YPk(φ 1~5mm)少量含む、炭化粒(φ 5mm)微量含む。
2. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりややあり、YPk(φ 1~5mm)少量含む。
3. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりややあり、YPk(φ 1~5mm)・小塊・礫少量含む。
4. 黑褐色土層: 粘性ややあり、しまりなし、礫多量含む。
5. 黑褐色土層: 粘性あり、しまりあり、YPk(φ 5mm)少量含む。
6. 黑褐色土層: 粘性あり、しまりややあり、ロームブロック(φ 3cm)・ローム粒・YPk(φ 1~5mm)・小塊微量含む。

第162図 SK69~71実測図(1/40)

0 1:40 1m



第163図 SK74実測図(1/40)

## SK70 (第162図)

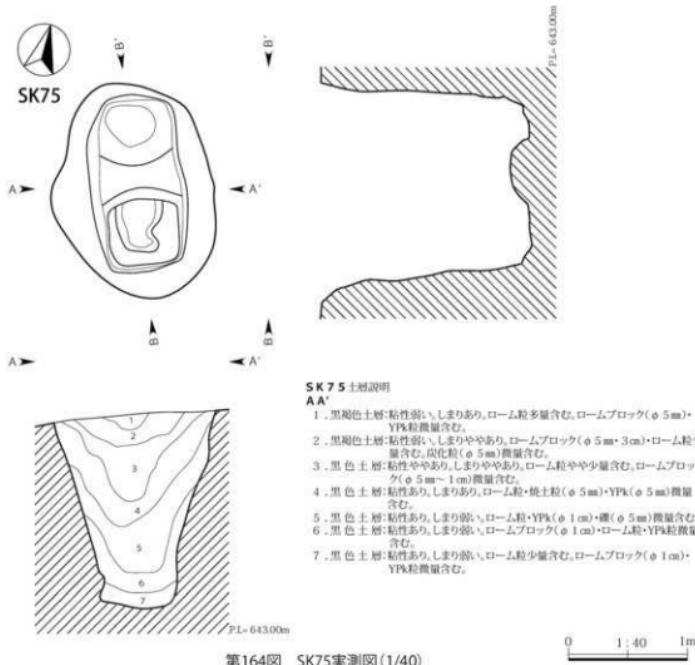
**位置** 2-76区R-2グリッド(2面/2・3区調査区北西部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 概ね良好であるが、上位は削平されたと考えられる。 **覆土** 黒褐色土が基準で、自然堆積と考えられる。 **平面形**と**規模** 平面形は卵丸長方形を呈する。規模は長軸123cm、短軸42cm、確認面からの深さ27cmを測る。

**主軸方位** N-13°-W **壁面** ほぼ垂直に立ち上がり、上位は外傾する。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物**

土師器片、須恵器片が出土した。図示し得るものではなく、また遺構に伴うものではないと判断した。 **備考** 本遺構は、時期を特定し得る遺物は出土していないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥穴と判断した。

## SK71 (第162図)

**位置** 2-76区R-S-1・2グリッド(2面/2・3区調査区西部)。 **重複関係** SI09と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 上位の一部がSI09によって壊されている。 **覆土** 黒褐色土が基準で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は上位が楕円形、下位が卵丸長方形を呈する。規模は長軸238cm、短軸157cm、確認面からの深さ158cmを測る。 **主軸方位** N-55°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 中央南側に向かって穏やかに傾斜する。東側に小さな窪みがある。 **遺物** 繩文土器片が出土した。1点を図示し得たが、遺構に伴うものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載した。 **備考** 本遺構は、時期を特定し得る遺物は出土していないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥穴と判断した。



第164図 SK75実測図(1/40)

## SK74 (第163図)

**位置** 2-77区O-P-10グリッド(2・3区調査区端部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

**覆土** 上層は黒褐色土、下層は黑色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は上位が梢円形、中位以下が隅丸長方形を呈する。規模は長軸204cm、短軸152cm、確認面からの深さ153cmを測る。

**主軸方位** N-2°-W **壁面** ほぼ垂直に立ち上がり、東・西・北壁は上位が外傾する。 **底面** 長軸両端が低くなる。

**遺物** なし。 **備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

## SK75 (第164図)

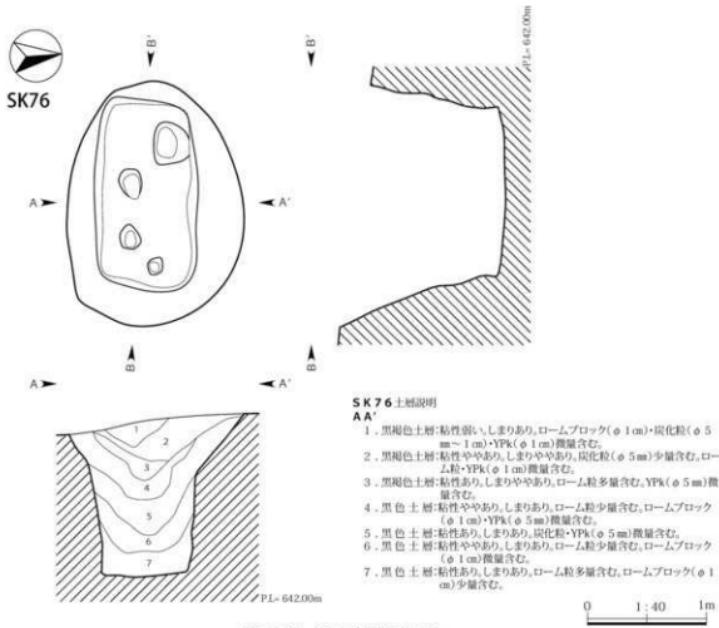
**位置** 2-77区O-P-10グリッド(2・3区調査区端部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土**

上層は黒褐色土、下層は黑色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は上位が梢円形、中位以下が隅丸長方形を呈する。規模は長軸182cm、短軸137cm、確認面からの深さ180cmを測る。

**主軸方位** N-22°-W **壁面** 南・北壁はほぼ垂直に、東・西壁は外傾して立ち上がる。 **底面** 長軸両端が一段低くなる。

**遺物** 繩文土器が出土した。図示し得るものではなく、また遺構に伴うものではないと判断した。

**備考** 本遺構は、時期を特定し得る遺物は出土していないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。



第165図 SK76実測図(1/40)

## SK76 (第165図／PL 77)

位置 2-77区N-11・12グリッド(2・3区調査区東端)。重複関係なし。遺存状態良好。

覆土 上層は黒褐色土、下層は黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。平面形と規模 上位が楕円形、下位が隅丸長方形を呈する。規模は長軸206cm、短軸148cm、確認面からの深さ144cmを測る。

主軸方位 N-82°-W 壁面 南・北壁は外傾して立ち上がる。東・西壁はほぼ垂直に立ち上がり上位が外傾する。底面 小さな窪みが見られるが、概ね平坦である。遺物なし。備考 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

## SK77 (第166図)

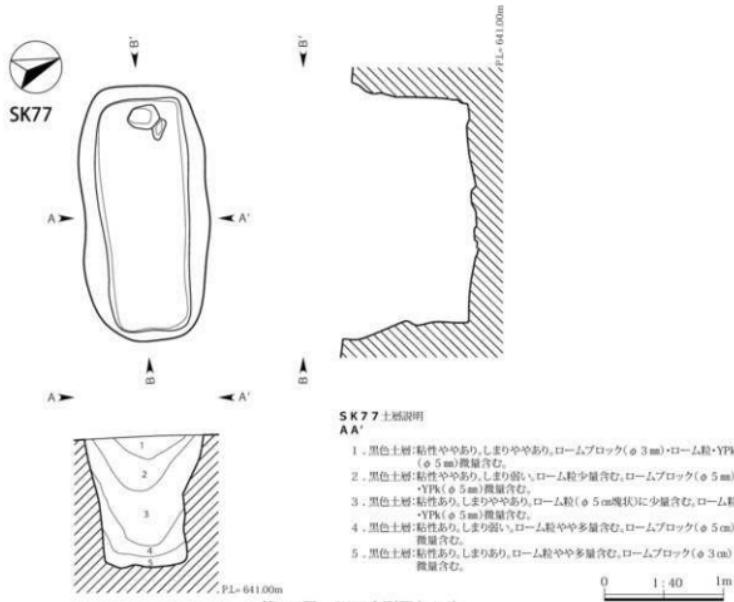
位置 2-77区M-12・13グリッド(2・3区調査区南東部)。重複関係なし。遺存状態良好。

覆土 黒色土が基調で、自然堆積を示す。平面形と規模 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸214cm、短軸106cm、確認面からの深さ113cmを測る。主軸方位 N-72°-W 壁面 ほぼ垂直に立ち上がり、中位から外傾する。底面 中に向かって傾斜し、小さく凸凹する。長軸西端部に小さな窪みが見られる。

遺物なし。備考 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

## SK78 (第167図)

位置 2-77区L・M-8グリッド(2・3区調査区東部)。重複関係なし。遺存状態良好。覆



第166図 SK77実測図(1/40)

**土** 上層は黒褐色土、下層は黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は上位が楕円形、下位が隅丸長方形を呈する。規模は長軸 237cm、短軸 148cm、確認面からの深さ 185cmを測る。

**主軸方位** N=50°—W **壁面** 南壁はほぼ垂直に立ち上がる。東・西・北壁は下位がほぼ垂直に立ち上がり、そこから外傾する。東・西壁にはステップ状の平坦部がある。**底面** 横ね平坦である。**遺物** 磨石 1点が出土した。図示し得たが遺構に伴うものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載した。**備考** 本遺構は、時期を特定し得る遺物は出土していないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

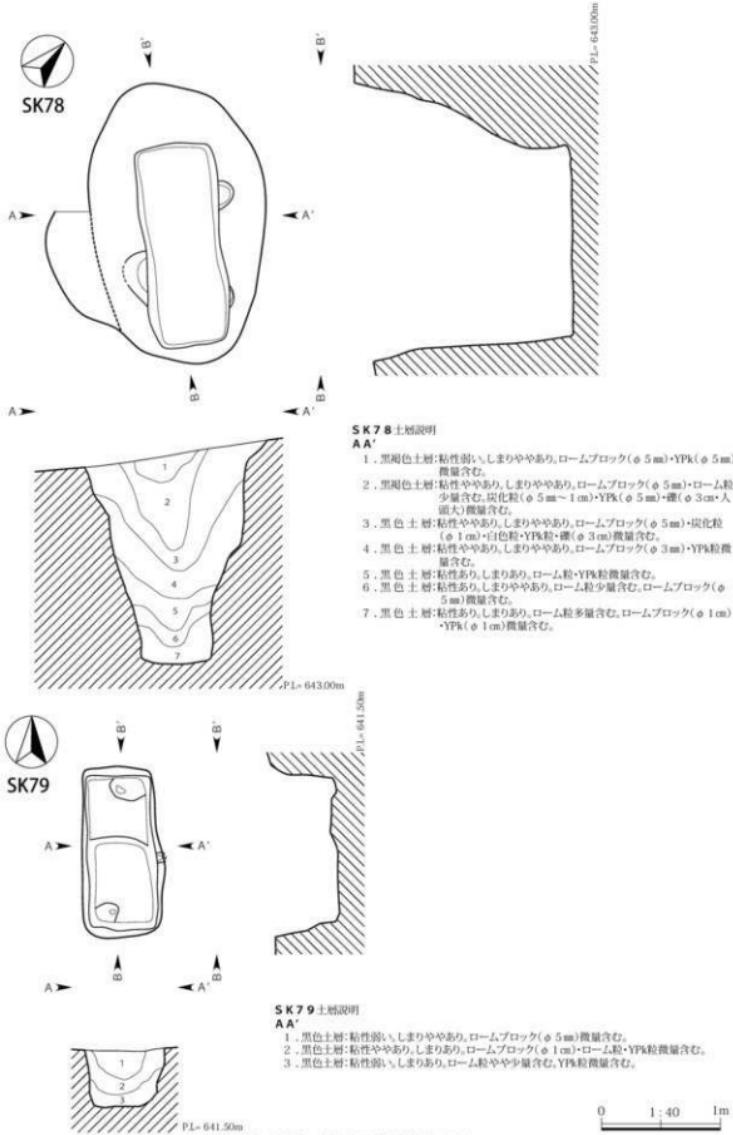
#### SK79 (第167図)

**位置** 2-77 区 K-10 グリッド (2・3区調査区東部中央)。**重複関係** なし。**遺存状態** 概ね良好であるが、上位は削平されたと考えられる。**覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸 144cm、短軸 70cm、確認面からの深さ 63cmを測る。**主軸方位** N=0°。**壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。**底面** 長軸南側が一段低くなり、両端部に小さな窪みが見られる。

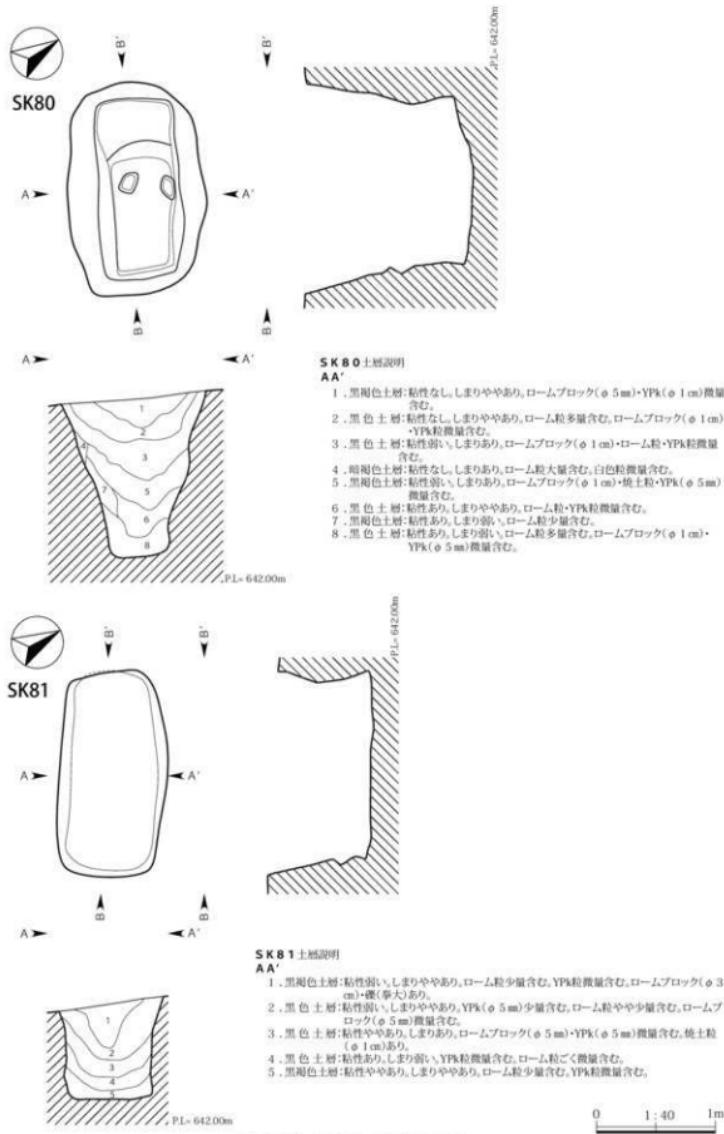
**遺物** なし。**備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

#### SK80 (第168図)

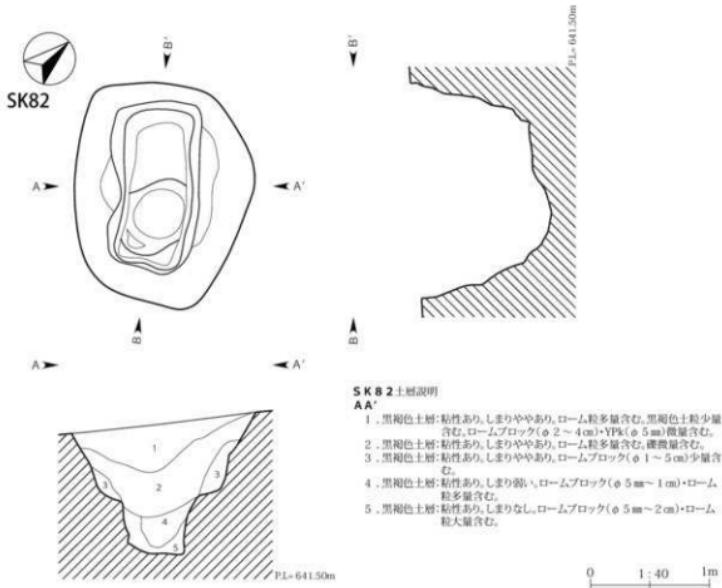
**位置** 2-77 区 L-9 グリッド (2・3区調査区東部)。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黑褐色土と黒色土が互層をなし、中層に暗褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は上位が楕円形、下位が隅丸長方形を呈する。規模は長軸 178cm、短軸 116cm、確認面からの深



第167図 SK78・79実測図(1/40)



第168図 SK80・81実測図(1/40)



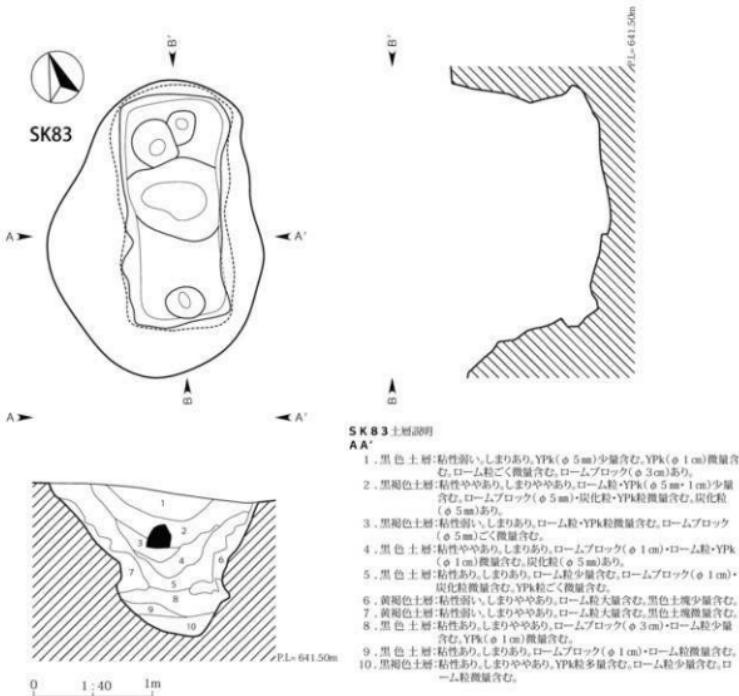
さ140cmを測る。 **主軸方位** N—61°—W **壁面** 東・西壁はオーバーハング気味に立ち上がり、中位から外傾して立ち上がる。南・北壁は外傾して立ち上がる。 **底面** 長輪南東側が一段低く、小さな窪みが見られる。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

#### SK81 (第168図)

**位置** 2—77区L—10グリッド(2・3区調査区東部中央)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。  
**覆土** 黒褐色土と黒色土が互層をなし、堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は楕円長方形を呈する。規模は長輪171cm、短輪91cm、確認面からの深さ87cmを測る。 **主軸方位** N—60°—W **壁面** 東・西壁はオーバーハング気味に外傾して立ち上がり、中位から外傾して立ち上がる。南・北壁はほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

#### SK82 (第169図)

**位置** 2—77区L—11グリッド(2・3区調査区東部中央)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。  
**覆土** 黒褐色土を基調とし、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は上位が楕円形、中位以下が楕円長方形を呈する。規模は長輪186cm、短輪149cm、確認面からの深さ120cmを測る。 **主軸方位** N—46°—W **壁面** 東・西壁は階段状に立ち上がる。南・北壁は外傾して立ち上がる。 **底面** 南部が一段低くなる。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。



第170図 SK83実測図 (1/40)

## SK83 (第170図 / PL 77)

**位置** 2-77区K-10・11グリッド (2・3区調査区東部中央)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

**覆土** 黒色土と黒褐色土が互層をなす。中層に黄褐色土があり、壁面崩落土と考えられる。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は上位が不整形、中位以下が隅丸長方形を呈する。規模は長軸250cm、短軸182cm、確認面からの深さ132cmを測る。 **主軸方位** N-23°-E **壁面** 南・北壁はオーバーハング気味に立ち上がり、中位から外傾して立ち上がる。東・西壁は外傾して立ち上がり、中位から大きく外傾する。

**底面** 中央部が一段低くなり、長軸両端に小さな窪みが見られる。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

## SK86 (第171図)

**位置** 2-77区J-9・10グリッド (2・3区調査区東部中央)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

**覆土** 上層は黒褐色土、下層は黑色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は上位が橢円形、中位以下が隅丸長方形を呈する。規模は長軸175cm、短軸134cm、確認面からの深さ132cmを測る。 **主軸方位** N-30°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 長軸両端がわずかに低くなる。 **遺物** 磨石1点が出土した。図示し得るものではなく、また遺構に伴うものではないと判断した。 **備**

**考** 本遺構は、時期を特定し得る遺物は出土していないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

#### SK87 (第 171 図)

**位置** 2—77 区 L・M—12 グリッド (2・3 区調査区東部中央)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

**覆土** 黒褐色土と黒色土が互層をなし、堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は上位が梢円形、下位が隅丸長方形を呈する。規模は長軸 176cm、短軸 127cm、確認面からの深さ 130cm を測る。 **主軸方位** N—33°—W **壁面** ほぼ垂直に立ち上がり、上位が外傾する。 **底面** 中央部が一段低くなる。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

#### SK88 (第 172 図)

**位置** 2—77 区 I—10 グリッド (2・3 区調査区東部中央)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

**覆土** 上層は黒褐色土、下層は黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸 137cm、短軸 78cm、確認面からの深さ 120cm を測る。 **主軸方位** N—7°—W **壁面** ほぼ垂直に立ち上がり、上位は外傾する。 **底面** 長軸両端に向かって傾斜する。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

#### SK89 (第 172 図)

**位置** 2—77 区 I・J—10 グリッド (2・3 区調査区東部中央)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

**覆土** 黒褐色土と黒色土が互層をなし、堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は上位が梢円形、下位が隅丸長方形を呈する。規模は長軸 170cm、短軸 92cm、確認面からの深さ 106cm を測る。 **主軸方位** N—0° **壁面** ほぼ垂直に立ち上がり、中位から外傾する。南壁は上位がさらに大きく外傾する。 **底面** 長軸両端が一段低くなる。 **遺物** 土師器片が出土した。図示し得るものではなく、また遺構に伴うものではないと判断した。 **備考** 本遺構は、時期を特定し得る遺物は出土していないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

#### SK90 (第 172 図／PL 77)

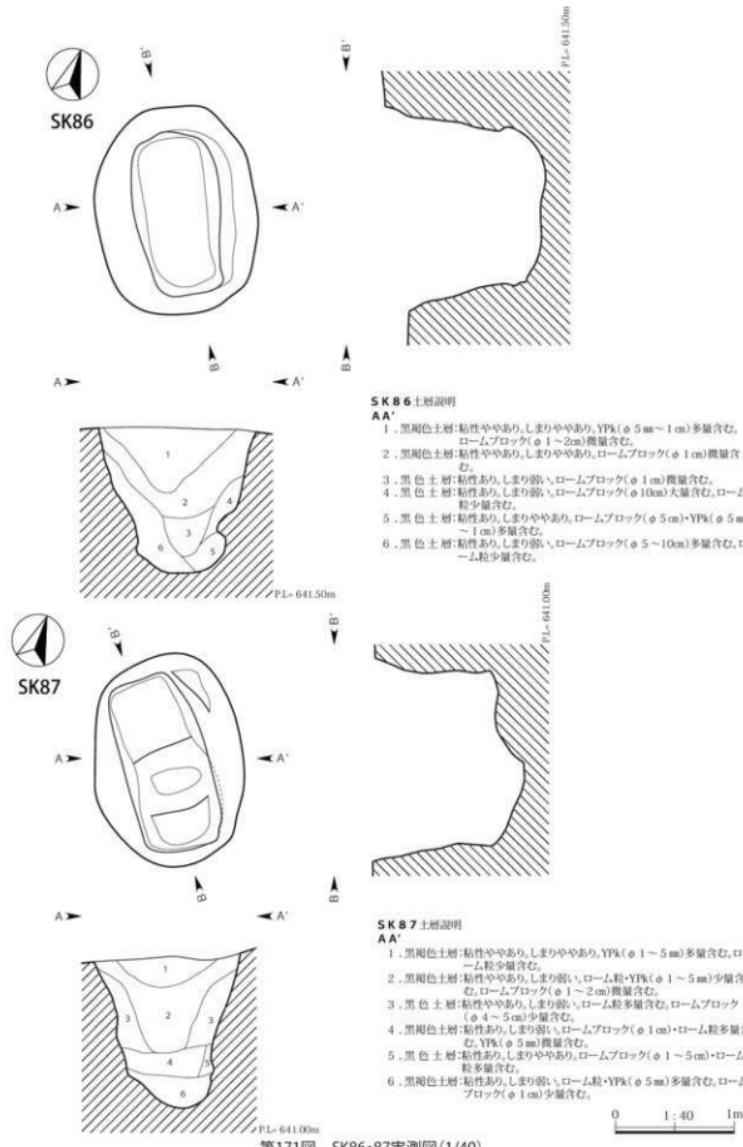
**位置** 2—77 区 J—11 グリッド (2・3 区調査区東部中央)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

**覆土** 黒褐色土と黒色土が互層をなし、堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸 211cm、短軸 102cm、確認面からの深さ 81cm を測る。 **主軸方位** N—50°—W **壁面** ほぼ垂直に立ち上がり、上位は外傾する。 **底面** 南側に向かって傾斜している。 **遺物** 繩文土器片、土師器片が出土した。繩文土器 1 点を図示し得たが、遺構に伴うものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載した。 **備考** 本遺構は、時期を特定し得る遺物は出土していないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

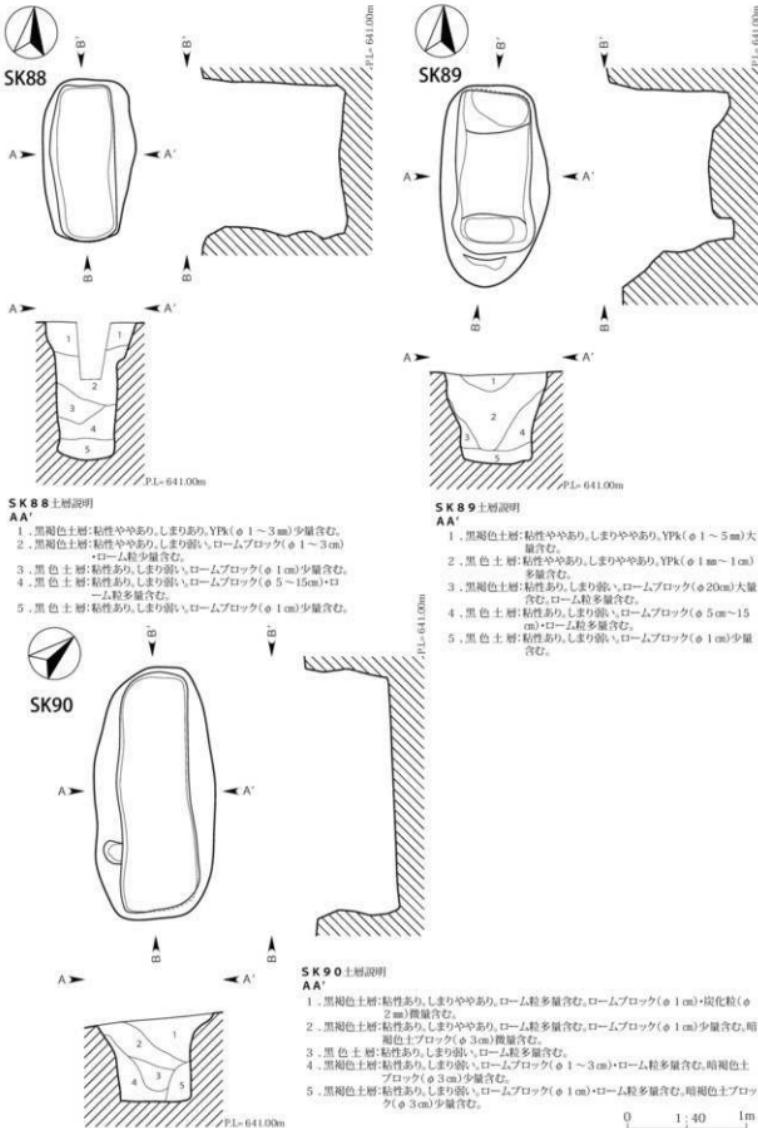
#### SK94 (第 173 図)

**位置** 2—77 区 I・J—11 グリッド (2・3 区調査区東部中央)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

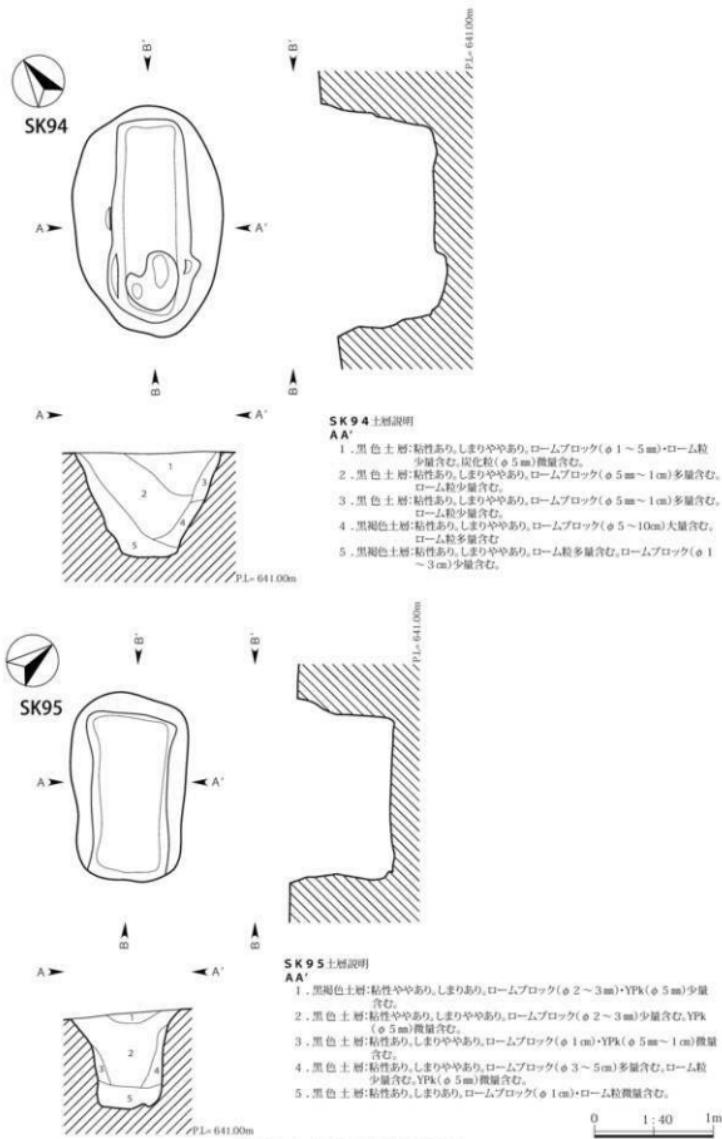
**覆土** 上層は黒色土、下層は黒褐色土が堆積している。堆積状況は人為堆積の可能性が考えられる。 **平面形と規模** 平面形は上位が梢円形、下位が隅丸長方形を呈する。規模は長軸 193cm、短軸 125cm、確認面からの深さ 96cm を測る。 **主軸方位** N—34°—E **壁面** 南・北壁は外傾し、東・西壁は大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 長軸南端部が一段低くなる。 **遺物** 繩文土器片が出土した。図示し得るものではなく、また遺構に伴うものではないと判断した。 **備考** 本遺構は、時期を特定し得る遺物は出土していないが、平



第171図 SK86・87実測図(1/40)



第172図 SK88~90実測図(1/40)



第173図 SK94・95実測図(1/40)

面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

#### SK95 (第173図)

**位置** 2-77 区H・I-10 グリッド (2・3区調査区東部中央)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

**覆土** 上層は黒褐色土、中・下層は黑色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸 157cm、短軸 95cm、確認面からの深さ 87cm を測る。 **主軸方位** N-51°-W **壁面** ほぼ垂直に立ち上がり、上位が外傾する。南壁はオーバーハング気味である。 **底面** 長軸両端に向かって緩やかに傾斜している。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

#### SK96 (第174図)

**位置** 2-77 区N-9・10 グリッド (2・3区調査区東部中央)。 **重複関係** SI16 と重複している。重複部分が少ないため新旧関係は判断できなかったが、本遺構の方が新しいと思われる。 **遺存状態** 良好。

**覆土** 黒色土が基調であるが、最下層に黒褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は上位が楕円形、下位が隅丸長方形を呈する。規模は長軸 182cm、短軸 101cm、確認面からの深さ 159cm を測る。 **主軸方位** N-32°-E **壁面** ほぼ垂直に立ち上がり、上位が外傾する。 **底面** 長軸両端部に向かって緩やかに傾斜する。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

#### SK97 (第174図)

**位置** 2-77 区H-10 グリッド (2・3区調査区東部中央)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸 142cm、短軸 65cm、確認面からの深さ 58cm を測る。 **主軸方位** N-3°-E **壁面** 西・北壁はほぼ垂直に、東・南壁は外傾して立ち上がる。 **底面** 中央部に向かって緩やかに傾斜し、南側が一段低くなる。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

#### SK98 (第175図)

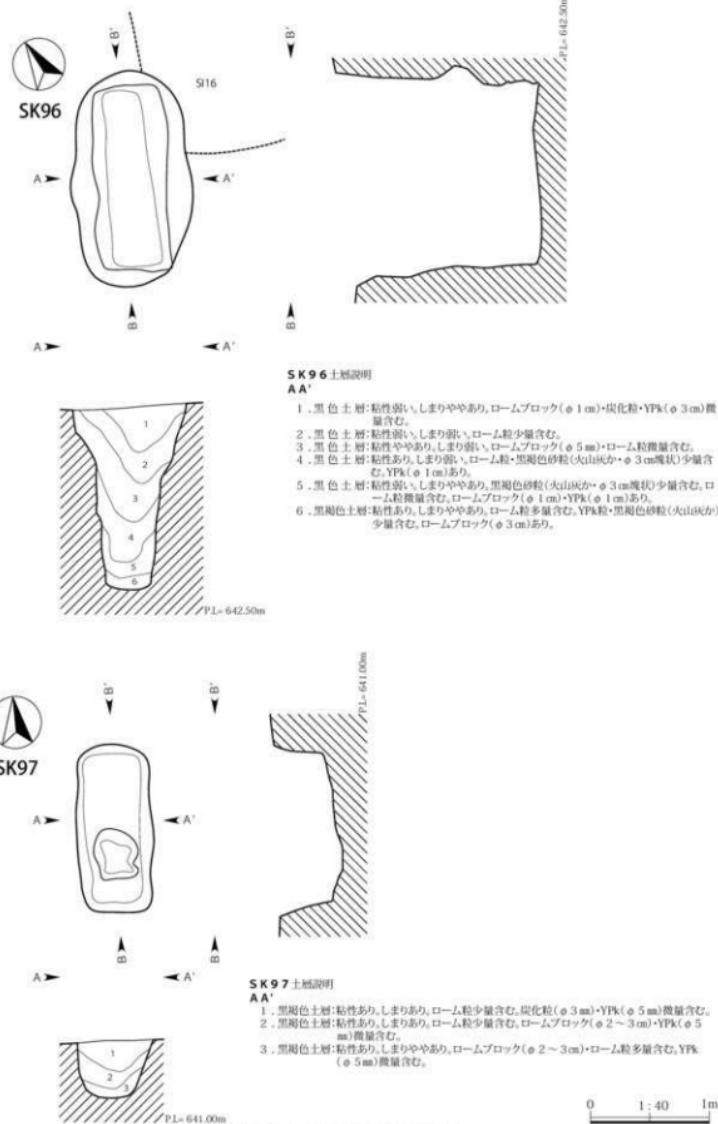
**位置** 2-77 区I-10 グリッド (2・3区調査区東部中央)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

**覆土** 黒褐色土と黒色土が互層をなし、堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は上位が楕円形、下位が隅丸長方形を呈する。規模は長軸 228cm、短軸 185cm、確認面からの深さ 148cm を測る。 **主軸方位** N-45°-E **壁面** ほぼ垂直に立ち上がり、中位から大きく外傾する。北壁は一部オーバーハングする。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** 繩文土器片が出土した。図示し得るものではなく、また遺構に伴うものではないと判断した。 **備考** 本遺構は、時期を特定し得る遺物は出土していないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

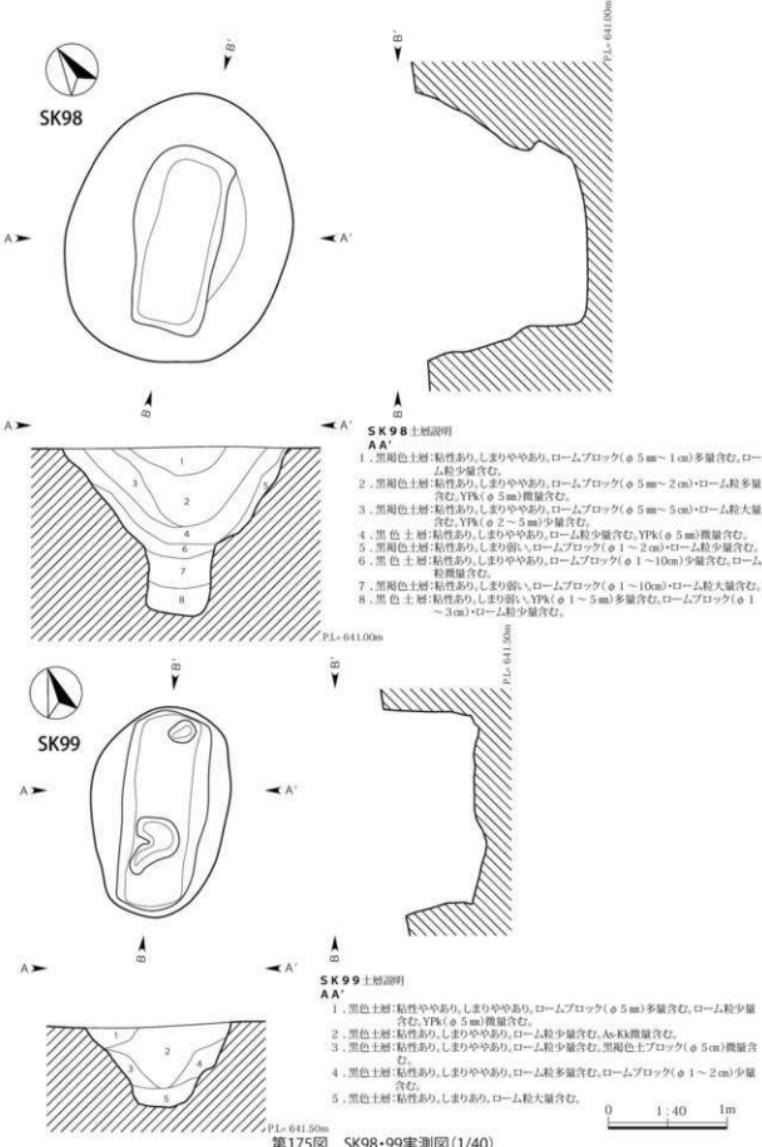
#### SK99 (第175図)

**位置** 2-77 区J-9・10 グリッド (2・3区調査区東部中央)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

**覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は上位が楕円形、下位が隅丸長方形を呈する。規模は長軸 127cm、短軸 116cm、確認面からの深さ 89cm を測る。 **主軸方位** N-25°-E **壁面** 南・北壁はほぼ垂直に立ち上がり、東・西壁は大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 長軸両端側がわずかに低く、小さな窪みが見られる。 **遺物** 繩文土器片、磨石が出土した。磨石 1点を図示したが、遺構に伴うものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載した。 **備考** 本遺構は、時期を特定し得る遺物は出土していないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。



第174図 SK96・97実測図(1/40)



## SK102 (第 176 図)

**位置** 2—77 区 P—11・12 グリッド (2面／2・3区調査区東端)。 **重複関係** SI27 と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 概ね良好であるが、1面目で確認できなかったため上位を削平してしまった。

**覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸 157cm、短軸 70cm、確認面からの深さ 84cm を測る。 **主軸方位** N—21°—E **壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

## SK103 (第 176 図)

**位置** 2—77 区 O—11 グリッド (2面／2・3区調査区東端)。 **重複関係** SI27 と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 概ね良好であるが、1面目で確認できなかったため上位を削平してしまった。 **覆土**

黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸 185cm、短軸 78cm、確認面からの深さ 76cm を測る。 **主軸方位** N—19°—E **壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 長軸南端部が一段高い。南側に向かって段状に傾斜している。 **遺物** 繩文土器片が出土した。1点を図示し得たが遺構に伴うものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載した。 **備考** 本遺構は、時期を特定し得る遺物は出土していないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

## SK104 (第 177 図)

**位置** 2—77 区 N・O—10・11 グリッド (2面／2・3区調査区東端)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 概ね良好であるが、1面目で確認できなかったため上位を削平してしまった。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。

**平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸 183cm、短軸 94cm、確認面からの深さ 69cm を測る。 **主軸方位** N—16°—W **壁面** 南・北壁はほぼ垂直に立ち上がる。東・西壁は外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

## SK105 (第 177 図／PL 77)

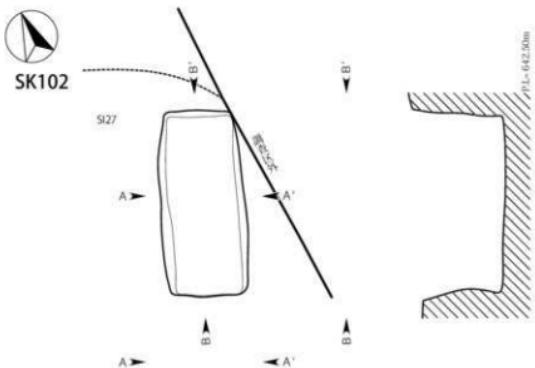
**位置** 2—77 区 N—12 グリッド (2面／2・3区調査区東端)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 概ね良好であるが、1面目で確認できなかったため上位を削平してしまった。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸 145cm、短軸 67cm、確認面からの深さ 56cm を測る。 **主軸方位** N—38°—E **壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 南側に向かって緩やかに傾斜する。 **遺物** 繩文土器片が出土した。図示し得るものではなく、また遺構に伴うものではないと判断した。

**備考** 本遺構は、時期を特定し得る遺物は出土していないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

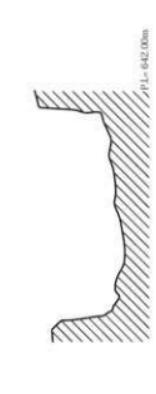
## SK106 (第 178 図)

**位置** 2—77 区 O・P—9 グリッド (2面／2・3区調査区東端)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 概ね良好であるが、1面目で確認できなかったため上位を削平してしまった。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。

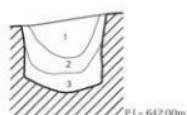
**平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸 207cm 以上、短軸 106cm、確認面からの深さ 56cm を測る。 **主軸方位** N—22°—W **壁面** ほぼ垂直に立ち上がり、東壁の中央部が外傾し、テラス状となる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

**SK102 土層説明****AA'**

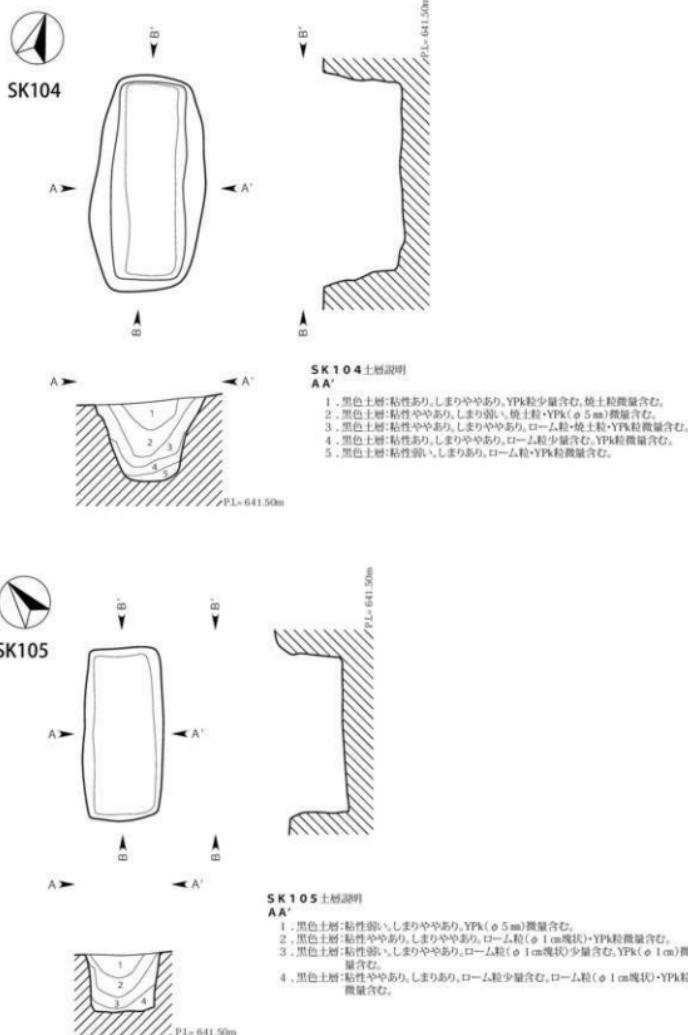
1. 黒色土層：粘性弱い、しまりややあり。YPk(Φ 5 mm)微量含む。
2. 黒色土層：粘性弱い、しまりややあり。純土粒・YPk(Φ 5 mm)微量含む。
3. 黒色土層：粘性ややあり、しまり弱い。ローム粒・純土粒・YPk(Φ 5 mm)微量含む。
4. 黒色土層：粘性ややあり、しまり弱い。ローム粒(Φ 1 cm幾块)少量含む。YPk粒微量含む。
5. 黒色土層：粘性弱い、しまりややあり。ローム粒多量含む。
6. 黒色土層：粘性あり、しまり弱い。ローム粒少量含む。

**SK103 土層説明****AA'**

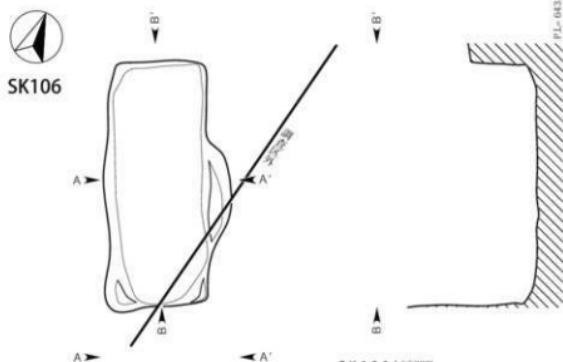
1. 黒色土層：粘性ややあり、しまり弱い。ロームブロック(Φ 1 cm)・ローム粒・YPk粒微量含む。
2. 黒色土層：粘性あり、しまりややあり。ロームブロック(Φ 3 cm)・炭化粒(Φ 1 cm)・YPk粒微量含む。ローム粒多く微量含む。
3. 黒色土層：粘性あり、しまりあり。ローム粒少量含む。ロームブロック(Φ 1 cm)・YPk粒微量含む。



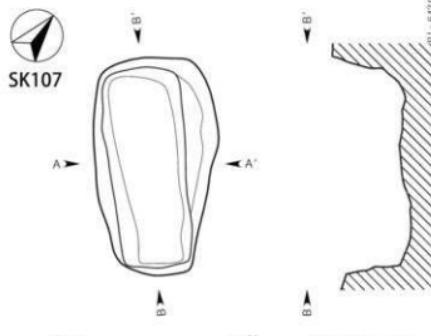
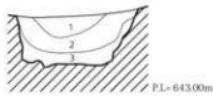
第176図 SK102・103実測図(1/40)



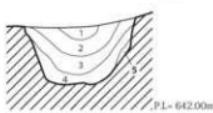
第177図 SK104・105実測図(1/40)

**SK106 土層説明****AA'**

1. 黒色土層:粘性弱い、しまりややあり、粘土粒・Ypk ( $\phi$  5mm ~ 1cm) 頗量含む。
2. 黒色土層:粘性ややあり、しまりややあり、ロームブロック ( $\phi$  1cm)・ローム粒・Ypk 粒微量含む。
3. 黒色土層:粘性ややあり、しまりあり、ロームブロック ( $\phi$  5mm)・ローム粒 ( $\phi$  10cm塊状) 少量含む、Ypk 粒微量含む。

**SK107 土層説明****AA'**

1. 黒色土層:粘性弱い、しまり弱い、ロームブロック ( $\phi$  5mm)・ローム粒微量含む。
2. 黒色土層:粘性弱い、しまり弱い、ロームブロック ( $\phi$  5mm)・Ypk 粒微量含む。粘土粒・Ypk 粒微量含む。
3. 黒色土層:粘性弱い、しまりややあり、ローム粒少量含む、ロームブロック ( $\phi$  3mm) 粒量含む。
4. 黒色土層:粘性弱い、しまりややあり、ローム粒やや少量含む、ロームブロック ( $\phi$  5mm)・Ypk 粒微量含む。
5. 黒色土層:粘性ややあり、しまりあり、ロームブロック ( $\phi$  3mm) 少量含む、ローム粒・Ypk 粒微量含む。



第178図 SK106・107実測図(1/40)

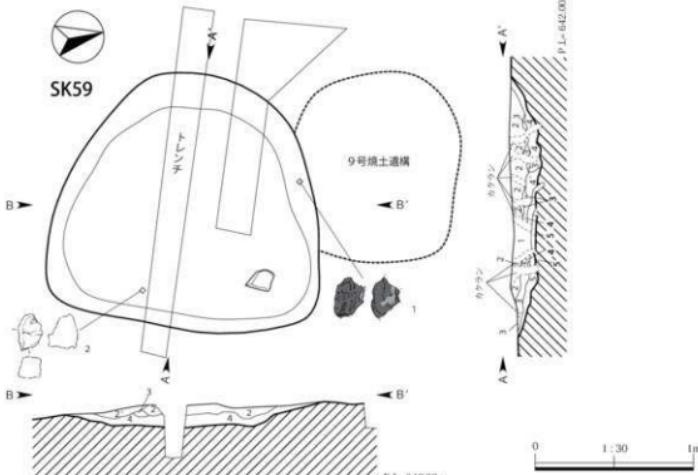
## SK107 (第178図/PL 77)

**位置** 2-77区N-9、O-9・10グリッド(2面/2・3区調査区東端)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 概ね良好であるが、1面目で確認できなかったため上位を削平してしまった。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は上位が梢円形、下位が開丸長方形を呈する。規模は長軸184cm、短軸106cm、確認面からの深さ63cmを測る。 **主軸方位** N-44°-W **壁面** 南・北壁はほぼ垂直に立ち上がり、東・西壁は外傾して立ち上がる。 **底面** 長軸両端に向かって傾斜する。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、出土遺物はないが、平面・断面形の特徴から平安時代に帰属する陥し穴と判断した。

## (3) 土坑

## SK59 (第179・180・185図/PL 78・91)

**位置** 2-77区E-6グリッド(2・3区調査区中央部)。 **重複関係** 9号焼土遺構と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒褐色土・暗褐色砂、下層は暗褐色・黒褐色シルトが堆積し



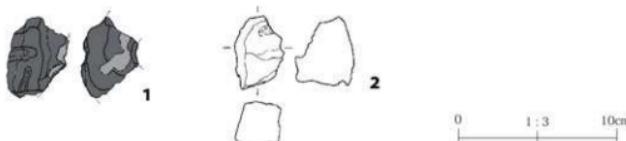
## SK59 土壇説明

## AA' BB'

1. 黒褐色土: 剥離性弱い。しまりあり。燒土粒少量含む。YPk(ø 5mm)微量含む。繊(ø 1mm)ごく微量含む。
2. 暗褐色砂: 剥離性なし。しまりあり。YPk(ø 5mm)少量含む。燒土粒(ø 5mm)微量含む。
- 2'. 黒褐色土: 剥離性弱い。しまりあり。燒土粒少量含む。YPk粒微量含む。
3. 暗褐色シルト: 剥離性やや弱い。しまりあり。
4. 黒褐色シルト: 剥離性やや弱い。しまりあり。燒土粒少量含む。YPk(ø 1mm)微量含む。
5. 黒褐色シルト: 剥離性やや弱い。しまりあり。燒土粒微量含む。

第179図 SK59実測図(1/30)

## SK59



第180図 平安時代土坑出土遺物実測図(1/3)

ている。他の遺構では見られない砂が確認された。堆積状況は自然堆積を示すが、根（カクラン）の貫入が著しい。

**平面形と規模** 平面形は不整形を呈する。規模は長軸 172cm、短軸 161cm、確認面からの深さ 17cm を測る。

**主軸方位** N-19°-E

**壁面** 大きく外傾して立ち上がる。

**底面** 概ね平坦で、断面は皿状を呈する。

**遺物** 羽口 1 点、楕円形鍛治溝 1 点を図示し得た。

**備考** 本遺構は、遺構内および周辺から鍛冶関連遺物が出土したこと、周囲に 8・9 号焼土遺構が存在することから、鍛冶工程に付随する何らかの施設であったと考えられる。帰属時期は、周囲の竪穴住居跡と同時期の 9 世紀後半～10 世紀前半にかけてと考えられる。

#### SK72 (第 181 図)

**位置** 2-76 区 R-1 グリッド (2 面 / 2・3 区調査区北西隅)。

**重複関係** SI09 と重複し、本遺構の方が古い。

**遺存状態** 概ね良好であるが、SI09 によって上位が壊された可能性がある。

**覆土** 上層は黒色土、下層は黒褐色土が堆積している。

**堆積状況** 自然堆積を示す。

**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 112cm、短軸 108cm、確認面からの深さ 89cm を測る。

**主軸方位** N-33°-W

**壁面** 外傾して立ち上がる。

**底面** 概ね平坦である。

**遺物** なし。

**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は、遺構の確認状況および切り合い関係から、古墳時代後期以降で 9 世紀後半よりも古ないと判断した。

#### SK73 (第 182 図)

**位置** 2-77 区 O-10・11 グリッド (2・3 区調査区南東部)。

**重複関係** SI13 と重複し、本遺構の方が新しい。

**遺存状態** 良好。

**覆土** 上層は As-Kk を多量に含む黒褐色砂質土、中層は黒色土、下層は黒褐色土が堆積している。

**堆積状況** 自然堆積を示す。

**平面形と規模** 平面形は不整形を呈する。規模は長軸 218cm、短軸 197cm、確認面からの深さ 54cm を測る。

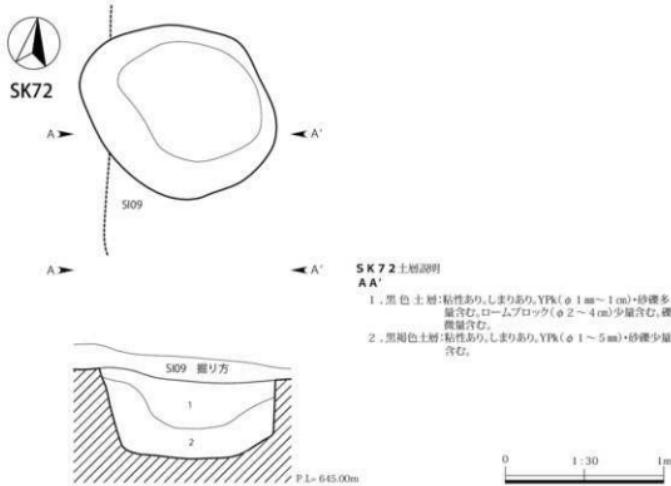
**主軸方位** N-2°-E

**壁面** 外傾して立ち上がる。

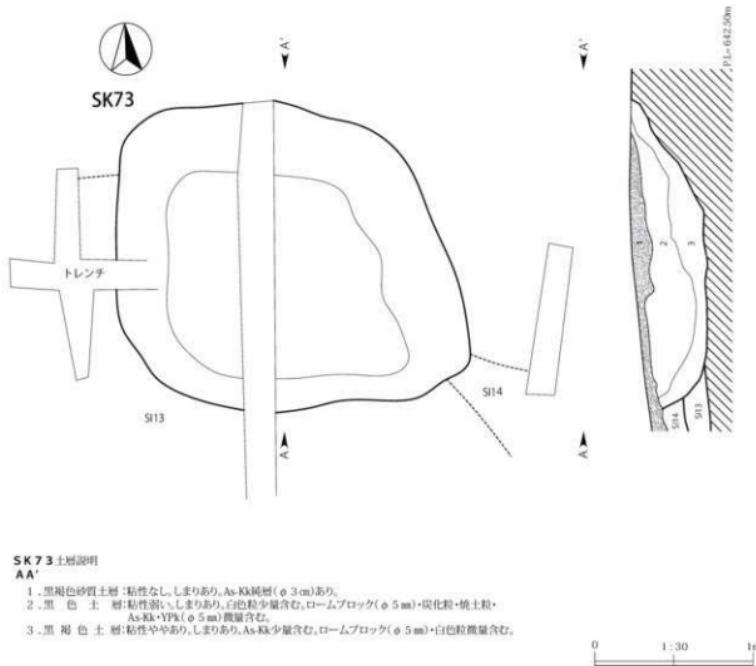
**底面** 概ね平坦である。

**遺物** なし。

**備考** 本遺構は、形態の特徴がなく出土遺物がないことから性格は不明である。帰属時期は、遺構の切り合い関係および最上位に As-Kk が堆積している状況から 10 世紀代と考えられる。



第181図 SK72実測図(1/30)



第182図 SK73実測図(1/30)

#### (4) 焼土遺構

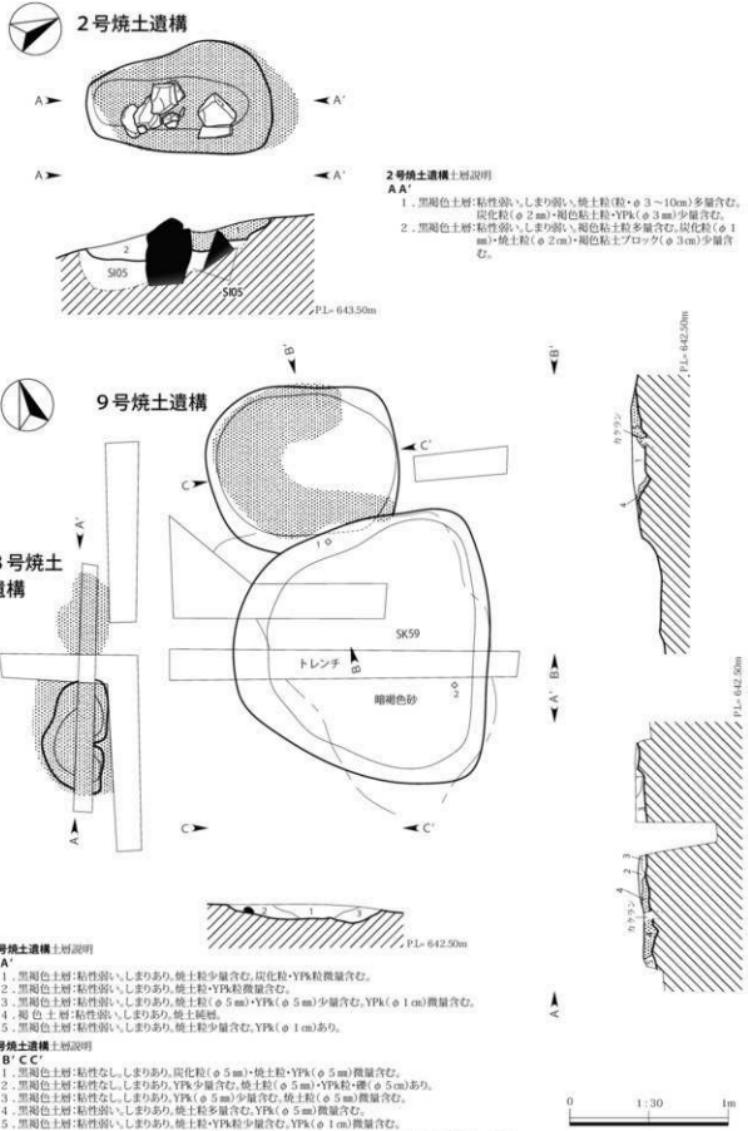
##### 2号焼土遺構 (第183図/P.L.78)

**位置** 2-76区F-4グリッド(2・3区調査区中央北部)。**重複関係** SI05と重複し、本遺構の方が新しい。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は焼土・掘り方ともに不整形を呈する。規模は焼土面が長軸122cm、短軸71cmを測る。掘り方が長軸132cm、短軸71cm、確認面からの深さ27cmを測る。**主軸方位** 掘り方でN-21°-E。**壁面** 大きく外傾して立ち上がる。

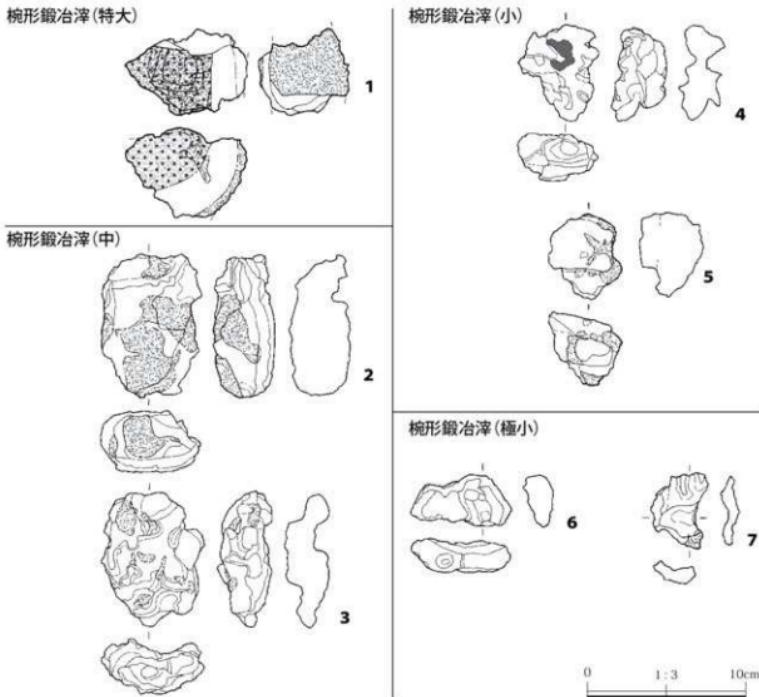
**底面** 南側に向かって段状に低くなる。**遺物** 土器片、自然石及び切石が出土したが、図示し得るものではなかった。**備考** 本遺構は、火を燃やした場所ではなく、焼土ブロックが流れ込んだものである。切石、自然石が含まれていることから、壊したカマドの構築材を埋めた可能性がある。縦断時期は、遺構の切り合い関係から10世紀代と考えられる。

##### 8号焼土遺構 (第183～185図/P.L.78・91)

**位置** 2-77区E-6グリッド(2・3区調査区中央部)。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土が基調で、一部被熱し褐色土に変質している。堆積状況は人為堆積の可能性が考えられる。**平面形と規模** 平面形は焼土・掘り方ともに不整形を呈する。規模は焼土面が長軸推定140cm、短軸45cm以上を測る。掘り方が長軸70cm、短軸40cm、確認面からの深さ7cmを測る。**主軸方位** 掘り方でN-29°-E。



第183図 2・8・9号焼土遺構実測図(1/30)



第184図 8・9号焼土遺構周辺出土遺物実測図(1/3)

羽 口	楔形鐵冶滓 (特大)	楔形鐵冶滓 (中)	楔形鐵冶滓 (小)	楔形鐵冶滓 (極小)
第180図1	分析資料1 第184図1	分析資料2 第184図2 第184図3	第184図5 第184図4 第180図2	第184図6 第184図7
分析	-	1	1	-
				-

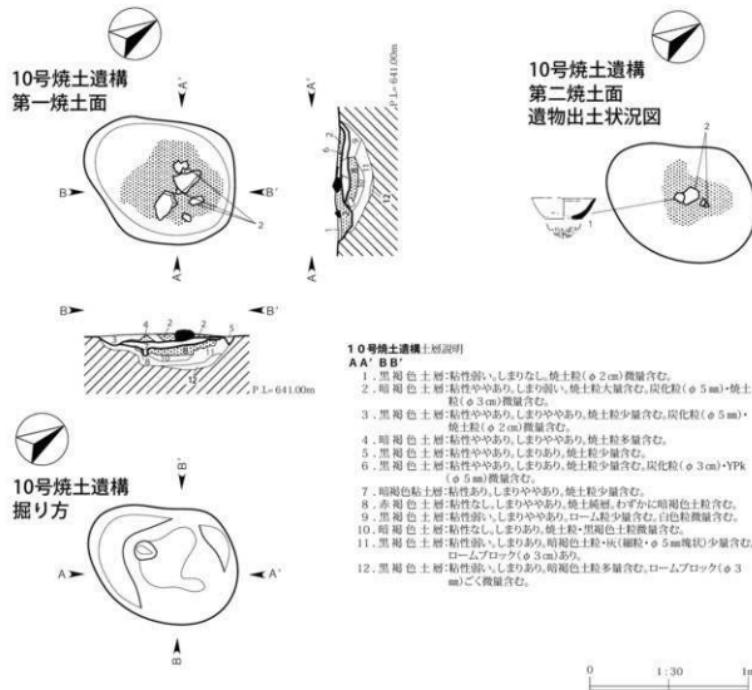
第185図 SK59、8・9号焼土遺構周辺出土鐵冶窯遺物構成図

**壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** 切石が出土している。また周辺からは楕円窓が出土している。 **備考** 底面付近が被熱し変色していることから、火を燃やしたため焼土化した痕跡と考えられる。周辺から鍛冶関連遺物が出土していることから、本遺構は鍛冶工程に付随する何らかの施設であった可能性が高いと考えられる。帰属時期は、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半頃と考えられる。

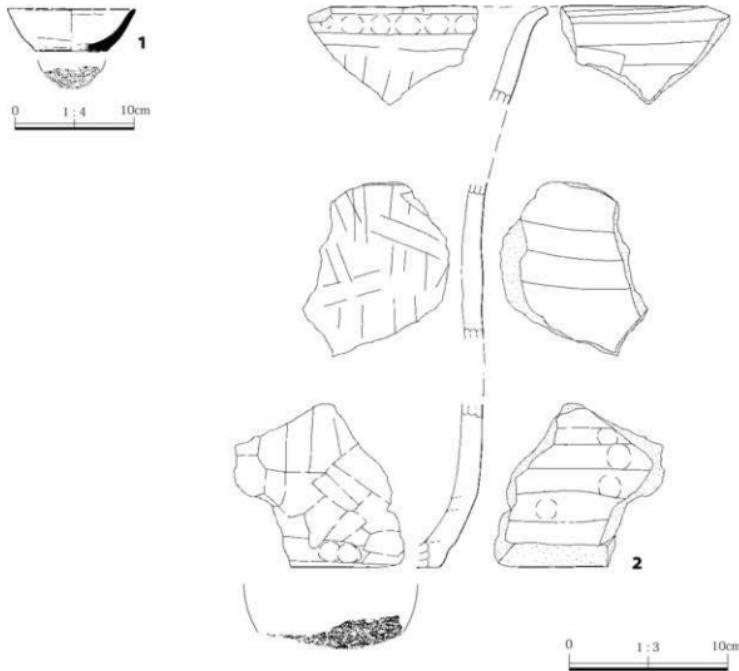
### 9号焼土遺構 (第183～185図／PL 78・91)

**位置** 2-77区E-6グリッド(2・3区調査区中央部)。 **重複関係** SK59と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。下層に多量の焼土を含んでいる。 **平面形と規模** 平面形は焼土・掘り方とともに楕円形を呈する。規模は焼上面が長軸122cm、短軸101cmを測る。掘り方が長軸119cm、短軸104cm以上。確認面からの深さ12cmを測る。 **主軸方位** 掘り方でN=44°-E。

**壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 若干凸凹するが、概ね平坦である。 **遺物** 周辺から楕円窓が出土している。 **備考** 底面付近が被熱し変色していることから、火を燃やしたため焼土化した痕跡と考えられる。周辺から鍛冶関連遺物が出土していることから、本遺構は鍛冶工程に付随する何らかの施設であった可能性が高いと考えられる。帰属時期は、周辺の竪穴住居跡と同時期の9世紀後半～10世紀前半頃と考えられる。



第186図 10号焼土遺構実測図(1/30)



第187図 10号焼土遺構出土遺物実測図(1/3・1/4)

## 10号焼土遺構 (第186・187図/P.L.79・91)

**位置** 2-77区M-13グリッド(2・3区調査区南東部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土と暗褐色土が互層をなし、2層・8層は被熱し変色している。1～7層は自然堆積、8～12層は人為堆積と考えられる。

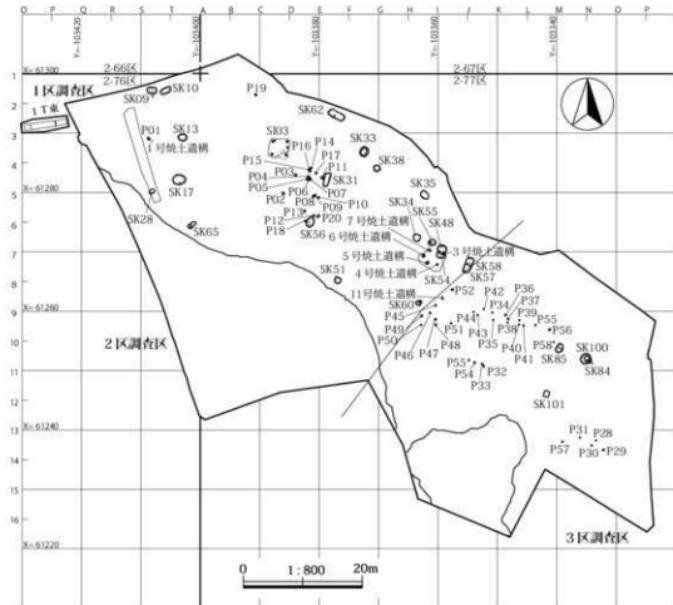
**平面形と規模** 平面形は焼土が不整形、掘り方は梢円形を呈する。規模は焼土面が長軸65cm、短軸50cmを測る。掘り方が長軸97cm、短軸77cm、確認面からの深さ7cmを測る。

**主軸方位**

掘り方でN-44°-E。 **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 火床面は概ね平坦である。掘り方底面は中央に向かって傾斜する。

**遺物** 焼土面の上から土師器片・須恵器片が出土し、2点を図示した得た。

**備考** 本遺構は、焼土がレンズ状に堆積している状況から、火を燃やしていた場所と判断した。火床面が2面あることから長期間使用されていたと考えられる。帰属時期は、出土遺物および周辺遺構から9世紀後半～10世紀前半頃と考えられる。



第188図 中世以降・時期不明の遺構配置図(1/800)

## 第6節 中世以降の遺構と遺物

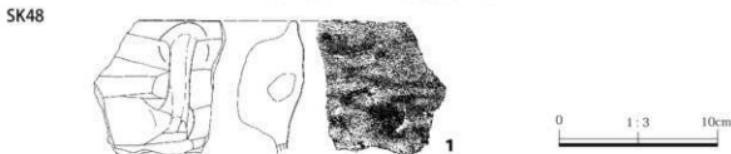
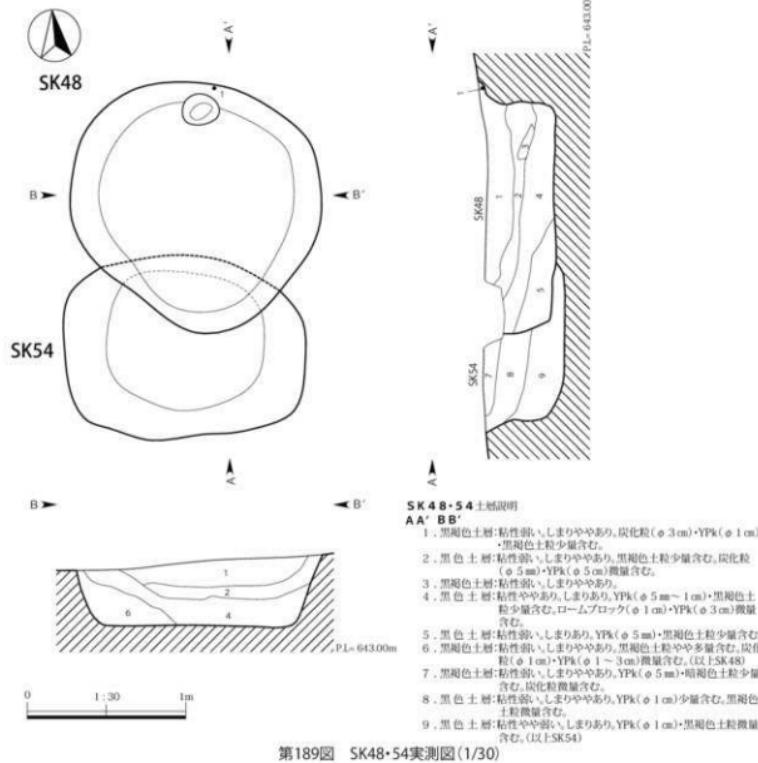
(1) 土坑

SK48 (第 189・190 図／P L 91)

**位置** 2-77区H・I-6・7グリッド(2・3区調査区中央部)。**重複関係** SK54、3号焼土遺構と重複し、本遺構はSK54より新しく、3号焼土遺構より古い。**遺存状態** 3号焼土遺構によって一部壊されているが、概ね良好である。**覆土** 黒褐色土と黒色土が互層をなし、堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸160cm、短軸143cm、確認面からの深さ48cmを測る。**主軸方位** N-52°W。**壁面** 外傾して立ち上がり、北壁は一部オーバーハングする。**底面** 極ね平坦である。**遺物** 内耳鍋1点を図示し得た。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないため性格は不明である。周囲よりも高い位置で遺構が確認されていること、内耳鍋が出土していることから、輪廻時期は中世と考えられる。

SK54 (第 189 図)

**位置** 2-77区H・I-6・7グリッド(2・3区調査区中央部)。**重複関係** SK48、3号焼土遺構と重複し、本遺構の方が古い。**遺存状態** SK48、3号焼土遺構によって部分的に壊されている。**覆土** 上層は黒褐色土、下層は黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸151cm、短軸推定117cm、確認面からの深さ53cmを測る。**主軸方位** N-85°-W **壁面**(ほぼ垂直に立ち上がり、中位から外傾して立ち上がる)。**底面** 横ね平坦である。**遺物** 士器器片が出土して

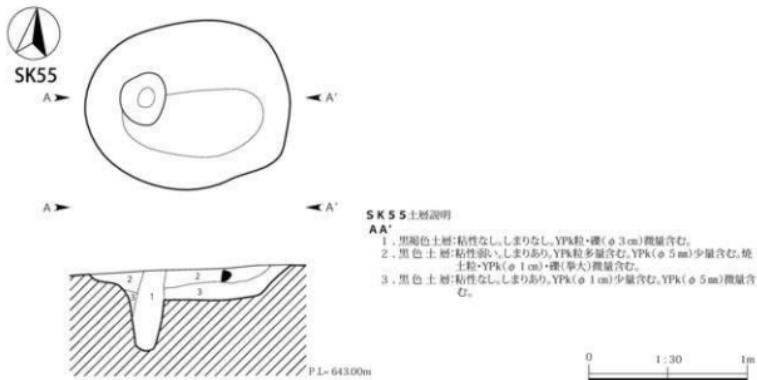


第190図 中世以降の土坑出土遺物実測図(1/30)

いる。図示し得るものではなく、また遺構に伴うものではないと判断した。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、周囲よりも高い位置で遺構が確認されていることから中世以降と考えられる。

## SK55 (第191図)

**位置** 2—77 区H—6 グリッド (2・3区調査区中央部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調であるが、黒褐色土である1層がピットのように入り込む状況である。 **平面形と規模** 平面



第191図 SK55実測図(1/30)

形は梢円形を呈する。規模は長軸 128cm、短軸 107cm、確認面からの深さ 23cm を測る。 **主軸方位** N—82°—W **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦であるが、西端部にピットが見られる。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。帰属時期は、周囲よりも高い位置で遺構が確認されていることから中世以降と考えられる。

## (2) 焼土遺構

### 3号焼土遺構（第192図）

**位置** 2—77 区 H—1—7 グリッド（2・3区調査区中央部）。 **重複関係** SK48・54 と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基準で、上層がわずかに焼土化している。堆積状況は人為堆積と考えられる。 **平面形と規模** 平面形は焼土が不整形、掘り方は円形を呈する。規模は焼土面が長軸 31cm、短軸 8cm を測る。掘り方が長軸 48cm、短軸 43cm、確認面からの深さ 14cm を測る。 **主軸方位** 掘り方で N—36°—W。 **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 中央に向かって緩やかに傾斜している。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、焼土化が顕著であることから、火を燃やした場所と考えられる。帰属時期は、周囲よりも高い位置で確認されたことおよび遺構の切り合い関係から、SK48・54 よりも新しい中世以降と考えられる。

### 4号焼土遺構（第192図）

**位置** 2—77 区 H—1—7 グリッド（2・3区調査区中央部）。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基準で、上層は焼土化している。1層は後から掘られ、埋まったものと考えられる。堆積状況は人為堆積と考えられる。 **平面形と規模** 平面形は焼土・掘り方ともに円形を呈する。規模は焼土面が長軸 39cm、短軸 31cm を測る。掘り方が長軸 30cm、短軸 29cm、確認面からの深さ 11cm を測る。 **主軸方位** 掘り方で N—21°—E。 **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** ほぼ平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、焼土化が顕著であることから、火を燃やした場所と考えられる。帰属時期は、周囲よりも高い位置で遺構が確認されていることから中世以降と考えられる。

### 5号焼土遺構（第192図／PL 79）

**位置** 2—77 区 H—1—7 グリッド（2・3区調査区中央部）。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土**



第192図 3～7・11号焼土遺構実測図(1/30)

黒色土と黒褐色土が互層をなし、堆積状況は人為堆積と考えられる。 **平面形と規模** 平面形は焼土・掘り方ともに不整形を呈する。規模は焼土面が長軸 45cm、短軸 15cm を測る。掘り方が長軸 57cm、短軸 42cm、確認面からの深さ 27cm を測る。 **主軸方位** 掘り方で N—66°—E。 **壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 概ね平坦であるが、西側が一段低くなる。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、焼土化が顕著であることから、火を燃やした場所と考えられる。帰属時期は、周囲よりも高い位置で遺構が確認されていることから中世以降と考えられる。

#### 6号焼土遺構（第 192 図）

**位置** 2—77 区 H—7 グリッド（2・3 区調査区中央部）。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒褐色土、下層は黒色土が堆積し、上層は一部焼土化している。堆積状況は人為堆積と考えられる。 **平面形と規模** 平面形は焼土が不整形、掘り方は円形を呈する。規模は焼土面が長軸 41cm、短軸 15cm を測る。掘り方が長軸 50cm、短軸 46cm、確認面からの深さ 27cm を測る。 **主軸方位** 掘り方で N—5°—W。 **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦であるが、北側の一部がわずかに窪む。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、焼土化が顕著であることから、火を燃やした場所であったと考えられる。帰属時期は、周囲よりも一段高い位置で遺構が確認されていることから中世以降と考えられる。

#### 7号焼土遺構（第 192 図）

**位置** 2—77 区 H—6 グリッド（2・3 区調査区中央部）。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基調で、上層に焼土を含む黒褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は掘り方が梢円形を呈する。規模は、掘り方が長軸 48cm、短軸 33cm、確認面からの深さ 9cm を測る。 **主軸方位** 掘り方で N—77°—W。 **壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。 **底面** 西側に向かって緩やかに傾斜する。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、火を燃やした場所ではなく、焼土ブロックが流れ込んだものであると考えられる。帰属時期は、周囲よりも一段高い位置で遺構が確認されていることから中世以降と考えられる。

#### 11号焼土遺構（第 192 図／PL 79）

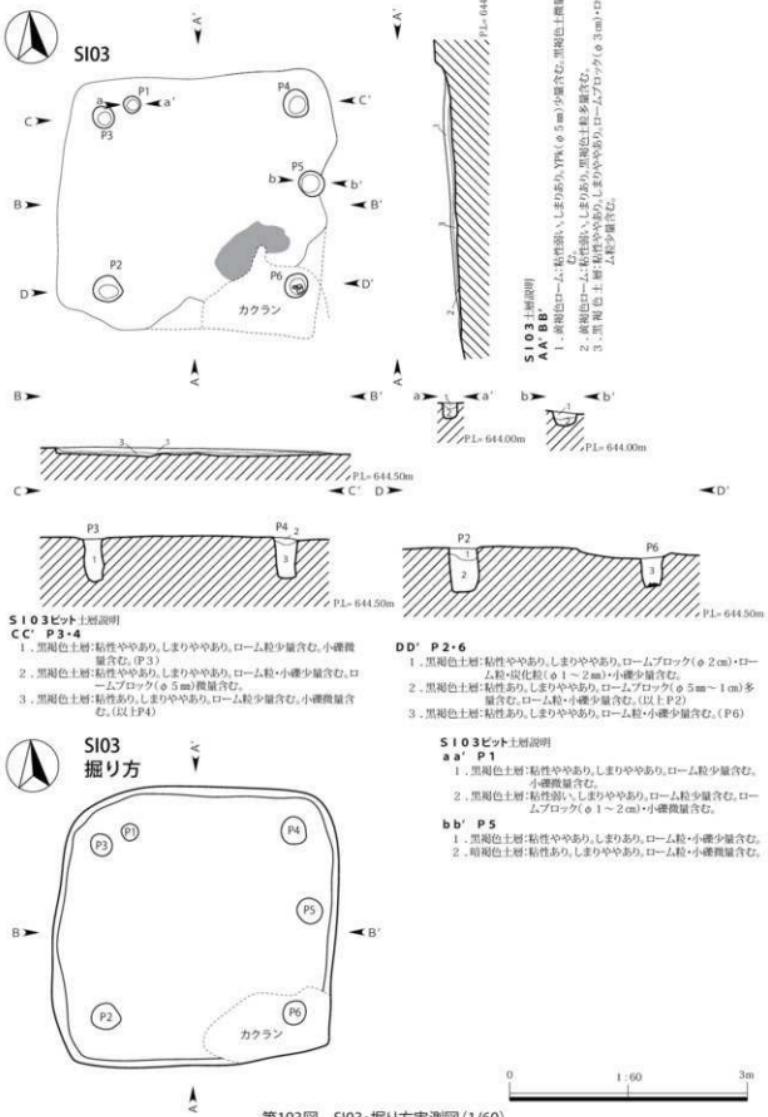
**位置** 2—77 区 I—8 グリッド（2・3 区調査区中央部） **重複関係** なし。 **遺存状態** 表土掘削の際に北東側を掘り過ぎたため、東半分が現存していない。 **覆土** 黒褐色土が基調で、大半が焼土化している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は焼土・掘り方とともに不明である。規模は焼土面が長軸 42cm、短軸 38cm 以上を測る。掘り方が長軸 52cm 以上、短軸 35cm 以上、確認面からの深さ 11cm を測る。 **主軸方位** 掘り方で N—28°—W。 **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 概ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、焼土化が顕著であることから、火を燃やした場所と考えられる。3～7号焼土遺構の南約 7.5 m に位置することから、一連の遺構と考えられる。帰属時期は、周囲よりも一段高い位置で遺構が確認されていることから中世以降と考えられる。

### 第 7 節 その他の遺構と遺物

#### （1） 積穴住居跡

##### SI03（第 193 図／PL 79・80）

**位置** 2—77 区 C—3 グリッド（2・3 区調査区中央部西寄り）。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 遺構確認の段階ではほぼ床面が露出しており、壁面は北壁がわずかに現存するのみであった。南東隅部はカクランを受けている。 **覆土** 不明。 **平面形と規模** 平面形は方形を呈すると思われる。主軸は 3.39 m 以上、副軸は 3.19 m 以上、確認面からの深さは最深 28cm、床面積は推定 10.59 m<sup>2</sup> を測る。 **主軸方位** N—84°—W。 **壁・壁溝** 北壁が 10cm を測り、ほぼ垂直に立ち上がる。壁溝は確認されていない。 **床面** 直床式で、ローム混



土の貼床が確認された。踏み締りは確認できなかった。概ね平坦であるが、南側に向かって非常に緩やかに傾斜している。全面に掘り方が見られた。**柱穴** P1～P6まで確認された。主柱穴はP2～P4・P6の4本柱と考えられる。それぞれの規模は、第24表に記載する。

**カマド** 確認されていない。**その他の施設** 確認されていない。南東部において

炭の集中が認められた。**遺物検出状況**

南側で土器がわずかに出土している。また、南東部で炭化物がまとまって出土した。**遺物** 床面から中世磁器片（染付）、掘り方から繩文土器片、土師器片が出土したが、図示し得るものではなかった。**備考** 本遺構は、貼床・柱穴が確認されたことから、竪穴住居跡と判断した。時期を特定し得る遺物が出土していないため帰属時期は不明であるが、床面から染付が出土していること、平安時代の竪穴住居跡が確認される面でほぼ床面のみの状況であることから、近世の可能性が高いと考えられる。

## （2）土坑

SK09（第194図）

**位置** 2-76区S-1グリッド（2・3区調査区北西部）。**重複関係** SI10と重複し、本遺構の方が新しい。**遺存状態** 良好。**覆土** 上層は黒褐色土、下層は黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。

**平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸168cm、短軸115cm、確認面からの深さ66cmを測る。

**主軸方位** N-84°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 北側に向かって傾斜している。**遺物** 繩文土器片、土師器片が出土した。図示し得るものではなく、また遺構に伴うものではないと判断した。**備考**

本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。時期を特定し得る遺物が出土していないため帰属時期は不明であるが、遺構の切り合い関係から古墳時代前期以降と考えられる。

SK10（第194図）

**位置** 2-76区S-T-1グリッド（2・3区調査区北西部）。**重複関係** SI10と重複し、本遺構の方が新しい。**遺存状態** 良好。**覆土** 上層は黒褐色土、下層は黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。

**平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸195cm、短軸100cm、確認面からの深さ70cmを測る。**主軸方位** N-60°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** 繩文土器片、土師器片が出土した。繩文土器1点を図示し得たが、遺構に伴うものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載した。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。時期を特定し得る遺物が出土していないため帰属時期は不明であるが、遺構の切り合い関係から古墳時代前期以降と考えられる。

SK13（第194図/P.L.80）

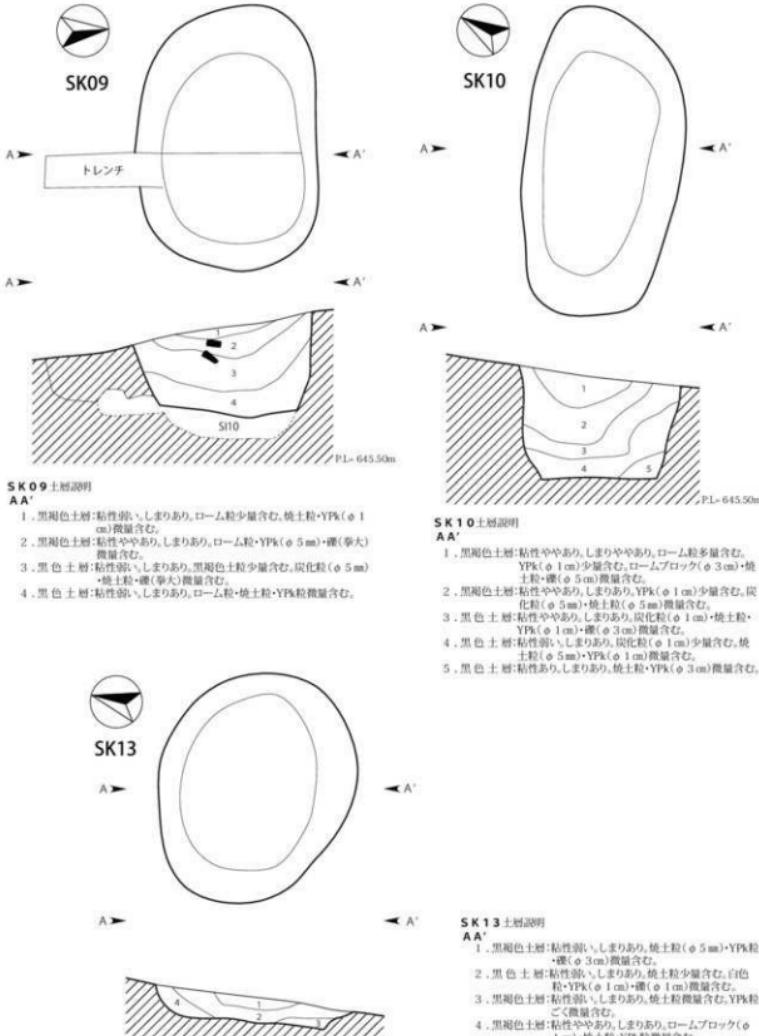
**位置** 2-76区T-3グリッド（2・3区調査区北西部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土**

黒褐色土と黒色土が互層をなし、堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸148cm、短軸124cm、確認面からの深さ25cmを測る。**主軸方位** N-89°-E **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。**底面** 南側に向かって傾斜している。**遺物** 繩文土器片、弥生土器片が出土した。繩文土器3点を図示し得たが、遺構に伴うものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載した。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく、時期を特定し得る遺物が出土していないことから、性格・帰属時期は不明である。

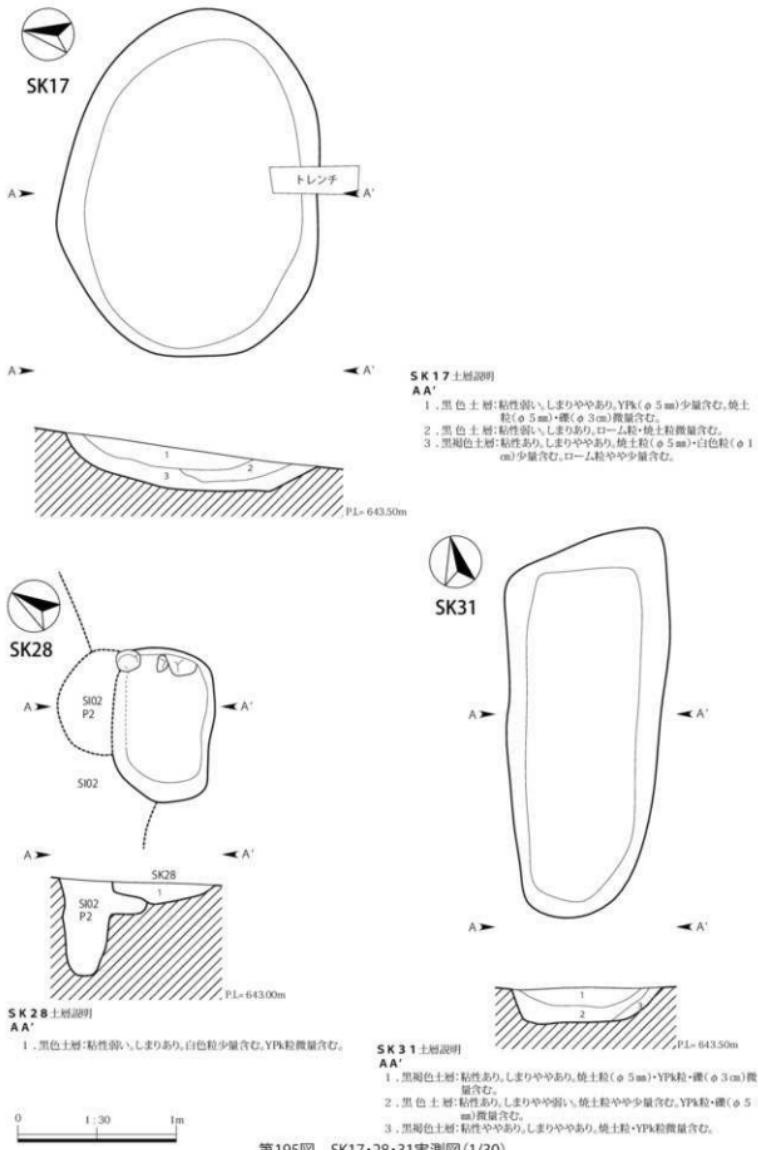
SK17（第195図）

**位置** 2-76区T-4グリッド（2・3区調査区北西部）。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土**

上層は黒色土、下層は黒褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は梢



第194図 SK09・10・13実測図(1/30)



第195図 SK17・28・31実測図(1/30)

円形を呈する。規模は長軸 219cm、短軸 162cm、確認面からの深さ 36cm を測る。**主軸方位** N-82°-E  
**壁面** 大きく外傾して立ち上がる。**底面** 南側に向かって傾斜している。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから、性格・帰属時期は不明である。

#### SK28 (第 195 図)

**位置** 2-76 区 S-4・5 グリッド (2・3 区調査区北西部)。**重複関係** SI02 と重複し、本遺構の方が新しい。**遺存状態** SI02 と同時に調査を行なったため、北側の壁・底面を壊してしまった。**覆土** 黒色土が基準である。**平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸 98cm、短軸 61cm 以上、確認面からの深さ 16cm を測る。**主軸方位** N-57°-E。**壁面** 西・南壁は大きく外傾し、東・北壁はほぼ垂直に立ち上がる。**底面** 中央に向かって傾斜する。**遺物** 黒曜石片が出土しているが、図示し得なかった。**備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。時期を特定し得る遺物が出土していないため帰属時期は不明であるが、遺構の切り合い関係から縄文時代中期以降と考えられる。

#### SK31 (第 195 図)

**位置** 2-77 区 E-4 グリッド (2・3 区調査区中央北部)。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒褐色土と黒色土が互層をなし、堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は隅丸長方形状を呈する。規模は長軸 235cm、短軸 97cm、確認面からの深さ 35cm を測る。**主軸方位** N-12°-E。**壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから、性格・帰属時期は不明である。

#### SK33 (第 196 図)

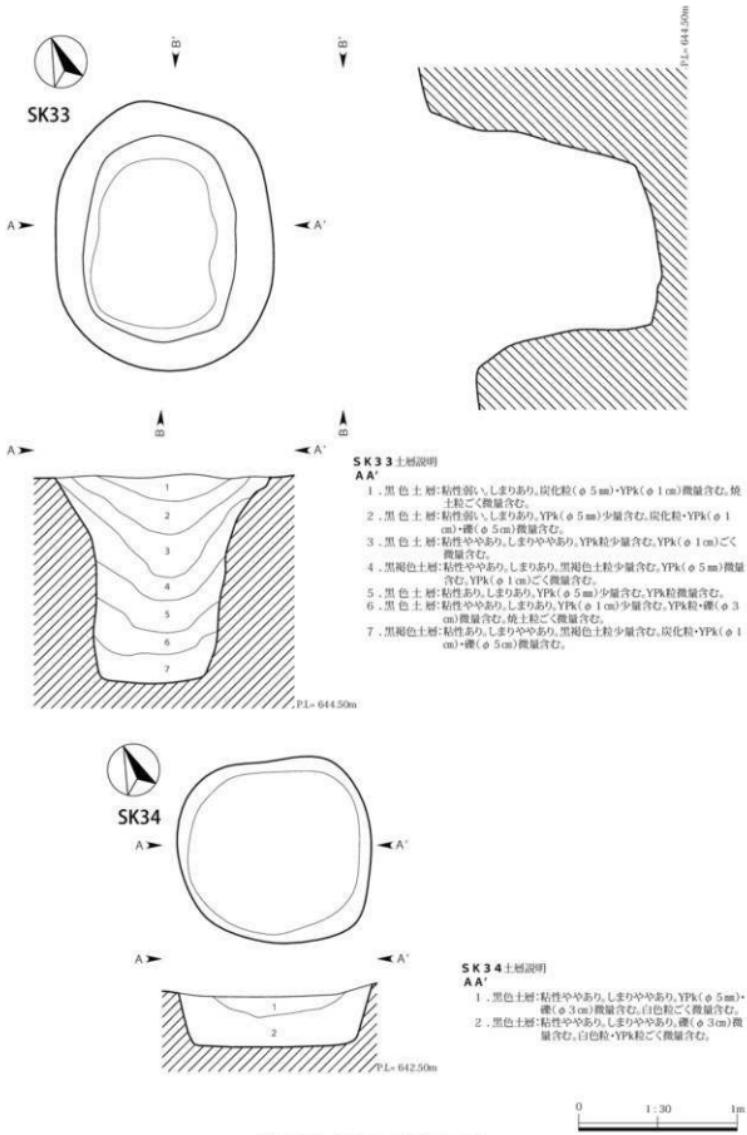
**位置** 2-77 区 F-3 グリッド (2・3 区調査区中央北部)。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒色土と黒褐色土が互層をなし、堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸 166cm、短軸 145cm、確認面からの深さ 151cm を測る。**主軸方位** N-24°-E。**壁面** ほぼ垂直に立ち上がり、上位が外傾する。**底面** 南側に向かって傾斜する。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、平面・断面形の形態から陥し穴の可能性が考えられる。形態に特徴がなく出土遺物がないため帰属時期は不明である。

#### SK34 (第 196 図)

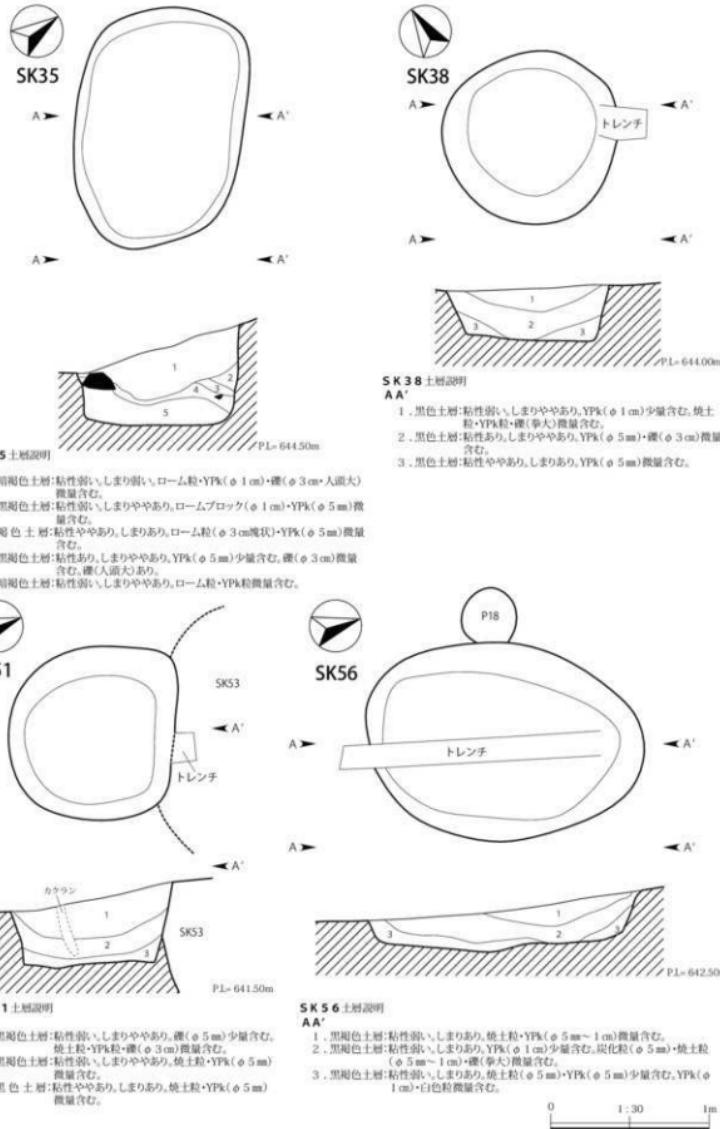
**位置** 2-77 区 H-6 グリッド (2・3 区調査区中央部)。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 黒色土が基準で、自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸 122cm、短軸 116cm、確認面からの深さ 39cm を測る。**主軸方位** N-67°-W。**壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから、性格・帰属時期は不明である。

#### SK35 (第 197 図)

**位置** 2-77 区 H-4・5 グリッド (2・3 区調査区中央北部)。**重複関係** なし。**遺存状態** 良好。**覆土** 上層・下層は暗褐色土が堆積し、中層は黒褐色土・褐色土が互層をなす。堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸 155cm、短軸 113cm、確認面からの深さ 59cm を測る。**主軸方位** N-43°-W。**壁面** ほぼ垂直に立ち上がる。**底面** 概ね平坦である。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから、性格・帰属時期は不明である。



第196図 SK33・34実測図(1/30)



第197図 SK35・38・51・56実測図(1/30)

## SK38 (第197図)

**位置** 2-77区F・G-4グリッド(2・3区調査区中央北部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。

**覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は円形を呈する。規模は長軸110cm、短軸109cm、確認面からの深さ37cmを測る。 **主軸方位** N-37°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 東側に向かって傾斜している。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから、性格・帰属時期は不明である。

## SK51 (第197図)

**位置** 2-77区E-7・8グリッド(2・3区調査区中央部)。 **重複関係** SK53と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒褐色土、下層は黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は隅丸方形を呈する。規模は長軸109cm、短軸105cm、確認面からの深さ40cmを測る。 **主軸方位** N-70°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 横ね平坦である。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。出土遺物がないため帰属時期は不明であるが、遺構の切り合い関係から平安時代以降と考えられる。

## SK56 (第197図)

**位置** 2-77区D-5・6グリッド(2・3区調査区中央北部)。 **重複関係** P 18と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸172cm、短軸124cm、確認面からの深さ44cmを測る。 **主軸方位** N-16°-E

**壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 中央に向かって非常に緩やかに傾斜している。 **遺物** 繩文土器片、石が出土した。図示し得るものではなく、また遺構に伴うものではないと判断した。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく、時期を特定し得る遺物が出土していないことから、性格・帰属時期は不明である。

## SK57 (第198図／PL 80)

**位置** 2-77区I・J-7グリッド(2・3区調査区中央部)。 **重複関係** SK58と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は暗褐色土、中央は黒褐色土、下層は黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は隅丸方形を呈する。規模は長軸148cm、短軸118cm、確認面からの深さ66cmを測る。 **主軸方位** N-22°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 南側に向かって緩やかに傾斜する。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。出土遺物がないため帰属時期は不明であるが、遺構の切り合い関係から近世以降の可能性が高いと考えられる。

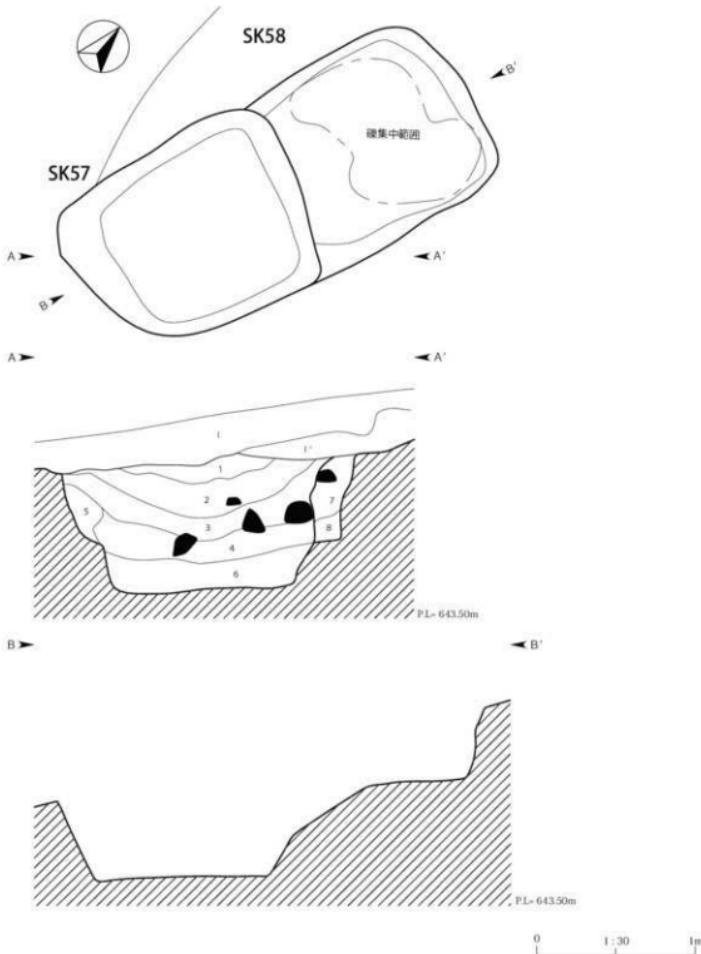
## SK58 (第198図／PL 80)

**位置** 2-77区I・J-7グリッド(2・3区調査区中央部)。 **重複関係** SK57と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 南側がSK57によって壊されている。 **覆土** 黒褐色土が基調で、自然堆積を示す。

**平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸推定130cm、短軸123cm、確認面からの深さ82cmを測る。 **主軸方位** N-22°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 横ね平坦である。 **遺物** 拳大～人頭大の礫が多量に出土している。 **備考** 本遺構は、拳大～人頭大の礫が多量に出土していることから、近世のヤッカラの可能性が高いと考えられる。

## SK60 (第199図)

**位置** 2-77区H-8グリッド(2・3区調査区中央部)。 **重複関係** SK61と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈

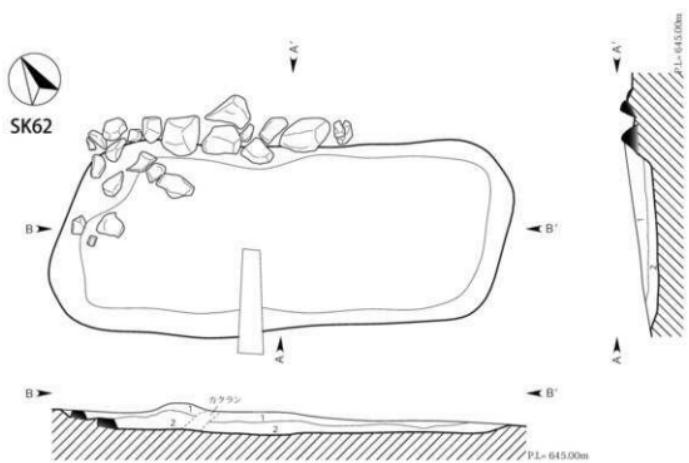
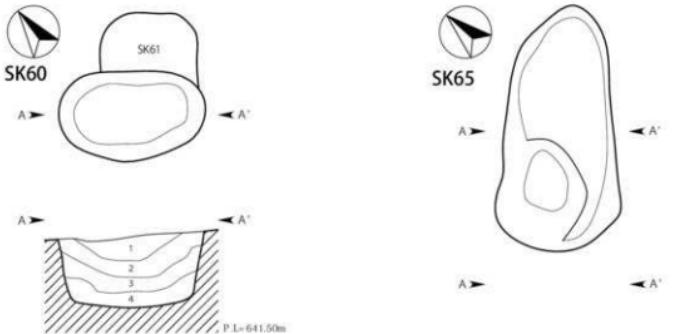


#### SK57・58 土壌説明

A'

1. 暗褐色土層：粘性弱い。しまりやあり。白色粒( $\phi 5\text{ mm}$ )少量含む。
- 1'. 暗褐色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk( $\phi 5\text{ mm}$ )少量含む。礫(拳大)あり。
1. 黒褐色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk( $\phi 5\text{ mm}$ )・暗褐色土粒少量含む。
2. 黑褐色土層：粘性弱い。しまりあり。暗褐色土粒少量含む。YPk( $\phi 1\text{ cm}$ )・礫(拳大)微量含む。
3. 黑褐色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk( $\phi 5\text{ mm}$ )・礫(人頭大)・暗褐色土粒少量含む。
4. 黑褐色土層：粘性弱い。しまりあり。暗褐色土粒少量含む。炭化物( $\phi 3\text{ cm}$ )・YPk( $\phi 5\text{ mm}$ )・礫(人頭大)微量含む。
5. 黑褐色土層：粘性弱い。しまりあり。
6. 黑褐色土層：粘性弱い。しまりあり。YPk( $\phi 1\text{ cm}$ )・礫( $\phi 3\text{ cm}$ )・暗褐色土粒微量含む。(以上SK57)
7. 黑褐色土層：粘性弱い。しまりややあり。暗褐色土粒多量含む。YPk( $\phi 5\text{ mm}$ )微量含む。(以上SK58)
8. 黑褐色土層：粘性弱い。しまりややあり。暗褐色土粒多量含む。YPk( $\phi 5\text{ mm}$ )微量含む。(以上SK58)

第198図 SK57・58実測図(1/30)



**第199図 SK60・62・65実測図 (1/30)**

する。規模は長軸 92cm、短軸 57cm、確認面からの深さ 52cm を測る。 **主軸方位** N-50°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 中央に向かって非常に緩やかに傾斜している。 **遺物** 繩文土器片、弥生土器片が出土した。弥生土器 2 点を図示し得たが、遺構に伴うものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載した。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。時期を特定し得る遺物が出土していないため帰属時期は不明であるが、遺構の切り合い関係から弥生時代以降と考えられる。

#### SK62 (第 199 図／PL 80)

**位置** 2-77 区 E-2 グリッド (2・3 区調査区中央北部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は暗褐色土、下層は黒褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸 281cm、短軸 116cm、確認面からの深さ 18cm を測る。 **主軸方位** N-59°-W **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。北壁西部に拳大～人頭大の礫が見られる。 **底面** 極端に平坦である。 **遺物** 弥生土器片が出土した。1 点を図示し得たが、遺構に伴うものではないと判断したため遺構外出土遺物に掲載した。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がなく、時期を特定し得る遺物が出土していないことから、性格・帰属時期は不明である。

#### SK65 (第 199 図)

**位置** 2-76 区 T-5・6 グリッド (2 面 / 2・3 区調査区西部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 上層は黒色土、下層は黒褐色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸 153cm、短軸 69cm、確認面からの深さ 30cm を測る。 **主軸方位** N-51°-E **壁面** 大きく外傾して立ち上がる。 **底面** 中央部に向かって緩やかに傾斜し、南西部が一段低くなる。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、出土遺物がなく形態に特徴がないことから、性格・帰属時期は不明である。

#### SK84 (第 200・201 図／PL 80)

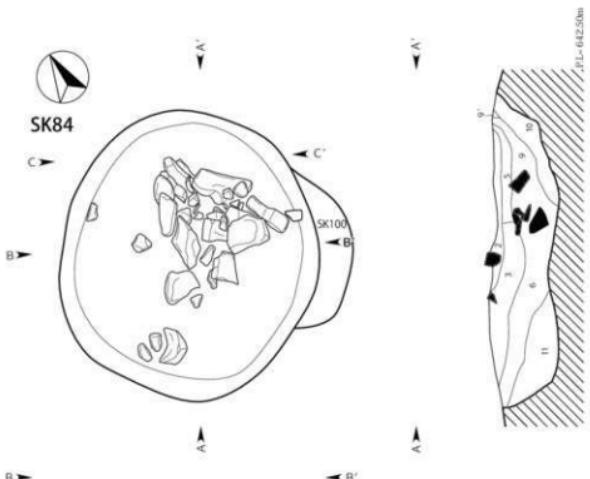
**位置** 2-77 区 M・N-10 グリッド (2・3 区調査区東部中央)。 **重複関係** SK100 と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土と黒褐色土が互層をなし、一部で灰黄褐色粘土が堆積する。堆積状況は自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸 177cm、短軸 163cm、確認面からの深さ 53cm を測る。 **主軸方位** N-45°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 凸凹する。 **遺物** 拳大～人頭大の礫や切石、土師器片、須恵器片が少量出土し、土師器 1 点、須恵器 1 点を図示し得た。 **備考** 本遺構は、拳大～人頭大の礫・切石が出土していることから、礫・切石を廃棄した穴と考えられる。帰属時期は、土師器片・須恵器片が出土していることから平安時代の可能性が高いと考えられる。

#### SK85 (第 202 図)

**位置** 2-77 区 L・M-10 グリッド (2・3 区調査区東部)。 **重複関係** SI15 と重複し、本遺構の方が新しい。 **遺存状態** 良好。 **覆土** 黒色土が基調で、自然堆積を示す。 **平面形と規模** 平面形は梢円形を呈する。規模は長軸 156cm、短軸 110cm、確認面からの深さ 32cm を測る。 **主軸方位** N-31°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。 **底面** 極端に平坦である。 **遺物** 土師器片が出土した。図示し得るものではなく、また遺構に伴うものではないと判断した。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。時期を特定し得る遺物が出土していないため帰属時期は不明であるが、遺構の切り合い関係から平安時代以降と考えられる。

#### SK100 (第 201・202 図)

**位置** 2-77 区 M-10 グリッド (2・3 区調査区東端)。 **重複関係** SK84 と重複し、本遺構の方が古い。 **遺存状態** 西側の壁面が SK84 によって壊されている。 **覆土** 上層は黒褐色土、下層は黒色土が堆積して

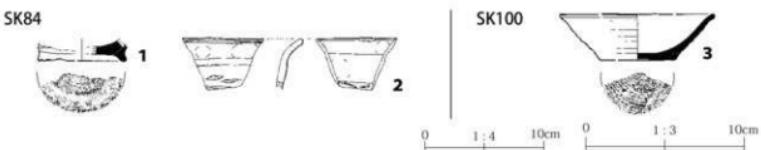


## SK84 土層説明

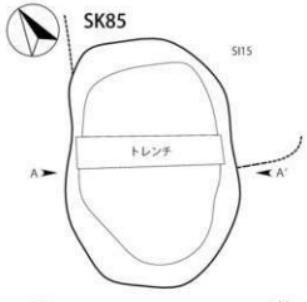
AA' BB' CC'

1. 黒褐色土層：粘性弱く、しまりあり。暗褐色粘土（ $\phi 3\text{cm}$ ）微量含む。明黃褐色粘土（ $\phi 1\text{cm}$ ）微量含む。
2. 黒色土層：粘性弱く、しまりややあり。YPk（ $\phi 1\text{cm}$ ）微量含む。雜（季大）あり。
3. 黒色土層：粘性弱く、しまりあり。YPk（ $\phi 1\text{cm}$ ）・燒土粒・YPk（ $\phi 5\text{mm}$ ）微量含む。
4. 黑色土層：粘性やや弱く、しまりあり。雜（人頭大）少量含む。炭化粧（ $\phi 1\text{cm}$ ）・燒土粒・YPk（ $\phi 5\text{mm}$ ）微量含む。
5. 黑色土層：粘性弱く、しまりややあり。炭化粧・YPk（ $\phi 1\text{cm}$ ）微量含む。
6. 黑色土層：粘性弱く、しまりあり。YPk（ $\phi 1\text{cm}$ ）微量含む。
7. 黑色土層：粘性弱く、しまりややあり。YPk粒・白色粘土粒微量含む。
8. 黑色土層：粘性弱く、しまりあり。炭化粧・YPk（ $\phi 5\text{mm}$ ）微量含む。
9. 黑褐色土層：粘性弱く、しまりあり。雜（人頭大）少量含む。YPk（ $\phi 5\text{mm}$ ）微量含む。YPk（ $\phi 1\text{cm}$ ）微量含む。暗褐色粘土粒（ $\phi 5\text{mm}$ ）微量含む。
- 9'. 明黃褐色粘土層：粘性ややあり。しまりあり。YPk（ $\phi 1\text{cm}$ ）微量含む。
10. 黑色土層：粘性弱く、しまりあり。白色粘土粒少量含む。YPk粒・雜（季大）微量含む。
11. 黑色土層：粘性弱く、しまりややあり。白色粘土・YPk粒微量含む。
12. 黑色土層：粘性弱く、しまりややあり。YPk粒少量含む。暗褐色粘土粒微量含む。
13. 黑色土層：粘性弱く、しまりややあり。ロームブロック（ $\phi 5\text{cm}$ ）・YPk（ $\phi 5\text{mm}$ ）・明黃褐色粘土粒微量含む。
14. 黑色土層：粘性弱く、しまりあり。白色粘土粒微量含む。
15. 黑色土層：粘性弱く、しまりあり。YPk（ $\phi 5\text{mm}$ ）やや少量含む。白色粘土粒微量含む。

第200図 SK84実測図(1/30)

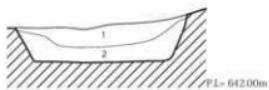


第201図 その他の時代土坑出土遺物実測図(1/3・1/4)



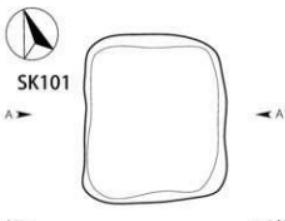
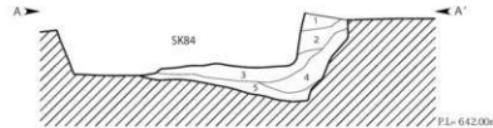
**SK85 土層説明  
AA'**

1. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、ロームブロック(Φ 5cm)・ローム粒・YPk粒微量含む。
2. 黒色土層: 粘性ややあり、しまりややあり、ローム粒少量含む。YPk(Φ 5cm)微量含む。ロームブロック(Φ 5cm)あり。



**SK100 土層説明  
AA'**

1. 黒褐色土層: 粘性なし、しまり弱い。
2. 黒色土層: 粘性なし、しまりややあり、YPk(Φ 1cm)微量含む。
3. 黒色土層: 粘性なし、しまりあり、にじる褐色粘土粒少量含む。地土粒(Φ 5cm)・YPk(Φ 1cm)微量含む。
4. 黒色土層: 粘性弱い、しまりあり、YPk粒やや少額含む。地化柱(Φ 5cm)・地土粒微量含む。
5. 黒色土層: 粘性なし、しまりあり、地土粒・YPk粒にじる褐色粘土粒(Φ 1cm)微量含む。



**SK101 土層説明  
AA'**

1. 黒褐色土層: 粘性弱い、しまりあり、ロームブロック(Φ 1cm)少量含む、ローム粒・YPk粒微量含む。
2. 黒色土層: 粘性なし、しまりややあり、ロームブロック(Φ 5cm)・ローム粒(Φ 5cm塊状)・地土粒・YPk粒微量含む。



0 1:30 1m

第202図 SK85・100・101実測図(1/30)

いる。堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は橢円形を呈する。規模は長軸 138cm、短軸 106cm、確認面からの深さ 53cm を測る。**主軸方位** N-37°-W **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 南側に向かって緩やかに傾斜しており、長軸南端部が一段低くなる。**遺物** 土師器片、須恵器片が出土し、須恵器 1 点を図示した。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。時期を特定し得る遺物が出土していないため帰属時期は不明であるが、出土遺物および遺構の切り合い関係から平安時代である可能性が高いと考えられる。

#### SK101 (第 202 図)

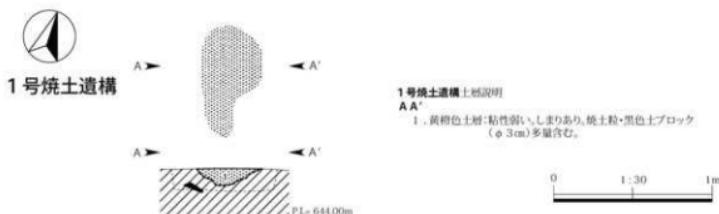
**位置** 2-77 区 L-11 グリッド (2・3 区調査区東部中央)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 概ね良好である。**覆土** 上層は黒褐色土、下層は黒色土が堆積している。堆積状況は自然堆積を示す。**平面形と規模** 平面形は隅丸方形を呈する。規模は長軸 106cm、短軸 88cm、確認面からの深さ 24cm を測る。**主軸方位** N-18°-E **壁面** 外傾して立ち上がる。**底面** 凸凹しており、南東隅部が低くなる。**遺物** なし。

**備考** 本遺構は、形態に特徴がなく出土遺物がないことから、性格・帰属時期は不明である。

#### (3) 焼土遺構

##### 1号焼土遺構 (第 203 図)

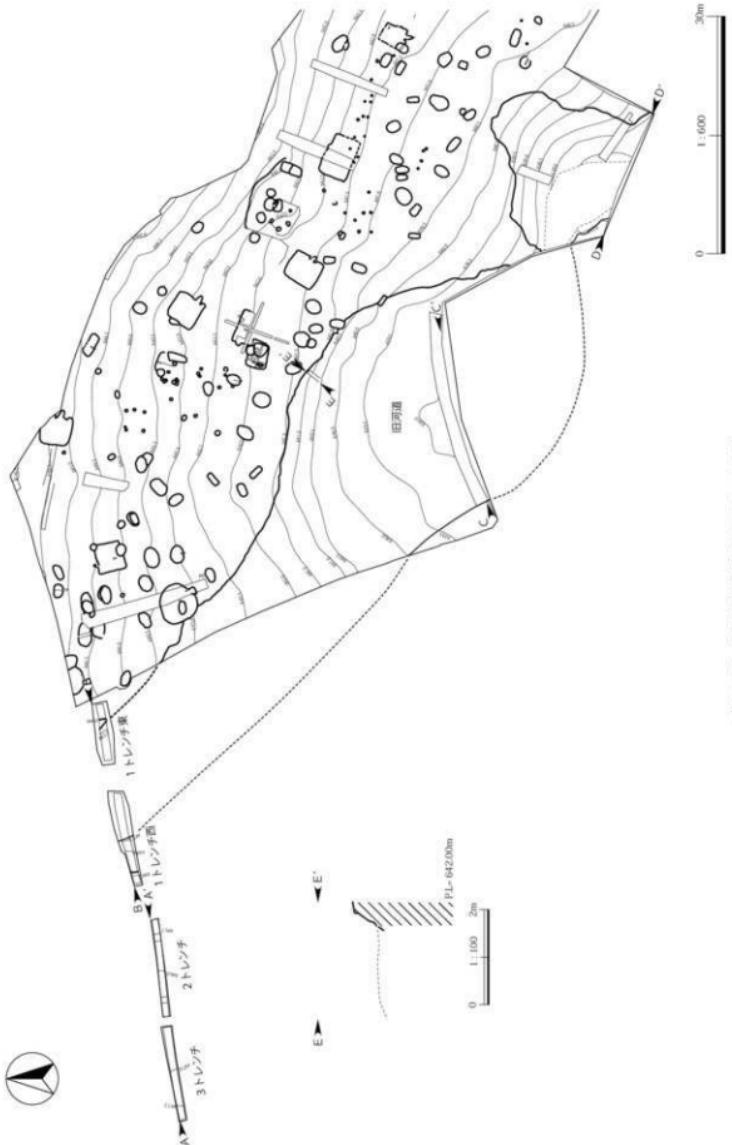
**位置** 2-76 区 S-3 グリッド (2・3 区調査区西部)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 良好。**覆土** 黄褐色土が基調で、焼土粒を多量に含んでいる。堆積状況は自然堆積と考えられる。**平面形と規模** 平面形は焼土が不整形を呈する。規模は焼上面が長軸 71cm、短軸 37cm、確認面からの深さ 11cm を測る。**主軸方位** 不明。**壁面** 大きく外傾して立ち上がる。**底面** 非常に狭い。**遺物** なし。**備考** 本遺構は、断面形及び焼土粒の堆積状況から、焼土粒が流れ込んだものであると考えられる。帰属時期は出土遺物がないため不明である。



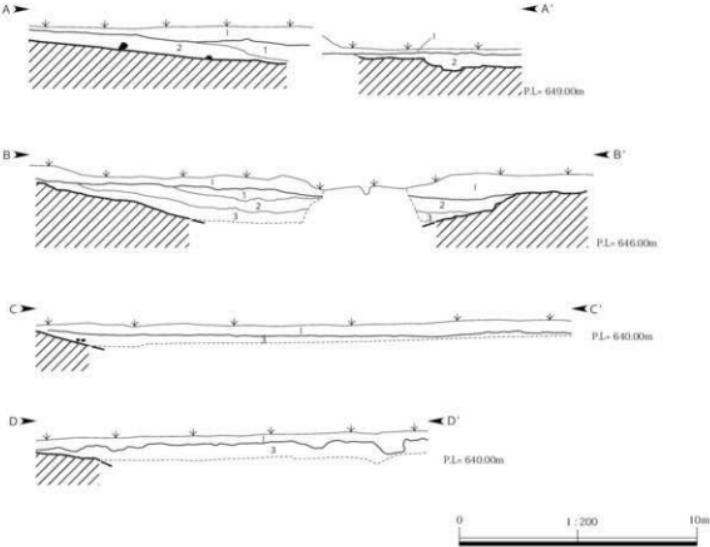
第203図 1号焼土遺構実測図 (1/30)

#### (4) 旧河道 (第 204・205 図)

**位置** 2-76 区 E-4 ~ P-2 から 2-77 区 J・K-16 グリッド (1 区調査区、2・3 区調査区南西部)。**重複関係** 東壁 (左岸) 隣で SI02、SK47・63 と重複し、本遺構の方が古い。**遺存状態** 良好。北西・南東側は調査区外に延びる。西壁上端は調査区外にあり、確認されていない。**覆土** 北側の 1 区調査区は表土の下に黒褐色土、黑色砂質シルトが堆積し、底面近くには黒色シルトが堆積している。南側の 2・3 区調査区では、表土の下に黒色シルトが堆積している。**規模** 長さは直線距離で 51.1 m 以上、幅は 19.7 m と思われる。確認面からの深さは東西壁付近で 50 ~ 80cm、中央部で 152cm 以上を測る。**主軸方向** N-45°-W **出土遺物** なし。**概要** 本遺構は、1 区調査区および 2・3 区調査区西部を走る旧河道である。現況は長時間かけて土砂が流れ込み概ね埋没した状況であったが、周囲よりわずかに低く水気を帯びた場所であった。



第204図 旧河道実測図①(1/100・1/600)



## 旧河道土壌説明

## AA' BB' CC' DD'

1. 黒褐色土層：粘性弱い、しまり弱い、礫（ø 3cm）少量含む。
1. 黒褐色土層：粘性弱い、しまりあり、炭化物・白色粒・礫（ø 3cm）微量含む。
2. 黒色砂質シルト層：粘性やあり、しまりややあり、白色粒・礫（ø 1cm）少量含む。木質遺物・白色粒（ø 1cm）・礫（拳大）微量含む。
3. 黒色シルト層：粘性あり。しまり弱い。砂粒少量含む。礫（ø 3～5cm）微量含む。

第205図 旧河道実測図②(1/200)

そのため、水田に利用されているところが多い。1区調査区は、1トレンチが旧河道内と考えられる。水が湧き出してきたため底面の確認は行わず、壁面の上半分が確認された。2・3トレンチは、河跡に向かって緩やかに傾斜している状況が確認された。砂質シルトが堆積している状況から、多少は水が流れている状態であったと考えられる。2区調査区内では、標高 640.5 m付近に段が形成されていた。上段は黒色砂質シルト層（2層）が確認されたが、範囲が狭いことから重機による掘削を行わず、上端のみ確認された。下段は黒色シルト層（3層）上面まで重機で掘削を行い、調査区南端部でトレンチ掘削を行なった。水が湧き出したため掘り下げが困難になつたことから底面の確認は行わず、西壁の一部を確認した。3区調査区は、掘れるところまで重機で掘削を行い、調査区南壁でトレンチ掘削を行なった。こちらも水が湧き出してきたため掘り下げが困難になったことから底面の確認は行わず、西壁の一部を確認した。本遺構は、壁面の傾斜が非常に緩いことから、常に大量の水が流れていたのではなく、普段は王城山の伏流水が沢のように流れているが、雨の影響で水量が増し、広い範囲に水の流れた痕跡が確認された場所であったと考えられる。

## (5) ピット (第7・8図)

1面目で確認された遺構は、平安時代の竪穴住居跡が主体であるが、縄文時代・弥生時代の遺構も含まれている。このため、1面で確認されたピット51基の時期を明確に特定することは困難であることから、全て時期不明と判断した。ピットの平面形や規模などの諸属性は第25表に記載した。

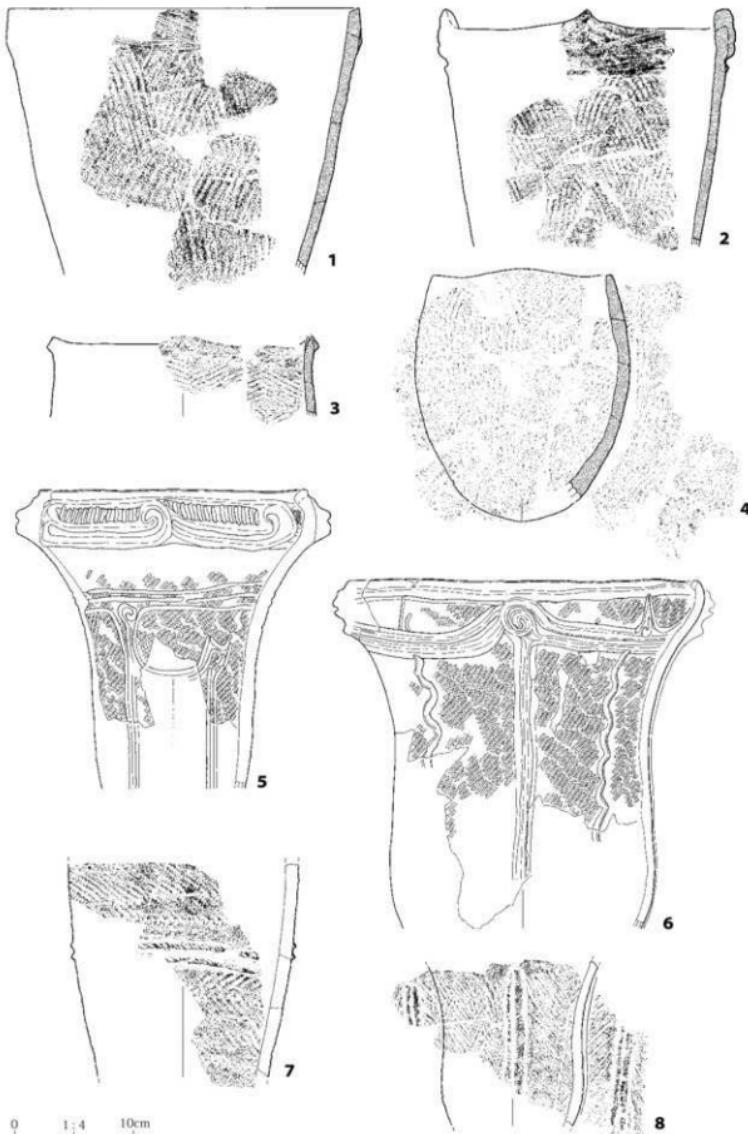
第25表 上原I遺跡II 1面目ピット観察表

遺構名	位圖	平面形	規模(cm)			覆土	備考	遺構名	位置	規模(cm)			覆土	備考
			長軸長	短軸長	深さ					平面形	長軸長	短軸長		
P01	2-76 区 S-3	楕円形	50	40	28	A		P34	2-77 区 J-9	円形	21	20	15	C
P02	2-77 区 C-4・5	楕円形	41	24	30	B		P35	2-77 区 J-9	円形	18	15	20	C
P03	2-77 区 D-4	円形	36	35	69	B		P36	2-77 区 K-9	楕円形	29	25	29	C
P04	2-77 区 D-4	(47)	45	69	A			P37	2-77 区 K-9	円形	25	25	17	C
P05	2-77 区 D-4	楕円形	40	35	27	B		P38	2-77 区 K-9	楕円形	22	18	23	C
P06	2-77 区 D-4	円形	29	27	22	B		P39	2-77 区 K-9	円形	20	20	25	C
P07	2-77 区 D-4	楕円形	31	25	33	B		P40	2-77 区 K-9	楕円形	23	19	20	C
P08	2-77 区 D-5	楕円形	32	29	27	B		P41	2-77 区 K-9	円形	22	22	21	C
P09	2-77 区 D-5	円形	36	35	38	A		P42	2-77 区 J-8	楕円形	21	17	29	C
P10	2-77 区 D-5	円形	33	31	24	B		P43	2-77 区 J-9	楕円形	23	17	24	C
P11	2-77 区 E-4	楕円形	46	42	97	B		P44	2-77 区 J-9	円形	21	19	14	C
P12	2-77 区 D-5	円形	27	26	51	B		P45	2-77 区 H-8	円形	24	24	23	C
P13	2-77 区 D-5	楕円形	39	30	46	B		P46	2-77 区 H-9	円形	25	24	42	C
P14	2-77 区 D-4	楕円形	38	30	48	A		P47	2-77 区 H-9	楕円形	30	26	33	C
P15	2-77 区 D-4	楕円形	36	31	56	A		P48	2-77 区 H-9	楕円形	8	26	17	C
P16	2-77 区 D-4	楕円形	31	23	62	A		P49	2-77 区 H-9	円形	34	31	46	C
P17	2-77 区 D-4	楕円形	36	26	110	B		P50	2-77 区 H-9	円形	20	19	30	C
P18	2-77 区 D-5	円形	(35)	35	71	B		P51	2-77 区 I-9	円形	25	23	25	C
P19	2-77 区 B-1	楕円形	37	33	21	B		P52	2-77 区 I-8	楕円形	35	30	41	C
P20	2-77 区 D-5	楕円形	<55>	42	22	B		P53	2-77 区 J-10	円形	22	21	20	C
P21	2-77 区 N-13	円形	18	18	15	C		P54	2-77 区 J-10	楕円形	29	24	35	C
P22	2-77 区 N-13	円形	30	32	65	C		P55	2-77 区 L-9	円形	24	24	33	C
P23	2-77 区 N-13	楕円形	24	21	28	C		P56	2-77 区 L-9	楕円形	37	29	37	C
P24	2-77 区 M-13	円形	21	20	21	C		P57	2-77 区 M-13	円形	23	23	15	C
P25	2-77 区 J-10	円形	25	24	27	B		P58	2-77 区 L-10	円形	20	19	36	C
P26	2-77 区 J-10	円形	26	24	16	B								

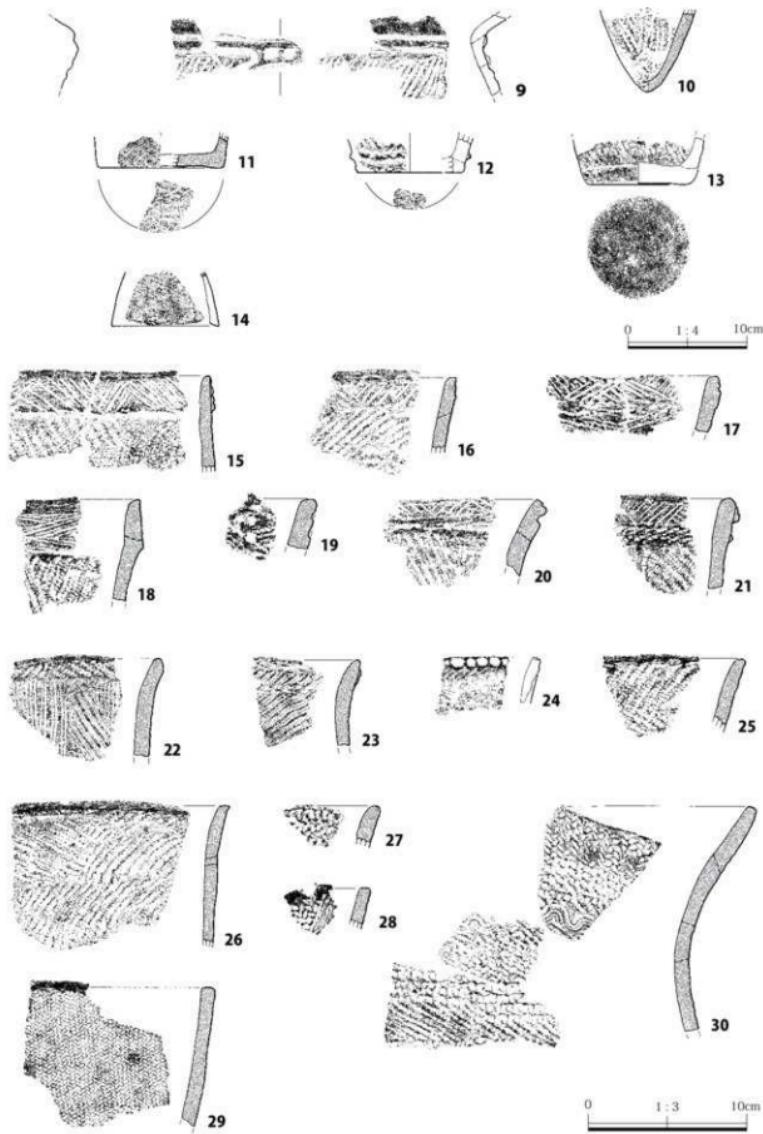
※ A : 黒褐色土 B : 黒褐色土 C : 暗褐色土 D : 褐色土 E : にぶい黄褐色土

## 第8節 遺構外出土遺物 (第206~220／PL 80・92~97)

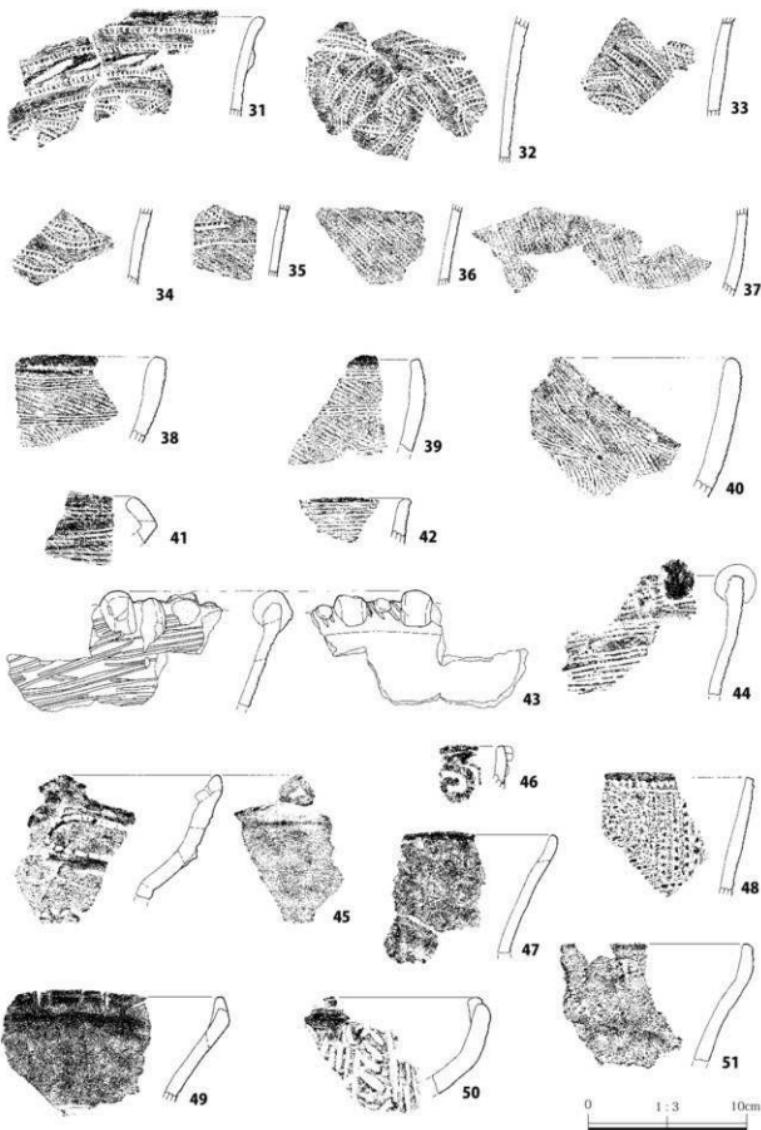
ここでは、調査区表土および確認面出土遺物、遺構内の流れ込み遺物、試掘トレンチ出土遺物を掲載する。出土遺物は石器のほか、縄文時代早期(押型文1点)・前期・中期・後期土器、弥生時代前期・中期土器、古墳時代土師器、平安時代土師器・須恵器、中世近世陶磁器・錢貨と長期間にわたる遺物が出土している。



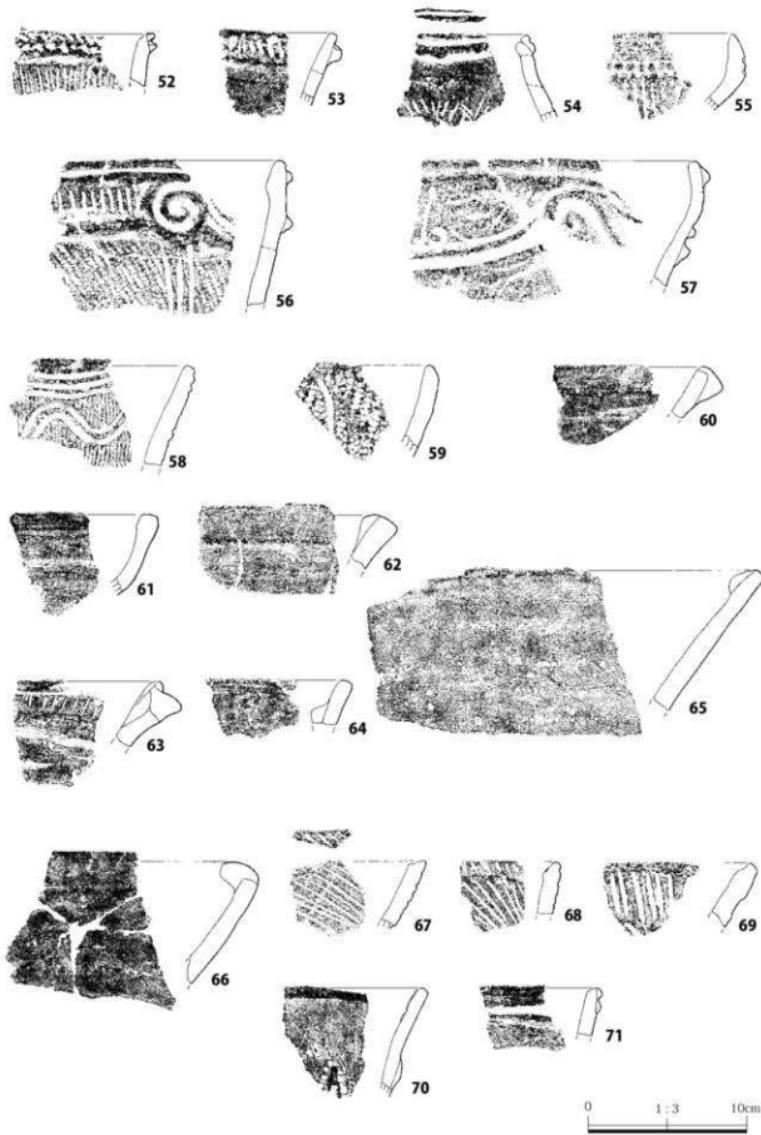
第206図 遺構外出土遺物実測図①(1/4)



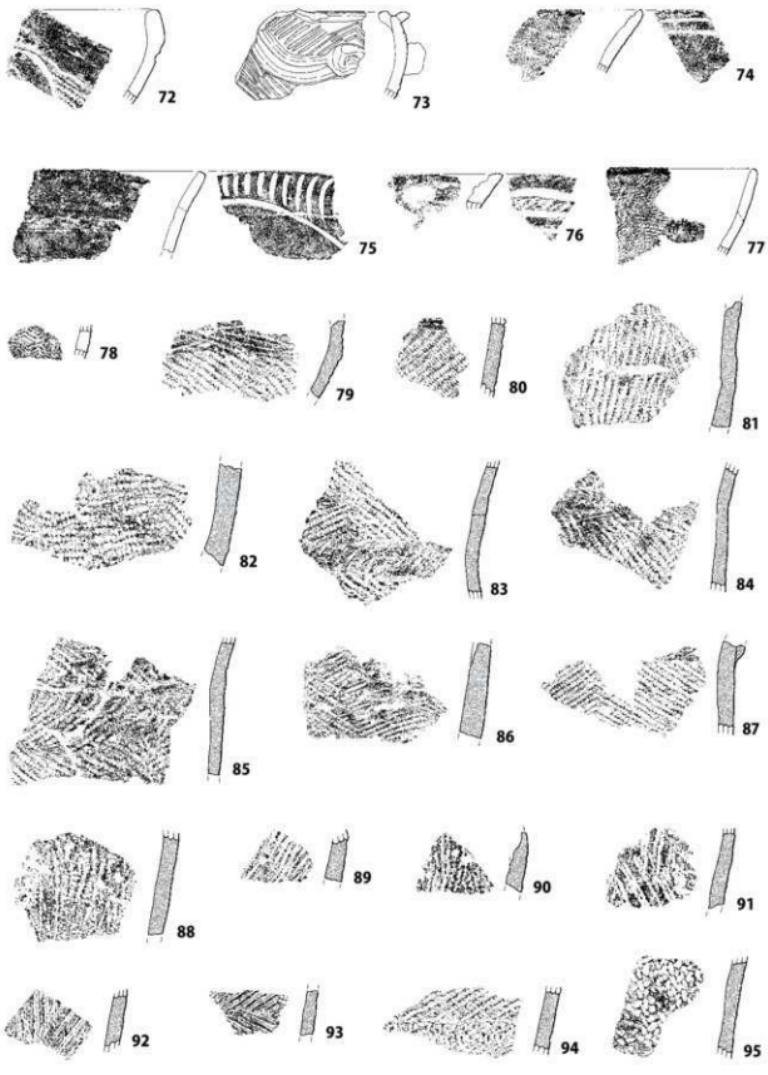
第207図 遺構外出土遺物実測図②(1/3・1/4)



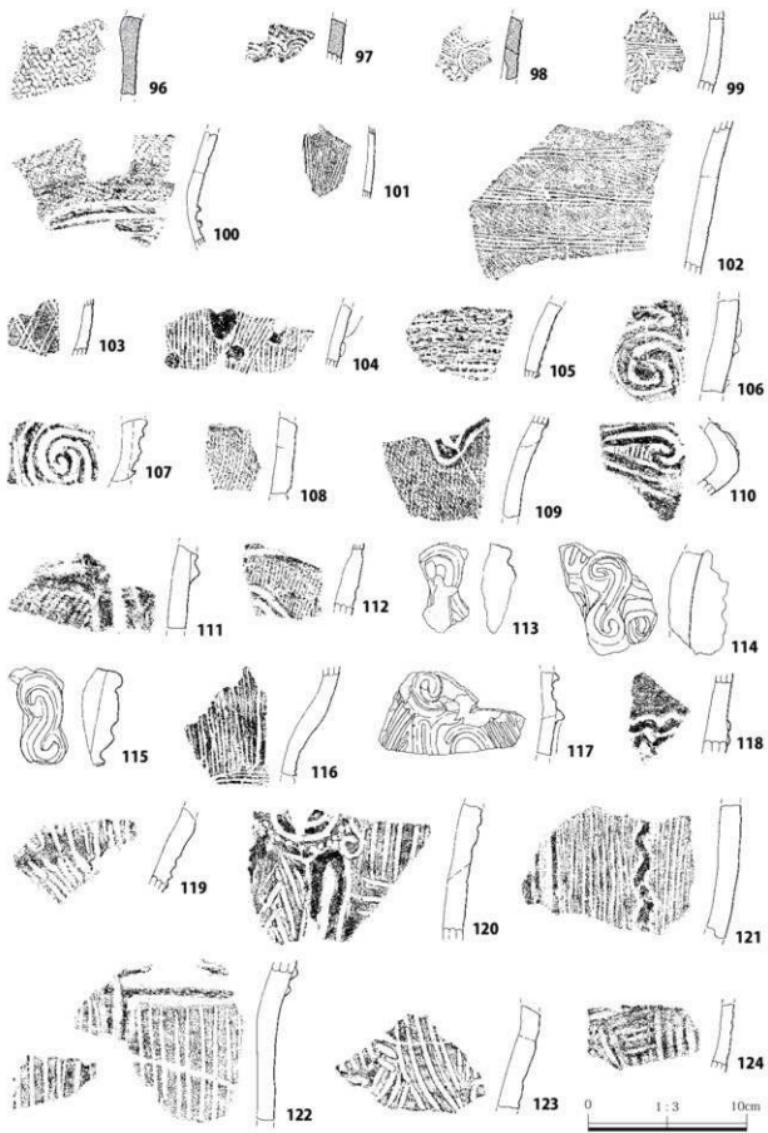
第208図 遺構外出土遺物実測図③(1/3)



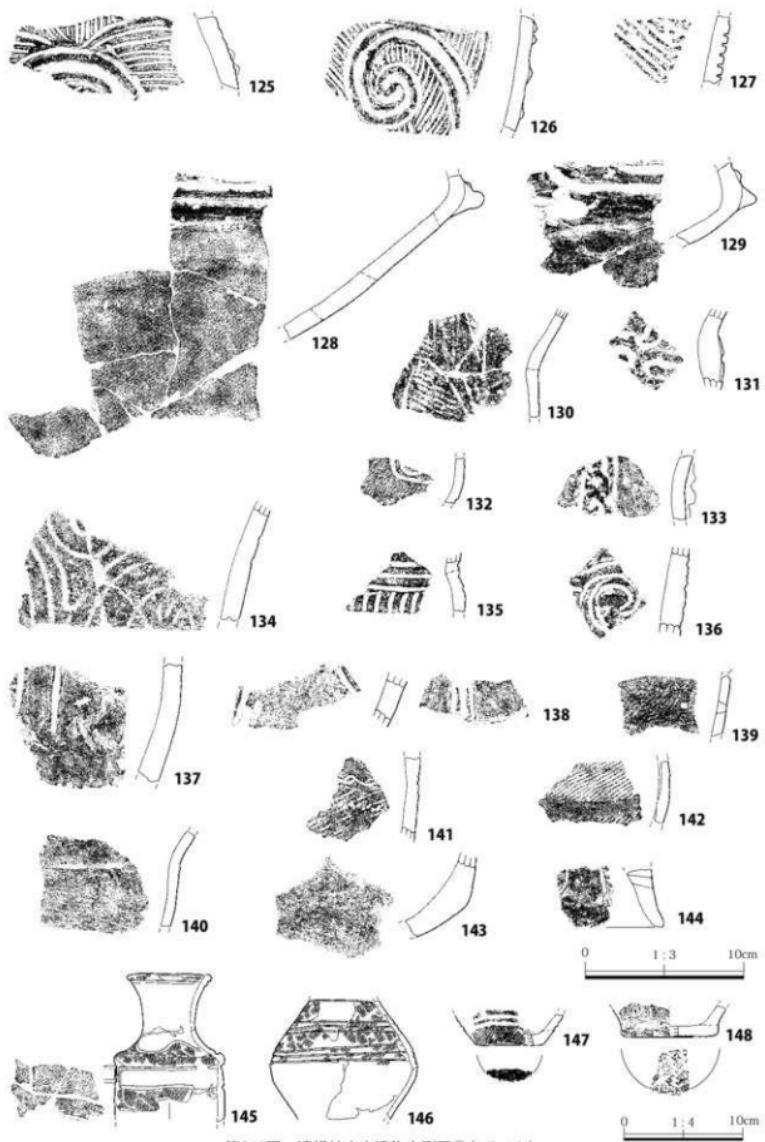
第209図 遺構外出土遺物実測図④(1/3)



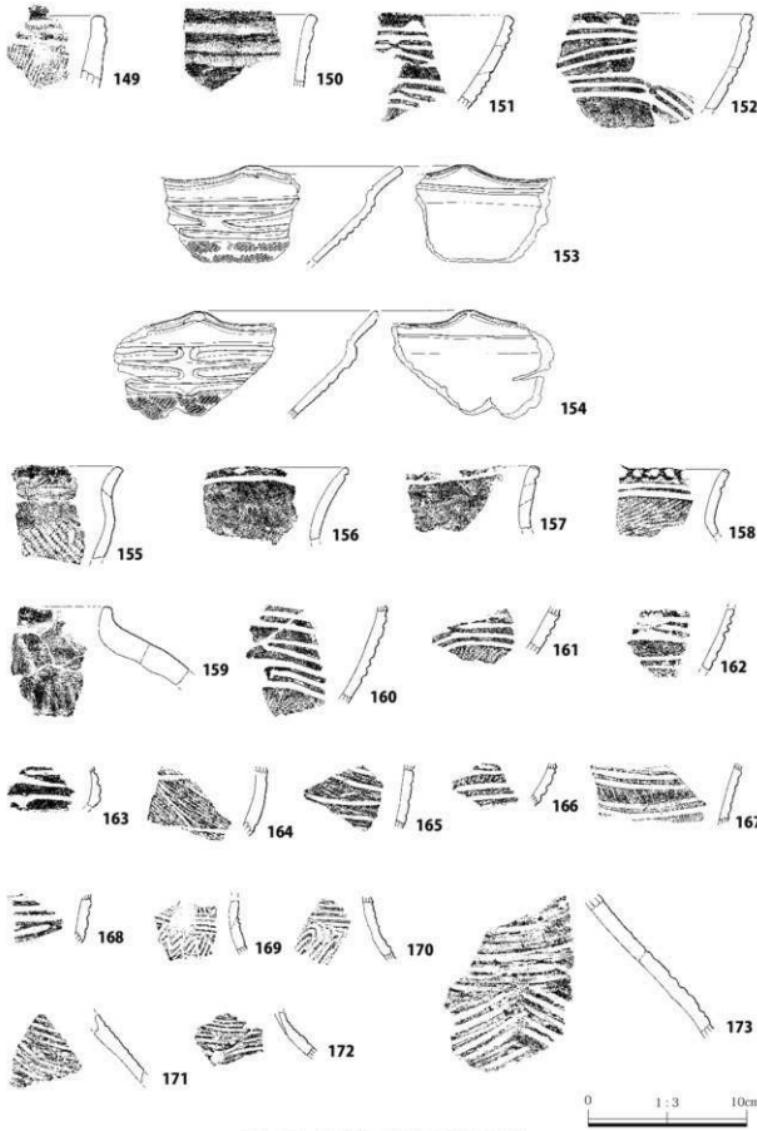
第210図 遺構外出土遺物実測図⑤(1/3)



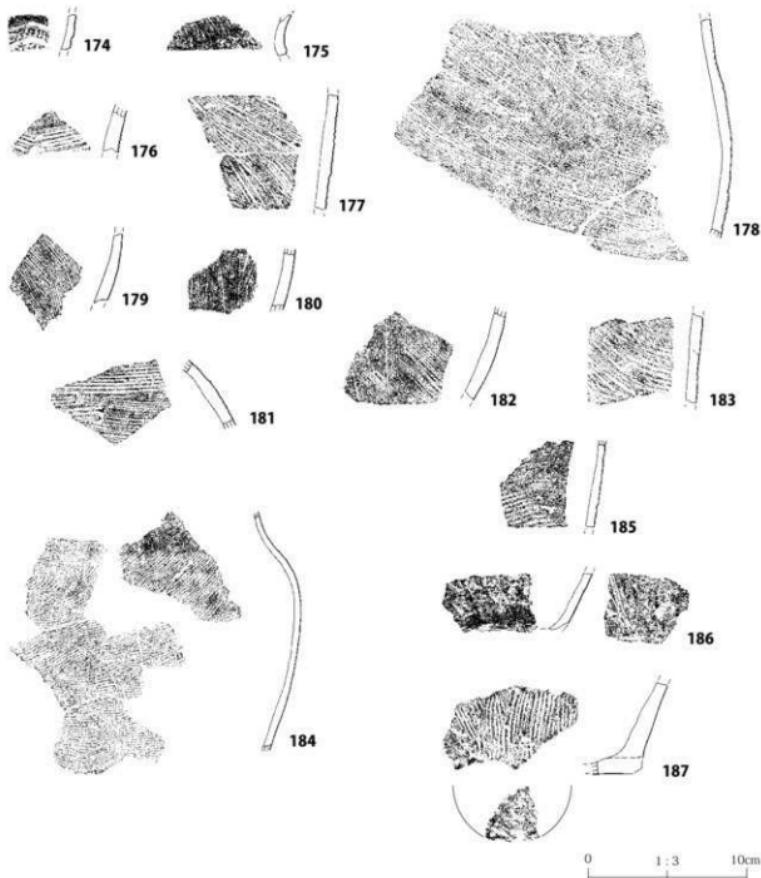
第211図 遺構外出土遺物実測図⑥(1/3)



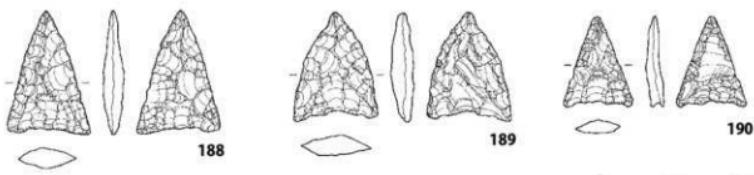
第212図 遺構外出土遺物実測図⑦(1/3・1/4)

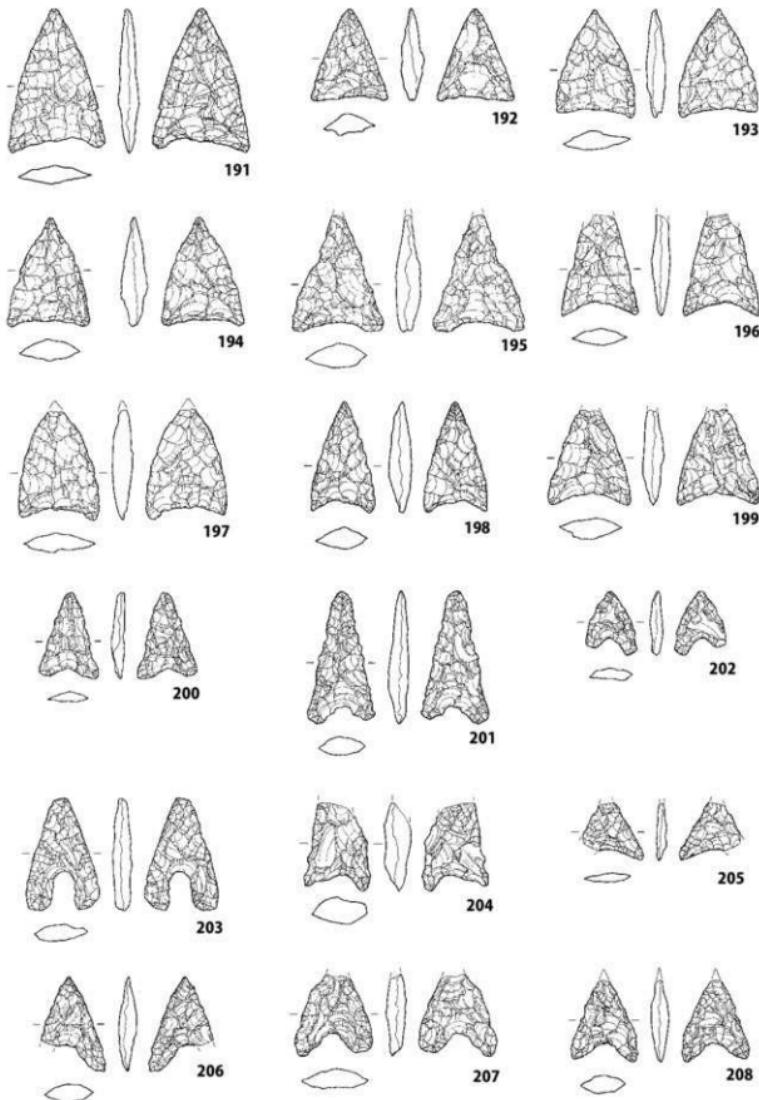


第213図 遺構外出土遺物実測図⑧(1/3)



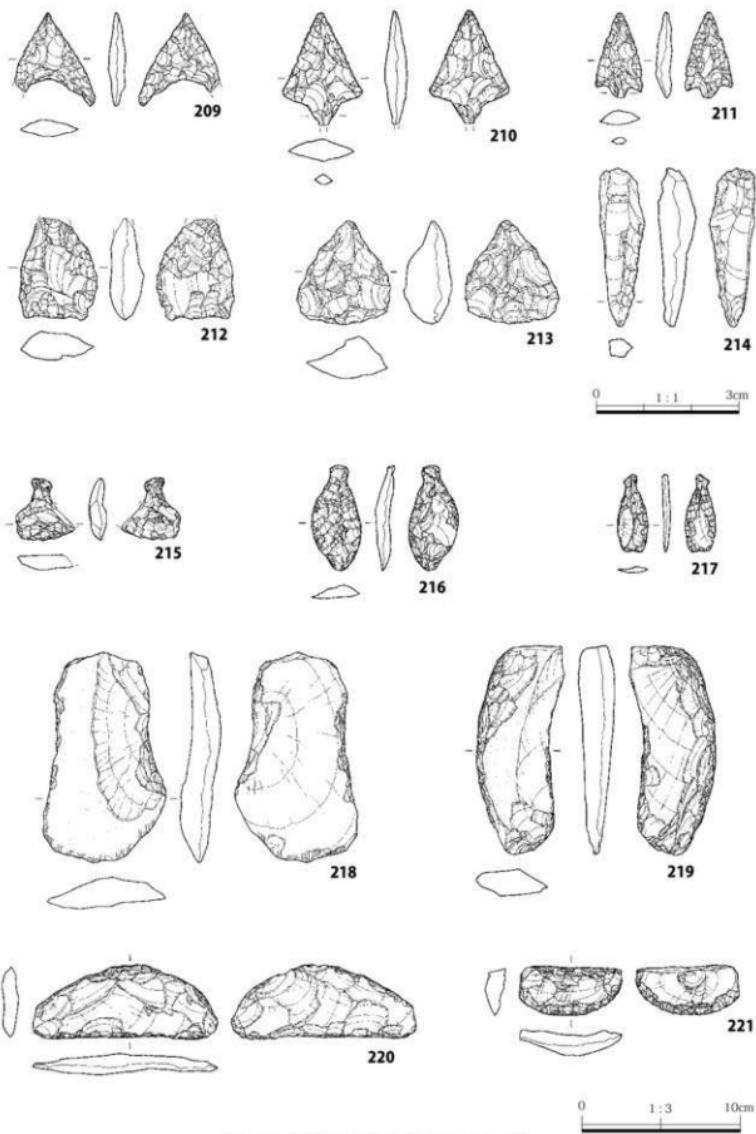
第214図 遺構外出土遺物実測図⑨(1/1・1/3)



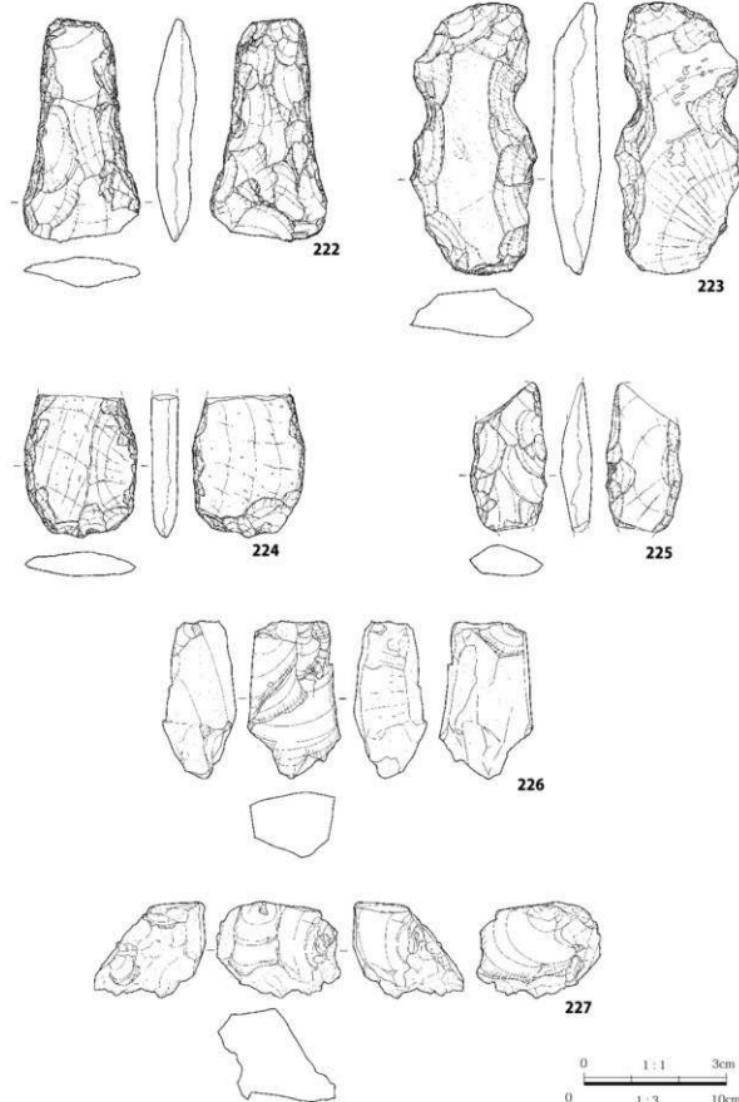


第215図 遺構外出土遺物実測図⑩(1/1)

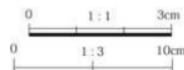
0 1:1 3cm

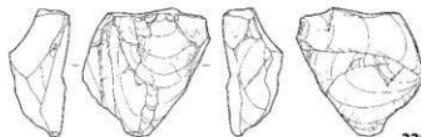


第216図 遺構外出土遺物実測図⑪(1/1・1/3)

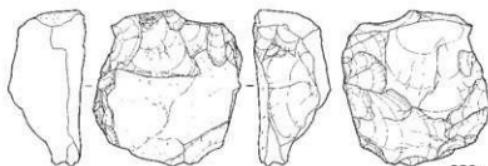


第217図 遺構外出土遺物実測図⑫(1/1・1/3)

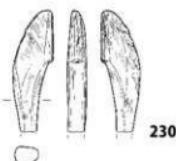




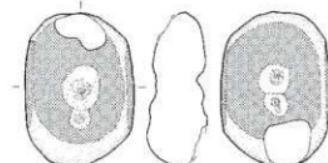
228



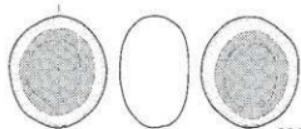
229



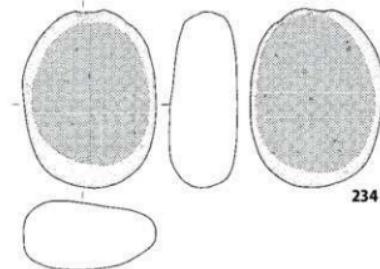
230



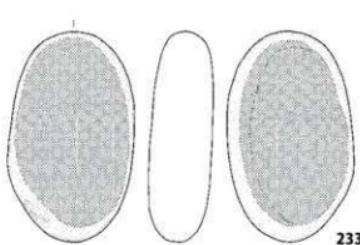
232



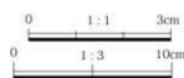
231



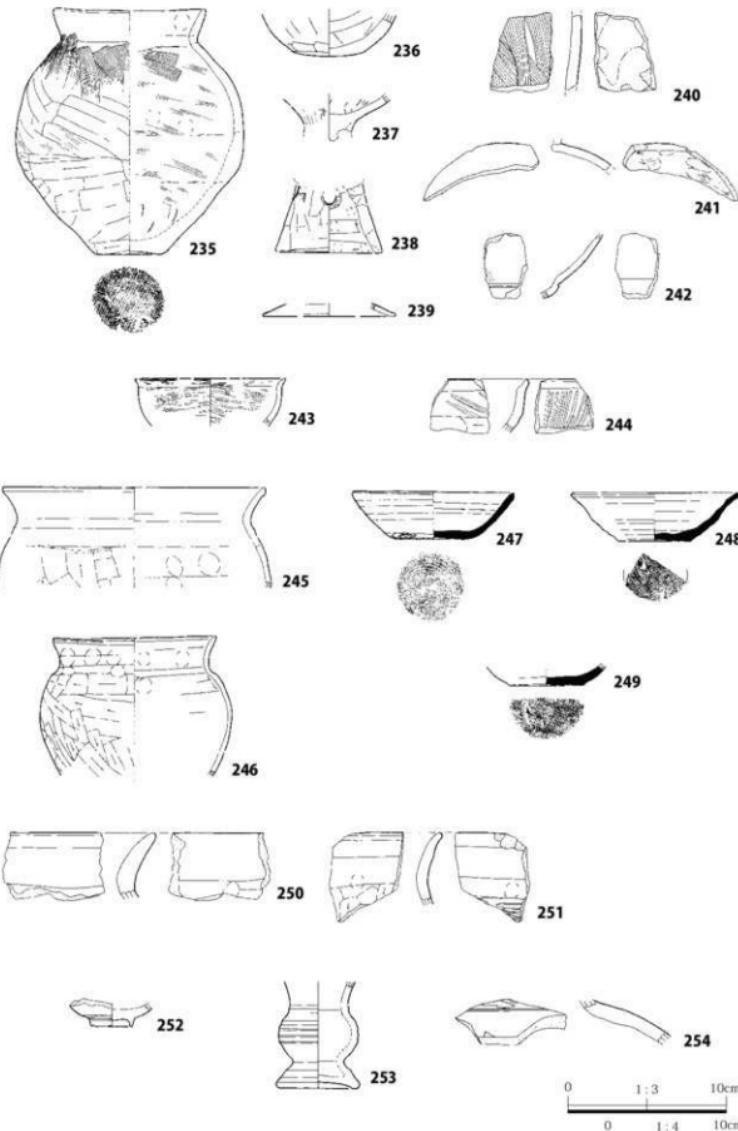
234



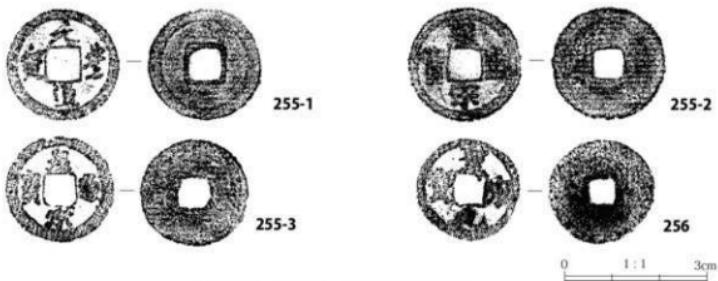
233



第218図 遺構外出土遺物実測図⑬(1/1・1/3)



第219図 遺構外出土遺物実測図<sup>(1)</sup> (1/3・1/4)



第220図 遺構外出土遺物実測図(1/1)

## 第5章　まとめ

今回発掘調査を行なった上原I遺跡II地点では、縄文時代前期の竪穴住居跡9軒、中期の竪穴住居跡4軒、前期から中期の土坑10基、ピット12基、弥生時代前期の土坑1基、古墳時代前期の竪穴住居跡1軒、中期の土坑2基、平安時代の竪穴住居跡11軒、陥し穴59基、土坑3基、焼土遺構4基、近世の土坑3基、焼土遺構6基、時期不明の竪穴住居跡1軒、土坑21基、焼土遺構1基、ピット51基、旧河道1条が確認された。王城山山麓の緩斜面上に立地し、西側に上原IV遺跡、南側に林中原II遺跡がある。

縄文時代前期の竪穴住居跡は9軒あり、すべて2・3区調査区の東側に分布している。2・3区南西部に旧河道があり、全体的に旧河道に向かって傾斜する地形であるが、該期の竪穴住居跡は旧河道からやや離れた傾斜の緩くなった場所に位置している。南西方向に開いた二重の弧状に分布し、内側がSI19～21・26、外側がSI22～25・27である。出土遺物は大きく見れば花積下層I式土器が主体であるが、長野県東信地域を中心とする塚田式土器も多分に見受けられる。竪穴住居跡が重複・接続している状況から、少なくとも2時期ある可能性があると思われる。中期の竪穴住居跡は4軒あり、2・3区調査区の東端・西端に1軒ずつ(SI02・18)、中央部に2軒(SI06・12)が分布している。全て旧河道の川線に位置しており、前期の集落とは土地利用が異なるようである。中央部に位置する2軒が接続していることから、少なくとも2時期あるものと考えられる。

弥生時代の遺構は、前期の土坑1基(SK61)である。文様構成に特徴がある小型短頭壺が破片を重ねて置かれた状況で出土しており、埋納した可能性が考えられる。また、本事業で発掘調査を行なった7遺跡のうち、弥生土器が最も多く出土している。器形を復元できる資料も出土していることから、本調査地点の周辺で弥生時代の集落があった可能性が高いと考えられる。

古墳時代の遺構は、前期の竪穴住居跡1軒(SI10)と、中期の土坑2基(SK02・03)である。前期の竪穴住居跡からは、東海地方西部系のS字状口縁台付甕が出土している。長野原町では初めて出土した資料であり、吾妻川流域にもS字甕を使用する集団が来ていたことを示すものと考えられる。S字甕がどのようなルートを通って本遺跡に至ったかが興味深い。

平安時代の竪穴住居跡は11軒確認された。分布状況は2・3区調査区全域に偏ることなく、旧河道川線から約15m離れた場所で旧河道と平行に直線状に並んでいる。帰属時期は9世紀後半～10世紀前半頃と考えられるが、カマドの位置が北カマド(SI16・17)・東カマド(SI04・05・08・09A・09B・13)・南カマド(SI11・14・15)の3種類確認された。

平安時代の陥し穴は59基ある。分布状況は竪穴住居跡同様2・3区調査区全域に偏ることなく旧河道と平

行して直線状に分布しているが、竪穴住居跡よりも旧河道川縁に近い位置にあり、調査区東端部では竪穴住居跡と重複する。陥し穴は長軸の方向で、東西方向、南北方向、東に振れるもの、西に振れるもの、の4つに分類できる。東西方向のものは調査区西部に集中し、東端部に2基見られる。南北方向のものは調査区東半分に分布する。東に振れるもの・西に振れるものはともに調査区全域に分布し、特に偏りは見られない。これらの傾向は、時期差によるものの可能性を考えられ、竪穴住居跡の変遷と関連する可能性を考えられる。

墨書き土器は、SI11・15から2点出土し、灰釉陶器はSI09 A・11から2点出土した。墨書き土器と灰釉陶器が多量に出土している上原Ⅲ遺跡・中棚Ⅰ遺跡と比べて、墨書き土器・灰釉陶器が少ないと、竪穴住居跡の規模が一辶 2.5 m ~ 4.5 m と小・中規模のものだけで大規模なものがないことから、拠点的な集落ではなく、一般的な集落であったと考えられる。焼土構造とその近くから楕円形鍛冶溝が出土していることから、鍛冶作業が行われていた集落と考えられるが、明確な鍛冶炉を確認することは出来なかった。楕円形鍛冶溝の分析の結果、高純度鉄素材から鉄製品を作成する鍛錬鍛冶が行なわれたと想定される。上原Ⅳ遺跡Ⅳとは、竪穴住居跡の規模、墨書き土器・灰釉陶器の出土量が類似していること、距離が近いことから、同一または近しい集落であった可能性が考えられる。

第26表 上原Ⅰ遺跡II縦文住居跡諸属性一覧

遺構名	長軸方向	規模 (m・m)				主柱配置	部		周溝	付帯施設	遺物			時期
		長軸	短軸	壁高	面積		位置	構築方法			土器	石器	その他	
SI02	N-64°-E	4.70	4.65	0.45	(11.74)	6本	中央	石垣炉	全周	-	○	○	-	縦文時代中期
SI06	N-20°-E	<5.97>	<5.11>	0.31	<22.27>	6本	中央	石垣炉	-	埋設土器	○	○	-	縦文時代中期
SI12	N-55°-E	(4.83)	(4.67)	0.41	<15.70>	6本	中央	石垣炉	東壁	-	○	-	石皿 (手材)	縦文時代中期
SI18	N-22°-E	5.43	(4.99)	0.31	17.84	6本	中央	石垣炉	新築的	-	○	○	-	縦文時代前期
SI19	N-22°-E	4.60	4.60	0.10	14.72	不明	中央	地床炉	-	埋設土器	○	○	-	縦文時代前期
SI20	N-13°-W	5.08	4.98	0.20	18.53	4本か	中央	地床炉	西壁	-	○	○	-	縦文時代前期
SI21	N-63°-E	6.52	4.43	0.32	20.87	不明	中央	地床炉	-	-	○	○	-	縦文時代前期
SI22	N-56°-W	(5.11)	4.05	0.22	(12.22)	2本か	中央	地床炉	-	-	○	○	-	縦文時代前期
SI23	N-10°-E	4.90	4.52	0.13	15.10	6本	中央	地床炉	-	-	○	-	-	縦文時代前期
SI24	N-35°-E	(5.65)	3.85	0.21	14.93	不明	中央	地床炉	-	-	○	-	-	縦文時代前期
SI25	N-78°-E	9.45	(6.42)	0.35	<41.56>	不明	北東	地床炉	-	-	○	○	黒曜石細片	縦文時代前期
SI26	N-24°-E	5.32	(4.41)	0.25	17.10	3本か	南	地床炉	-	-	○	-	-	縦文時代前期
SI27	N-46°-E	(5.35)	5.50	0.13	(19.84)	不明	中央	地床炉	東・北・南	-	○	○	黒曜石細片	縦文時代前期

第27表 上原Ⅰ遺跡II古代住居跡諸属性一覧

遺構名	長軸方向	規模 (m・m)				主柱配置	カマド		周溝	付帯施設	遺物			時期	
		長軸	短軸	壁高	面積		位置	構築方法			灰堆	壺蓋	羽蓋	鉄製品	
SI03	N-84°-W	(3.39)	(3.19)	0.10	<10.59>	4本	-	-	-	-	-	-	-	-	不明
SI04	N-80°-W	(3.92)	3.71	0.52	(8.79)	2本	東壁	石組・ 土で造成	西・南・北	貯藏穴	-	-	-	-	9世紀後半
SI05	N-60°-W	3.73	(3.67)	0.78	(10.37)	不明	東壁	石組・ 土で造成	南西側	貯藏穴	-	-	-	-	9世紀後半
SI08	N-57°-W	4.28	3.64	0.39	11.11	不明	東壁	石組・ 土で造成	南側斜く 3/4周	貯藏穴	-	-	-	○	9世紀後半～ 10世紀前半
SI09A	N-87°-E	<4.48>	(2.63)	0.60	(9.86)	2本か	東壁	石組・ 土で造成	-	貯藏穴	○	-	-	-	9世紀後半～ 10世紀前半
SI09B	N-87°-E	<4.22>	(1.81)	0.57	(7.78)	不明	東壁	不明	-	貯藏穴	-	-	-	-	9世紀後半
SI10	N-8°-W	4.02	(2.59)	0.30	(7.78)	2本か	-	-	-	-	-	-	-	-	古墳時代前期
SI11	N-11°-E	(3.62)	2.78	0.46	(6.75)	不明	南壁	石組・ 土で造成	-	-	○	○	○	-	9世紀後半～ 10世紀前半
SI13	N-72°-E	(4.11)	3.57	0.24	(9.92)	2本か	東壁	地山 掘り残し	-	種々施設	-	-	-	-	9世紀後半
SI14	N-3°-E	4.66	(3.29)	0.15	<14.23>	4本か	南壁	石組・ 土で造成	-	-	-	-	-	-	9世紀後半～ 10世紀前半
SI15	N-30°-E	3.31	2.72	0.16	(6.27)	不明	南壁	石組・ 土で造成	-	-	-	○	○	-	9世紀後半～ 10世紀前半
SI16	N-10°-E	3.82	3.58	0.68	(9.43)	不明	北壁	石組・ 土で造成	西・南・北	貯藏穴	-	-	○	-	9世紀後半～ 10世紀前半
SI17	N-23°-E	<5.37>	(3.78)	0.16	<15.53>	4本	北壁	石組・ 土で造成	西・北	-	-	-	-	-	9世紀後半～ 10世紀前半

第28表 上原一遺跡II出土遺物觀察

			S12 壁上	S12 壁上
18/21	81	打孔石嘴 長 10.6、寬 4.1、厚 2.2 重量 91.6g。頭部圓，刀面帶鋒。	—	黑色砂質
18/22	—	打孔石嘴 長 (6.7)、寬 4.5 / 7.9、厚 2.1 重量 (67.1) g。頭部圓錐形，帶長刃。	—	黑色砂質
			—	50% 磷灰岩。

5106 出土遺物觀察表

5112 出土遺物觀察表

31- 2	83	博子・さとみ [森林]	(22.8) /—/—	体部が白らみ、全体的に薄い緑色を帯びる。頭部は外側から見るに薄い緑色で、中央の頭頂部は黄緑色で、一点高い位置にある。頭部には、褐色のカーブや斜めの溝があるが強調される。 —	内凹形 頭部は白色とする。頭部の中央は黒目と黒輪で、内は楕円形とする。	良好	内凹形	頭片資料 (頭部+体部)	S118 頭片 レシテ7
31- 3	—	鶴又・さと [森林]	(6.5) /—/—	—	—	良好	内凹形	頭片資料 (体部)	S118 頭片
31- 3.5	—	鶴石井・さとみ [森林]	(22.8) /29.3/ 厚8.5	頭部は白らみ、全体的に薄い緑色を帯びる。頭部は外側から見るに薄い緑色で、中央の頭頂部は黄緑色で、一点高い位置にある。頭部には、褐色のカーブや斜めの溝があるが強調される。 —	内凹形 頭部は白色とする。頭部の中央は黒目と黒輪で、内は楕円形とする。	良好	内凹形	頭片資料 (体部)	S118 頭片
32- 4	83	鶴石井・さとみ [森林]	(22.8) /29.3/ 厚8.5	頭部は白らみ、全体的に薄い緑色を帯びる。頭部は外側から見るに薄い緑色で、中央の頭頂部は黄緑色で、一点高い位置にある。頭部には、褐色のカーブや斜めの溝があるが強調される。 —	内凹形 頭部は白色とする。頭部の中央は黒目と黒輪で、内は楕円形とする。	良好	内凹形	頭片資料 (体部)	S118 頭片

卷之十九

100

五〇

出土遺物目録表		目録番号		目録題名		目録説明		備考	
37.13	84 瓦石類	長 2.8	幅 3.8	厚 0.7	重 4kg.			手ヤード	—
37.14	84 瓦石類	長 (4.5) / 幅 (1.4) / 厚 (1.8)	重	(3.4) kg.				15% 磨耗	S19W5
37.15	84 瓦石類	長 (2.5) / 幅 (5.5) / 厚 (3.5)	重	(6.0) kg.			石器碎片	—	S19W6
37.16	84 瓦石類	長 4.5	幅 (7.5) / 厚 1.4	重 (4.8) kg.	直 9.3			石器碎片	—
								無色透明	
								色調(外見・内面)	
						物質・材質		透明・黒化	
						構造多様		透明	
						無		無	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	
								透明・黒化	
								透明質質	

卷之三

S122出土遺物観察表

測定No.	測定値	法則/測定値	特徴(形態・手筋)	測定No.	測定値	法則/測定値	特徴(形態・手筋)
48-1	84	鋼文・器・ 漆木	(1.73) / 15.2 /—	48-2	84	鋼文・器・ 漆木	(14.7) / < 14.4 /> /—
48-3	84	鋼文・器・ 漆木	(14.6) / < 14.4 /> /—	48-4	85	鋼文・器・ 漆木	(26.7) / < /—
48-5	85	鋼文・器・ 漆木	(5.2) / < /—	48-6	—	鋼文・器・ 漆木	(7.5) / < /—
48-7	—	鋼文・器・ 漆木	(4.3) / < /—	49-8	—	鋼文・器・ 漆木	(12.7) / < /—
49-9	—	鋼文・器・ 漆木	(14.2) / < /—	49-10	85	漆木・ 漆木	(5.4) / < /—
49-11	85	漆木・ 漆木	長2.6 / 高1.7 / 厚0.5	49-12	85	漆木・ 漆木	長(8.2) / 高4.3 / 厚1.4
49-13	—	漆木・ 漆木	長3.9 / 高5.4 / 厚1.4	49-14	—	漆木・ 漆木	長4.7 / 高5.0 / 厚1.6
50-15	—	漆木・ 漆木	長(5.1) / 高2.9 / 厚1.7	50-16	—	漆木・ 漆木	長2.7 / 高1.2 / 厚0.7
50-17	85	漆木・ 漆木	長14.7 / 高8.9 / 厚9.88				漆木・ 漆木

S123出土遺物観察表

測定No.	測定値	法則/測定値	特徴(形態・手筋)	測定No.	測定値	法則/測定値	特徴(形態・手筋)
53-1	85	鋼文・器・ 漆木	43.5 / 23.8 / 実底	53-2	85	鋼文・器・ 漆木	(39.6) / 27.4 /—

## S124 出土遺物觀察表

番号No.	種類	法面開高・口幅・底径(cm)	特徴(形態・手法)	地質	断土・材質等	色調(外斑・内斑)	表面	基準	基準30%HR。	S123 壁上
56. 1	陶文・器・ 深鉢	(9.2) /~/-	内面は焼成ナメ。外側は素面文。内面は焼成ナメ。外側は素面文。	良好	繊維層 金芸母	白褐色・赤茶30%HR。	糊面	口縁部-体部-内斑30%HR。	S124 壁上	
56. 2	陶文・器・ 深鉢	(12.0) /~/-	内面は焼成ナメ。外側は素面文。内面は焼成ナメ。外側は素面文。	良好	繊維層 金芸母	白褐色・赤茶25%HR。	糊面	口縁部-体部-内斑25%HR。	S124 壁上	
56. 3	陶文・器・ 深鉢	(12.1) /~/-	内面は焼成ナメ。外側は素面文。内面は焼成ナメ。外側は素面文。	良好	繊維層 金芸母	白褐色・赤茶25%HR。	糊面	口縁部-体部-内斑25%HR。	S124 壁上	
56. 4	陶文・器・ 深鉢	(5.0) /~/-	内面は焼成ナメ。外側は素面文。内面は焼成ナメ。外側は素面文。	良好	繊維層 金芸母	白褐色・赤茶25%HR。	糊面	口縁部-体部-内斑25%HR。	S124 壁上	
56. 5	陶文・器・ 深鉢	(4.8) /~/-	内面は焼成ナメ。外側は素面文。内面は焼成ナメ。外側は素面文。	良好	繊維層 金芸母	白褐色・赤茶25%HR。	糊面	口縁部-体部-内斑25%HR。	S124 壁上	

## S125 出土遺物觀察表

番号No.	種類	法面開高・口幅・底径(cm)	特徴(形態・手法)	地質	断土・材質等	色調(外斑・内斑)	表面	基準	基準30%HR。	S125 壁上
61. 1	陶文・器・ 深鉢	(23.5) /~/- < 22.6 /~/-	内面は焼成ナメ。外側は素面文。内面は焼成ナメ。外側は素面文。	良好	繊維層 金芸母	白褐色・赤茶25%HR。	糊面	口縁部-体部-内斑25%HR。	S125 壁上	
61. 2	陶文・器・ 深鉢	(23.5) /~/- < 19.2 /~/-	内面は焼成ナメ。外側は素面文。内面は焼成ナメ。外側は素面文。	良好	繊維層 金芸母	白褐色・赤茶25%HR。	糊面	口縁部-体部-内斑25%HR。	S125 壁上	
61. 3	陶文・器・ 深鉢	(16.6) /~/-	内面は焼成ナメ。外側は素面文。内面は焼成ナメ。外側は素面文。	良好	繊維層 金芸母	白褐色・赤茶25%HR。	糊面	口縁部-体部-内斑25%HR。	S125 壁上	
61. 4	陶文・器・ 深鉢	(14.0) /~/- < 16.5 /~/-	内面は焼成ナメ。外側は素面文。内面は焼成ナメ。外側は素面文。	良好	繊維層 金芸母	白褐色・赤茶25%HR。	糊面	口縁部-体部-内斑25%HR。	S125 壁上	
61. 5	-	(8.0) /~/-	内面は糊面。糊・新宿ナメ。糊面・糊面。	良好	繊維層 金芸母	白色化・糊面	糊	糊・糊20%HR。	S125 壁上	
62. 6	陶文・器・ 深鉢	(20.0) /~/-	内面は焼成ナメ。外側は素面文。内面は糊・新宿ナメ。	良好	繊維層 金芸母	白色化・糊面	糊	糊・糊20%HR。	S125 壁上	
62. 7	陶文・器・ 深鉢	(14.5) /~/-	内面は焼成ナメ。外側は素面文。内面は糊・新宿ナメ。	良好	繊維層 金芸母	白色化・糊面	糊	糊・糊20%HR。	S125 壁上	
62. 8	陶文・器・ 深鉢	(15.1) /~/-	内面は糊面。内面で糊・新宿ナメ。糊面で糊・新宿ナメ。	良好	繊維層 金芸母	白色化・糊面	糊	糊・糊20%HR。	S125 壁上	
62. 9	陶文・器・ 深鉢	(12.3) /~/-	内面は糊面。内面で糊・新宿ナメ。糊面で糊・新宿ナメ。	良好	繊維層 金芸母	白色化・糊面	糊	糊・糊20%HR。	S125 壁上	
62. 10	-	(2.5) /~/-	糊面である。無色。内外端にもヒヂ。	良好	繊維層 金芸母	白色化・糊面	糊	糊・糊20%HR。	S125 壁上	
62. 11	陶文・器・ 深鉢	(3.3) /~/-	内面は糊面である。内面で糊・新宿ナメを書きする。0.2cm差新宿ナメ。内面は糊面。	良好	繊維層 金芸母	白色化・糊面	糊	糊・糊20%HR。	S125 壁上	
62. 12	陶文・器・ 深鉢	(7.4) /~/-	内面は糊面。内面で糊・新宿ナメを書きする。内面は糊面。	良好	繊維層 金芸母	白色化・糊面	糊	糊・糊20%HR。	S125 壁上	
62. 13	陶文・器・ 深鉢	(4.2) /~/-	内面は糊面。内面で糊・新宿ナメを書きする。内面は糊面。	良好	繊維層 金芸母	白色化・糊面	糊	糊・糊20%HR。	S125 壁上	
62. 14	陶文・器・ 深鉢	(3.4) /~/-	内面は糊面。内面で糊・新宿ナメを書きする。内面は糊面。	良好	繊維層 金芸母	白色化・糊面	糊	糊・糊20%HR。	S125 壁上	

62.15	86	碑文・銘・ 石碑	(11.9) /~/-	上部外縁が、やや落書きする。墨文 R の周辺にによる墨文、落書きを含む。墨文 は全部墨色から、落書きするところがある。口縁と体の接する所は墨文の間に鉛 筆で墨文と落書きを記す。落書きの下には「作明治元年」(落書き)。内面は「大正 九年」(落書き)。内面は墨色。外側は墨色。内面は墨色。外側は墨色。	良好	織物・白色	織物・黒色	織片・資料 (11.9部) ~ (6部)	S25 曲上
62.16	-	碑文・銘・ 石碑	(3.2) /~/-	墨文 R の周辺にによる墨文と落書き。内面は墨色。外側は墨色。	良好	織物・内凹石	織物・黒色	織片・資料 (6部)	S25 曲上
62.17	-	碑文・銘・ 石碑	(5.1) /~/-	墨文 L, R による墨文と落書き。内面は墨色。	良好	織物	織物	織片・資料 (6部)	S25 末R
62.18	-	碑文・銘・ 石碑	(4.6) /~/-	0.0多角形 R, 黑墨文による墨文と落書き。内面は墨色。	良好	白墨・織物	白墨・織物	織片・資料 (6部)	S25 末R
62.19	-	碑文・銘・ 石碑	(0.6) /~/-	墨文 R の周辺にによる墨文と落書き。内面は墨色。	良好	織物	織物	織片・資料 (6部)	S25 曲上
62.20	86	碑文・銘・ 石碑	(5.8) /~/-	0.0多角形 R, 黑墨文による墨文と落書き。内面はナフ。内面はナフ。	良好	織物	織物	織片・資料 (6部)	S25 曲上
62.21	86	碑文・銘・ 石碑	(0.7) /~/-	墨文 L, R, 黑墨文による墨文と落書き。内面は墨色。	良好	織物・長石	織物・長石	織片・資料 (6部)	S25 曲上
63.32	-	碑文・銘・ 石碑	(7.0) /~/-	墨文 R の周辺にによる墨文と落書き。内面は墨色。	良好	長石・織物	長石・織物	織片・資料 (6部)	S25 曲上
63.23	86	碑文・銘・ 石碑	(3.1) /~/-	墨文 L, R の周辺にによる墨文と落書き。内面は墨色。	良好	織物	織物	織片・資料 (6部)	S25 曲上
63.24	-	碑文・銘・ 石碑	(4.3) /~/-	0.0多角形 R, 黑墨文による墨文と落書き。内面は墨色。	良好	織物	織物	織片・資料 (6部)	S25 末R
63.25	-	碑文・銘・ 石碑	(4.2) /~/-	墨文 L, R の周辺にによる墨文と落書き。内面は墨色。	良好	織物	織物	織片・資料 (6部)	S25 曲上
63.26	86	紹介石標・ 石碑	長 2.3 /幅 1.6 /厚 0.4	墨書 (1.0) g. 平版。	-	黑墨石	黑墨石	-	S25 曲上
63.27	-	紹介石標・ 石碑	長 (2.4) /幅 1.9 /厚 0.5	墨書 (1.7) g. 平版。	-	黑墨石	黑墨石	-	S25 末R
63.28	-	紹介石標・ 石碑	長 (2.1) /幅 1.7 /厚 0.3	墨書 (0.8) g. 平版。	-	黑墨石	黑墨石	-	S25 曲上
63.29	-	紹介石標・ 石碑	長 1.8 /幅 1.5 /厚 0.5	墨書 (0.8) g. 平版。	-	黑墨石	黑墨石	-	S25 末R
63.30	86	紹介石標・ 石碑	長 1.6 /幅 1.3 /厚 0.3	墨書 0.4g. 平版。	-	月白石	月白石	-	S25 曲上
63.31	86	紹介石標・ 石碑	長 2.3 /幅 1.7 /厚 0.4	墨書 1.0g. 平版。	-	黑墨石	黑墨石	-	S25 曲上
63.32	86	紹介石標・ 石碑	長 2.2 /幅 1.7 /厚 0.5	墨書 1.2g. 平版。	-	手写 - T.	手写 - T.	-	S25 曲上
63.33	-	紹介石標・ 石碑	長 1.8 /幅 1.8 /厚 0.3	墨書 (0.8) g. 平版。	-	黑墨石	黑墨石	-	S25 曲上
63.34	87	紹介石標・ 石碑	長 2.7 /幅 0.9 /厚 0.6	墨書 1.1g.	-	黑墨石	黑墨石	-	S25 曲上
63.35	87	紹介石標・ 石碑	長 (5.1) /幅 (1.3) /厚 0.6	墨書 (4.0) g.	-	黑色内苔	黑色内苔	-	S25 末R
63.36	87	紹介石標・ 石碑	長 5.7 /幅 2.4 /厚 1.0	墨書 11.9g.	-	真白石	真白石	-	S25 曲上
63.37	87	紹介石標・ 石碑	長 (2.0) /幅 2.8 /厚 0.3	墨書 (0.1) g. 黑墨の糊跡。	-	灰纹石	灰纹石	-	S25 曲上
63.38	-	紹介石標・ 石碑	長 4.9 /幅 2.6 /厚 1.0	墨書 8.6g.	-	真白石	真白石	-	S25 末R

## S126出土遺物觀察表

出M5% 順位% (出M5% / 法則高さ・法則幅さ) 素材 (形態・手法等) 特徴 (形態・手法等)

66: 1 87 刃片石刀頭・石鉈 長:38 / 幅:7.5 / 厚:1.4 重量 28.8g.

## S127出土遺物觀察表

出M5% 順位% (出M5% / 法則高さ・法則幅さ) 素材 (形態・手法等)

70: 1 87 圓文・直線・刃部・石鉈 (8.4) / <12.2>/~

外文弧線に立ち上り、0.9多角LR。直線文か、輪郭ごくやわかなので判斷しづらいが、縦長の刃頭。底面は平行な斜面で斜めに削り落とす。底面も0.9多角LR。SL。直線文とされると解釈。

70: 2 87 圓文・直線・刃部 (6.0) / ~ / 8.0

外文弧線に立ち上り、0.9多角LR。直線文か、輪郭ごくやわかなので判斷しづらいが、縦長の刃頭。底面は平行な斜面で斜めに削り落とす。底面も0.9多角LR。SL。直線文とされると解釈。

70: 3 87 圓文・直線・刃部 (1.3.7) / ~ / ~

0.9多角LR。直線文で底面は斜めに削り落とす。内面は横切欠。輪郭は直角。

70: 4 87 圓文・直線・刃部 (3.9) / ~ / ~

円筒形側面となる。直面はRで底面は斜めに削り落とす。内面は横切欠。又は横切欠のR。

70: 5 87 圓文・直線・刃部 (3.3) / ~ / ~

円筒形側面となる。直面はRで底面は斜めに削り落とす。内面は横切欠。

71: 6 ~ 圓文・直線・刃部 (3.5) / ~ / ~

直面は斜めに削り落とす。

71: 7 87 圓文・直線・刃部 (0.8) / ~ / ~

0.9多角LR。直線文で斜めに削り落とす。

71: 8 87 圓文・直線・刃部 (7.5) / ~ / ~

直面はRで底面は斜めに削り落とす。外面はナギ。

71: 9 87 圓文・直線・刃部 (6.7) / ~ / ~

直面はRで底面は斜めに削り落とす。外面はナギ。

71: 10 ~ 圓文・直線・刃部 (6.8) / ~ / ~

直面はRで底面は斜めに削り落とす。

71: 11 87 刃片石刀頭・石鉈 長:2.0 / 幅:3.8 / 厚:0.6

直面0.9g。直面。

71: 12 ~ 刃片石刀頭・直線 (1.7) / 幅:1.7 / 厚:0.4

直面 (0.9) g. 直面。尖端部欠損。

71: 13 ~ 刃片石刀頭・長:2.0 / 幅:1.5 / 厚:0.3

直面 (0.7) g. 直面。側面欠損。

71: 14 87 刃片石刀頭・長:1.9 / 幅:1.5 / 厚:0.4

直面0.9g。直面。

71: 15 87 刃片石刀頭・長:1.9 / 幅:1.3 / 厚:0.3

直面0.9g。直面。

71: 16 ~ 刃片石刀頭・長:1.7 / 幅:1.7 / 厚:0.5

直面 (1.4) g. 平底。

71: 17 ~ 刃片石刀頭・長:1.6 / 幅:1.5 / 厚:0.5

直面 (1.0) g. 平底。

71: 18 87 刃片石刀頭・長:4.7 / 幅:1.9 / 厚:1.2

直面6.2g。

71: 19 87 刃片石刀頭・長:3.5 / 幅:2.6 / 厚:1.0

直面5.2g。

71: 20 ~ 刃片石刀頭・長:1.5 / 幅:2.6 / 厚:0.6

直面1.9g。

71: 21 87 刃片石刀頭・長:3.2 / 幅:1.4 / 厚:0.7

直面 (1.9) g.

出M5% 順位% (出M5% / 法則高さ・法則幅さ)	特徴 (形態・手法等)	地質	地質・材質等	地質 (外因・内因)	地質	地質・材質等	地質 (外因・内因)	地質
66: 1 87 刃片石刀頭・石鉈 長:38 / 幅:7.5 / 厚:1.4 重量 28.8g.					-	-	-	S126 地上

縄文時代ピット出土遺物調査表		縄文時代土坑出土遺物調査表		縄文時代土坑出土遺物調査表		縄文時代土坑出土遺物調査表	
測定番号	測定名	測定番号	測定名	測定番号	測定名	測定番号	測定名
77- 1	縄文土器・ 筒形	法規番号.118. 総径(φ) (mm)	(48.0) /~> <14.6>	77- 2	縄文土器・ 筒形	法規番号.118. 総径(φ) (mm)	(57.1) /~> ~
77- 2	縄文土器・ 筒形	法規番号.118. 総径(φ) (mm)	(57.1) /~> ~	77- 3	縄文土器・ 筒形	法規番号.118. 総径(φ) (mm)	(42.1) /~> ~
77- 4	打削石器・ 筒形	法規番号.118. 総径(φ) (mm)	(9.4) /~> 6.7 /~> 2.2	77- 5	打削石器・ 筒形	法規番号.118. 総径(φ) (mm)	(6.0) /~> ~
77- 6	打削石器・ 筒形	法規番号.118. 総径(φ) (mm)	長 2.2 /~> 幅 1.2	79	打削石器・ 筒形	法規番号.118. 総径(φ) (mm)	長 24.9 /~> 幅 9.2 /~> 2.2
79- 1	打削石器・ 筒形	法規番号.118. 総径(φ) (mm)	長 21.9 /~> 幅 9.2 /~> 2.7	79- 2	打削石器・ 筒形	法規番号.118. 総径(φ) (mm)	長 21.9 /~> 幅 9.2 /~> 3.0
79- 3	打削石器・ 筒形	法規番号.118. 総径(φ) (mm)	長 21.6 /~> 幅 9.2 /~> 2.5	79- 4	打削石器・ 筒形	法規番号.118. 総径(φ) (mm)	長 20.1 /~> 幅 7.5 /~> 2.5
79- 5	打削石器・ 筒形	法規番号.118. 総径(φ) (mm)	長 15.6 /~> 幅 7.2 /~> 4.2	80- 1	骨・上顎骨・ 筒形	法規番号.118. 総径(φ) (mm)	15.6 /~> 幅 7.2 /~> 4.2
縄文時代ピット出土遺物調査表		縄文時代土坑出土遺物調査表		縄文時代土坑出土遺物調査表		縄文時代土坑出土遺物調査表	
85- 1	古式土器・ 筒形	法規番号.118. 総径(φ) (mm)	25.7 /~> 10.4 /~> 5.3	85- 2	古式土器・ 筒形	法規番号.118. 総径(φ) (mm)	(10.5) /~> ~
85- 3	古式土器・ 筒形	法規番号.118. 総径(φ) (mm)	(4.7) /~> <8.0>	85- 4	古式土器・ 筒形	法規番号.118. 総径(φ) (mm)	5.8 /~> 10.0
85- 5	古式土器・ 筒形	法規番号.118. 総径(φ) (mm)	(3.3) /~> ~	85- 6	古式土器・ 筒形	法規番号.118. 総径(φ) (mm)	(3.2) /~> ~
85- 7	古式土器・ 筒形	法規番号.118. 総径(φ) (mm)	(3.3) /~> ~	85- 8	古式土器・ 筒形	法規番号.118. 総径(φ) (mm)	(3.0) /~> ~

地名	標高(m)	南北距離(m)	東西距離(m)	南北傾斜度	東西傾斜度	南北延伸度	東西延伸度	南北面積(m <sup>2</sup> )	東西面積(m <sup>2</sup> )
85.8	893	古代・後期・高砂	(22) // ~	手の文様面	底板、もしくは小切妻切妻の直性であるが不規則、外側面ともにミガキ、磨き、削り、鉛石の磨耗	底板	底板・鉛石の磨耗	510.9m <sup>2</sup>	510.9m <sup>2</sup>
85.8	893	古代・後期	(4.8) // ~ < 9.2 >	手の文様面	内側面には手の文様とし、外側面には手の文様とされる。内側面は手の文様とされる。外側面は手の文様とされる。	底板	底板・鉛石	40.7m <sup>2</sup>	40.7m <sup>2</sup>
85.8	893	古代・後期	(7.1) // ~ < 3.0 >	手の文様	外側面は手の文様とされる。内側面は手の文様とされる。	底板	底板・鉛石	30.9m <sup>2</sup>	30.9m <sup>2</sup>
85.8	893	上部層・底板	(5.3) // ~	手の文様	外側面は手の文様とされる。内側面は手の文様とされる。	底板	底板・鉛石	40.7m <sup>2</sup>	40.7m <sup>2</sup>
85.8	893	上部層・底板	(26) // ~	手の文様	底の直角に立たれたが、小破壊のために直角、外側面はミガキ、手の文様はナフ。内側面は手の文様とされる。外側面はミガキ、手の文様はナフ。内側面はミガキ、手の文様はナフ。	底板	底板・鉛石	500.02	500.02

S104 出土遺物觀察表

標高(m)	経緯度	地名	法面高さ(m)	岩場	特徴	構造	断面構造	岩質	風化	層序
93. 1	136°18' / 34°54' N	上麻屋・小切原	16.0 / 13.4 / 5.4	コブリの小切原	1. 地表付近に樹木がある。2. 地表付近に土壌がある。	複合	断面上・材質等	砂岩・泥岩・頁岩・角閃石・石英	弱風化	S04 460・前段
93. 2	136°18' / 34°54' N	上麻屋・横	11.6 / 21.0 / ~	コブリの横原	1. 地表付近に樹木がある。2. 地表付近に土壌がある。	複合	断面上・材質等	砂岩・泥岩・頁岩・角閃石・石英	弱風化	S04 470・カドリ
93. 3	136°18' / 34°54' N	上麻屋・奥	8.5 / 19.0 / ~	コブリの奥原	1. 地表付近に樹木がある。2. 地表付近に土壌がある。	複合	断面上・材質等	砂岩・泥岩・頁岩・角閃石・石英	弱風化	S04 480・前段
93. 4	136°18' / 34°54' N	上麻屋・横	10.0 / <19.4 / ~	コブリの横原	1. 地表付近に樹木がある。2. 地表付近に土壌がある。	複合	断面上・材質等	砂岩・泥岩・頁岩・角閃石・石英	弱風化	S04 490・カドリ
93. 5	136°18' / ~3.8	上麻屋・奥	11.2 / ~3.8	コブリの奥原	1. 地表付近に樹木がある。2. 地表付近に土壌がある。	複合	断面上・材質等	砂岩・泥岩・頁岩・角閃石・石英	弱風化	S04 500・カドリ
93. 6	~	上麻屋・奥	0.2 / ~3.8	コブリの奥原	1. 地表付近に樹木がある。2. 地表付近に土壌がある。	複合	断面上・材質等	砂岩・泥岩・頁岩・角閃石・石英	弱風化	S04 510・前段
93. 7	136°18' / ~3.8	上麻屋・横	14.1 / ~3.8	コブリの横原	1. 地表付近に樹木がある。2. 地表付近に土壌がある。	複合	断面上・材質等	砂岩・泥岩・頁岩・角閃石・石英	弱風化	S04 520・カドリ
93. 8	~	上麻屋・横・一	1.6 / ~7.0	コブリの横原・一	1. 地表付近に樹木がある。2. 地表付近に土壌がある。	複合	断面上・材質等	砂岩・泥岩・頁岩・角閃石・石英	弱風化	S04 530・前段
93. 9	136°18' / ~4.2 / ~	上麻屋・奥	4.5 / ~14.2 / ~	コブリの奥原	1. 地表付近に樹木がある。2. 地表付近に土壌がある。	複合	断面上・材質等	砂岩・泥岩・頁岩・角閃石・石英	弱風化	S04 540・前段

第十一章 2013

58. 3	89	上端部・裏	(17.3) /~/-	コガリ縫隙と考えられる、体部外縫と内縫の境にヘタケズ。下位部は縫合ヘタケズ。内縫は「白色」。 は位にヘタケズが現れ、それ以上はヘタケズで、筋道が現れる。	横断面・砂粒・白色系 良好・赤褐色系 直角・縫合 テヤー・カサ 砂粒・白色系	直角 良好 直角	明点斑・赤褐色 良好・赤褐色系 直角	直角 良好 直角	S05 カドアド・ カマド S05 開上
58. 4	89	直端部・片	4.5 / 15.0 / 7.0	ロクロ縫隙、内縫ともにロクロナデ。底は右筋道が切れる。	横断面・砂粒・白色系 良好・赤褐色系 直角・縫合 テヤー・カサ 砂粒・白色系	直角 良好 直角	直角 良好 直角	直角 良好 直角	S05 開上
58. 5	89	直端部・片	3.6 < 13.4 > / 6.6	ロクロ縫隙、内縫ともにロクロナデだが、内縫ロクロ直縫は弱い。底は右筋道が切れる。	横断面・砂粒・白色系 良好・赤褐色系 直角・縫合 テヤー・カサ 砂粒・白色系	直角 良好 直角	直角 良好 直角	直角 良好 直角	S05 カマド S05 開上
98. 6	89	直端部・片	3.7 / 14.0 / 7.0	ロクロ縫隙、内縫ともにロクロナデ。底は右筋道が切れて、内縫側は左筋道が切れる。	横断面・砂粒・白色系 良好・赤褐色系 直角・縫合 テヤー・カサ 砂粒・白色系	直角 良好 直角	直角 良好 直角	直角 良好 直角	S05 カマド S05 開上
98. 7	—	直端部・片	(1.7) /~/- 7.5	ロクロ縫隙、内縫ともにロクロナデ。底は右筋道が切れて、内縫側は左筋道が切れる。	横断面・砂粒・白色系 良好・赤褐色系 直角・縫合 テヤー・カサ 砂粒・白色系	直角 良好 直角	直角 良好 直角	直角 良好 直角	S05 開上
<b>S108 出土遺物観察表</b>									
番号No.	時期	表面	剖面(断面)(mm)	特徴(断面・法縫等)	断面	断上・直質等	剖面(断面・直縫等)	断面	備考
102. 1	90	上端部・裏	(24.3) / 19.8 >/~	コガリ縫隙、口縫隙は外縫より、内縫より、「コ」を引きさぐる。外縫と内縫ともに縫合ヘタケズで、色柱が直角ナードで、内縫は右筋道が切れる。	横断面 縫合・直角 砂粒・白色系 良好・石英 砂粒・石英	直角 良好 直角	横断面(直縫・直縫) 縫合・直角 砂粒・白色系 良好・石英 砂粒・石英	直角 良好 直角	S05 カドアド・ カマド S05 開上・開上
102. 2	90	上端部・裏	< 24.5 > / < 19.6 >/~	コガリ縫隙、毎回繰り返す。内縫は右筋道が切れて、外縫は左筋道が切れて、内縫は左筋道が切れて、外縫は右筋道が切れて、内縫は左筋道が切れて、外縫は右筋道が切れる。	横断面 縫合・直角 砂粒・白色系 良好・石英 砂粒・白色系 良好・石英	直角 良好 直角	横断面(直縫・直縫) 縫合・直角 砂粒・白色系 良好・石英 砂粒・石英	直角 良好 直角	S05 カドアド・ カマド S05 開上
102. 3	—	上端部・裏	(7.8) / < 19.2 >/~	コガリ縫隙、口縫隙は外縫より、内縫より、「コ」を引きさぐる。外縫と内縫ともに縫合ヘタケズで、内縫は右筋道が切れる。	横断面 縫合・直角 砂粒・白色系 良好・石英 砂粒・直角 砂粒・直角	直角 良好 直角	横断面(直縫・直縫) 縫合・直角 砂粒・直角 砂粒・直角	直角 良好 直角	カマド S05 開上
102. 4	90	上端部・裏	(6.5) / < 12.2 >/~	ロクロ縫隙、内縫側は左筋道が切れて、右筋道が切れない。外縫は右筋道が切れる。	横断面 縫合・直角 砂粒・直角 砂粒・直角	直角 良好 直角	横断面(直縫・直縫) 縫合・直角 砂粒・直角 砂粒・直角	直角 良好 直角	S05 カドアド・ カマド S05 開上
102. 5	90	直端部・片	5.1 < 14.0 > / < 7.0 >/~	ロクロ縫隙、内縫側は左筋道が切れて、右筋道が切れない。外縫は右筋道が切れる。	横断面 縫合・直角 砂粒・直角 砂粒・直角	直角 良好 直角	横断面(直縫・直縫) 縫合・直角 砂粒・直角 砂粒・直角	直角 良好 直角	S05 開上
102. 6	90	直端部・片	3.5 / 15.1 / 7.4	ロクロ縫隙、内縫側は左筋道が切れて、右筋道が切れない。外縫は右筋道が切れる。	横断面 縫合・直角 砂粒・直角 砂粒・直角	直角 良好 直角	横断面(直縫・直縫) 縫合・直角 砂粒・直角 砂粒・直角	直角 良好 直角	S05 開上
102. 7	90	直端部・大體	(8.8) /~/-	太い斜縫隙の跡と見えた。外縫には「タキ」の筋道が現れる。内縫には「タキ」の筋道が現れる。	横断面 縫合・直角 砂粒・直角 砂粒・直角	直角 良好 直角	横断面(直縫・直縫) 縫合・直角 砂粒・直角 砂粒・直角	直角 良好 直角	S05 開上
102. 8	90	直端部・刀子	長 (8.4) /~/- 短 1.0 /~/ 0.4	直端部 (1.0) と「直端部」で繋ぎ、切先部分を欠失する。直化するが原因は歯形の直ぐゆるみ。	横断面 縫合・直角 砂粒・直角 砂粒・直角	— —	横断面(直縫・直縫) 縫合・直角 砂粒・直角 砂粒・直角	— —	S05 Fc 開上
<b>S109 A 出土遺物観察表</b>									
番号No.	時期	表面	剖面(断面)(mm)	特徴(断面・法縫等)	断面	断上・直質等	剖面(断面・直縫等)	断面	備考
107. 1	90	上端部・裏	(7.8) /~/- 18.6 >/~	コガリ縫隙、口縫隙は外縫より、内縫より、「コ」を引きさぐる。外縫は右筋道が切れて、内縫は左筋道が切れて、内縫が直角ナードで、ユピコサリナードが次第に現れる。	横断面 縫合・直角 砂粒・直角 砂粒・直角	直角 良好 直角	横断面(直縫・直縫) 縫合・直角 砂粒・直角 砂粒・直角	直角 良好 直角	S05A カド・ S05AP3 S05A 開上
107. 2	—	上端部・ 上端部・ 上端部	(4.3) /~/- 14.7	平で、上筋道が左筋道で、右筋道が右筋道で、内縫は右筋道が切れて、外縫は左筋道が切れる。	横断面 縫合・直角 砂粒・直角 砂粒・直角	直角 良好 直角	横断面(直縫・直縫) 縫合・直角 砂粒・直角 砂粒・直角	直角 良好 直角	S05A 開上・ S05AP3 S05A 開上
107. 3	90	長端部	(0.1) /~/-	ロクロ縫隙、内縫側は左筋道が切れて、右筋道が右筋道で、内縫は右筋道が切れて、外縫は左筋道が切れる。	横断面 縫合・直角 砂粒・直角 砂粒・直角	直角 良好 直角	横断面(直縫・直縫) 縫合・直角 砂粒・直角 砂粒・直角	直角 良好 直角	S05A 開上
107. 4	—	直端部・片	(1.6) /~/- 7.0	ロクロ縫隙、内縫側は左筋道が切れて、右筋道が右筋道で、内縫は右筋道が切れて、外縫は左筋道が切れる。	横断面 縫合・直角 砂粒・直角 砂粒・直角	直角 良好 直角	横断面(直縫・直縫) 縫合・直角 砂粒・直角 砂粒・直角	直角 良好 直角	S05A 開上
107. 5	90	直端部・片	3.9 < 13.8 > / 6.0	ロクロ縫隙、内縫側は左筋道が切れて、右筋道が右筋道で、内縫は右筋道が切れて、外縫は左筋道が切れる。	横断面 縫合・直角 砂粒・直角 砂粒・直角	直角 良好 直角	横断面(直縫・直縫) 縫合・直角 砂粒・直角 砂粒・直角	直角 良好 直角	S05A 開上
107. 6	90	直端部・片	(4.5) /~/-	ロクロ縫隙、内縫側は左筋道が切れて、右筋道が右筋道で、内縫は右筋道が切れて、外縫は左筋道が切れる。	横断面 縫合・直角 砂粒・直角 砂粒・直角	直角 良好 直角	横断面(直縫・直縫) 縫合・直角 砂粒・直角 砂粒・直角	直角 良好 直角	S05A 開上

S109 B 出土遺物觀察表

S111 出土遺物觀察表

（左）**スリム**、（右）**標準**。内側にともにクロロホルムで洗った結果では、もろともにツルツル感がある。

S14 出土遺物觀察表

卷之三

137. 3	91	須地器・瓶	(2.9) /~< 5.8	楕円形。口が堅厚。内縁と底にはクロロナ。瓶身付に周辺に網状の溝が浮いており、瓶身付に斜めに網状の溝がある。瓶身付に斜めに網状の溝がある。	楕円形。 内縁と底にはクロロナ。 瓶身付に周辺に網状の溝が浮いており、瓶身付に斜めに網状の溝がある。	砂利・石英 石英	砂利・石英 黄褐色 30%灰化(底質灰化)。	砂利下部～底質部 30%灰化(底質灰化)。	S16灰化
137. 4	91	須地器・瓶	(11.3) /~< 16.4 >/~	楕円形。口が堅厚。内縁と底にはクロロナ。瓶身は平らに付される。内縁と底にはクロロナ。瓶身は平らに付される。	楕円形。 内縁と底にはクロロナ。	砂利・石英 石英	砂利・石英 黄褐色 20%灰化。	砂利下部～底質上部 20%灰化。	S16カマダ A 砂利灰化
137. 5	91	須地器・ G.I.罐	(3.6) /~< 13.8 >/~	楕円形。口が堅厚。内縁と底にはクロロナ。瓶身は平らに付される。内縁と底にはクロロナ。瓶身は平らに付される。	楕円形。 内縁と底にはクロロナ。	砂利・石英 石英	砂利・石英 黄褐色 15%灰化。	砂利下部～底質上部 15%灰化。	S16罐上 S16前部
137. 6	91	須地器・ 罐	(6.2) /~< 6.6 >	楕円形。口が堅厚。内縁と底にはクロロナ。瓶身は平らに付される。内縁と底にはクロロナ。瓶身は平らに付される。	楕円形。 内縁と底にはクロロナ。	砂利・石英 石英	砂利・石英 黄褐色 20%灰化。	砂利下部～底質 20%灰化。	S16罐上 S16前部
137. 7	91	須地器・ 罐	(2.6) /~< 7.0 >	楕円形。口が堅厚。内縁と底にはクロロナ。瓶身は平らに付される。内縁と底にはクロロナ。瓶身は平らに付される。	楕円形。 内縁と底にはクロロナ。	砂利・石英 石英	砂利・石英 黄褐色 10%灰化。	砂利下部～底質 10%灰化。	S16罐上 S16前部
137. 8	—	須地器・等	(4.4) /~< 7.2 >	楕円形。口が堅厚。内縁と底にはクロロナ。瓶身は平らに付される。内縁と底にはクロロナ。	楕円形。 内縁と底にはクロロナ。	砂利・石英 石英	砂利・石英 黄褐色 15%灰化。	砂利下部～底質上部 15%灰化。	S16前部 S16罐上
137. 9	91	須地器・ 罐	(4.0) /~< 13.2 >/~	楕円形。口が堅厚。内縁と底にはクロロナ。	楕円形。 内縁と底にはクロロナ。	砂利・石英 石英	砂利・石英 黄褐色 15%灰化。	砂利下部～底質上部 15%灰化。	S16罐上 S16前部
137. 10	—	須地器・ 罐	(3.0) /~< 14.0 >/~	楕円形。口が堅厚。内縁と底にはクロロナ。外縁の下部のテグスは弱く、無理に剥離する。	楕円形。 外縁の下部のテグスは弱く、無理に剥離する。	砂利・石英 石英	砂利・石英 黄褐色 15%灰化。	砂利下部～底質上部 15%灰化。	S16罐上 S16前部
137. 11	—	上罐器・ 罐	(3.5) /~< ~	口が堅厚。内縁と底にはクロロナ。外縁の下部のテグスは弱く、無理に剥離する。	口が堅厚。内縁と底にはクロロナ。外縁の下部のテグスは弱く、無理に剥離する。	砂利・石英 石英	砂利・石英 黄褐色 15%灰化。	砂利下部～底質上部 15%灰化。	S16罐上 S16前部
137. 12	91	上罐器・ 小口罐	(3.9) /~< ~	口が堅厚。内縁と底にはクロロナ。外縁の下部のテグスは弱く、無理に剥離する。	口が堅厚。内縁と底にはクロロナ。外縁の下部のテグスは弱く、無理に剥離する。	砂利・石英 石英	砂利・石英 黄褐色 15%灰化。	砂利下部～底質上部 15%灰化。	S16カマダ B 砂利灰化
137. 13	—	上罐器・ 罐	(7.3) /~< ~	口が堅厚。内縁と底にはクロロナ。外縁の下部のテグスは弱く、無理に剥離する。	口が堅厚。内縁と底にはクロロナ。外縁の下部のテグスは弱く、無理に剥離する。	砂利・石英 石英	砂利・石英 黄褐色 15%灰化。	砂利下部～底質上部 15%灰化。	S16灰化
<b>S17出土遺物観察表</b>									
出所No.	目録No.	番号	法螺(高さ/口径/底径)(mm)	特征(形態/表面)	特征(形態/表面)	地質	地質	地質	地質
142. 1	91	上罐器・寶合	(8.0) /~< ~	高円台形。腹で丸みを帯びる。内縁と底にはヘナタケの苔が生えている。内縁と底にはヘナタケの苔が生えている。	高円台形。腹で丸みを帯びる。内縁と底にはヘナタケの苔が生えている。内縁と底にはヘナタケの苔が生えている。	砂利 砂利	砂利 砂利	砂利(先端部)	砂利(先端部)
142. 2	91	上罐器・寶合	(11.1) /~< ~	高円台形。腹で丸みを帯びる。内縁と底にはヘナタケの苔が生えている。内縁と底にはヘナタケの苔が生えている。	高円台形。腹で丸みを帯びる。内縁と底にはヘナタケの苔が生えている。内縁と底にはヘナタケの苔が生えている。	砂利 砂利	砂利 砂利	砂利(底部付近)	砂利(底部付近)
<b>平安時代土坑古墳出土遺物観察表</b>									
出所No.	目録No.	番号	法螺(高さ/口径/底径)(mm)	特征(形態/表面)	特征(形態/表面)	地質	地質	地質	地質
150. 1	91	上製品・猪口	(3.9) /~< ~	高圓台形。腹で丸みを帯びる。内縁と底にはヘナタケの苔が生えている。内縁と底にはヘナタケの苔が生えている。	高圓台形。腹で丸みを帯びる。内縁と底にはヘナタケの苔が生えている。内縁と底にはヘナタケの苔が生えている。	砂利 砂利	砂利 砂利	砂利(先端部)	砂利(先端部)
150. 2	91	猪口・ 網織物付	(4.6) /~< (3.1) /~< 3.6 >	高圓台形。腹で丸みを帯びる。内縁と底にはヘナタケの苔が生えている。内縁と底にはヘナタケの苔が生えている。	高圓台形。腹で丸みを帯びる。内縁と底にはヘナタケの苔が生えている。内縁と底にはヘナタケの苔が生えている。	砂利 砂利	砂利 砂利	砂利(底部付近)	砂利(底部付近)
<b>8・9号炉土遺構周辺出土遺物観察表</b>									
出所No.	目録No.	番号	法螺(高さ/口径/底径)(mm)	特征(形態/表面)	特征(形態/表面)	地質	地質	地質	地質
184. 1	91	鉢・ 網織物付	(7.6) /~< (5.3) /~< 5.0 >	高圓台形。腹で丸みを帯びる。内縁と底にはヘナタケの苔が生えている。内縁と底にはヘナタケの苔が生えている。	高圓台形。腹で丸みを帯びる。内縁と底にはヘナタケの苔が生えている。内縁と底にはヘナタケの苔が生えている。	砂利 砂利	砂利 砂利	砂利(外壁/内側) 砂利(外壁/内側)	砂利(外壁/内側) 砂利(外壁/内側)
184. 2	91	鉢・ 網織物付	(8.0) /~< (6.3) /~< 3.0 >	高圓台形。腹で丸みを帯びる。内縁と底にはヘナタケの苔が生えている。内縁と底にはヘナタケの苔が生えている。	高圓台形。腹で丸みを帯びる。内縁と底にはヘナタケの苔が生えている。内縁と底にはヘナタケの苔が生えている。	砂利 砂利	砂利 砂利	砂利(外壁/内側) 砂利(外壁/内側)	砂利(外壁/内側) 砂利(外壁/内側)
184. 3	91	鉢・ 網織物付	(8.3) /~< (6.5) /~< 2.7 >	高圓台形。腹で丸みを帯びる。内縁と底にはヘナタケの苔が生えている。内縁と底にはヘナタケの苔が生えている。	高圓台形。腹で丸みを帯びる。内縁と底にはヘナタケの苔が生えている。内縁と底にはヘナタケの苔が生えている。	砂利 砂利	砂利 砂利	砂利(外壁/内側) 砂利(外壁/内側)	砂利(外壁/内側) 砂利(外壁/内側)
184. 4	91	底盤・ 網織物付	(6.0) /~< (5.1) /~< 3.1 >	高圓台形。腹で丸みを帯びる。内縁と底にはヘナタケの苔が生えている。内縁と底にはヘナタケの苔が生えている。	高圓台形。腹で丸みを帯びる。内縁と底にはヘナタケの苔が生えている。内縁と底にはヘナタケの苔が生えている。	砂利 砂利	砂利 砂利	砂利(外壁/内側) 砂利(外壁/内側)	砂利(外壁/内側) 砂利(外壁/内側)

0号特刊十五周年記念

標本番号	採取場所	基盤地層	工具・底質	底質	特徴	備考
187-1	91	泥炭層・浮	3.5 <10.0 > <4.0 >	クロロフィル、浮游生物、底質ともにクロロフィルAが高め、ローラーでは低め。底質は泥炭層と浮の混合で、周囲は礁岩。	外縁部は「ヨリカニ」のようなくぼみがある。	相・柱状 相 相
187-2	91	上礁面・漂	<35.0 > <<22.0 >	外縁部はヨリカニの底質であるが、内側は礁岩である。礁岩は礁塊で構成され、礁塊間に礁孔がある。礁塊は平均で22cm四方である。	外縁部は「ヨリカニ」のようなくぼみがある。内側は礁岩である。礁岩は礁塊で構成され、礁塊間に礁孔がある。礁塊は平均で22cm四方である。	相 相 相

物語の構成と構造

卷之三

206-6	92	獨立上部	(29.4) /<29.4>/~	高級	金合目	紙片/資料(休眠)	S68
		薄葉					
206-7	92	獨立上部	(17.8) /~/-	良好	金合目	紙片/資料(休眠)	SK103
		薄葉					
206-8	92	獨立上部	(13.3) /~/-	良好	石黃・全葉	紙片/資料(休眠)	2-768 K T 1
		薄葉					
207-9	92	獨立上部	(6.8) /~/-	良好	角鷲白・色桔	紙片/資料(休眠)	2-771 K 5.1
		薄葉					
207-10	92	獨立上部	(6.8) /~/-/知咲	良好	角鷲白・色桔	紙片/資料(休眠)	2-771 K 10.1
		薄葉					
207-11	~	獨立上部	(3.0) /~/-<10.4>	良好	角鷲白・色桔	紙片/資料(休眠)	2-771 K G.1
		薄葉					
207-12	~	獨立上部	(3.3) /~/-<8.9>	良好	角鷲白・色桔	紙片/資料(休眠)	S13 開
		薄葉					
207-13	~	獨立上部	(3.3) /~/-<8.7>	良好	角鷲白・色桔	紙片/資料(休眠)	2-771 K A.2
		薄葉					
207-14	92	独立部分	(4.5) /~/-<9.0>	良好	白色桔白・ 内外交互	紙片/資料(休眠)	2-761 Q 2.1
		薄葉					
207-15	92	獨立上部	(5.7) /~/-	良好	織網	紙片/資料(休眠)	2-771 K 19.1
		薄葉					
207-16	~	獨立上部	(4.2) /~/-	良好	織網・石黃	紙片/資料(休眠)	2-771 K N.13
		薄葉					
207-17	92	獨立上部	(3.5) /~/-	良好	織網	紙片/資料(休眠)	2-771 K N.13
		薄葉					
207-18	92	獨立上部	(6.3) /~/-	良好	織網・石黃	紙片/資料(休眠)	2-771 K G.8.1
		薄葉					
207-19	~	獨立上部	(3.1) /~/-	良好	織網	紙片/資料(休眠)	2-771 K 19.1
		薄葉					
207-20	92	獨立上部	(4.8) /~/-	良好	織網多變	紙片/資料(休眠)	2-771 K N.13
		薄葉					
207-21	92	獨立上部	(5.7) /~/-	良好	石黃・白色桔	紙片/資料(休眠)	2-771 K N.13
		薄葉					
207-22	92	獨立上部	(6.1) /~/-	良好	織網・角鷲白・ 色桔白	紙片/資料(休眠)	2-771 K 10.1
		薄葉					
207-23	92	獨立上部	(5.4) /~/-	良好	織網	紙片/資料(休眠)	2-771 K N.13
		薄葉					
207-24	~	獨立上部	2.8 /~/-	良好	角鷲白・色桔白	紙片/資料(休眠)	S105 開
		薄葉					
207-25	~	獨立上部	(4.6) /~/-	良好	角鷲白・色桔白	紙片/資料(休眠)	2-771 K B.1
		薄葉					
207-26	92	獨立上部	(8.6) /~/-	良好	角鷲白・色桔白	紙片/資料(休眠)	30 レンゲ
		薄葉					

2017-27	92	國文上級 語彙	(2.5) /-/~/-	0日多めの間日(1回目)、R.L.圖文筆文、内山の類題ナデ。	良好	綴り書體	会場
2017-28	92	國文上級 語彙	(2.6) /-/~/-	国語を他のものと混ざる筆文を書きする。内山は特集ナデ。	良好	綴り	会場
2017-29	92	國文上級 語彙	(2.7) /-/~/-	国語を混ぜる。内山は特集ナデ。	良好	綴り・五筆	会場/に近い喫煙場
2017-30	92	國文上級 語彙	(13.8) /-/~/-	「日本語が少し難しくなる」。筆文が過度に複雑になる。内山は特集ナデ。	良好	綴り	会場/図文筆文(1回目始)-~(終)
2018-31	92	國文上級 語彙	(6.1) /-/~/-	「日本語が少し複雑になる」。筆文が過度に複雑になる。内山は特集ナデ。	良好	綴り書體	会場
2018-32	92	國文上級 語彙	(9.4) /-/~/-	「日本語が少し複雑になる」。筆文が過度に複雑になる。内山は特集ナデ。	良好	綴り	会場/外観
2018-33	93	國文上級 語彙	(6.1) /-/~/-	第208回31～37回は「朝鮮」。	良好	綴り・外観	会場/外観
2018-34	93	國文上級 語彙	(4.7) /-/~/-	第208回31～37回は「朝鮮」。	良好	綴り	会場/外観
2018-35	93	國文上級 語彙	(4.6) /-/~/-	第208回31～37回は「朝鮮」。	良好	綴り	会場/外観
2018-36	93	國文上級 語彙	(5.4) /-/~/-	前回は「韓文」。内山は特集ナデの1回目は研修研修。第208回31～37回は「朝鮮」。	良好	綴り	会場/外観
2018-37	93	國文上級 語彙	(5.1) /-/~/-	第208回31～37回は「朝鮮」。	良好	綴り	会場/外観
2018-38	93	國文上級 語彙	(5.0) /-/~/-	漢文を引き継ぐ。1回目は特に「かうこう」と「さう」。一連の平行比較が書きされる。体調は「多」。	良好	角四点	会場/外観
2018-39	-	國文上級 語彙	(5.8) /-/~/-	集合体による語彙問題。前回は「韓文」。内山は「特集ナデ」。	良好	角四点	会場/外観
2018-40	93	國文上級 語彙	(8.6) /-/~/-	漢文の語彙問題がある。集会開催による文種が明らかに記載。内山は「朝鮮ナデ」。	良好	角四点	会場
2018-41	-	國文上級 語彙	(2.9) /-/~/-	キャリバー用語の問題である。集会開催による語彙問題。内山は「朝鮮ナデ」。	良好	角四点	会場
2018-42	-	國文上級 語彙	(2.9) /-/~/-	国語が混じて来る。内山は「朝鮮ナデ」。	良好	角四点	会場
2018-43	93	國文上級 語彙	(7.3) /-/~/-	国語が混じて来る。内山は「朝鮮ナデ」。	良好	角四点	会場
2018-44	-	國文上級 語彙	(8.1) /-/~/-	他の言語の影響が見られる。「ひはん」の筆形が異なる。内山は「朝鮮ナデ」。	良好	角四点	会場
2018-45	93	國文上級 語彙	(7.8) /-/~/-	漢文の語彙が混じる。内山は「朝鮮ナデ」。	良好	角四点	会場
2018-46	-	國文上級 語彙	(2.7) /-/~/-	国語による誤書きをする。内山は「ナデ」。	良好	角四点	会場
2018-47	93	國文上級 語彙	(7.4) /-/~/-	前回は韓文の語彙が見えていた。内山は「朝鮮ナデ」。	良好	角四点	会場
2018-48	93	國文上級 語彙	(7.4) /-/~/-	「日本語が少し難しくなる」。内山は「朝鮮ナデ」。	良好	角四点	会場
2018-49	-	國文上級 語彙	(6.6) /-/~/-	「日本語が少し難しくなる」。内山は「朝鮮ナデ」。	良好	角四点	会場
2018-50	93	國文上級 語彙	(6.0) /-/~/-	キャリバー用語が混じる。内山は「朝鮮ナデ」。	良好	角四点	会場

2008-51	93	飼之・園・ 宿林	(7.3) /~/-/	キリハリバゲの宿場である。無文、内外両面ともに飼位ナデ。	良好	角閃石	細粒・質弱 (13種類)	37レシテ	屈曲
2008-52	93	飼之・園・ 宿林	(0.4) /~/-/	れる。外山田ナデ、外山田ナデ、外山田ナデ。	良好	角閃石	細粒・質弱 (13種類)	58.19	屈曲
2008-53	93	飼之・園・ 宿林	(4.5) /~/-/	高さを保つ。外山田ナデ、外山田ナデ、外山田ナデ。	良好	角閃石	細粒・質弱 (13種類)	2.77 [K F 4]	屈曲
2008-54	93	飼之・園・ 宿林	(6.4) /~/-/	内山田もしくは内山田。内山田ナデ、内山田ナデ、内山田ナデ。	良好	角閃石	細粒・質弱 (13種類)	33レシテ	屈曲
2008-55	93	飼之・園・ 宿林	(4.7) /~/-/	くびに付ける。内山田ナデ、内山田ナデ、内山田ナデ。	良好	角閃石	細粒・質弱 (13種類)	S014 南	屈曲
2008-56	93	飼之・園・ 宿林	(0.1) /~/-/	内山田に付ける。内山田ナデ、内山田ナデ、内山田ナデ。	良好	角閃石	細粒・質弱 (13種類)	3.77 [K F 6.2]	屈曲
2008-57	93	飼之・園・ 宿林	(7.9) /~/-/	内山田に付ける。内山田ナデ、内山田ナデ、内山田ナデ。	良好	角閃石	細粒・質弱 (13種類)	S068	屈曲
2008-58	93	飼之・園・ 宿林	(0.2) /~/-/	内山田に付ける。内山田ナデ、内山田ナデ、内山田ナデ。	良好	角閃石	細粒・質弱 (13種類)	S019 南	屈曲
2008-59	93	飼之・園・ 宿林	(6.6) /~/-/	内山田に付ける。内山田ナデ、内山田ナデ、内山田ナデ。	良好	角閃石	細粒・質弱 (13種類)	S000	屈曲
2008-60	93	飼之・園・ 宿林	(0.2) /~/-/	内山田に付ける。内山田ナデ、内山田ナデ、内山田ナデ。	良好	角閃石	細粒・質弱 (13種類)	58.52	屈曲
2008-61	-	飼之・園・ 宿林	(6.0) /~/-/	内山田が付ける。無文、内外両面ともに飼位ナデ。	良好	角閃石	細粒・質弱 (13種類)	2.77 [K C 4]	屈曲
2008-62	-	飼之・園・ 宿林	(0.3) /~/-/	内山田が付ける。無文、内山田ともに飼位ナデ。	良好	角閃石	細粒・質弱 (13種類)	3.64 [K C 4]	屈曲
2008-63	93	飼之・園・ 宿林	(4.0) /~/-/	内山田が付ける。無文、内山田ともに飼位ナデ。	良好	角閃石	細粒・質弱 (13種類)	2.77 [K D 2.2]	屈曲
2008-64	-	飼之・園・ 宿林	(2.7) /~/-/	内山田に受ける段位をつぶ。無文。外山田ナデから研磨。内山田は飼位ナデ。	良好	角閃石	細粒・質弱 (13種類)	2.85 [K D 2]	屈曲
2008-65	-	飼之・園・ 宿林	(6.8) /~/-/	内山田が付ける。無文、内外両面ともに飼位ナデ。	良好	角閃石	細粒・質弱 (13種類)	2.77 [K D 2.1]	屈曲
2008-66	93	飼之・園・ 宿林	(7.6) /~/-/	内山田が付ける。無文。内山田ともに飼位ナデ。	良好	角閃石	細粒・質弱 (13種類)	2.77 [K F 6.1]	屈曲
2008-67	-	飼之・園・ 宿林	(4.2) /~/-/	内山田が付ける。内山田ともに飼位ナデ。	良好	角閃石	細粒・質弱 (13種類)	2.77 [K F 6.1]	屈曲
2008-68	-	飼之・園・ 宿林	(0.3) /~/-/	内山田が付ける。内山田ともに飼位ナデ。	良好	角閃石	細粒・質弱 (13種類)	2.77 [K B 4]	屈曲
2008-69	93	飼之・園・ 宿林	(4.0) /~/-/	内山田が付ける。内山田ともに飼位ナデ。	良好	角閃石	細粒・質弱 (13種類)	S10 極右方	屈曲
2008-70	93	飼之・園・ 宿林	(6.8) /~/-/	三内山田が付ける。内山田ともに飼位ナデ。	良好	角閃石	細粒・質弱 (13種類)	33レシテ	屈曲
2008-71	93	飼之・園・ 宿林	(0.0) /~/-/	内山田が付ける。内山田ともに飼位ナデ。	良好	角閃石	細粒・質弱 (13種類)	2.77 [K F 6.1]	屈曲
2008-72	93	飼之・園・ 宿林	(5.9) /~/-/	内山田が付ける。内山田ともに飼位ナデ。	良好	角閃石	細粒・質弱 (13種類)	2.77 [K F 6.1]	屈曲
2008-73	-	飼之・園・ 宿林	(5.7) /~/-/	キリハリバゲの付帯ナデ。内山田が付ける。内山田ともに飼位ナデ。	良好	角閃石	細粒・質弱 (13種類)	S10 極右方	屈曲
2008-74	-	飼之・園・ 宿林	(0.9) /~/-/	内山田が付ける。内山田ともに飼位ナデ。	良好	角閃石	細粒・質弱 (13種類)	2.77 [K C 4]	屈曲
2008-75	93	飼之・園・ 宿林	(5.1) /~/-/	内山田が付ける。内山田ともに飼位ナデ。	良好	角閃石	細粒・質弱 (13種類)	2.77 [K C 4]	屈曲





212.128	94	獨立・原・ 固有	(10.3) /-/-/-	用する。屈曲が実物体に出でる。2. 実の構造が現られる。外山は概、新田研。	良好	69%	小窓／黒窓	織り目質 (休眠)	2.77(K.5.1) * SD6 面上		
212.129	94	獨立・原・ 固有	(5.1) /-/-/-	1. 他の形で現す。2. 実の構造が実物に出でる。体、表面が実物を寫す。外山は(16.1)部。	良好	69%	小窓／黒窓	織り目質 (休眠)	2.77(K.5.2) *		
212.130	94	獨立・原・ 固有	(6.8) /-/-/-	1. かけた持つ。2. 他の形で現す。表面による実感を文を書か。前頭、先端文を施す。外山はナチ。内山	良好	69%	白窓／電線	織り目質 (休眠)	2.77(K.5.4) *		
212.131	94	獨立・原・ 固有	(5.0) /-/-/-	1. ある。外山はナチ。内山は固有ナチ。2. 本體が山の斜面に沿って走りながら、突起から出でる葉	良好	石英・碧玉	織り目質 (休眠)	2.76(K.5.4) *			
212.132	-	獨立・原・ 固有	(2.8) /-/-/-	1. 用する。屈曲が實文を文。外山は固有ナチ。2. 体によく似る。	良好	石英	黒縞／にじ 黑縞	織り目質 (休眠)	2.77(K.5.1) *		
212.133	94	獨立・原・ 固有	(4.0) /-/-/-	1. 2. 他の形で現す。外山はナチ。内山は 前頭、斜面ナチ。2. 他の形で現す。外山は(16.1)部。	良好	白窓	砂粒地質	周	織り目質 (休眠)	58.13	
212.134	94	獨立・原・ 固有	(7.4) /-/-/-	1. 本體が斜面を走る。その下に斜面とされる。2. 他の形で現す。外山はナチ。	良好	角閃石	白窓	黒縞／にじ 黑縞	3.6日開	3.6日開	
212.135	-	獨立・原・ 固有	(3.7) /-/-/-	1. ある。外山はナチ。2. 他の形で現す。内山は白い岩質の斜面ナチ。	良好	白石・金星母	黒縞/白縞	織り目質 (休眠)	34 レンガ	34 レンガ	
212.136	-	獨立・原・ 固有	(5.5) /-/-/-	1. 他の形で現す。外山はナチ。内山は1. 寒帯の斜面ナチ。2. 外山は白い。	良好	角閃石	白窓	黒縞／にじ 黑縞	2.5日開	2.5日開	
212.137	-	獨立・原・ 固有	(7.4) /-/-/-	1. 外山はナチ。内山は(16.1)部。	良好	砂粒地質	周	織り目質 (休眠)	SD8 面上		
212.138	-	獨立・原・ 固有	(3.4) /-/-/-	1. 他の形で現す。外山は(16.1)部。	良好	内閃石	周	織り目質 (花子ナチ)	2.77(K.5.1) *		
212.139	-	獨立・原・ 固有	(3.8) /-/-/-	1. 他の形で現す。外山はナチ。内山は(16.1)部。	良好	石英・方石	周	黒縞	織り目質 (休眠)	2.77(K.5.2) *	
212.140	-	獨立・原・ 固有	(5.9) /-/-/-	1. 外山はナチ。内山は(16.1)部。	良好	白や小泉	69%	明黄斑	織り目質 (休眠～休眠)	2.5日開	2.5日開
212.141	-	獨立・原・ 固有	(5.3) /-/-/-	1. 明黄 LK 文。明黄 LK 文。明黄文文。2. 内山は(16.1)部。	良好	砂粒地質	周	織り目質 (休眠)	表裏	表裏	
212.142	94	獨立・原・ 固有	(3.8) /-/-/-	用する。前頭を輪状の輪状に折り出す。内山はナチ。	良好	角閃石	周	織り目質 (休眠)	2.76(K.5.1) *		
212.143	94	斧矢上・原・ 固有	(5.3) /-/-/-	1. 線状の凹凸がある。2. 観察する。内山はナチ。	良好	白窓	明黄	織り目質 (休眠)	SD10 面上		
212.144	94	獨立・原・ 固有	(3.6) /-/-/-	1. 標識を施す。軸本末に(1)の切跡があり。外山はナチ。2. 外山は斜面ナチ。	良好	白窓	小窓	織り目質 (休眠)	58.13		
212.145	94	斧矢上・原・ 固有	(12.4) /7.4/-/-	1. 地形で現す。(1)斜面が外側にならがち。2. (2)斜面が内側にならがち。3. (3)斜面が中間の位置を取る。内山は(16.1)部。	良好	白窓	周に小窓	織り目質 (休眠～休眠)	2.77(K.5.12) *		
212.146	94	斧矢上・原・ 固有	(9.9) /-/-/-	1. 斧矢も(1)の斜面が外側になる。2. 斧矢(1)斜面が内側になる。3. 斧矢(2)斜面が中間の位置を取る。	良好	白窓	40% 白窓	明黄	SD24		
212.147	94	斧矢上・原・ 固有	(2.5) /-/-/-<5.6>	1. 他の形で現す。外山はナチ。内山は(16.1)部。	良好	白色粒	周	織り目質 (休眠)	SD66		
212.148	94	斧矢上・原・ 固有	(2.6) /-/-<9.4>	1. 破裂を施す。外山はナチ。内山は(16.1)部。	良好	角閃石	周	織り目質 (休眠)	2.77(K.5.1) *		
213.149	95	斧矢上・原・ 固有	(4.5) /-/-/-	1. 他の形で現す。外山はナチ。内山は(16.1)部。	良好	砂粒地質	周	織り目質 (1種類)	SD34		
213.150	95	斧矢上・原・ 固有	(4.9) /-/-/-	1. (1)の窓が(2)の窓より大きい。外山は(16.1)部。	良好	白砂	周	織り目質 (1種類)	3.6日開		
213.151	95	斧矢上・原・ 固有	(5.8) /-/-/-	1. 小窓の窓が(2)の窓より大きい。外山は(16.1)部。	良好	砂粒地質	周	織り目質 (1種類)	\$10.1 * SD99		
213.152	95	斧矢上・原・ 固有	(6.0) /-/-/-	1. 小窓の窓が(2)の窓より大きい。外山は(16.1)部。	良好	長石	周/白地	織り目質 (1種類)	2.77(K.5.3) *		



214-186	-	体上層・ 巣か	(3.5) /-/-	巣・純白の底地が見られる。調査風の川原であるが、純白の底地が見られる。内水面とも同 行省。	良好	60種	点水/雨地	S860
214-187	95	淨空上層・ 巣	(2.8) /-/-	外れに小さな丸い方孔。觸位の底地を含める。底面の凸コブなどなる圓形がある。内面 は網状ナメ。底面の凸コブなどなる圓形がある。	良好	60種	点水/雨地	S811
214-188	95	刹口石頭・ 石頭	長2.6 /幅1.7 /厚0.4	重さ 1 kg。円盤。	良好	60種	点水/雨地	2.77 K H.7.2
214-189	-	刹口石頭・ 石頭	長2.3 /幅1.8 /厚0.5	重さ 1.5kg。円盤。	-	-	浅水	
214-190	95	刹口石頭・ 石頭	長1.9 /幅1.5 /厚0.4	重さ 0.5kg。半球。	-	黒曜石	-	2.77 K H.8.1
215-191	95	刹口石頭・ 石頭	長3.0 /幅2.0 /厚0.4	重さ 1.0kg。円盤。	-	手-手-ト	-	2.77 K H.9.2
215-192	95	刹口石頭・ 石頭	長1.9 /幅1.6 /厚0.5	重さ 0.9kg。半球。	-	黒色珪	-	2.77 K M.8.2
215-193	95	刹口石頭・ 石頭	長2.3 /幅1.7 /厚0.4	重さ 1.0kg。円盤。	-	珪珪	-	2.77 K O.10.1
215-194	95	刹口石頭・ 石頭	長2.3 /幅1.7 /厚0.5	重さ 1.5kg。半球。	-	黒曜石	-	2.77 K H.13.1
215-195	95	刹口石頭・ 石頭	長(2.5) /幅1.9 /厚0.5	重さ 1.5kg。B-四孔。	-	手-手-ト	-	2.77 K N.13.1
215-196	-	刹口石頭・ 石頭	長(2.1) /幅1.6 /厚0.4	重さ 1.0kg。B-四孔。	-	黒曜石	-	2.77 K M.11.1
215-197	95	刹口石頭・ 石頭	長(2.3) /幅1.7 /厚0.4	重さ 1.0kg。B-四孔。	-	手-手-ト	-	2.77 K M.15.1
215-198	96	刹口石頭・ 石頭	長2.3 /幅0.4 /厚0.5	重さ 0.9kg。半球。	-	黒曜石	-	S13 圖上
215-199	-	刹口石頭・ 石頭	長(2.0) /幅1.7 /厚0.4	重さ 1.0kg。半球。	-	黒曜石	-	2.77 K G.8.1
215-200	-	刹口石頭・ 石頭	長1.8 /幅1.2 /厚0.3	重さ 0.8kg。半球。	-	黒曜石	-	2.77 K E.7.1
215-201	96	刹口石頭・ 石頭	長2.8 /幅1.4 /厚0.4	重さ 1.0kg。半球。	-	黒曜石	-	2.76 K A.1.1
215-202	96	刹口石頭・ 石頭	長(1.3) /幅1.1 /厚0.3	重さ 0.5kg。半球。	-	黒曜石	-	2.77 F E.7.1
215-203	96	刹口石頭・ 石頭	長2.4 /幅1.5 /厚0.4	重さ 1.1kg。半球。	-	手-手-ト	-	2.77 F E.6.1
215-204	-	刹口石頭・ 石頭	長(1.8) /幅1.4 /厚0.6	重さ 1.1kg。半球。	-	黒曜石	-	2.77 K O.11.1
215-205	-	刹口石頭・ 石頭	長(1.2) /幅1.3 /厚0.2	重さ 0.2kg。半球。先端底・側底欠損。	-	黒曜石	-	2.77 K C.2.1
215-206	-	刹口石頭・ 石頭	長(1.0) /幅1.4 /厚0.4	重さ 0.5kg。半球。側底欠損。	-	黒曜石	-	2.76 K T.1.1
215-207	-	刹口石頭・ 石頭	長(1.7) /幅1.6 /厚0.4	重さ 0.8kg。半球。先端底欠損。	-	黒曜石	-	2.77 K C.2.1
215-208	96	刹口石頭・ 石頭	長(1.7) /幅1.4 /厚0.4	重さ 0.6kg。半球。先端底欠損。	-	黒曜石	-	2.76 K S.1.1
216-209	96	刹口石頭・ 石頭	長(2.0) /幅1.7 /厚0.4	重さ 0.6kg。半球。側底欠損。	-	黒曜石	-	2.77 K H.8.1
216-210	96	刹口石頭・ 石頭	長2.4 /幅1.7 /厚0.5	重さ 1.0kg。半球。	-	手球	-	S13 圖 9/9
216-211	96	刹口石頭・ 石頭	長1.8 /幅1.0 /厚0.3	重さ 0.6kg。半球。	-	黒曜石	-	3.76 圖 2 鶴山山2

216/212	96	斜片石英岩*	長(2.1) / 幢(1.6) / 厚0.7 斜面(2.1) B-、平B-、 斜面(2.1) B-、平B-、	-	黑曜石	-	一部欠損、 一部欠損、 一部欠損、	3.6%角閃 3.6%角閃 3.6%角閃
216/213	96	斜片石英岩*	長2.2 / 幢2.0 / 厚1.0 斜面3.2g、薄葉。	-	黑曜石	-	完E-、	2.77(K 19.1)
216/214	-	斜片石英岩*	長(0.3) / 幢1.0 / 厚0.8 斜面(1.4) B-、 斜面(1.4) B-、	-	チャコル	-	65%角閃。	2.77(L 12.2)
216/215	-	斜片石英岩*	長3.9 / 幢(0.7) / 厚1.1 斜面(1.4) B-、薄葉。	-	黒色MFT	-	一部欠損、	2.77(K 12.1)
216/216	-	斜片石英岩*	長6.6 / 幢3.1 / 厚1.2 長白斑。	-	チャコル	-	完E-、	2.77(K 12.1)
216/217	-	斜片石英岩*	長(4.0) / 幢1.9 / 厚0.5 斜面(3.5) B-、 斜面(3.5) B-、	-	黒色MFT	-	一部欠損、 一部欠損、	3.6%角閃 3.6%角閃
216/218	88	斜片石英岩*	長13.1 / 幢7.7 / 厚2.5 斜面(2.1) B-、 斜面(2.1) B-、	-	黒色MFT	-	黒色MFT	2.77(K 1.2)
216/219	-	斜片石英岩*	長12.9 / 幢5.7 / 厚0.9 斜面(2.1) B-、 斜面(2.1) B-、	-	黒色MFT	-	黒色MFT	2.77(K 4.1)
216/220	96	斜片石英岩*	長4.5 / 幢1.6 / 厚1.2 斜面(3.7) B-、 斜面(3.7) B-、	-	黒色MFT	-	完E-、	2.77(K 4.2)
216/221	96	斜片石英岩*	長3.0 / 幢0.4 / 厚1.6 斜面(2.8) B-、 斜面(2.8) B-、	-	Q21	-	完E-、	2.77(K 7.9)
216/222	96	斜片石英岩*	長3.9 / 幢7.3 / 厚2.4 斜面(2.1) B-、 斜面(2.1) B-、	-	黒色MFT	-	黒色MFT	SK11
217/223	96	斜片石英岩*	長16.2 / 幢7.3 / 厚3.0 斜面(2.1) B-、 斜面(2.1) B-、	-	黒色MFT	-	完E-、	2.77(K 1.1)
217/224	96	斜片石英岩*	長(8.9) / 幢7.0 / 厚1.7 斜面(14.1) B-、 斜面(14.1) B-、	-	黒色MFT	-	65%角閃。	SK29
217/225	96	斜片石英岩*	長(8.0) / 幢4.8 / 厚1.9 斜面(6.8) B-、 斜面(6.8) B-、	-	黒色MFT	-	65%角閃。	調査区東側面2
217/226	96	斜片石英岩*	長3.3 / 幢2.0 / 厚1.5 斜面(2.1) B-、 斜面(2.1) B-、	-	黒曜石	-	黒曜石	2.77(K 3.3)
217/227	96	斜片石英岩*	長2.0 / 幢2.6 / 厚2.3 斜面(2.1) B-、 斜面(2.1) B-、	-	黒曜石	-	黒曜石	2.77(H 10.1)
218/228	-	斜片石英岩*	長2.7 / 幢2.7 / 厚1.3 斜面(2.1) B-、 斜面(2.1) B-、	-	チャコル	-	完E-、	2.77(K 9.2)
218/229	96	斜片石英岩*	長3.3 / 幢3.1 / 厚1.6 斜面(2.1) B-、 斜面(2.1) B-、	-	チャコル	-	完E-、	2.77(K 13.1)
217/230	97	斜片石英岩*	長(7.6) / 幢2.5 / 厚1.2 斜面(2.2) B-、 斜面(2.2) B-、	-	燧光石	-	燧光石	SD9壁上
217/231	-	斜片石英岩*	長10 / 幢6.1 / 厚4.3 斜面(2.1) B-、 斜面(2.1) B-、	-	火山岩	-	完E-、	2.77(K 9.1)
217/232	97	斜片石英岩*	長3.7 / 幢6.9 / 厚1.5 斜面(2.1) B-、 斜面(2.1) B-、	-	斜片石英岩MFT	-	斜片石英岩MFT	2.76(S 4.2)
217/233	-	斜片石英岩*	長3.3 / 幢7.9 / 厚3.9 斜面(2.1) B-、 斜面(2.1) B-、	-	斜片石英岩MFT	-	斜片石英岩MFT	SK78
218/234	97	斜片石英岩*	長10.2 / 幢8.4 / 厚4.3 斜面(2.1) B-、 斜面(2.1) B-、	-	斜片石英岩MFT	-	斜片石英岩MFT	SK69
219/235	97	上部輝・巣	20.8 / <12.4 / >5.5 (3.5) / <-6.1 / >	-	輝石・斜長石・ 角閃石・ 斜長石	-	輝石・斜長石・ 角閃石・ 斜長石	2.77(E 6.1)
219/236	97	上部輝・巣	20.8 / <12.4 / >5.5 (3.5) / <-6.1 / >	-	輝石・斜長石・ 角閃石・ 斜長石	-	輝石・斜長石・ 角閃石・ 斜長石	2.77(E 6.1)



